

第 16 回 葛飾区世論調査

調 査 報 告 書

平成 30 年（2018 年）12 月



はじめに

「第 16 回葛飾区世論調査」について、集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

「葛飾区世論調査」は昭和 45 年より実施しており、今回で 16 回目を数えます。

今回から、調査方法を訪問回収から郵送回収に変更するとともに、インターネットによる回答も導入しました。また、選挙権年齢の引き下げや民法などにおける成人年齢引き下げの議論を受け、調査対象を 20 歳以上から 18 歳以上へと変更いたしました。

次世代を担う若い世代にも区政に関心を持ってもらうため、第 15 回葛飾区世論調査において初めて実施した学生意識調査につきましては、規模をさらに拡大し、区内すべての高校（7 校）および大学（2 校）にご協力いただき、学生の方々の意識や意向などをお聞かせいただきました。

今回の調査における特徴的な結果といたしましては、定住意向に関する質問で、「葛飾区内に住むつもり」と答えた方が 84.5%にのびりました。また、区政への関心に関する質問では、区に力を入れてほしいものとして、5 割近くの方が「防災対策」と回答し、続いて、「高齢者支援」、「交通安全対策」、「公共交通の整備・充実」、「子育ての支援」などが高い割合となりました。こうした課題につきましては、区民の皆様と協働しながら、解決に向け取り組んでまいります。

「葛飾区世論調査」の結果は、区民第一の区政運営を着実に進めていくための基礎資料とさせていただきます。また、「葛飾区世論調査」に限らず、様々な機会を通して広く区民の皆様からいただいたご意見・ご要望は、「夢と誇りあるふるさと葛飾」の実現に向けて活用をさせていただきます。

最後に「葛飾区世論調査」にご協力をいただいた区民の皆様並びに都立葛飾商業高等学校、都立葛飾総合高等学校、都立葛飾野高等学校、都立農産高等学校、都立南葛飾高等学校、共栄学園高等学校、修徳高等学校、東京聖栄大学、東京理科大学の方々に改めてお礼を申し上げます。

平成 30 年（2018 年）12 月

青 木 克 徳

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の内容	3
3. 調査設計	3
4. 調査機関	3
5. 回収結果	3
6. 報告書の見方	4
II 調査回答者のプロフィール	7
III 調査結果の詳細	15
調査結果の要約	17
1. 定住性	33
(1) 居住年数	33
(2) 定住意向	40
(2-1) 住み続けたい理由	47
(2-2) 区外へ移りたい理由	51
(3) 愛着の有無	54
(4) 誇りの有無	57
(5) 人に区を勧めたい意思	60
(5-1) アピール事項	63
2. 区政への関心	66
(1) 整備・充実が必要な施設	66
(2) 区に力を入れてほしいもの	78
3. 住民参加	82
(1) 区政への参加意向	82
(1-1) 区政への参加方法	84
4. 広報媒体	87
(1) 区の情報の入手方法	87
(2) インターネットの利用状況	90
(2-1) インターネットの利用方法	92
5. I T	94
(1) 「葛飾区総合アプリ」の利用状況	94
(1-1) 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能	96
6. 社会参加活動	98
(1) 社会的活動への参加	98
(1-1) 現在参加している・参加してみたい社会的活動	100
(1-2) 社会的活動をしたくない理由	103
7. 地域貢献活動に対する支援	106
(1) 地域貢献活動に対する支援	106
8. 生涯学習	109
(1) 最近1年間における生涯学習の実施状況	109

(2) 生涯学習を充実していくために重要なこと	112
(3) 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと	115
9. 健康	118
(1) 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと	118
10. 高齢者支援	121
(1) 介護生活に望むこと	121
11. 障害者支援	124
(1) 障害者が安心して暮らすために重要なこと	124
12. 子育て	127
(1) 少子化対策における必要な施策	127
(2) 子どもたちの放課後等の過ごし方に必要な施策	131
13. 高齢社会への対応	135
(1) 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策	135
(2) 民生委員・児童委員の認知度	138
14. 男女平等社会の実現	141
(1) 男女平等社会の進展状況	141
(1-1) 男女の不平等を感じる点	143
15. 同和問題	146
(1) 同和問題の認知度	146
(2) 子どもの結婚相手が「同和地区」出身者の場合における対処	148
(3) 同和問題の解決方法	151
16. 産業	154
(1) 商業振興について大切なこと	154
(2) 工業振興について大切なこと	158
(3) 農業振興について大切なこと	162
17. 観光	166
(1) 葛飾区の観光客誘致における重要なこと	166
18. 防災	170
(1) 日頃行っている防災対策	170
(2) 住居の建築年数	174
(2-1) 耐震診断・耐震補強の実施状況・予定	177
(3) 居住地域における震災時の安全性	180
(3-1) 居住地域が震災時に安全でないと思う理由	183
19. 公園・河川敷	187
(1) 公園に期待すること	187
(2) 河川敷に期待すること	191
20. 道路	195
(1) 道路施策で力を入れてほしいこと	195
21. 環境	199
(1) 環境保護のための行動	199
(2) 「生物多様性」の認知度	211
22. ごみの減量・リサイクル	213
(1) 「3つのR」の実施状況	213
(2) ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと	222
23. 感染症対策	225
(1) 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと	225

IV	学生意識調査	229
	i. 調査の概要	231
	ii. 調査回答者のプロフィール	233
	iii. 調査結果の詳細	235
V	調査票	297

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の意識・意向・意見や要望を把握し、今後の区政運営の資料とすることを目的としたものである。

2. 調査の内容

- | | |
|------------------|------------------|
| (1) 定住性 | (13) 高齢社会への対応 |
| (2) 区政への関心 | (14) 男女平等社会の実現 |
| (3) 住民参加 | (15) 同和問題 |
| (4) 広報媒体 | (16) 産業 |
| (5) I T | (17) 観光 |
| (6) 社会参加活動 | (18) 防災 |
| (7) 地域貢献活動に対する支援 | (19) 公園・河川敷 |
| (8) 生涯学習 | (20) 道路 |
| (9) 健康 | (21) 環境 |
| (10) 高齢者支援 | (22) ごみの減量・リサイクル |
| (11) 障害者支援 | (23) 感染症対策 |
| (12) 子育て | |

3. 調査設計

- | | |
|----------|-------------------------------|
| (1) 調査地域 | 葛飾区内全域 |
| (2) 調査対象 | 区内に居住する満 18 歳以上の男女 |
| (3) 標本数 | 3,000 |
| (4) 抽出方法 | 単純無作為抽出法（抽出日：平成 30 年 5 月 7 日） |
| (5) 調査方法 | 郵送による発送、郵送・インターネットによる回収 |
| (6) 調査時期 | 平成 30 年 7 月 2 日～7 月 22 日 |

4. 調査機関

中央開発株式会社

5. 回収結果

標本数	有効回答数	有効回収率
3,000	1,313	43.8%

6. 報告書の見方

本報告書の留意点は、以下の通り。

1. 比率はすべて百分率で表記し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。そのため、四捨五入によって生じる誤差により、百分率の合計が100%にならない場合がある。
2. “n” は各設問の回答数を示している。比率はnを母数とし、算出している。
3. 複数回答の設問では、1人の回答者が複数の回答を選択可能なため、各選択肢における回答数の合計が100%を超過している。
4. 図表および本文中では、スペースの都合により選択肢を省略して表記している場合がある。
5. 各設問の回答数に対し、1%未満の回答については参考値とし、本文中では触れないこととする。

(1%未満の回答例：全回答が対象 (n=1,313) の場合は、回答数が13.1未満の回答)

6. すべての調査項目に対し、単純集計および属性別クロス集計を行っている（属性とは、「性別」「年代別」「居住地域別」等を示している）。クロス集計では、分析軸の「無回答」を表記していないため、分析軸における各項目の回答数の合計値と全体の回答数が一致しない場合がある（項目9参照）。
7. クロス集計では、nが小さい数字の場合、統計上の誤差（標本誤差）が生じる可能性が高いので注意する必要がある。誤差の大きさは、標本数が少ないほど大きくなる。
8. 標本調査である本調査は、確率論に基づき、母集団（葛飾区の満18歳以上の男女個人）の値と標本（サンプル）の値との間に生じる誤差を以下の式によって求めることができる。

$$b = 2 \times \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad \dots (1)$$

$\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ のため、以下の数式が得られる。

$$b = 2 \times \sqrt{2 \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad \dots (2)$$

b = 標本誤差
N = 母集団
 （葛飾区の満18歳以上の男女個人）
n = 比率算出の基数（サンプル数）
P = 回答比率

式(2)から、本調査の標本誤差の早見表を示す。

回答比率 (P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,313人	± 2.34%	± 3.12%	± 3.58%	± 3.82%	± 3.90%
800人	± 3.00%	± 4.00%	± 4.58%	± 4.90%	± 5.00%
600人	± 3.46%	± 4.62%	± 5.29%	± 5.66%	± 5.77%
400人	± 4.24%	± 5.66%	± 6.48%	± 6.93%	± 7.07%
200人	± 6.00%	± 8.00%	± 9.17%	± 9.80%	± 10.00%

※ 例えば、ある設問の回答者数が1,313人であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差範囲は±3.82%以内（56.18%～63.82%）となる。

9. クロス集計において、集計対象の全設問に回答がない場合、その回答は無効回答となる。そのため、クロス集計結果は、単純集計結果と数値が異なる場合がある。その一例をパターンA～Fで以下に示す。

	性別	年齢	居住年数	集計対象可否
A	男性	30歳～39歳	10～20年未満	○(可)
B	女性	—(無回答)	30年以上	×(否)
C	男性	70歳以上	—(無回答)	×(否)
D	女性	65～69歳	3年未満	○(可)
E	—(無回答)	18～29歳	3～5年未満	×(否)
F	—(無回答)	—(無回答)	20～30年未満	×(否)

※ 例えば、35 ページの「図表Ⅲ－1－3 居住年数(性別/性・年代別)」の場合、回答者数は男性 532 人、女性 758 人、性別無回答 23 人であることから、図表の「性別」における n は「男性 n=532」、「女性 n=758」としている。一方、「性・年代別」は、男性の各年代における n の合計は 532 人、女性は 756 人となり、「性別」の女性と比較し、女性に 2 人の誤差が生じている。しかし、これは居住年数回答者のうち、女性で年齢を回答しなかった人が 2 人いたために生じた誤差であり、この 2 人分の回答は無効回答としている。

10. 本報告書における居住地域は以下のように分類した。

居住地域(7区分)	町名
立石・四つ木	立石、東立石、四つ木、東四つ木
南綾瀬・お花茶屋・堀切	小菅、お花茶屋、宝町、堀切、東堀切
亀有・青戸	亀有、西亀有、白鳥、青戸
奥戸・新小岩	奥戸、新小岩、西新小岩、東新小岩
柴又・高砂	柴又、高砂、鎌倉、細田
金町・新宿	金町、東金町、金町浄水場※、新宿
水元地域	水元、西水元、東水元、南水元、水元公園※

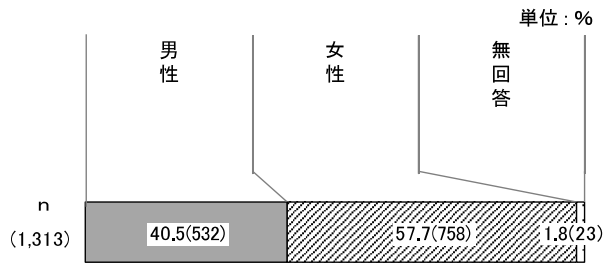
※ 「金町浄水場」および「水元公園」は、居住者がいないため、調査票の選択肢からは除外している。

11. 本報告書における割合の表現は、以下のように表記した。

表記	4割	約4割	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱
割合	40.0%	40.1～40.9%	41.0～43.9%	44.0～45.9%	46.0～48.9%	49.0～49.9%

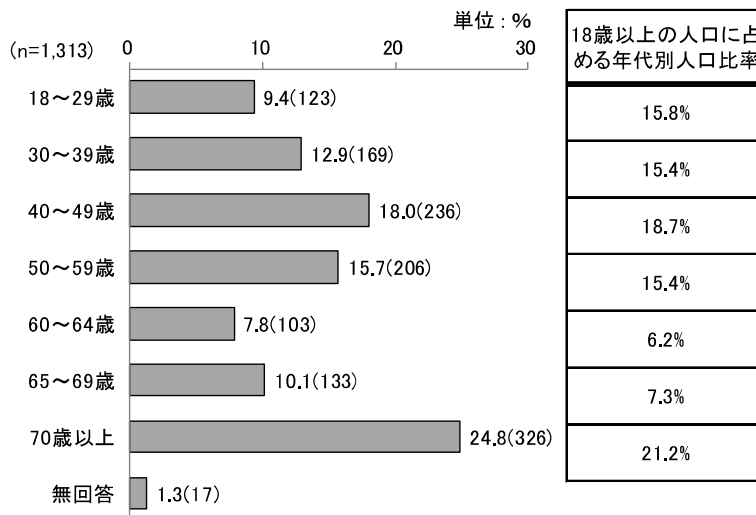
Ⅱ 調査回答者のプロフィール

(1) 性別



調査回答者の性別は、「男性」(40.5%)、「女性」(57.7%)となっている。

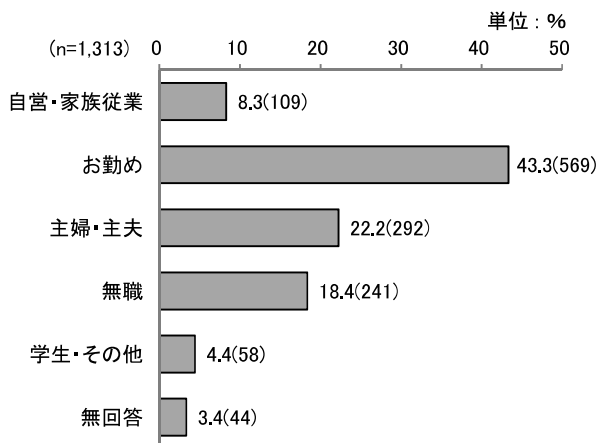
(2) 年齢



調査回答者の年代は、「70歳以上」(24.8%)が最も高く、次いで「40～49歳」(18.0%)、「50～59歳」(15.7%)と続いている。

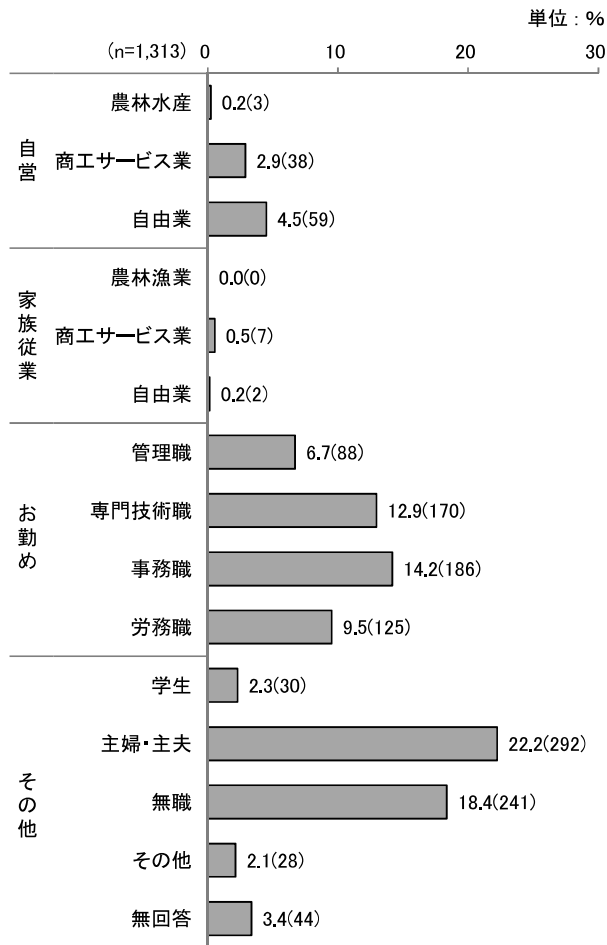
回答者のうち、「18～29歳」と「30～39歳」の合計は、全回答者の22.3%を占めている。これに対し、平成30年5月1日現在の18歳以上人口に占める「18～29歳」と「30～39歳」の人口比率は合計31.2%であり、人口比率に比べ、この年齢層の回答割合が低い結果となっている。

(3) 職業 (5区分)



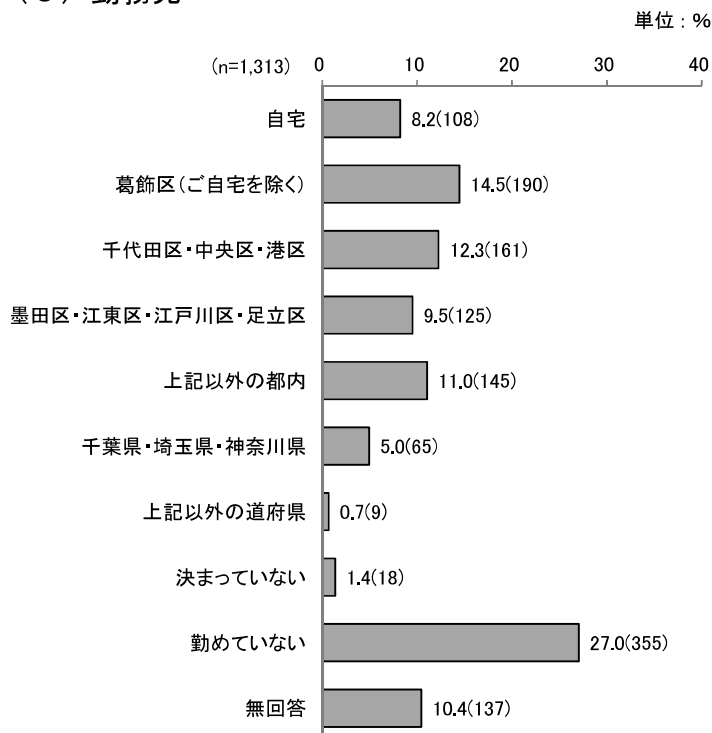
調査回答者の職業(5区分)は、「お勤め」(43.3%)が最も高く、次いで「主婦・主夫」(22.2%)、「無職」(18.4%)と続いている。

(4) 職業 (14 区分)



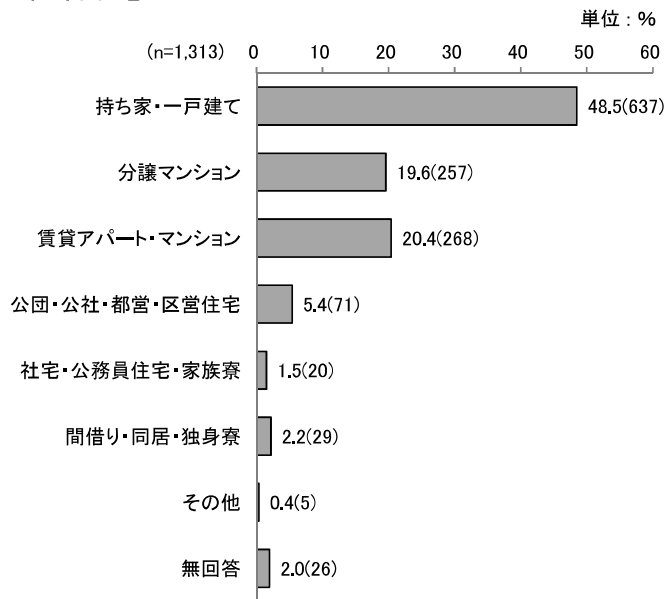
調査回答者の職業 (14 区分) は、「その他・主婦・主夫」(22.2%) が最も高く、次いで「その他・無職」(18.4%)、「お勤め・事務職」(14.2%)、「お勤め・専門技術職」(12.9%) と続いている。

(5) 勤務先



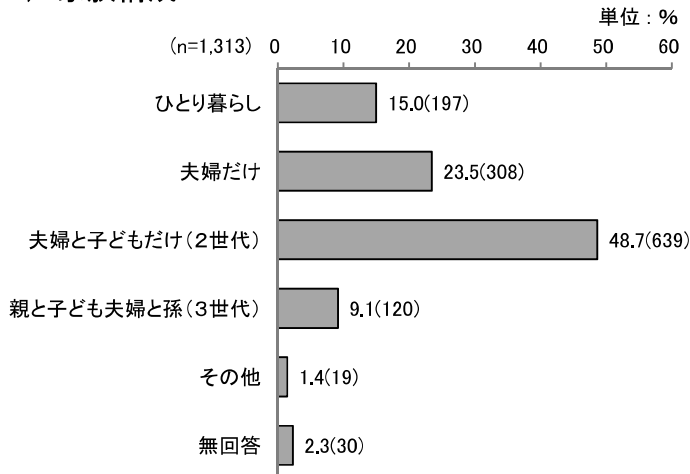
調査回答者の勤務先は、「葛飾区 (ご自宅を除く)」(14.5%) が最も高く、次いで「千代田区・中央区・港区」(12.3%)、「葛飾区、千代田区・中央区・港区、墨田区・江東区・江戸川区・足立区以外の都内」(11.0%) と続いている。

(6) 住居形態



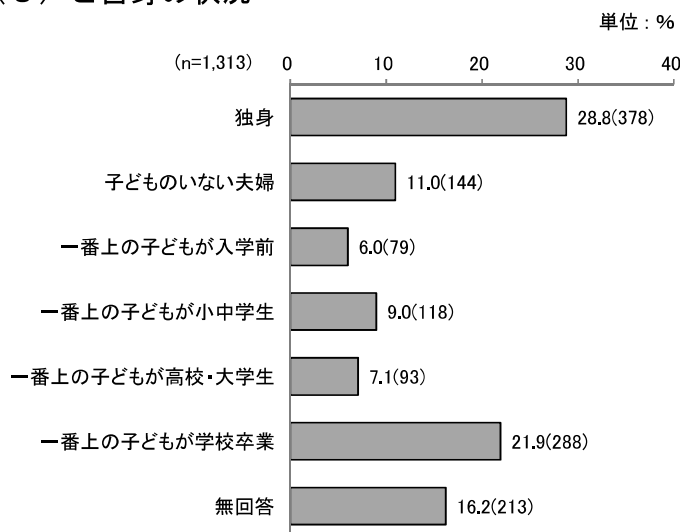
調査回答者の住居形態は、「持ち家・一戸建て」(48.5%)が5割近くと最も高く、次いで「賃貸アパート・マンション」(20.4%)、「分譲マンション」(19.6%)と続いている。

(7) 家族構成



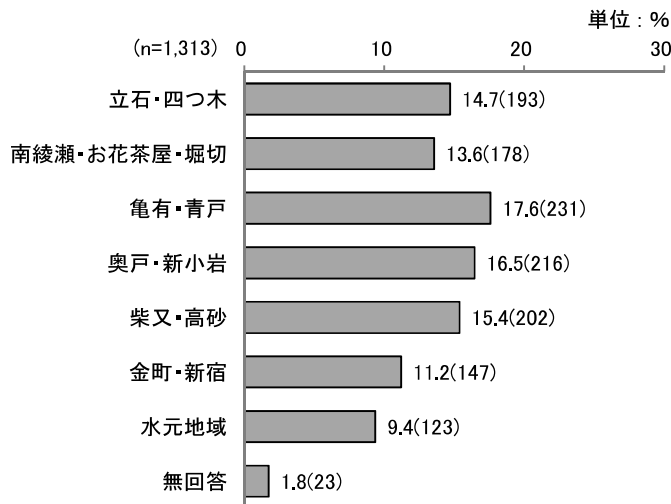
調査回答者の家族構成は、「夫婦と子どもだけ(2世代)」(48.7%)が最も高く、次いで「夫婦だけ」(23.5%)、「ひとり暮らし」(15.0%)と続いている。

(8) ご自身の状況



調査回答者のご自身の状況は、「独身」(28.8%)が最も高く、次いで「一番上の子どもが学校卒業」(21.9%)、「子どものいない夫婦」(11.0%)と続いている。

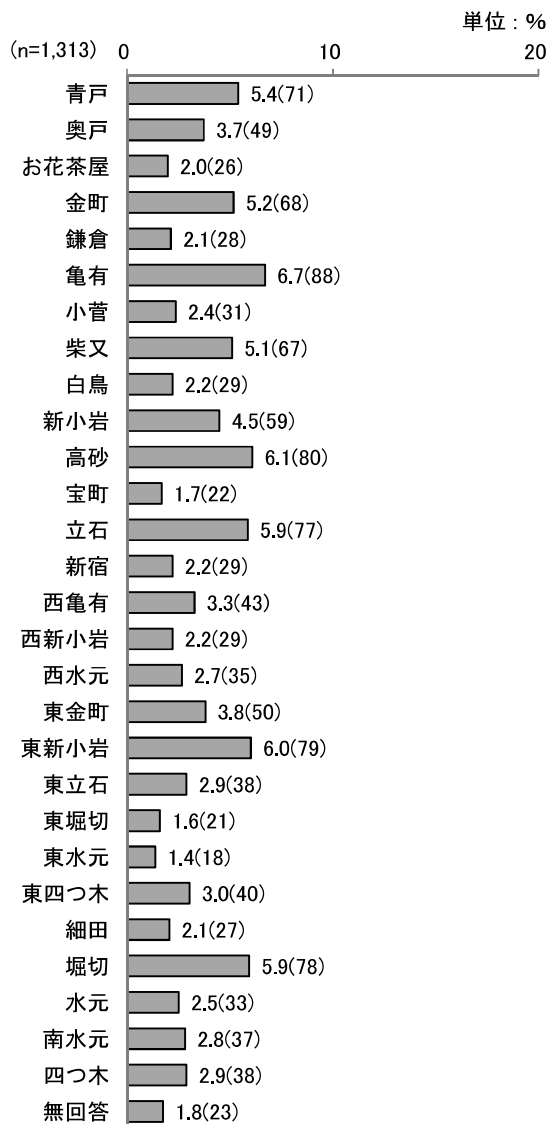
(9) 居住地域 (7区分)



調査回答者の居住地域 (7区分) は、「亀有・青戸」(17.6%) が最も高く、次いで「奥戸・新小岩」(16.5%)、「柴又・高砂」(15.4%) と続いている。

なお、居住地域 (7区分) の内訳は、報告書の見方 (5ページ) を参照いただきたい。

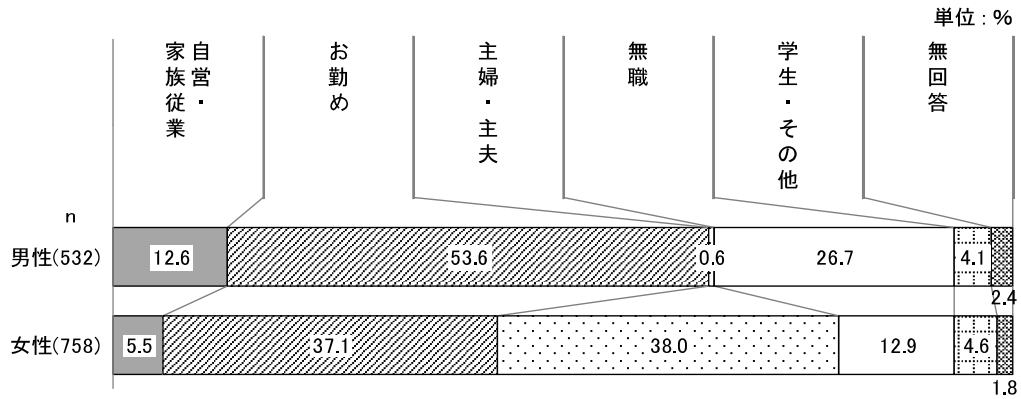
(10) 居住地域 (28区分)



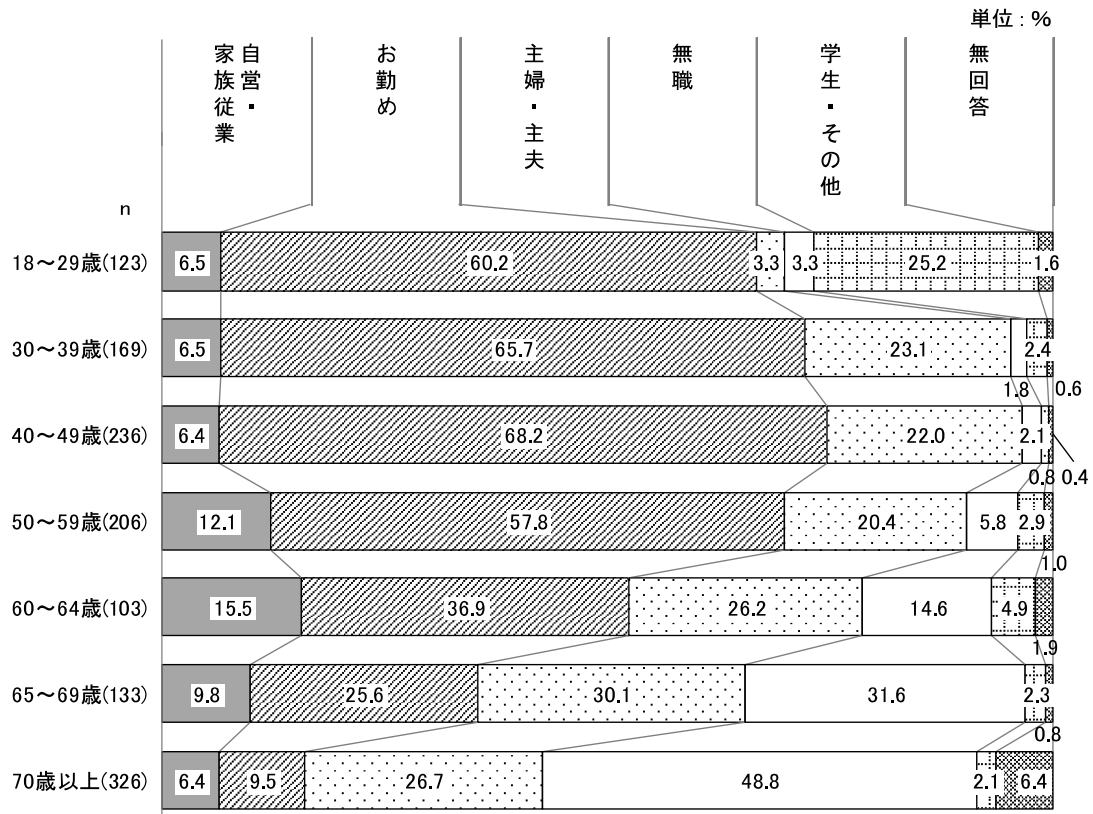
調査回答者の居住地域 (28区分) は、「亀有」(6.7%) が最も高く、次いで「高砂」(6.1%)、「東新小岩」(6.0%) と続いている。

(11) 性別・年代別×職業別（5区分）

【性別×職業別（5区分）】



【年代別×職業別（5区分）】

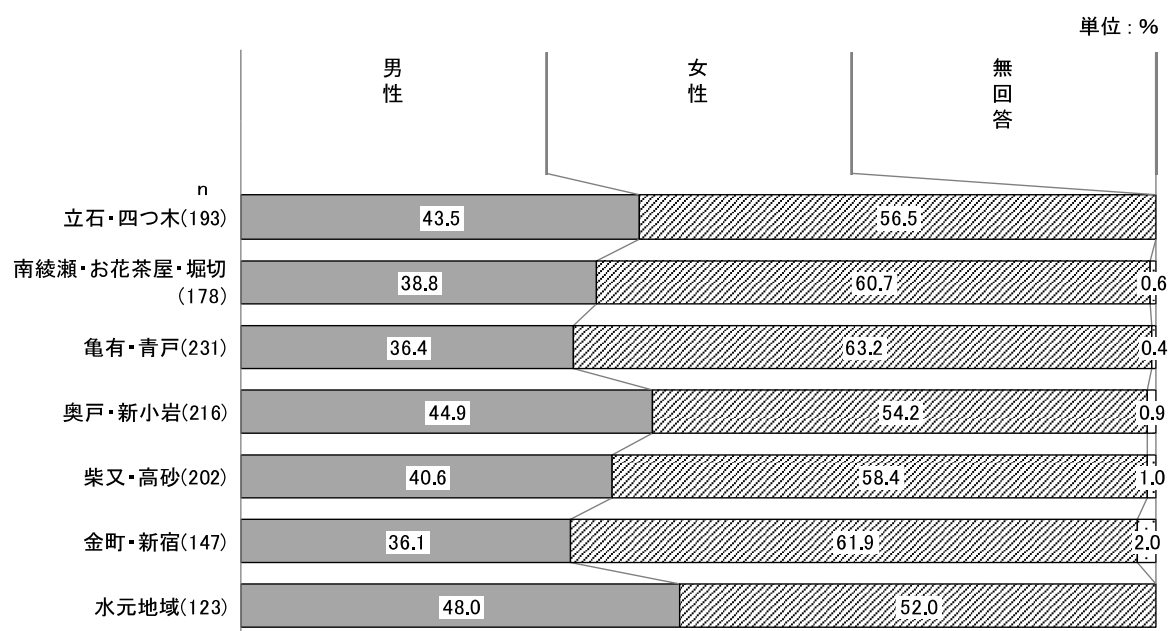


職業（5区分）を性別にみると、「男性」は、「お勤め」（53.6%）が最も高く、次いで「無職」（26.7%）、「自営・家族従業」（12.6%）と続いている。「女性」は、「主婦・主夫」（38.0%）が最も高く、次いで「お勤め」（37.1%）、「無職」（12.9%）と続いている。

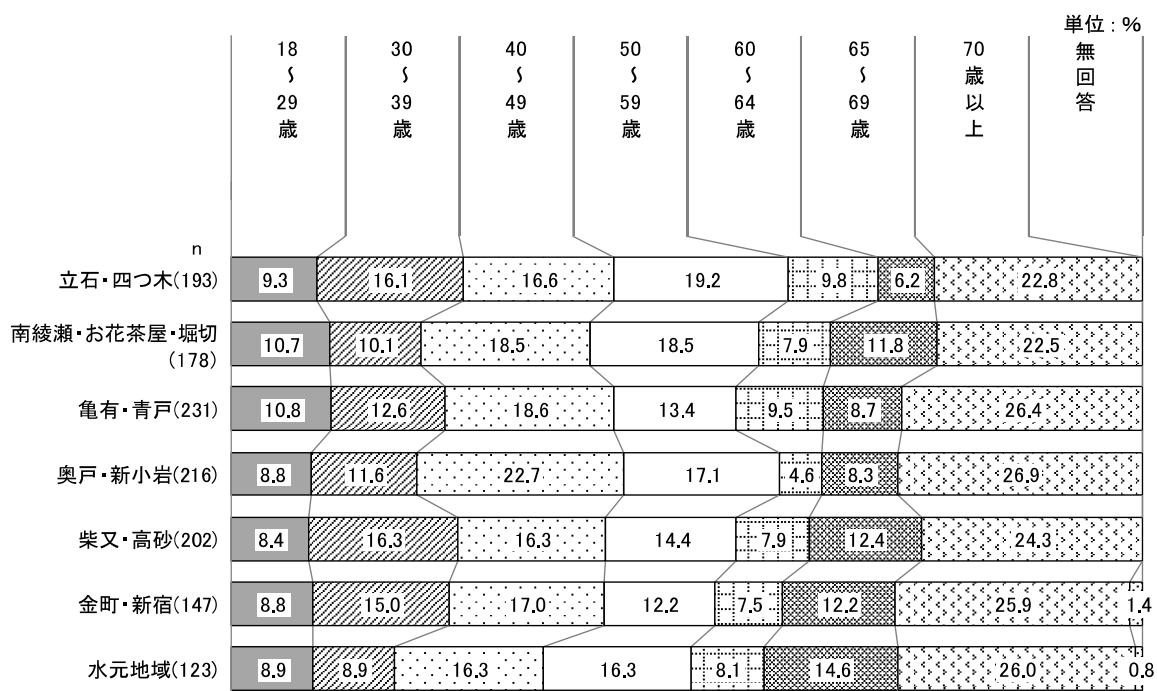
職業（5区分）を年代別にみると、59歳以下は「お勤め」が過半数を超え、最も高くなっている。また、70歳以上では「無職」（48.8%）が5割近くとなっている。

(12) 居住地域別（7区分）×性別・年代別

【居住地域別（7区分）×性別】



【居住地域別（7区分）×年代別】



性別を居住地域別（7区分）にみると、「男性」は「水元地域」（48.0%）、「女性」は「亀有・青戸」（63.2%）が最も高くなっている。また、すべての地域で「女性」が「男性」より高くなっている。

年代を居住地域別（7区分）にみると、「水元地域」は65歳以上の回答者の割合が他の居住地域より高く、39歳以下の回答者の割合は他の居住地域より低くなっている。

Ⅲ 調査結果の詳細

調査結果の要約

1. 定住性

(1) 居住年数 (問1 33 ページ)

◆ 『30年以上』が5割弱

葛飾区の居住年数は、「30年以上」(30.3%)と「生まれた時から(30年以上)」(19.2%)を合わせた『30年以上』(49.5%)が5割弱となっている。

性別で見ると、『30年以上』は、「男性」(53.0%)が「女性」(47.0%)より6.0ポイント高くなっている。

(2) 定住意向 (問2 40 ページ)

◆ 『葛飾区内に住むつもり』が8割台半ば

葛飾区に対する定住意向は、「住み続けるつもり」(57.3%)が6割近くと最も高く、これに「当分の間は住むつもり」(27.2%)を合わせた『葛飾区内に住むつもり』(84.5%)は8割台半ばとなっている。一方、「区外へ移りたい」(5.0%)は1割未満となっている。

『葛飾区内に住むつもり』(84.5%)は、平成27年度調査(65.8%)より18.7ポイント増加している。

性別で見ると、『葛飾区内に住むつもり』は、「男性」(85.9%)が「女性」(84.2%)よりも1.7ポイント高くなっている。

職業別で見ると、「住み続けるつもり」は、「その他・無職」(75.1%)が7割台半ばと最も高く、「自営」及び「その他・主婦・主夫」が6割以上と高くなっている。

住居形態別で見ると、『葛飾区内に住むつもり』は、「持ち家・一戸建て」(88.2%)、「分譲マンション」(87.9%)、「公団・公社・都営・区営住宅」(81.7%)、「社宅・公務員住宅・家族寮」(85.0%)、「間借り・同居・独身寮」(86.2%)で8割以上となっている。

(2-1) 住み続けたい理由 (問2-1 47 ページ)

◆ 「持ち家があるから」、「買い物など日常生活が便利だから」、「交通の便が良いから」の順

葛飾区に住み続けたい主な理由は、「持ち家があるから」(67.8%)が7割近くと最も高く、次いで「買い物など日常生活が便利だから」(42.4%)、「交通の便が良いから」(36.1%)と続いている。

性別で見ると、「交通の便が良いから」は、「男性」(38.7%)が「女性」(33.9%)より4.8ポイント高くなっている。一方、「買い物など日常生活が便利だから」は、「女性」(46.6%)が「男性」(36.8%)より9.8ポイント高くなっている。

(2-2) 区外へ移りたい理由 (問2-2 51 ページ)

◆ 「勤め先が遠いから」と「災害時に不安な地域だから」が最多

区外へ移りたい主な理由は、「勤め先が遠いから」(12.3%)と「災害時に不安な地域だから」(12.3%)が同率で最も高く、次いで「交通の便が悪いから」(10.8%)、「持ち家でないから」(9.2%)と続いている。

(3) 愛着の有無 (問3 54 ページ)

◆ 『愛着がある』が7割台半ば

葛飾区への愛着の有無について、「どちらかというと思う」(45.7%)が最も高く、これと「そう思う」(30.1%)を合わせた『愛着がある』(75.8%)は7割台半ばとなっている。

一方、「どちらかというと思わない」(6.6%)と「そう思わない」(5.8%)を合わせた『愛着がない』(12.4%)は、1割強となっている。

(4) 誇りの有無 (問3 57 ページ)

◆ 『誇りに思う』が4割台半ば

葛飾区への誇りの有無について、「どちらかというと思う」(32.8%)が最も高く、これと「そう思う」(12.3%)を合わせた『誇りに思う』(45.2%)は4割台半ばとなっている。

一方、「どちらかというと思わない」(13.8%)と「そう思わない」(9.7%)を合わせた『誇りに思わない』(23.5%)は、2割強となっている。

(5) 人に区を勧めたい意思 (問4 60 ページ)

◆ 『勧めたいと思う』が4割台半ば

人に区を勧めたい意思について、「どちらかというと思う」(30.9%)が最も高く、これと「そう思う」(14.5%)を合わせた『勧めたいと思う』(45.4%)は4割台半ばとなっている。

一方、「どちらかというと思わない」(12.5%)と「そう思わない」(10.4%)を合わせた『勧めたいと思わない』(22.9%)は、2割強となっている。

(5-1) アピール事項 (問4-1 63 ページ)

◆ 「知名度の高い施設や街並み(柴又帝釈天、堀切菖蒲園、水元公園など)」が3割弱

人に区を勧めるときのアピール事項は、「知名度の高い施設や街並み(柴又帝釈天、堀切菖蒲園、水元公園など)」(29.0%)が3割弱と最も高く、次いで「人の良さ(下町人情)」(25.0%)と続いている。

性別で見ると、「葛飾区ゆかりのキャラクター(寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなど)」は、「男性」(14.8%)が「女性」(10.4%)より4.4ポイント高くなっている。一方、「人の良さ(下町人情)」は、「女性」(26.7%)が「男性」(23.5%)より3.2ポイント高くなっている。

2. 区政への関心

(1) 整備・充実が必要な施設

<子育て・福祉施設> (問5 (1) 66 ページ)

◆ 「介護老人保健施設」が3割近く

整備・充実が必要な「子育て・福祉施設」は、「介護老人保健施設」(28.0%)が3割近くと最も高く、次いで「保育園(認定こども園を含む)」(23.9%)、「特別養護老人ホーム」(22.7%)と続いている。

「高齢者用住宅」(21.2%)は、平成27年度調査(18.6%)より2.6ポイント増加している。一方、「保育園(認定こども園を含む)」(23.9%)は、平成27年度調査(29.2%)より5.3ポイント減少している。

<教育・文化・スポーツ施設> (問5 (2) 70 ページ)

◆ 「図書館」が4割近く

整備・充実が必要な「教育・文化・スポーツ施設」は、「図書館」(36.6%)が4割近くと最も高く、次いで「プール(温水プールを含む)」(27.5%)、「文化施設(シンフォニーヒルズ・リリオホール)」(24.4%)と続いている。

「図書館」(36.6%)は平成27年度調査(31.1%)より5.5ポイント、「プール(温水プールを含む)」(27.5%)は平成27年度調査(22.9%)より4.6ポイント、それぞれ増加している。

<都市施設> (問5 (3) 74 ページ)

◆ 「緑道・コミュニティ道路(歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路)」が4割強

整備・充実が必要な「都市施設」は、「緑道・コミュニティ道路(歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路)」(43.7%)が4割強と最も高く、次いで「電線の地中化」(32.3%)、「交通機関」(31.2%)と続いている。

「交通機関」(31.2%)は、平成27年度調査(23.7%)より7.5ポイント増加している。一方、「緑道・コミュニティ道路(歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路)」(43.7%)は、平成27年度調査(48.1%)より4.4ポイント減少している。

(2) 区に力を入れてほしいもの（問6 78 ページ）

◆ 「防災対策」が5割近く

区に力を入れてほしいものは、「防災対策」（48.1%）が5割近くと最も高く、次いで「高齢者支援」（27.2%）、「交通安全対策（自転車対策を含む）」（17.7%）と続いている。

「防災対策」（48.1%）は、平成27年度調査（42.2%）より5.9ポイント増加している。また、「公共交通（鉄道）の整備」（16.5%）は平成27年度調査（9.4%）より7.1ポイント、「公共交通（バス路線など）の充実」（15.8%）は平成27年度調査（11.8%）より4.0ポイント、それぞれ増加している。

性別で見ると、「公共交通（鉄道）の整備」は、「男性」（19.7%）が「女性」（14.2%）より5.5ポイント高くなっている。一方、「学校教育の充実（教育内容の充実・施設の整備）」は、「女性」（10.8%）が「男性」（6.6%）より4.2ポイント高くなっている。

居住地域別で見ると、「防災対策」は「立石・四つ木」（60.1%）が最も高く、次いで「亀有・青戸」（50.6%）、「金町・新宿」（49.0%）と続いている。また、「高齢者支援」は「奥戸・新小岩」（33.3%）が最も高く、次いで「亀有・青戸」（28.6%）、「柴又・高砂」（28.2%）と続いている。

3. 住民参加

(1) 区政への参加意向（問7 82 ページ）

◆ 『参加したい』が3割強

区政への参加意向は、「わからない」（31.5%）および「参加するつもりはない」（31.2%）が、それぞれ3割強となっている。「機会があったら参加したい」（11.7%）と「参加したい気持ちはある」（20.1%）を合わせた『参加したい』（31.8%）も3割強となっている。

(1-1) 区政への参加方法（問7-1 84 ページ）

◆ 「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通じて意見を述べる」が5割近く

区政への参加方法は、「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通じて意見を述べる」（46.5%）が5割近くと最も高く、次いで「町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織などの活動を通して区政に参加する」（22.5%）、「NPO・ボランティアなどの活動を通して区政に参加する」（15.6%）と続いている。

4. 広報媒体

(1) 区の情報の入手方法（問8 87 ページ）

◆ 「区のお知らせ『広報かつしか』」が9割近く

区の情報の入手方法は、「区のお知らせ『広報かつしか』」（87.5%）が9割近くと最も高く、次いで「町会・自治会の回覧板や町会掲示板」（28.6%）、「わたしの便利帳」（18.7%）と続いている。

「区のお知らせ『広報かつしか』」（87.5%）は、平成27年度調査（84.2%）より3.3ポイント増加している。一方、「町会・自治会の回覧板や町会掲示板」（28.6%）は、平成27年度調査（40.2%）より11.6ポイント減少している。

(2) インターネットの利用状況 (問9 90 ページ)

◆ 『利用している・利用したい』が8割近く

インターネットの利用状況は、「利用している」(67.8%)が最も高く、これに「利用していないが、機会があれば利用したい」(9.4%)を合わせた『利用している・利用したい』(77.2%)が8割近くとなっている。一方、「利用するつもりはない」は14.5%となっている。

(2-1) インターネットの利用方法 (問9-1 92 ページ)

◆ 「スマートフォンを利用」が8割強

インターネットの利用方法は、「スマートフォンを利用」(82.9%)が8割強と最も高く、次いで「パソコンを利用」(62.7%)と続いている。

「スマートフォンを利用」(82.9%)は、平成27年度調査(69.3%)より13.6ポイント増加している。一方、「パソコンを利用」(62.7%)は、平成27年度調査(71.4%)より8.7ポイント減少している。

5. IT

(1) 「葛飾区総合アプリ」の利用状況 (問10 94 ページ)

◆ 「はい」が1割未満

「葛飾区総合アプリ」の利用状況は、「いいえ」(92.0%)が9割強、「はい」(4.0%)は1割未満となっている。

(1-1) 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能 (問10-1 96 ページ)

◆ 「観光・産業」および「防災・防犯」が最多

「葛飾区総合アプリ」でよく使う機能は、「観光・産業」(15.4%)および「防災・防犯」(15.4%)が同率で1割台半ばと最も高くなっており、次いで「教育・生涯学習」(13.5%)、「福祉・介護・健康」(9.6%)と続いている。

なお、「葛飾区総合アプリ」に追加してほしい機能については、具体的な回答は得られなかった。

6. 社会参加活動

(1) 社会的活動への参加 (問11 98 ページ)

◆ 『社会的活動の経験あり』が2割台半ば

社会的活動への参加は、「現在している」(8.5%)と「現在はしていないが、過去にしたことがある」(15.9%)を合わせた『社会的活動の経験あり』(24.4%)が、2割台半ばとなっている。また、「現在も過去もしていないが、今後してみたい」(26.2%)は3割近くとなっている。

一方、「過去にしたことがなく、今後もしたくない」(43.0%)は4割強となっている。

(1-1) 現在参加している・参加してみたい社会的活動 (問 11-1 100 ページ)

◆ 「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」が3割台半ば

現在参加している・参加してみたい社会的活動は、「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」(35.0%)が3割台半ばと最も高くなっており、次いで「文化・芸術に関する活動」(18.9%)、「子ども会、地域運動会やPTAなど青少年健全育成に関する活動」(17.1%)と続いている。

「文化・芸術に関する活動」(18.9%)は、平成27年度調査(13.5%)より5.4ポイント増加している。一方、「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」(35.0%)は、平成27年度調査(49.3%)より14.3ポイント減少している。

(1-2) 社会的活動をしたくない理由 (問 11-2 103 ページ)

◆ 「忙しくて時間がないから」が5割強

社会的活動をしたくない理由は、「忙しくて時間がないから」(51.6%)が5割強と最も高くなっており、次いで「興味や関心がないから」(26.2%)、「きっかけがないから」(25.7%)と続いている。

「一緒に活動する仲間がないから」(15.1%)は、平成27年度調査(9.8%)より5.3ポイント増加している。一方、「活動に必要な知識・技術を身につける機会がないから」(10.1%)は、平成27年度調査(14.0%)より3.9ポイント減少している。

7. 地域貢献活動に対する支援

(1) 地域貢献活動に対する支援 (問 12 106 ページ)

◆ 「補助金などの経済的支援の拡充」が約4割

地域貢献活動に対する支援は、「補助金などの経済的支援の拡充」(40.9%)が約4割と最も高くなっており、次いで「専門家のアドバイスや情報提供の充実」(38.5%)、「団体や活動に関する区民への広報・啓発」(35.1%)と続いている。

8. 生涯学習

(1) 最近1年間における生涯学習の実施状況 (問 13 109 ページ)

◆ 「健康・スポーツ」が3割近く

最近1年間における生涯学習の実施状況は、「健康・スポーツ」(27.9%)が3割近くと最も高く、次いで「趣味的なもの」(25.8%)、「家庭生活に役立つ技能」および「職業上必要な知識・技能」(12.0%)と続いている。

なお、「特になし」(35.6%)は、3割台半ばとなっている。

(2) 生涯学習を充実していくために重要なこと（問 14 112 ページ）

◆ 「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」が5割強

生涯学習を充実していくために重要なことは、「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」(53.4%)が5割強と最も高くなっている。次いで「生活向上に役立つ講座やイベントなどの学習機会を提供すること」(21.4%)、「芸術や文化に関する活動や鑑賞のための機会を提供すること」(19.5%)と続いている。

(3) 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと（問 15 115 ページ）

◆ 「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所があること」が6割弱

誰もがスポーツを楽しむために重要なことは、「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所があること」(59.3%)が6割弱と最も高くなっている。次いで「身近な場所で気軽にスポーツ参加ができる地域スポーツクラブがあること」(40.2%)、「高齢者・障害者(児)が気軽にスポーツ参加ができる環境」(31.8%)と続いている。

9. 健康

(1) 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと（問 16 118 ページ）

◆ 「健康診査・がん検診」が5割近く

健康な生活を送るために力を入れてほしいことは、「健康診査・がん検診」(48.3%)が5割近くと最も高く、次いで「飲み水の安全性に関すること」(29.9%)、「医療機関に関する情報提供」(29.6%)と続いている。

「受動喫煙対策」(25.7%)は、平成27年度調査(16.5%)より9.2ポイント増加している。一方、「食品の安全性に関すること」(29.0%)は、平成27年度調査(42.1%)より13.1ポイント減少している。

10. 高齢者支援

(1) 介護生活に望むこと（問 17 121 ページ）

◆ 『自宅で生活』が5割弱

介護生活に望むことは、「自宅で介護保険サービスなどを利用しながら生活を続けたい」(43.9%)が4割強と最も高くなっている。また、これに「介護サービスなどを利用せず、自宅で家族の介護を受けながら生活を続けたい」(6.0%)を合わせた『自宅で生活』(49.9%)が5割弱となっている。

11. 障害者支援

(1) 障害者が安心して暮らすために重要なこと (問 18 124 ページ)

◆ 「障害のある方に対する周囲の人々の理解」が5割台半ば

障害者が安心して暮らすために重要なことは、「障害のある方に対する周囲の人々の理解」(55.4%)が5割台半ばと最も高く、次いで「鉄道駅舎へのエレベーターやエスカレーターの設置」(41.3%)、「道路や公園の段差解消や点字ブロック設置などの整備」(41.1%)と続いている。

12. 子育て

(1) 少子化対策における必要な施策 (問 19 127 ページ)

◆ 「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」が5割近く

少子化対策における必要な施策は、「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」(47.1%)が5割近くと最も高く、次いで「保育園や幼稚園などで、子どもを預かる保育時間を長くする」(38.0%)、「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」(32.5%)と続いている。

「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」(47.1%)は平成27年度調査(42.5%)より4.6ポイント、「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」(32.5%)は平成27年度調査(29.0%)より3.5ポイント、それぞれ増加している。

(2) 子どもたちの放課後等の過ごし方に必要な施策 (問 20 131 ページ)

◆ 「集団での遊びや運動遊びなど体を使った活動を安全に行える場所を提供する」が4割台半ば

子どもたちの放課後等の過ごし方に必要な施策は、「集団での遊びや運動遊びなど体を使った活動を安全に行える場所を提供する」(44.0%)が4割台半ばと最も高く、次いで「子どもを安心して預けられるよう学童保育クラブ事業を推進する」(36.8%)、「読書や工作遊びなどゆったりと安心して過ごせる場所を提供する」(31.8%)と続いている。

13. 高齢社会への対応

(1) 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策 (問 21 135 ページ)

◆ 「高齢者の就業支援を行う」が4割強

高齢社会の社会参加を促すために必要な施策は、「高齢者の就業支援を行う」(43.3%)が4割強と最も高く、次いで「高齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」(41.6%)、「バリアフリーのまちづくりを進める」(25.9%)と続いている。

(2) 民生委員・児童委員の認知度 (問 22 138 ページ)

◆ 『知っている・会ったことがある』が2割近く

民生委員・児童委員の認知度は、「よく知っている」(10.9%)と「会ったことはあるが、よく知らない」(5.1%)を合わせた『知っている・会ったことがある』(16.0%)は、2割近くとなっている。

『知っている・会ったことがある』(16.0%)は、平成27年度調査(20.3%)より4.3ポイント減少している。一方、「知らない」(38.5%)は、平成27年度調査(35.1%)より3.4ポイント増加している。

14. 男女平等社会の実現

(1) 男女平等社会の進展状況 (問 23 141 ページ)

◆ 『平等になっている』が2割強

男女平等社会の進展状況は、「十分平等になっている」(7.0%)と「かなり平等になっている」(16.2%)を合わせた『平等になっている』(23.2%)が2割強、「ほとんど平等になっていない」(15.2%)は1割台半ばとなっている。

(1-1) 男女の不平等を感じる点 (問 23-1 143 ページ)

◆ 「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」が5割台半ば

男女の不平等を感じる点は、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」(55.5%)が5割台半ばと最も高く、次いで「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活にかかわりにくいこと」(41.2%)、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること」(35.6%)と続いている。

性別で見ると、「風俗産業やマスメディアなどで、女性の性が商品化されていること」は、「男性」(11.3%)が「女性」(5.5%)より5.8ポイント高くなっている。一方、「介護の負担が女性にかたよっていること」は、「女性」(37.9%)が「男性」(22.0%)より15.9ポイント高くなっている。

15. 同和問題

(1) 同和問題の認知度 (問 24 146 ページ)

◆ 「知っている」が6割台半ば

同和問題の認知度は、「知っている」(65.5%)が6割台半ば、「知らない」(30.0%)は3割となっている。

「知っている」(65.5%)は、平成27年度調査(69.2%)より3.7ポイント減少している。一方、「知らない」(30.0%)は、平成27年度調査(28.2%)より1.8ポイント増加している。

(2) 子どもの結婚相手が「同和地区」出身者の場合における対処（問 25 148 ページ）

◆ 「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」が4割近く

子どもの結婚相手が「同和地区」出身者の場合における対処は、「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」(36.6%)が4割近くと最も高く、次いで「二人の結婚に賛成するが、相手の家族（両親や兄弟・姉妹）とはあまり親戚付き合いをしない」(4.0%)、「二人の結婚には反対する」(3.3%)と続いている。

なお、「わからない」(50.9%)が約5割となっている。

(3) 同和問題の解決方法（問 26 151 ページ）

◆ 「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人ひとりがもっと自覚する必要がある」が4割近く

同和問題の解決方法は、「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人ひとりがもっと自覚する必要がある」(38.1%)が4割近くと最も高く、次いで「行政が積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」(31.3%)、「差別は自然に無くなっていくので、そっとしておく」(17.2%)と続いている。

性別でみると、「行政が積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」は、「女性」(34.2%)が「男性」(28.2%)より6.0ポイント高くなっている。

16. 産業

(1) 商業振興について大切なこと（問 27 (1) 154 ページ）

◆ 「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」が4割弱

商業振興について大切なことは、「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」(39.7%)が4割弱と最も高く、次いで「買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取り組み」(33.1%)、「高齢者、子育て中の家庭等に配慮した宅配サービス又は、インターネットの活用等による販売方法の拡大」(28.1%)と続いている。

「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」(39.7%)は、平成27年度調査(31.7%)より8.0ポイント増加している。

(2) 工業振興について大切なこと（問 27 (2) 158 ページ）

◆ 「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」が5割近く

工業振興について大切なことは、「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」(47.7%)が5割近くと最も高く、次いで「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」(46.1%)、「融資制度・助成制度事業などの充実」(25.2%)と続いている。

「融資制度・助成制度事業などの充実」(25.2%)は、平成27年度調査(31.4%)より6.2ポイント減少している。

(3) 農業振興について大切なこと (問 27 (3) 162 ページ)

◆ 「区内産野菜を身近な商店街等で購入できる機会の拡大」が6割強

農業振興について大切なことは、「区内産野菜を身近な商店街等で購入できる機会の拡大」(61.2%)が6割強と最も高く、次いで「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」(39.8%)、「農業オリエンテーリングやふれあいレクリエーション農園など、土に触れ野菜収穫を体験する機会の提供」(21.4%)と続いている。

17. 観光

(1) 葛飾区の観光客誘致における重要なこと (問 28 166 ページ)

◆ 「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」が3割台半ば

葛飾区の観光客誘致における重要なことは、「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」(35.9%)が3割台半ばと最も高く、次いで「工場や店舗の見学・体験・直売など」(34.3%)、「イベントの開催・充実」(30.5%)と続いている。

「工場や店舗の見学・体験・直売など」(34.3%)は、平成27年度調査(26.6%)より7.7ポイント増加している。

18. 防災

(1) 日頃行っている防災対策 (問 29 170 ページ)

◆ 「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」が5割近く

日頃行っている防災対策は、「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」(48.5%)が5割近くと最も高く、次いで「家具などを固定し、転倒防止を行っている」(37.6%)、「地震保険に加入している」(31.0%)と続いている。

「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」(48.5%)は、過去3回の調査と同様、最も高くなっている。

性別で見ると、「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」は、「女性」(52.2%)が「男性」(44.4%)より7.8ポイント高くなっている。

(2) 住居の建築年数 (問 30 174 ページ)

◆ 「昭和56年以後に建築された」が7割強

住居の建築年数は、「昭和56年以後に建築された」(71.0%)が7割強、「昭和55年以前に建築された」(21.2%)は2割強となっている。

(2-1) 耐震診断・耐震補強の実施状況・予定 (問 30-1 177 ページ)

◆ 「耐震診断、耐震補強をする予定はない」が約4割

耐震診断・耐震補強の実施状況・予定は、「耐震診断、耐震補強をする予定はない」(40.3%)が約4割と最も高く、次いで「耐震診断、耐震補強をしてある」(25.2%)、「耐震診断、耐震補強を今後する予定である」(11.5%)と続いている。

「耐震診断、耐震補強をしてある」(25.2%)は、平成27年度調査(23.1%)より2.1ポイント増加している。

(3) 居住地域における震災時の安全性 (問 31 180 ページ)

◆ 「安全だとは思わない」が7割近く

居住地域における震災時の安全性は、「安全だと思う」(29.2%)が3割弱となっており、「安全だとは思わない」(66.7%)は7割近くとなっている。

「安全だと思う」(29.2%)は、平成27年度調査(34.4%)より5.2ポイント減少している。

(3-1) 居住地域が震災時に安全でないと思う理由 (問 31-1 183 ページ)

◆ 「高齢者世帯が多い」が約5割

居住地域が震災時に安全でないと思う理由は、「高齢者世帯が多い」(50.3%)が約5割と最も高く、次いで「木造建物が密集している」(45.9%)、「道路が狭い」(43.7%)と続いている。

「木造建物が密集している」(45.9%)は、平成27年度調査(52.5%)より6.6ポイント減少している。

19. 公園・河川敷

(1) 公園に期待すること (問 32 187 ページ)

◆ 「遊び場」が4割強

公園に期待することは、「遊び場」(42.7%)が4割強と最も高く、次いで「心を落ち着ける安らぎの場」(30.3%)、「身近な自然をはぐくむ場」(28.7%)と続いている。

「身近な自然をはぐくむ場」(28.7%)は平成27年度調査(22.8%)より5.9ポイント、「豊かな緑を楽しむ場」(18.7%)も平成27年度調査(12.8%)より5.9ポイント、それぞれ増加している。

(2) 河川敷に期待すること (問 32 191 ページ)

◆ 「ジョギングやサイクリングの場」が4割強

河川敷に期待することは、「ジョギングやサイクリングの場」(43.5%)が4割強と最も高く、次いで「散策の場」(33.9%)、「身近な自然をはぐくむ場」(25.8%)と続いている。

「街の安全を高める」(21.2%)は、平成27年度調査(12.5%)より8.7ポイント増加している。

20. 道路

(1) 道路施策で力を入れてほしいこと (問 33 195 ページ)

◆ 「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」が7割台半ば

道路施策で力を入れてほしいことは、「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」(74.4%)が7割台半ばと最も高く、次いで「歩道を広げる」(45.8%)、「電線を道路の下に埋めて電柱をなくす」(41.7%)と続いている。

「道路をバリアフリーにする」は、「女性」(33.6%)が「男性」(22.2%)より11.4ポイント高くなっている。

21. 環境

(1) 環境保護のための行動 (問 34 199 ページ)

◆ 「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」が認知度、実行状況、今後の実行意思で最も高い

環境保護のための行動で大切だと思うことは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(92.7%)が9割強と最も高く、次いで「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(85.5%)、「レジヤーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(84.1%)と続いている。

一方、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(45.5%)は、5割未満となっている。

環境保護のための行動で実行していることは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(87.5%)が9割近くと最も高く、次いで「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(83.2%)、「レジヤーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(77.8%)と続いている。

一方、「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」(9.9%)、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」(8.8%)、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(8.2%)は、1割未満となっている。

環境保護のための行動で今後(も)実行することは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(87.1%)が9割近くと最も高く、次いで「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(82.9%)、「レジヤーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(78.9%)と続いている。

一方、「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」(22.9%)、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」(20.7%)、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(22.7%)は、3割未満となっている。

(2) 「生物多様性」の認知度 (問 35 211 ページ)

◆ 「言葉と内容とも知っている」が2割強

「生物多様性」の認知度は、「言葉と内容とも知っている」(23.7%)が2割強、「言葉は知っている(聞いたことがある)」(36.9%)は4割近く、「言葉も内容も知らない(聞いたことがない)」(34.1%)は3割台半ばとなっている。(図表Ⅲ-21-4)

22. ごみの減量・リサイクル

(1) 「3つのR」の実施状況

＜リデュース＞ (問 36 213 ページ)

◆ 「必要なものを必要な時に買うようにしている」が6割近く

「3つのR」の実施状況(リデュース)は、「必要なものを必要な時に買うようにしている」(57.6%)が6割近くと最も高く、次いで「買い物袋を持って行き、レジ袋は使わないようにしている」(56.6%)、「食べ残しをしない、食材を使い切る等、食べられる物がごみにならないようにしている」(51.6%)と続いている。

＜リユース＞ (問 36 216 ページ)

◆ 「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」が約7割

「3つのR」の実施状況(リユース)は、「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」(70.1%)が約7割と最も高く、次いで「空き箱などを家庭内の整理などに工夫して活用している」(37.2%)、「壊れたものはできるだけ修理して使っている」(28.3%)と続いている。

＜リサイクル＞ (問 36 219 ページ)

◆ 「紙類、びん、缶、布類は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」が7割強

「3つのR」の実施状況(リサイクル)は、「紙類、びん、缶、布類は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」(73.3%)が7割強と最も高く、次いで「紙類、びん、缶、布類は分別し地域の集団回収に出している」(48.1%)、「環境にやさしい商品や再生品を選ぶようにしている」(24.5%)と続いている。

(2) ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと (問 37 222 ページ)

◆ 「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取り組みとして『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」が4割台半ば

ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきことは、「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取り組みとして『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」(45.0%)が4割台半ばと最も高く、次いで「事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける」(43.5%)、「区民や事業者に対して、『広報かつしか』や区ホームページなどの広報媒体を活用し、発生抑制を最優先とする観点からのわかりやすい情報提供を行う」(26.7%)と続いている。

23. 感染症対策

(1) 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと（問 38 225 ページ）

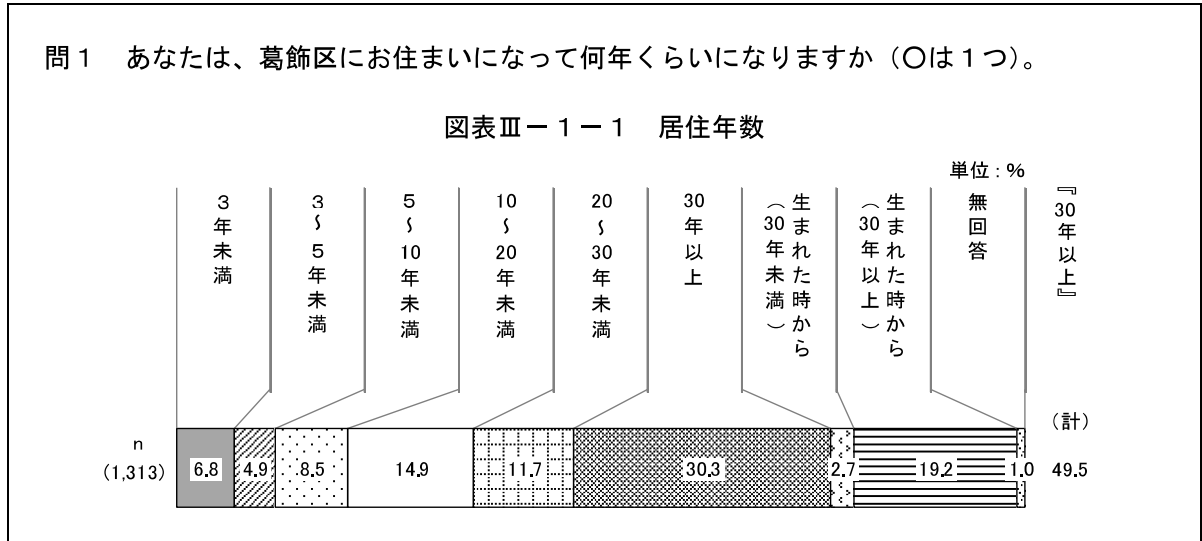
◆ 「発生状況や予防策などの情報提供」が7割弱

新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うことは、「発生状況や予防策などの情報提供」(69.5%)が7割弱と最も高く、次いで「医療機関の受け入れ体制」(62.9%)、「予防接種や治療薬などの確保」(60.5%)と続いている。

1. 定住性

(1) 居住年数

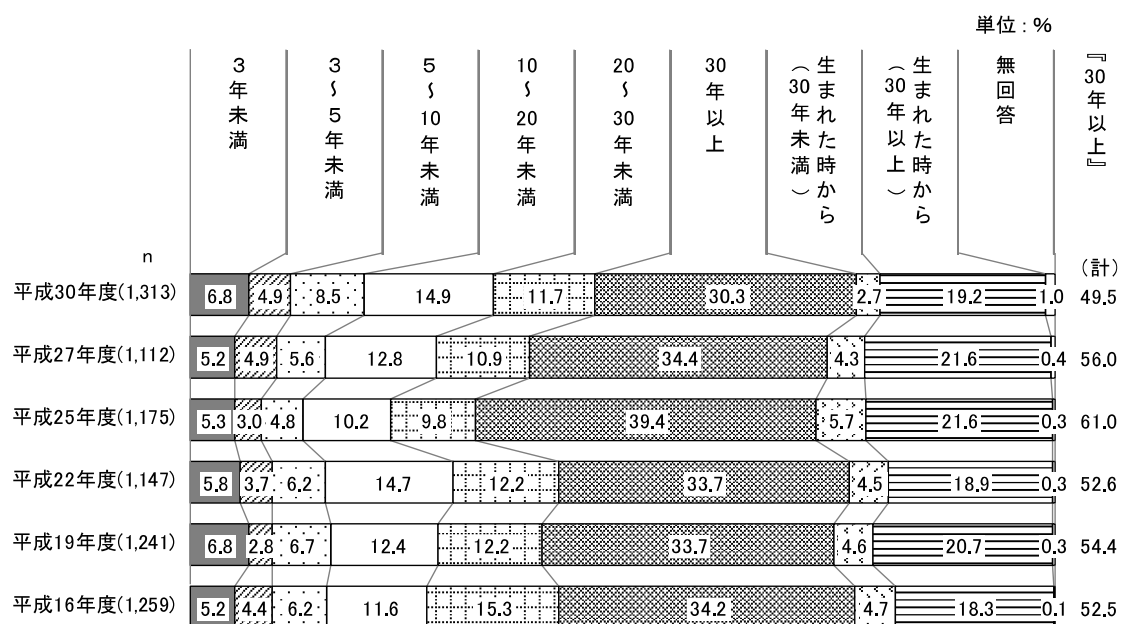
◆ 『30年以上』が5割弱



葛飾区の居住年数は、「30年以上」（30.3%）と「生まれた時から（30年以上）」（19.2%）を合わせた『30年以上』（49.5%）が5割弱となっている。（図表Ⅲ-1-1）

【経年変化】

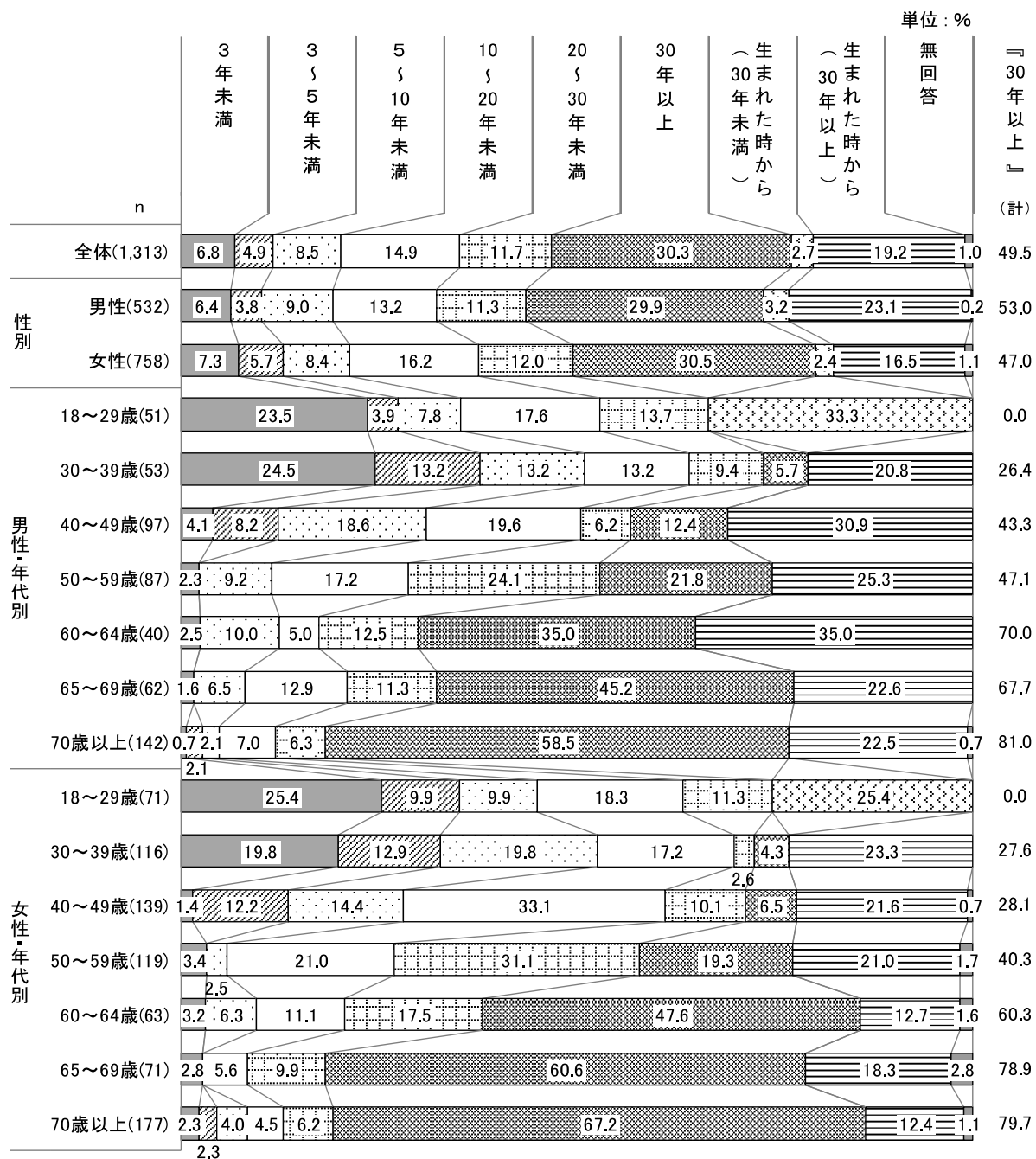
図表Ⅲ－１－２ 居住年数（経年変化）



過去5回の調査において、『30年以上』は5割以上となっていたが、平成30年度調査（49.5%）は5割弱となっている。（図表Ⅲ－１－２）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－３ 居住年数（性別／性・年代別）

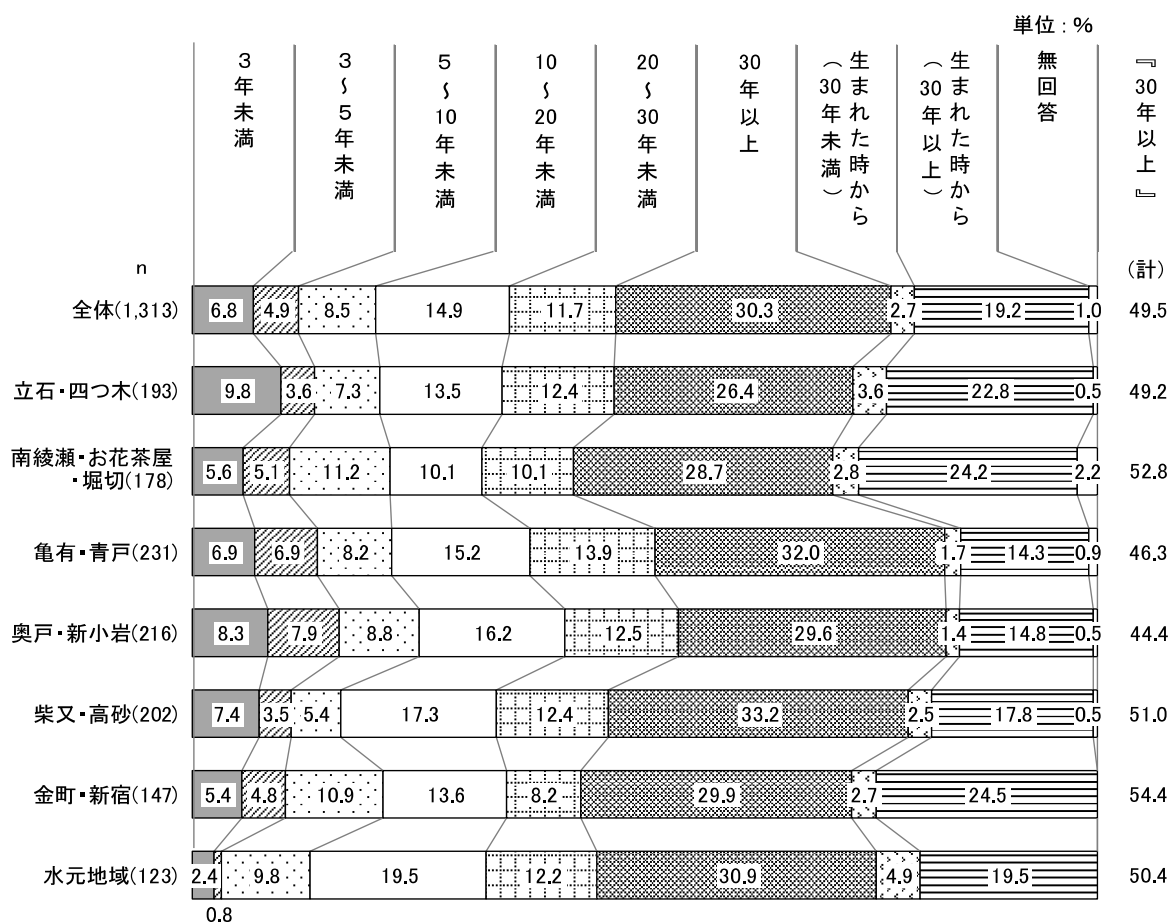


性別で見ると、『30年以上』は、「男性」（53.0%）が「女性」（47.0%）より6.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともに、「18～29歳」と「30～39歳」の「3年未満」の割合が、他の年代よりも高くなっている。また、『30年以上』は、男女ともに「60歳以上」が6割以上となっている。（図表Ⅲ－１－３）

【居住地域別】

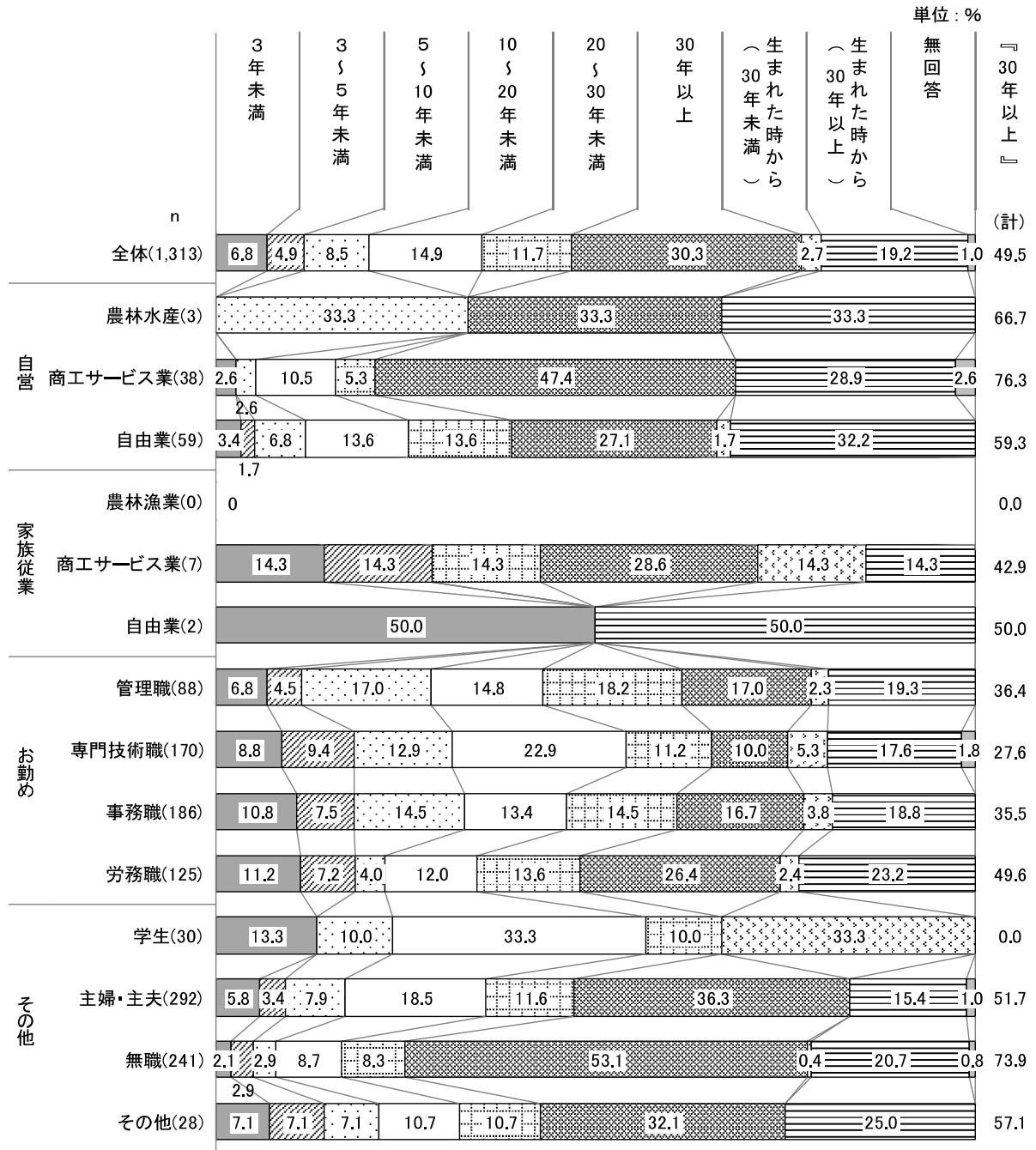
図表Ⅲ－１－４ 居住年数（居住地域別）



居住地域別でみると、『30年以上』は、「金町・新宿」（54.4％）が5割台半ばと最も高く、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」（52.8％）、「柴又・高砂」（51.0％）と続いている。一方、「奥戸・新小岩」（44.4％）は4割台半ばと最も低くなっている。（図表Ⅲ－１－４）

【職業別】

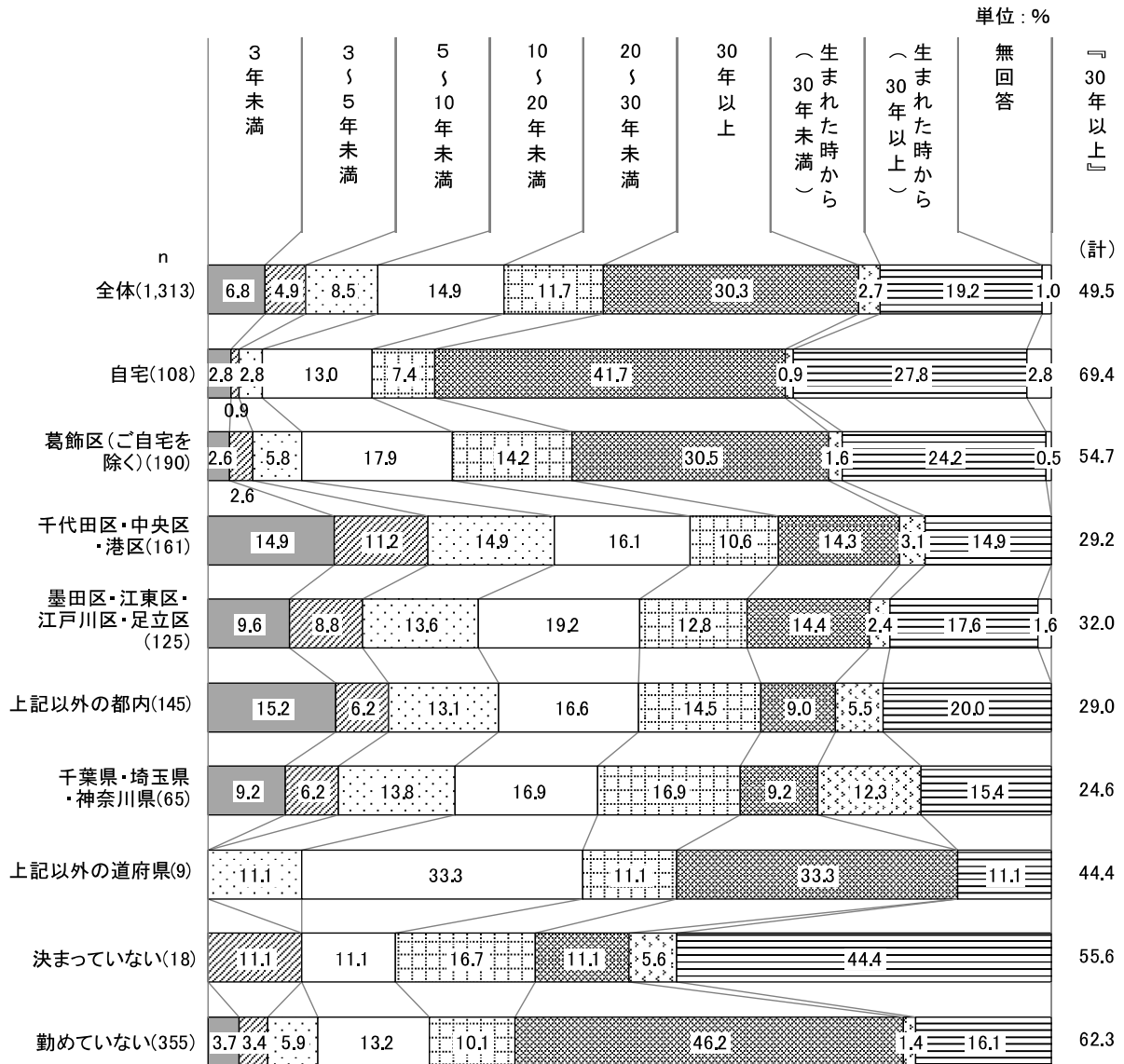
図表Ⅲ－１－５ 居住年数（職業別）



職業別でみると、『30年以上』は、「自営・商工サービス業」（76.3%）が8割近くと最も高くなっており、次いで「その他・無職」（73.9%）、「自営・自由業」（59.3%）と続いている。（図表Ⅲ－１－５）

【勤務先区域別】

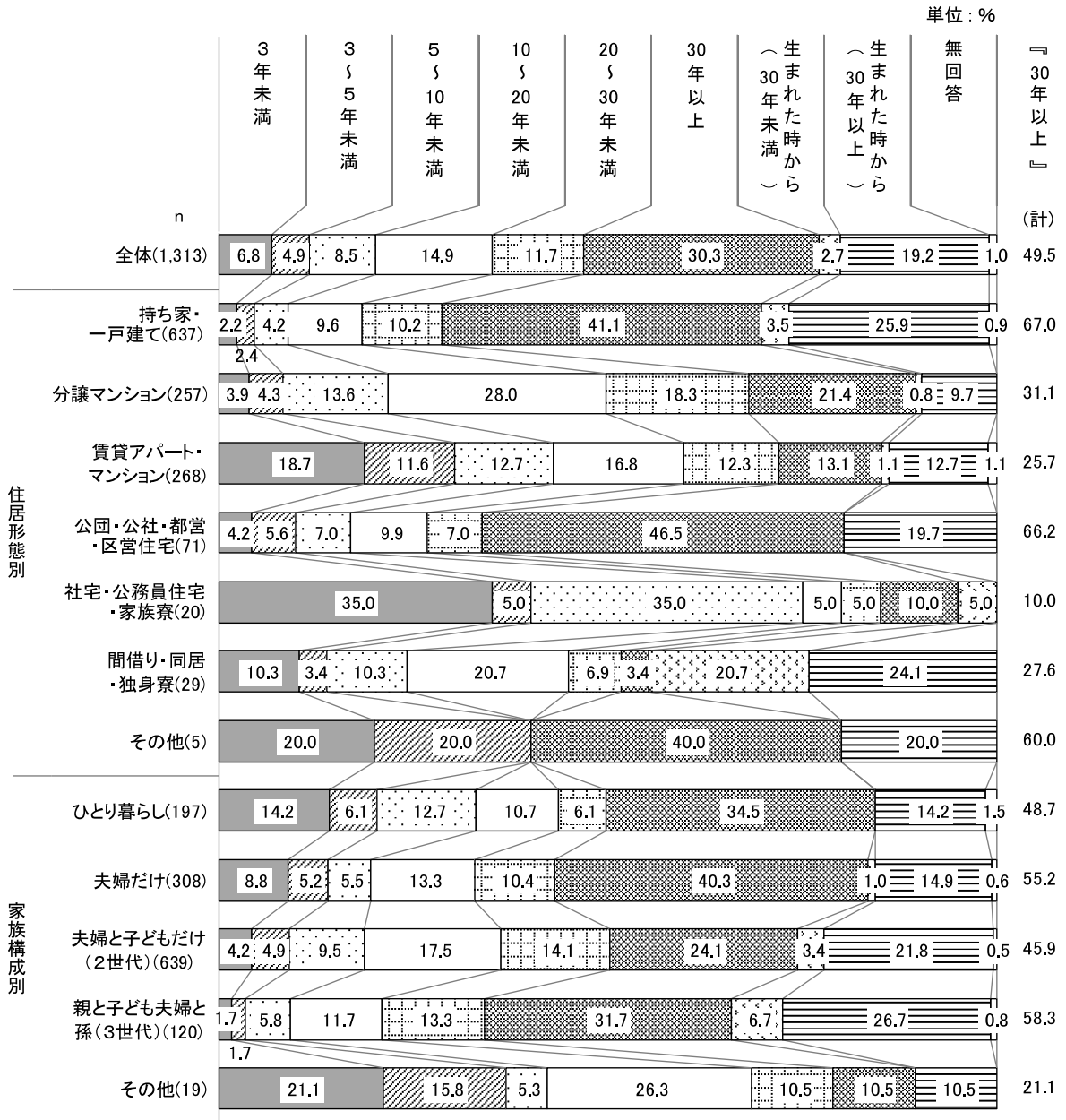
図表Ⅲ－１－６ 居住年数（勤務先区域別）



勤務先区域別でみると、『30年以上』は、「自宅」（69.4％）が7割弱と最も高くなっており、次いで「葛飾区（ご自宅を除く）」（54.7％）が5割台半ばとなっている。（図表Ⅲ－１－6）

【住居形態別／家族構成別】

図表Ⅲ－１－７ 居住年数（住居形態別／家族構成別）

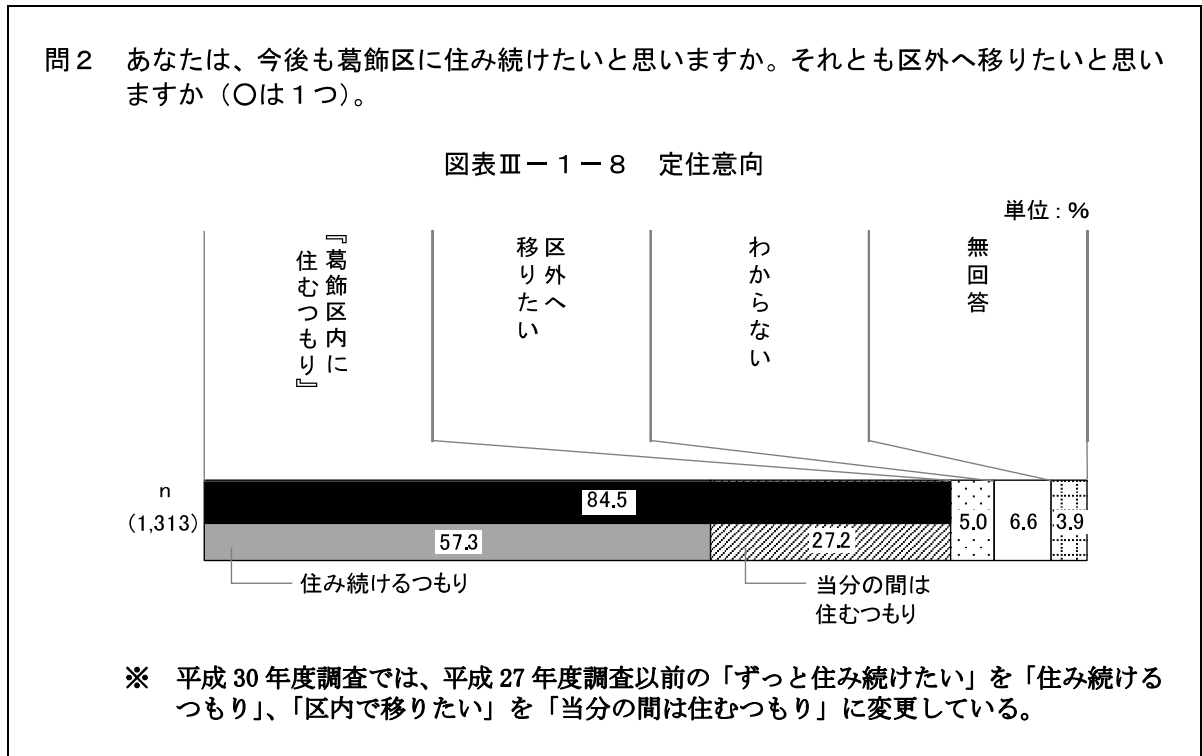


住居形態別にみると、『30年以上』は、「持ち家・一戸建て」（67.0%）が7割近くと最も高くなっており、次いで「公団・公社・都営・区営住宅」（66.2%）と続いている。また、「3年未満」は、「社宅・公務員住宅・家族寮」（35.0%）が最も高く、次いで「賃貸アパート・マンション」（18.7%）と続いている。

家族構成別でみると、『30年以上』は、「親と子ども夫婦と孫（3世代）」（58.3%）が6割近くと最も高く、次いで「夫婦だけ」（55.2%）と続いている。（図表Ⅲ－１－７）

(2) 定住意向

◆ 『葛飾区内に住むつもり』が8割台半ば

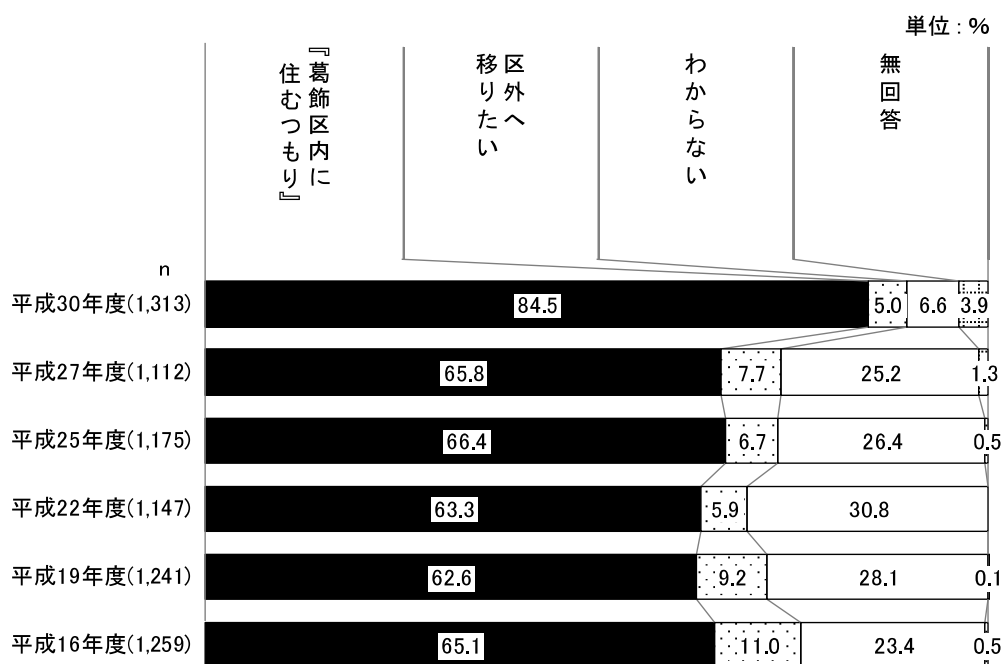


葛飾区に対する定住意向は、「住み続けるつもり」（57.3%）が6割近くと最も高く、これに「当分の間は住むつもり」（27.2%）を合わせた『葛飾区内に住むつもり』（84.5%）は8割台半ばとなっている。

一方、「区外へ移りたい」（5.0%）は1割未満となっている。（図表Ⅲ-1-8）

【経年変化】

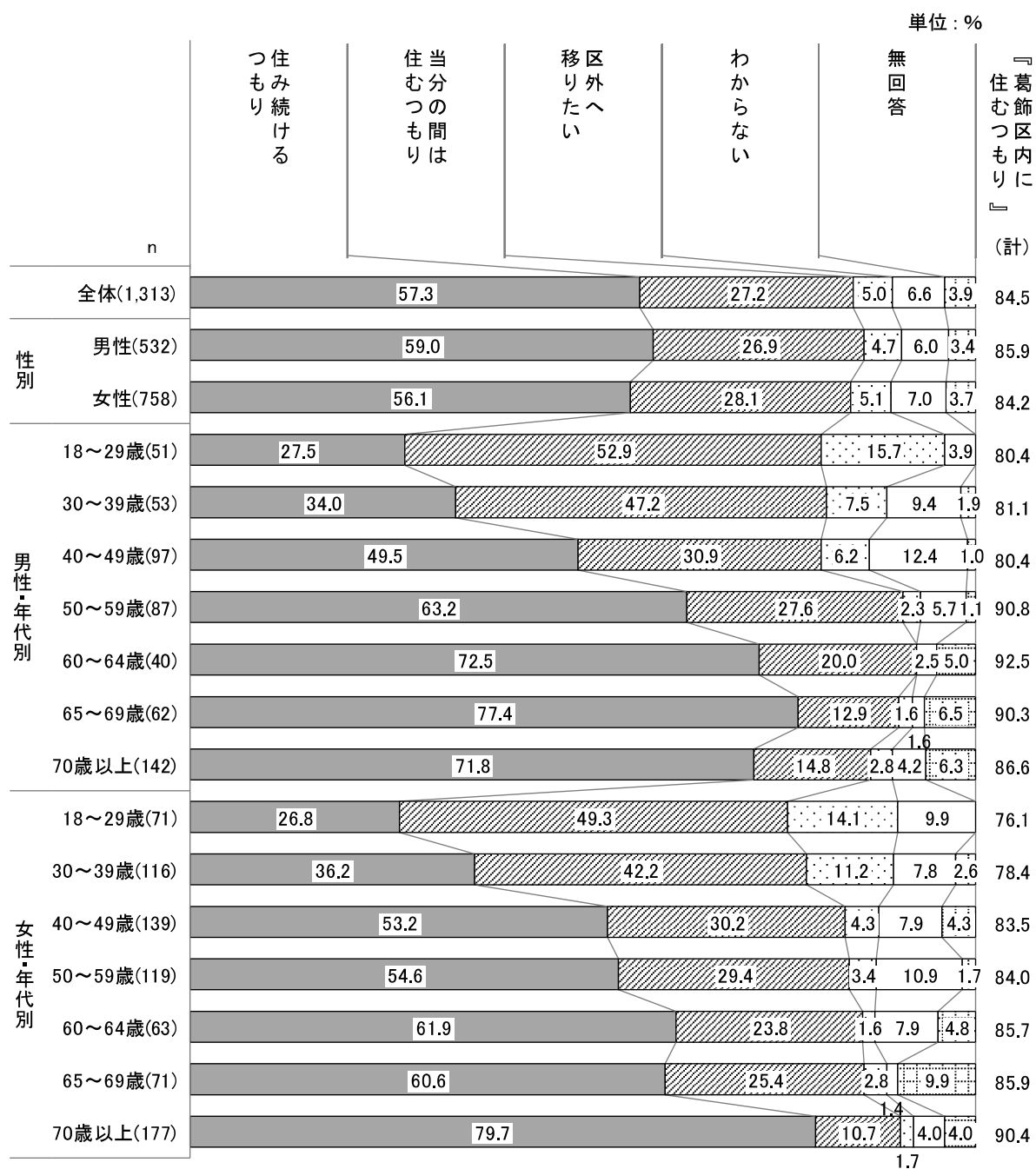
図表Ⅲ－１－９ 定住意向（経年変化）



『葛飾区内に住むつもり』（84.5%）は、平成27年度調査（65.8%）より18.7ポイント増加している。（図表Ⅲ－１－９）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－１０ 定住意向（性別／性・年代別）

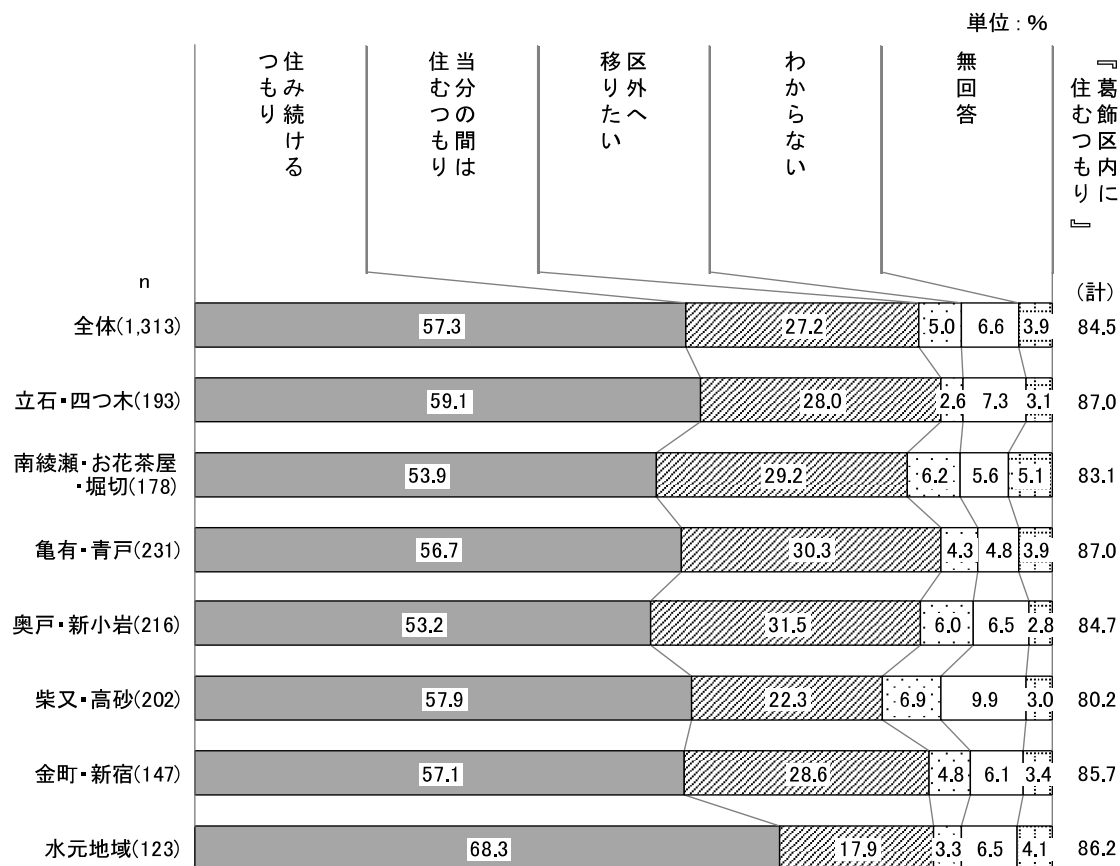


性別で見ると、『葛飾区内に住むつもり』は、「男性」（85.9％）が「女性」（84.2％）よりも1.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『葛飾区内に住むつもり』が9割を超えるのは、男性が「50～59歳」（90.8％）、「60～64歳」（92.5％）、「65～69歳」（90.3％）であるのに対して、女性は「70歳以上」（90.4％）のみとなっている。一方、「区外へ移りたい」の割合は、「男性18～29歳」（15.7％）、「女性18～29歳」（14.1％）と、男女ともに他の年代に比べ高くなっている。（図表Ⅲ－１－10）

【居住地域別】

図表Ⅲ－１－11 定住意向（居住地域別）

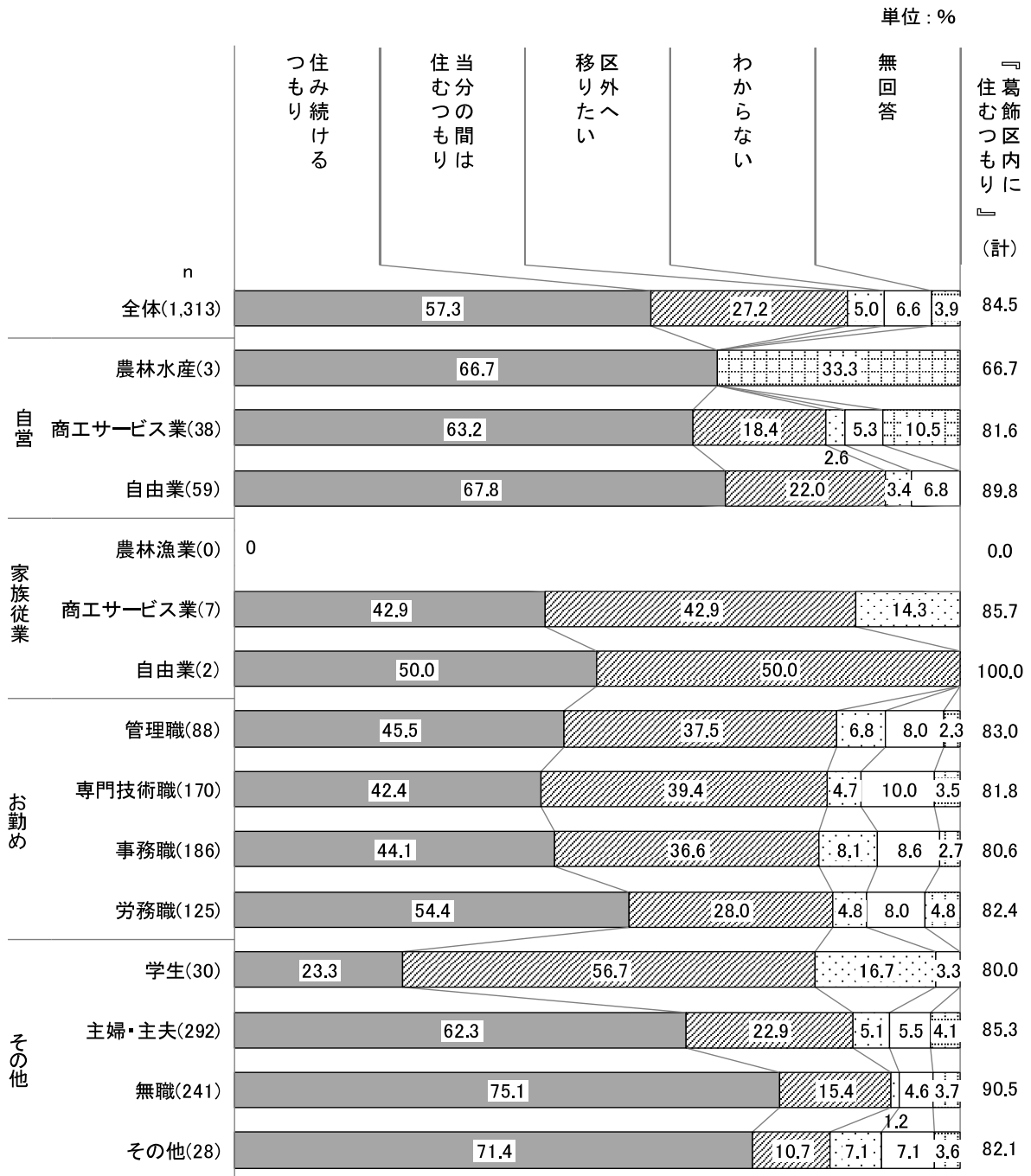


居住地域別でみると、「住み続けるつもり」は、「水元地域」(68.3%)が最も高く、次いで「立石・四つ木」(59.1%)、「柴又・高砂」(57.9%)と続いている。

また、『葛飾区内に住むつもり』は、全居住地域で8割以上となっている。(図表Ⅲ－１－11)

【職業別】

図表Ⅲ－１－１２ 定住意向（職業別）

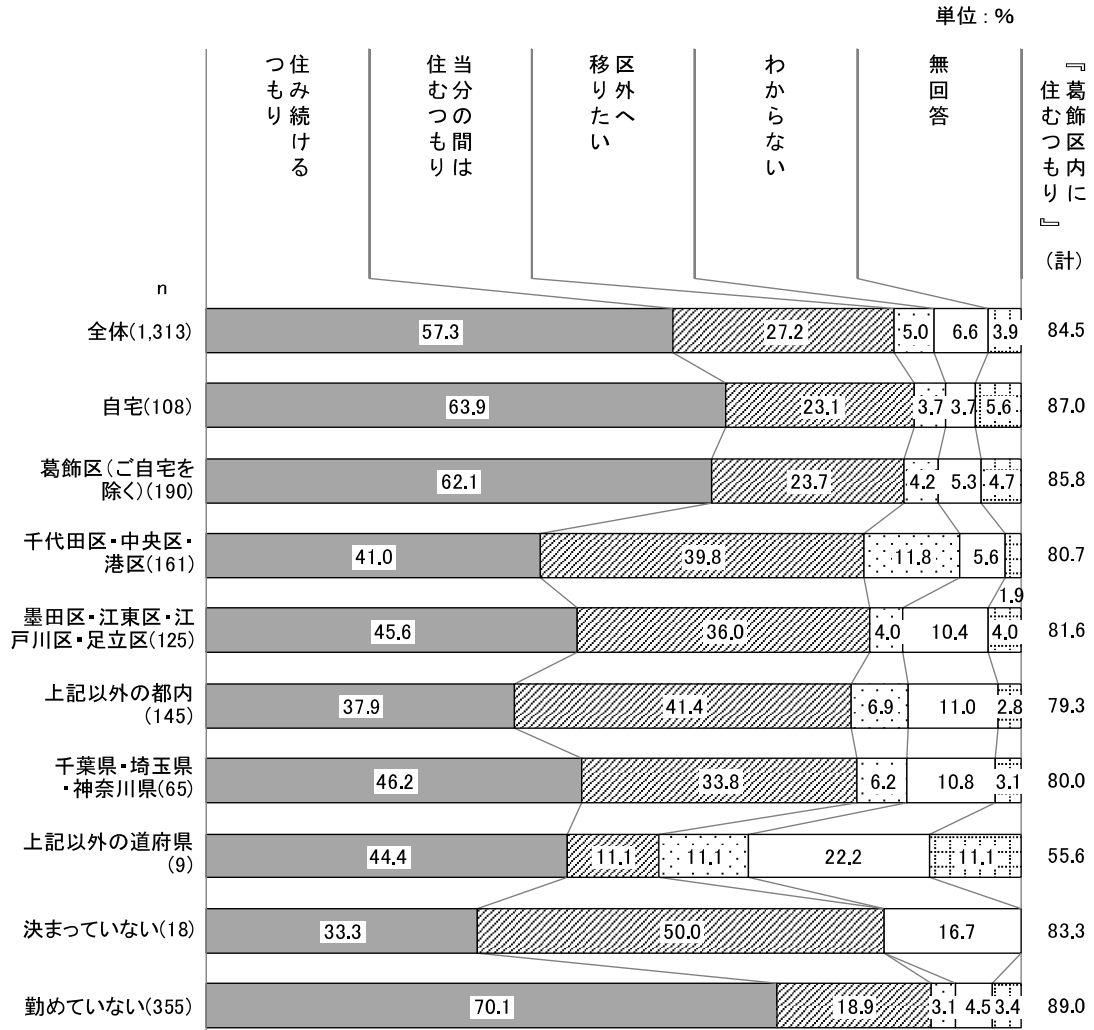


職業別でみると、『葛飾区内に住むつもり』は、「その他・無職」(90.5%)が最も高く、次いで「自営・自由業」(89.8%)、「その他・主婦・主夫」(85.3%)と続いている。

一方、「その他・学生」(80.0%)は8割と最も低くなっている。(図表Ⅲ－１－１２)

【勤務先区域別】

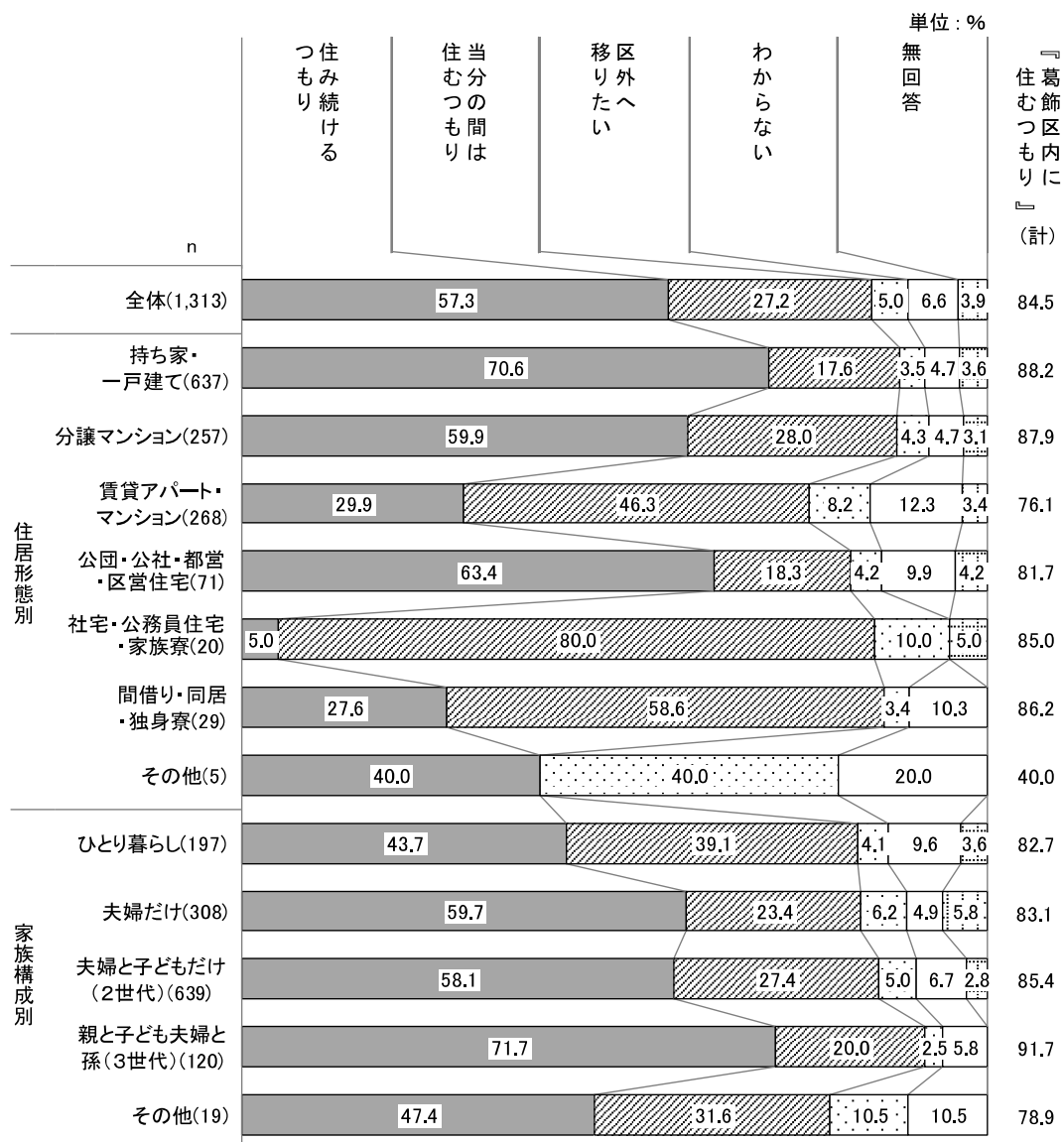
図表Ⅲ－１－１３ 定住意向（勤務先区域別）



勤務先区域別でみると、『葛飾区内に住むつもり』は、「自宅」(87.0%)が9割近くと最も高く、次いで「葛飾区(ご自宅を除く)」(85.8%)が続いている。(図表Ⅲ－１－13)

【住居形態別／家族構成別】

図表Ⅲ－１－１４ 定住意向（住居形態別／家族構成別）

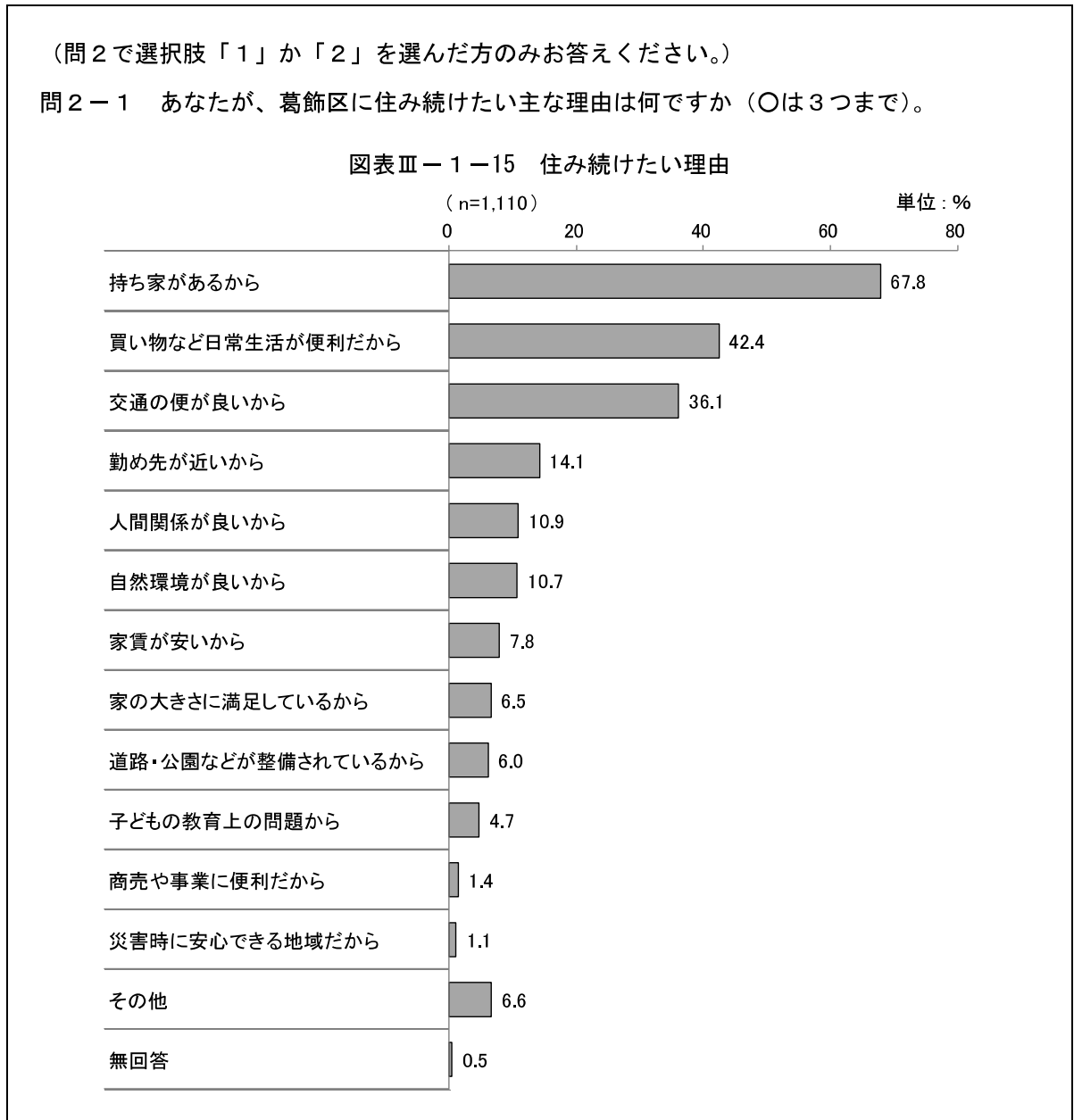


住居形態別でみると、『葛飾区内に住むつもり』は、「持ち家・一戸建て」（88.2%）が9割近くと最も高く、次いで「分譲マンション」（87.9%）と続いている。

家族構成別でみると、『葛飾区内に住むつもり』は、「親と子ども夫婦と孫（3世代）」（91.7%）が9割強と最も高く、次いで「夫婦と子どもだけ（2世代）」（85.4%）と続いている。（図表Ⅲ－１－14）

(2-1) 住み続けたい理由

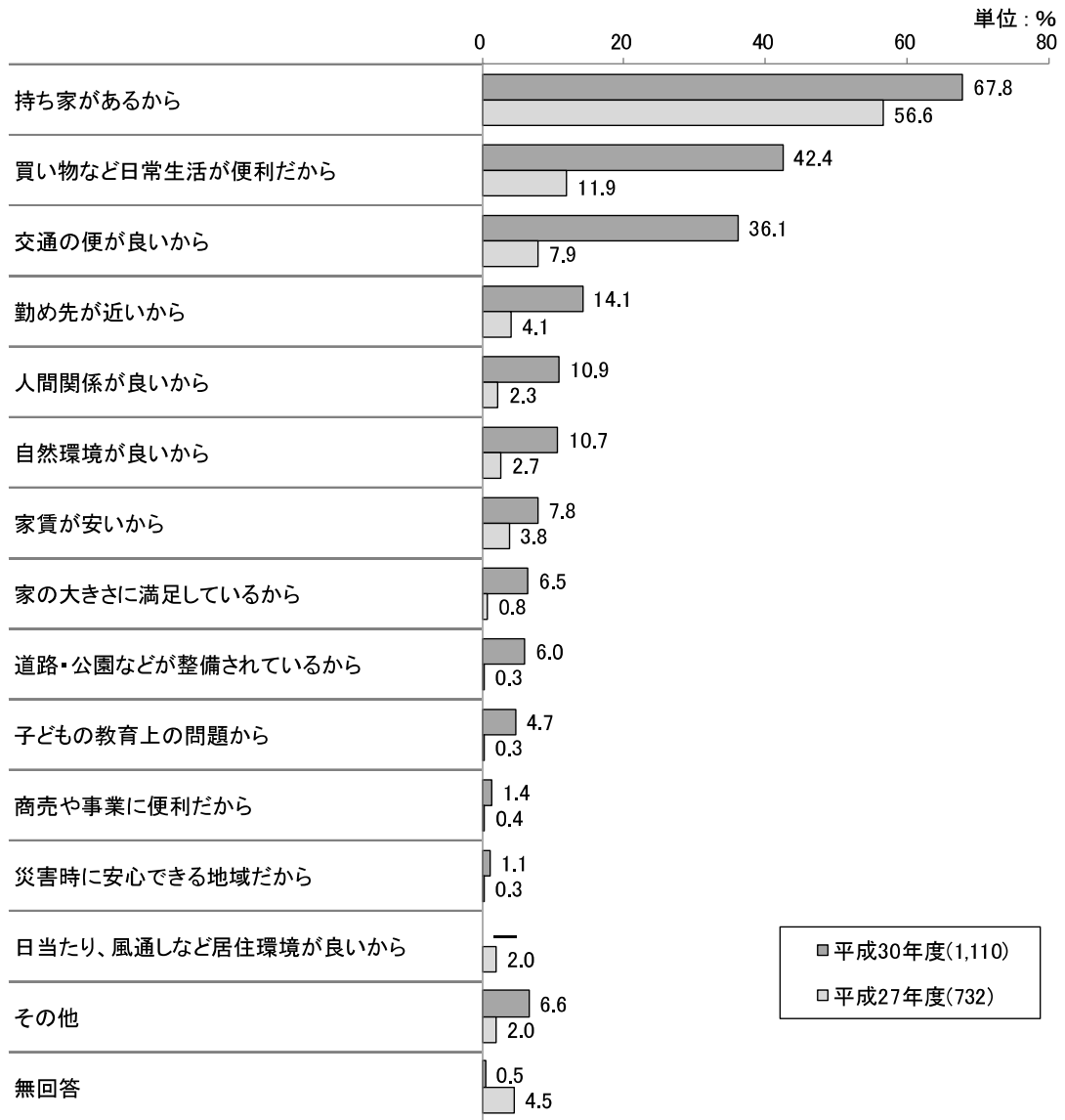
◆ 「持ち家があるから」、「買い物など日常生活が便利だから」、「交通の便が良いから」の順



葛飾区に住み続けたい主な理由は、「持ち家があるから」(67.8%)が7割近くと最も高く、次いで「買い物など日常生活が便利だから」(42.4%)、「交通の便が良いから」(36.1%)と続いている。(図表Ⅲ-1-15)

【経年変化】

図表Ⅲ－１－16 住み続けたい理由（経年変化）



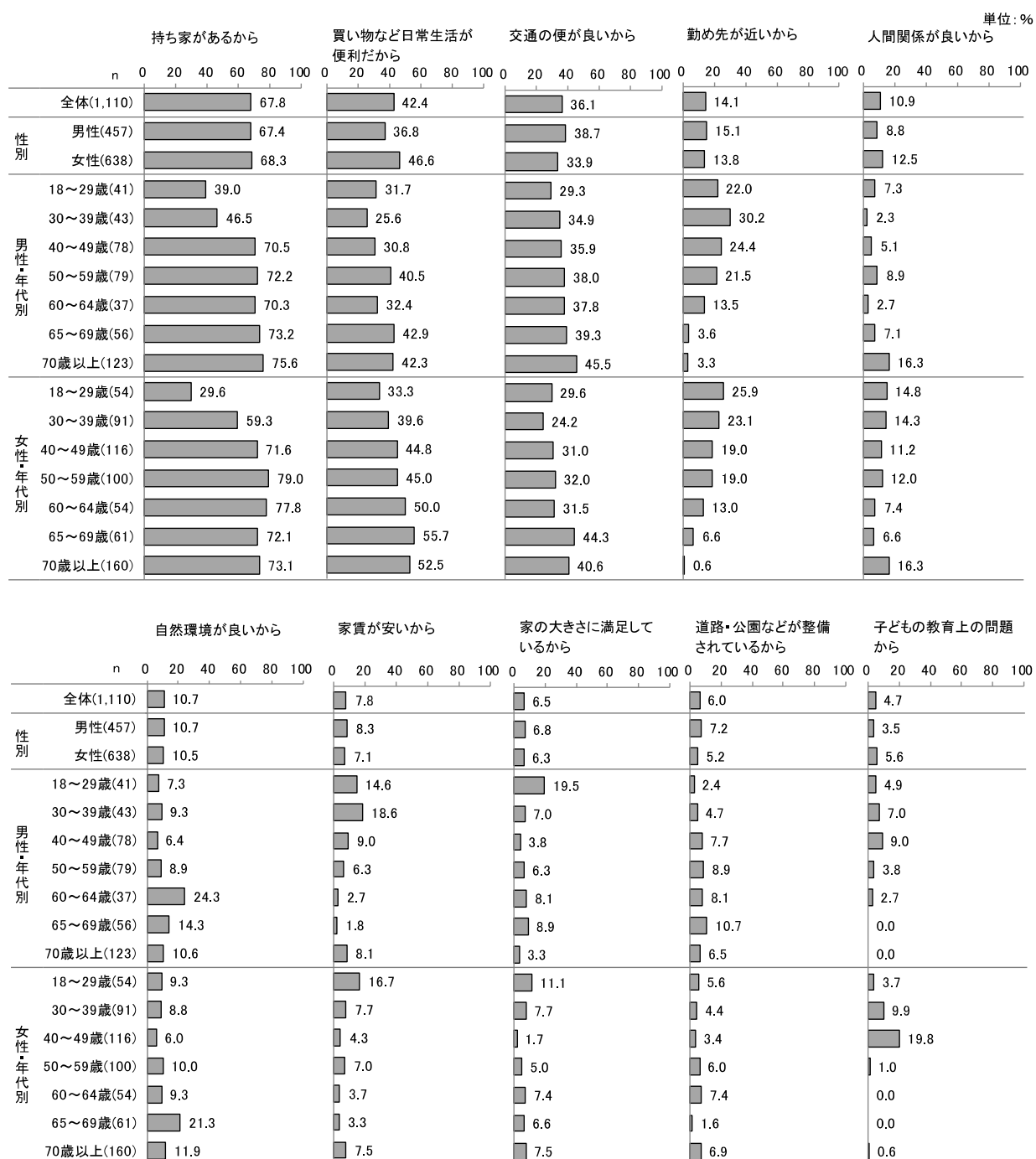
※ 平成30年度調査では、「日当たり、風通しなど居住環境が良いから」を除外している。

※ 平成30年度調査では、複数回答（選択肢の最大回答数は3項目）となっており、平成27年度調査では単数回答となっている。

「買い物など日常生活が便利だから」（42.4%）は、平成27年度調査（11.9%）より30.5ポイント増加している。また、「交通の便が良いから」（36.1%）は平成27年度調査（7.9%）より28.2ポイント、「持ち家があるから」（67.8%）は平成27年度調査（56.6%）より11.2ポイント、それぞれ増加している。（図表Ⅲ－１－16）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－17 住み続けたい理由（上位10項目）（性別／性・年代別）



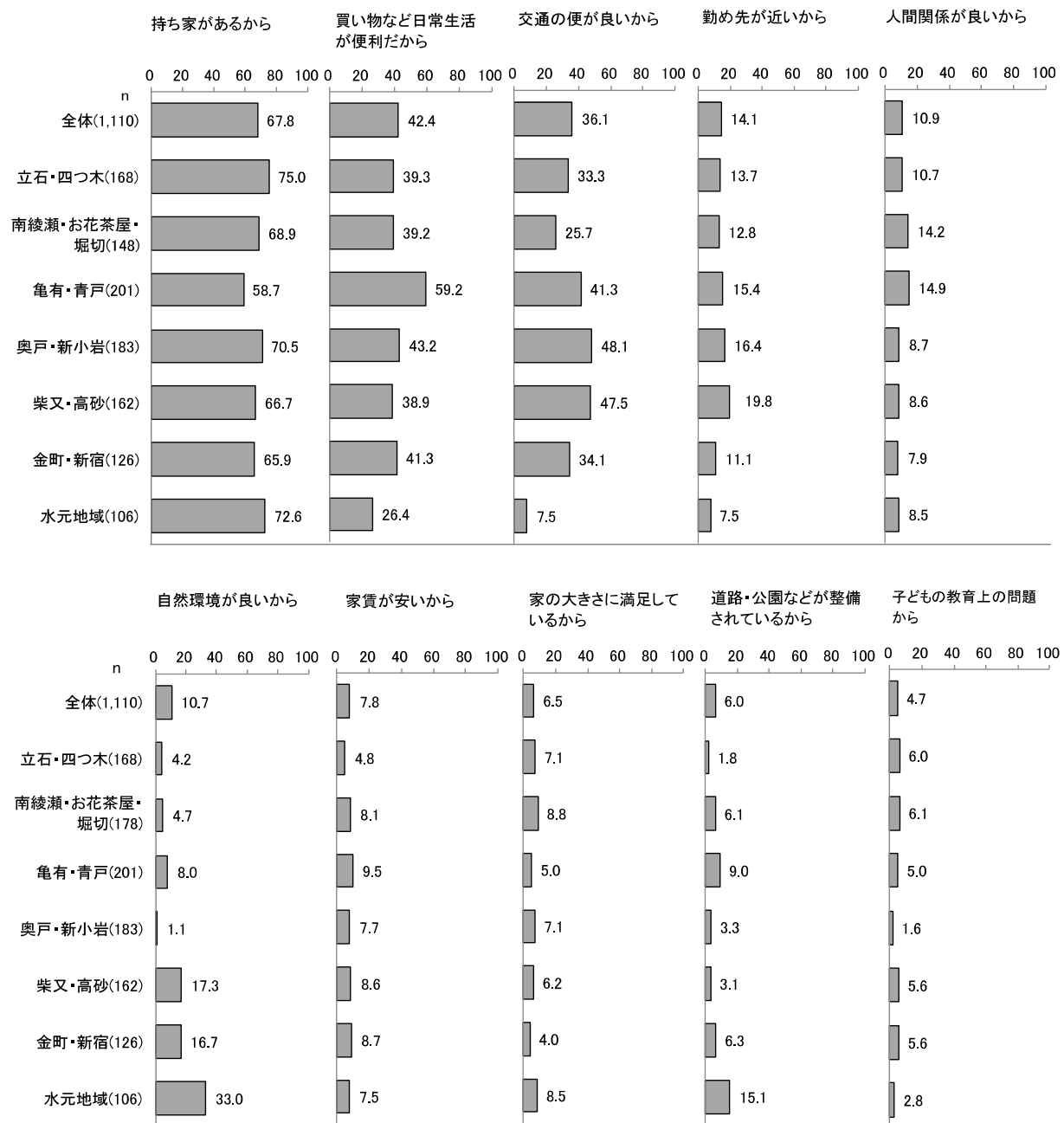
上位10項目について性別で見ると、「交通の便が良いから」は、「男性」(38.7%)が「女性」(33.9%)より4.8ポイント高くなっている。一方、「買い物など日常生活が便利だから」は、「女性」(46.6%)が「男性」(36.8%)より9.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「持ち家があるから」は、男女とも40歳以上が7割以上となっている。(図表Ⅲ－1－17)

【居住地域別】

図表Ⅲ－１－１８ 住み続けたい理由（上位10項目）（居住地域別）

単位：％



上位10項目について居住地域別でみると、「持ち家があるから」はすべての地域で5割以上となっており、「立石・四つ木」(75.0%)が最も高くなっている。

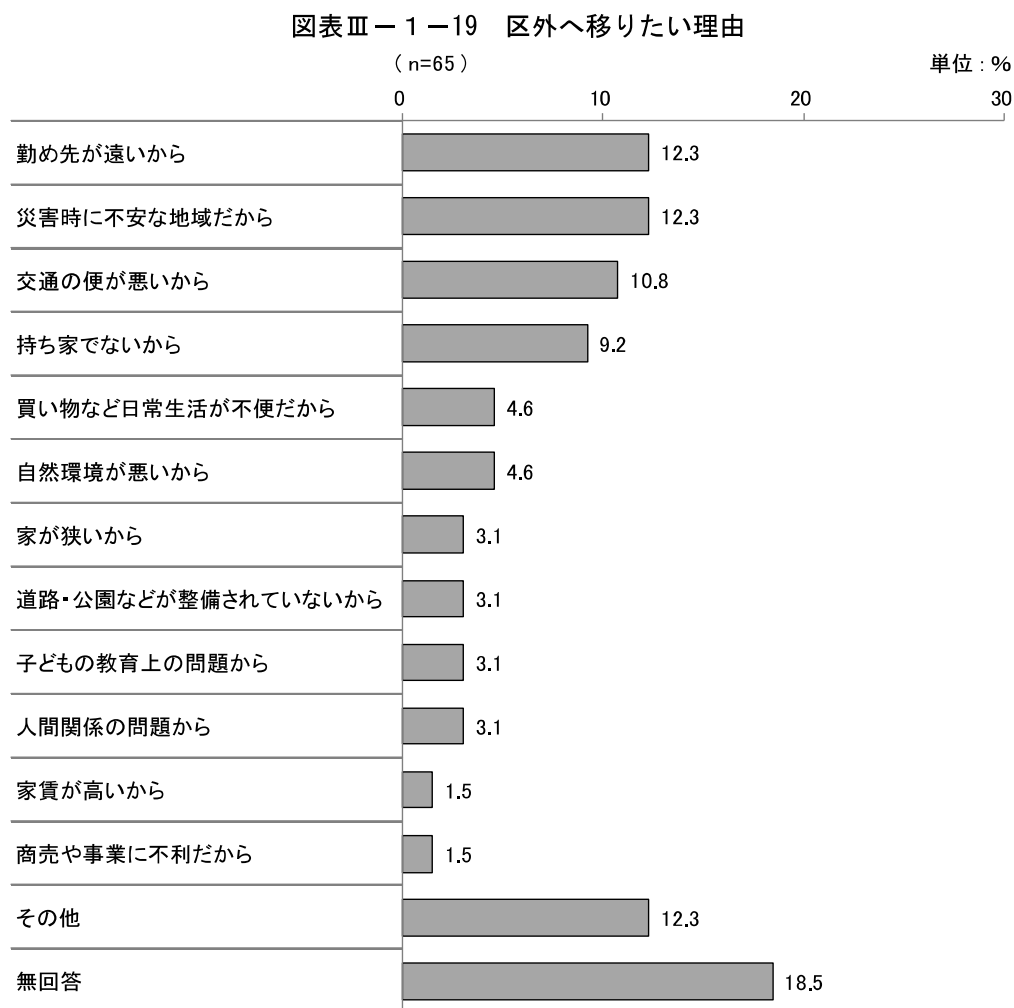
また、「買い物など日常生活が便利だから」は、「亀有・青戸」(59.2%)が6割弱と最も高く、「水元地域」(26.4%)が最も低くなっている。「交通の便が良いから」は、「奥戸・新小岩」(48.1%)が最も高く、「水元地域」(7.5%)が最も低くなっている。(図表Ⅲ－１－18)

(2-2) 区外へ移りたい理由

◆ 「勤め先が遠いから」と「災害時に不安な地域だから」が最多

(問2で選択肢「3」を選んだ方のみお答えください)

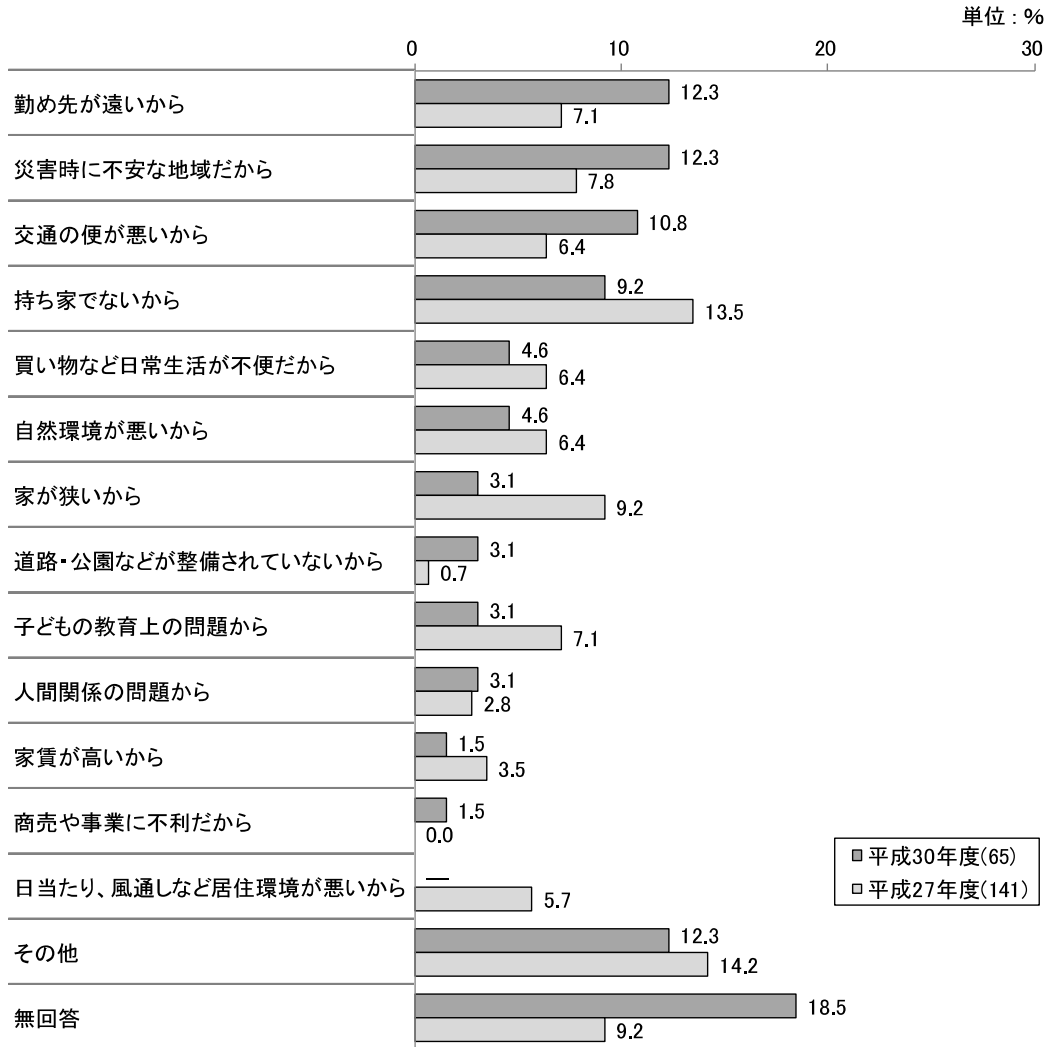
問2-2 あなたが、区外へ移りたい主な理由は何ですか(○は1つ)。



区外へ移りたい主な理由は、「勤め先が遠いから」(12.3%)と「災害時に不安な地域だから」(12.3%)が同率で最も高く、次いで「交通の便が悪いから」(10.8%)、「持ち家でないから」(9.2%)と続いている。(図表Ⅲ-1-19)

【経年変化】

図表Ⅲ－１－２０ 区外へ移りたい理由（経年変化）



※ 平成30年度調査では、「日当たり、風通しなど居住環境が悪いから」を除外している。

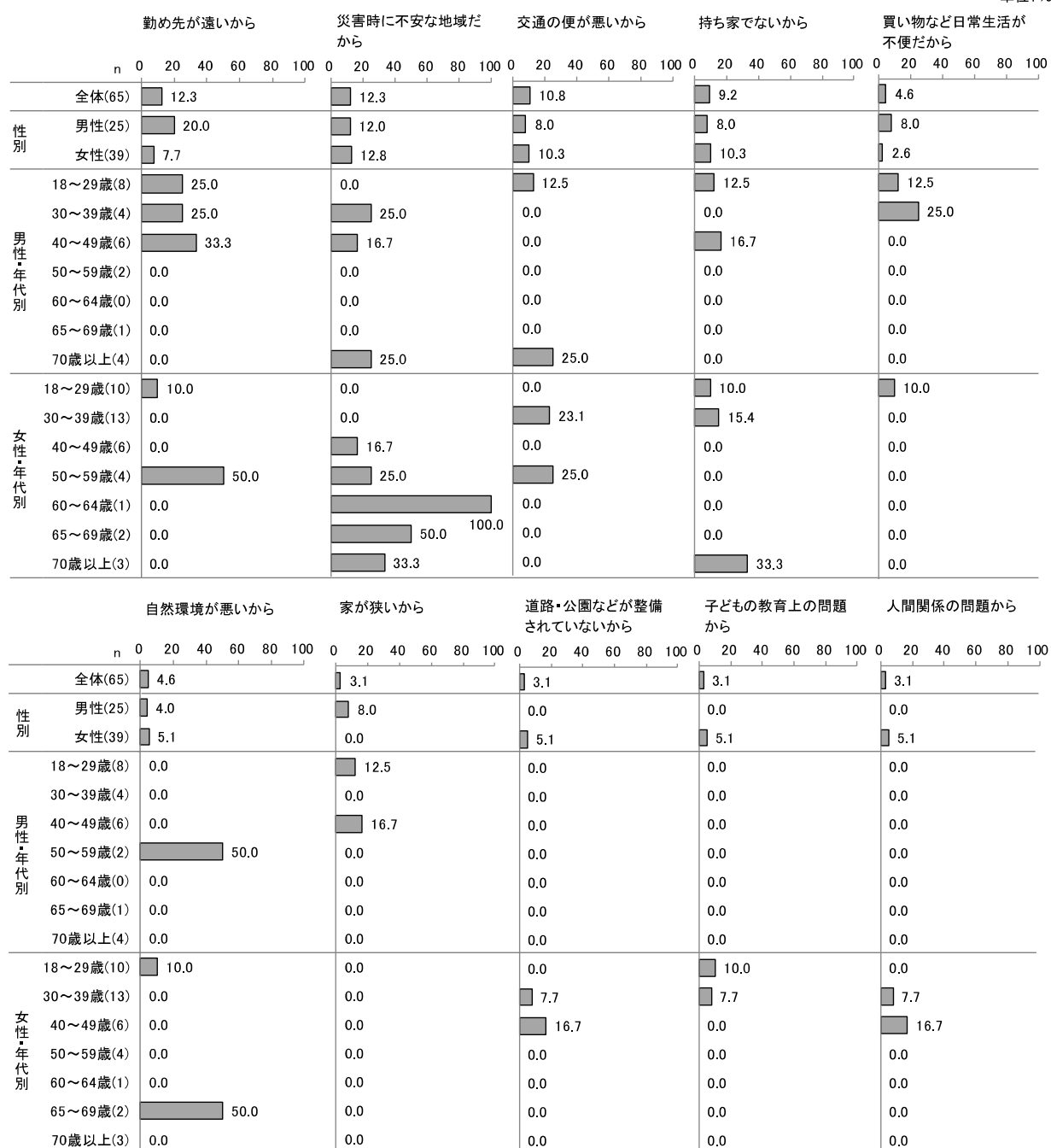
「勤め先が遠いから」(12.3%)は平成27年度調査(7.1%)より5.2ポイント、「災害時に不安な地域だから」(12.3%)は平成27年度調査(7.8%)より4.5ポイント増加している。

一方、「家が狭いから」(3.1%)は、平成27年度調査(9.2%)より6.1ポイント減少している。(図表Ⅲ－１－２０)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－21 区外へ移りたい理由（上位10項目）（性別／性・年代別）

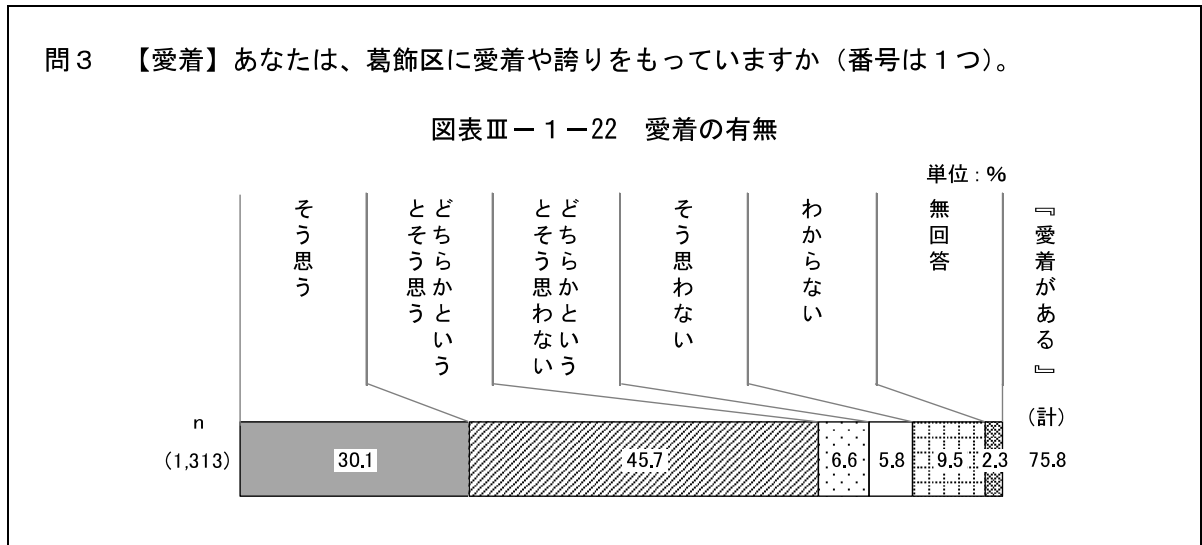
単位：%



上位10項目について性別で見ると、「勤め先が遠いから」は、「男性」(20.0%)が「女性」(7.7%)よりも12.3ポイント高くなっている。一方、「交通の便が悪いから」、「持ち家でないから」は、「女性」(10.3%)が「男性」(8.0%)より2.3ポイント高くなっている。(図表Ⅲ－１－21)

(3) 愛着の有無

◆ 『愛着がある』が7割台半ば



葛飾区への愛着の有無について、「どちらかというと思う」(45.7%)が最も高く、これと「そう思う」(30.1%)を合わせた『愛着がある』(75.8%)は7割台半ばとなっている。

一方、「どちらかというと思わない」(6.6%)と「そう思わない」(5.8%)を合わせた『愛着がない』(12.4%)は、1割強となっている。(図表Ⅲ－1－22)

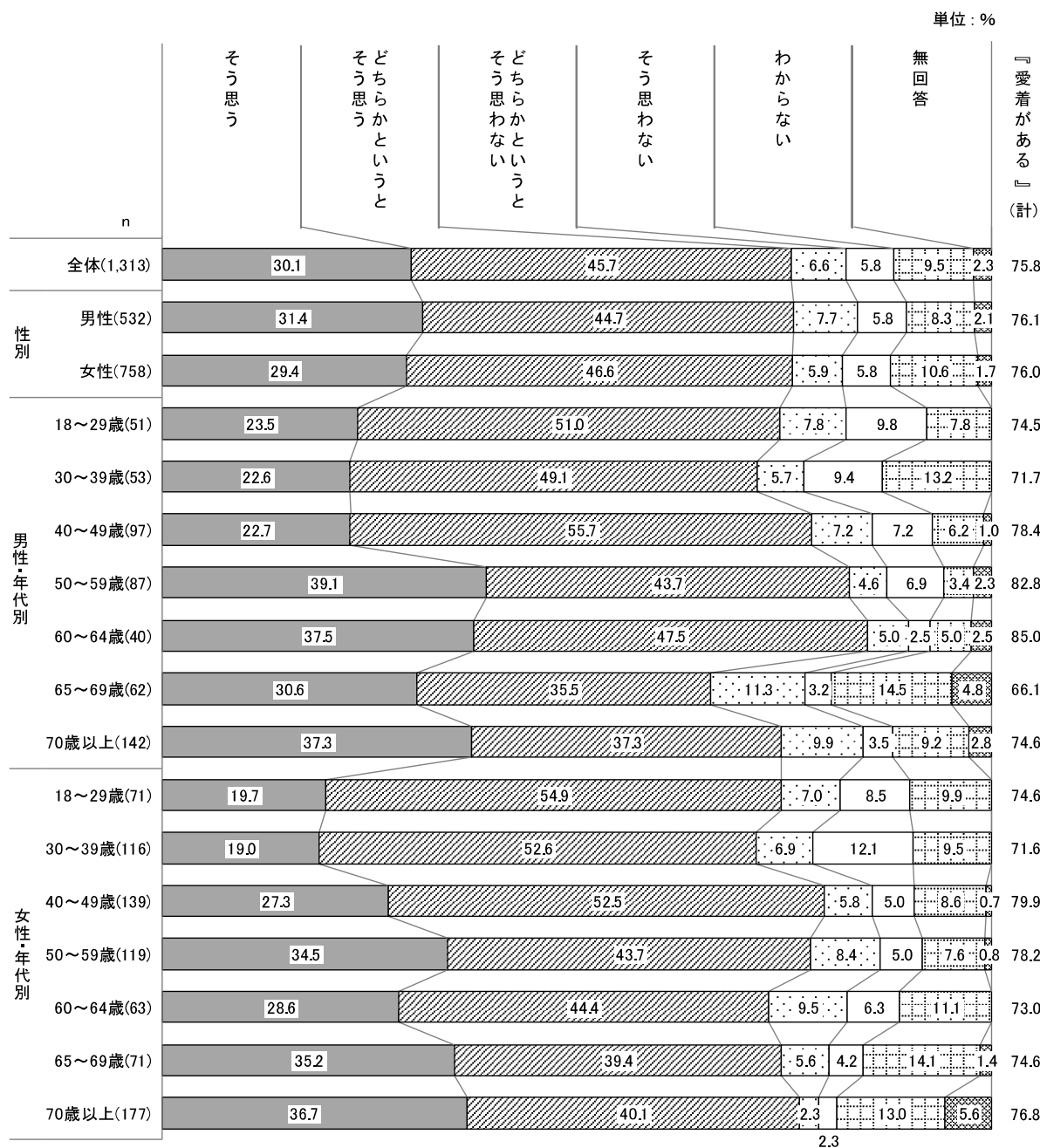
【経年変化】

当該項目は、平成30年度調査で新たに設置された調査項目のため、経年比較は行わない。

なお、平成27年度調査では、「あなたにとって、葛飾区の魅力は何ですか」の設問に対し、「葛飾区に「愛着」があるから」(51.2%)という結果になっている。

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－２３ 愛着の有無（性別／性・年代別）

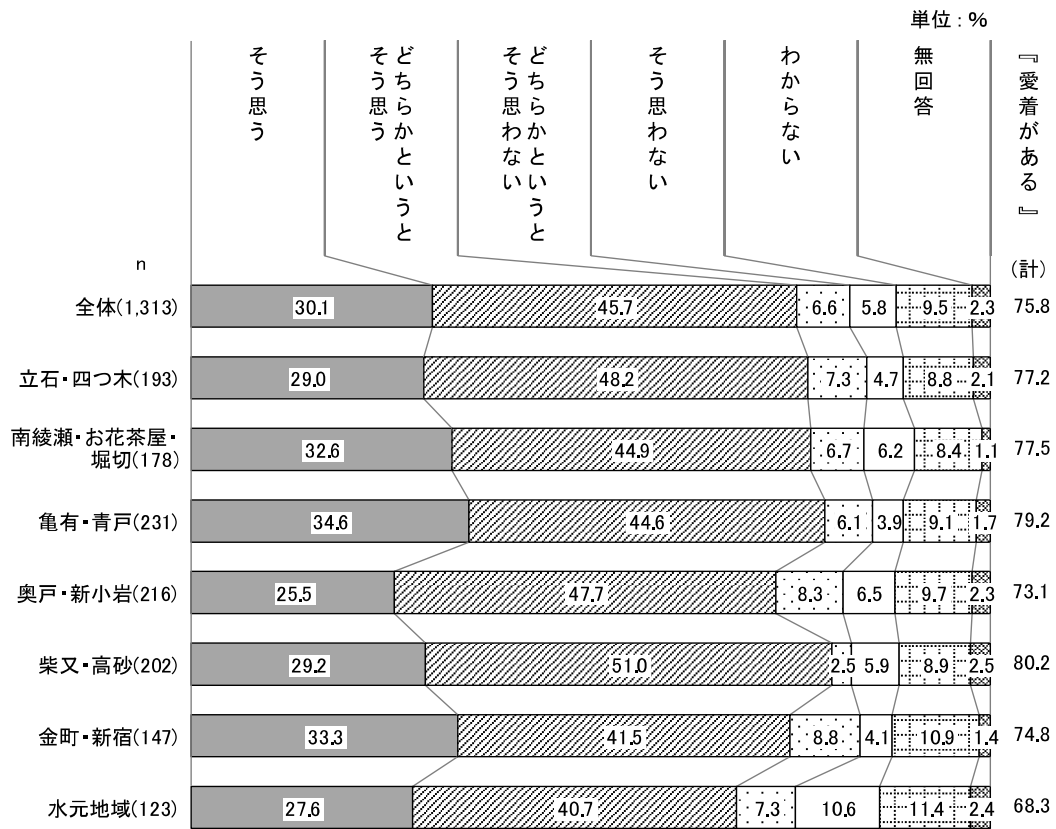


性別でみると、『愛着がある』は、「男性」（76.1%）、「女性」（76.0%）ともに8割近くとなっている。一方、『愛着がない』は、「男性」（13.5%）が「女性」（11.7%）より1.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『愛着がある』は、「男性60～64歳」（85.0%）、「女性40～49歳」（79.9%）がそれぞれ最も高くなっている。（図表Ⅲ－１－２３）

【居住地域別】

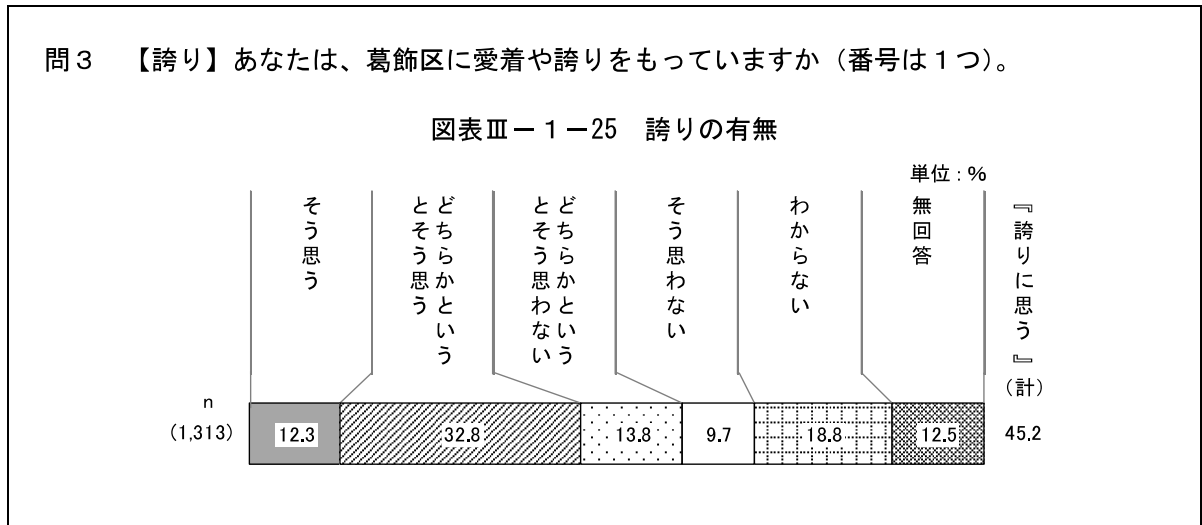
図表Ⅲ－１－24 愛着の有無（居住地域別）



居住地域別でみると、『愛着がある』は「柴又・高砂」（80.2%）が約8割と最も高くなっている。次いで「亀有・青戸」（79.2%）、「南綾瀬・お花茶屋・堀切」（77.5%）と続いている。一方、「水元地域」（68.3%）は7割近くと最も低くなっている。（図表Ⅲ－１－24）

(4) 誇りの有無

◆ 『誇りに思う』が4割台半ば



葛飾区への誇りの有無について、「どちらかというと思う」(32.8%)が最も高く、これと「そう思う」(12.3%)を合わせた『誇りに思う』(45.2%)は4割台半ばとなっている。

一方、「どちらかというと思わない」(13.8%)と「そう思わない」(9.7%)を合わせた『誇りに思わない』(23.5%)は、2割強となっている。(図表Ⅲ－1－25)

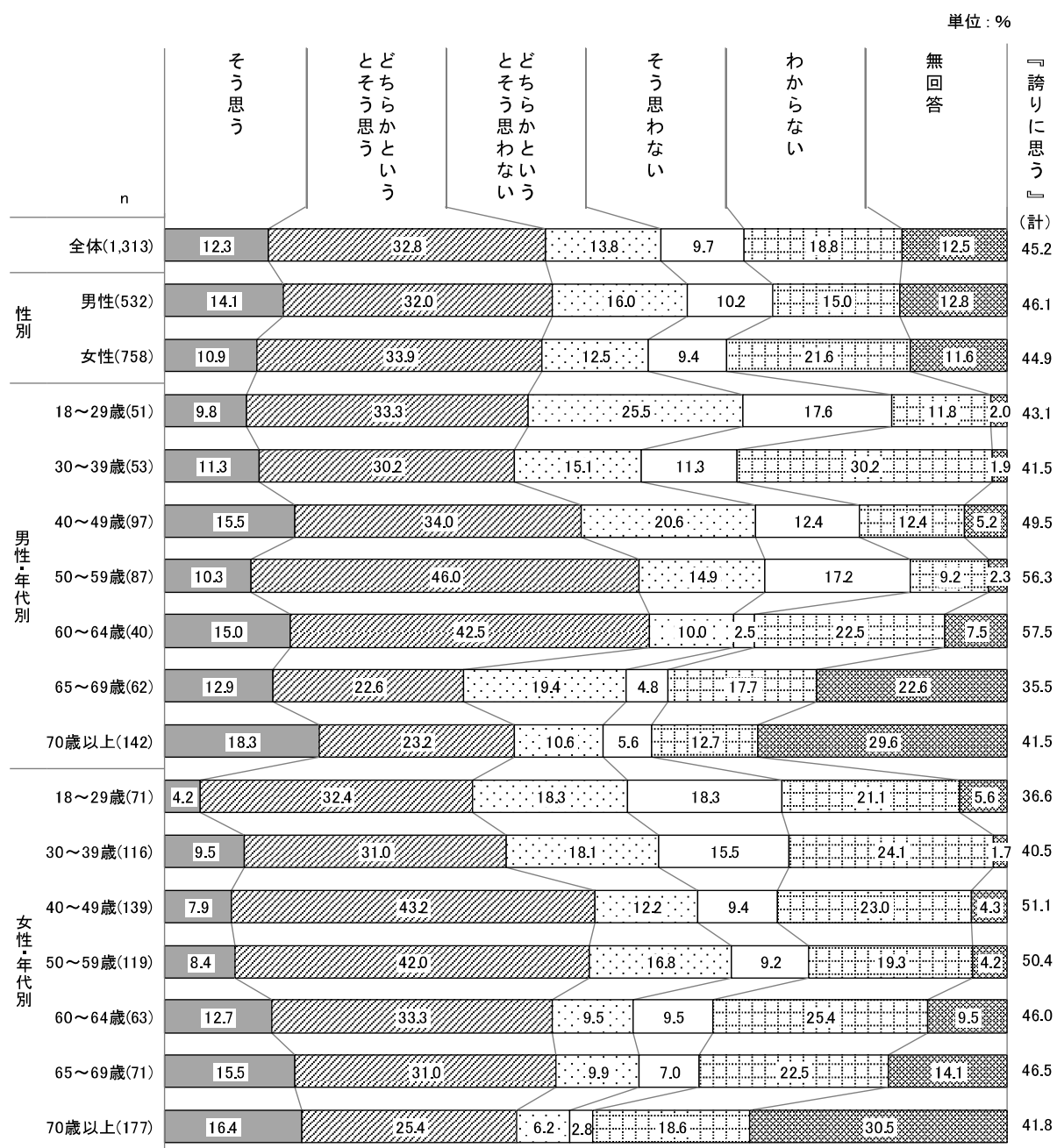
【経年変化】

当該項目は、平成30年度調査で新たに設置された調査項目のため、経年比較は行わない。

なお、平成27年度調査では、「あなたにとって、葛飾区の魅力は何ですか」の設問に対し、「葛飾区に「誇り」を感じているから」(4.9%)という結果になっている。

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－２６ 誇りの有無（性別／性・年代別）

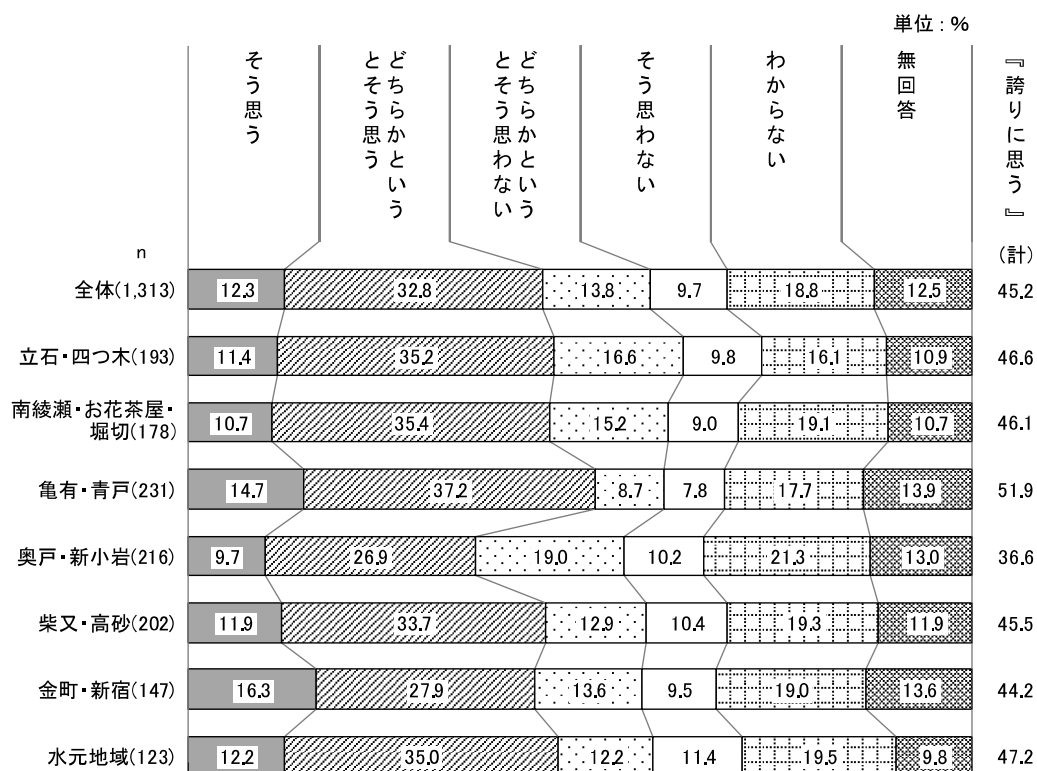


性別で見ると、『誇りに思う』は、「男性」(46.1%)が「女性」(44.9%)より1.2ポイント高くなっている。また、『誇りに思わない』においても、「男性」(26.2%)が「女性」(21.9%)より4.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『誇りに思う』は、「男性60～64歳」(57.5%)、「女性40～49歳」(51.1%)がそれぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－１－２６)

【居住地域別】

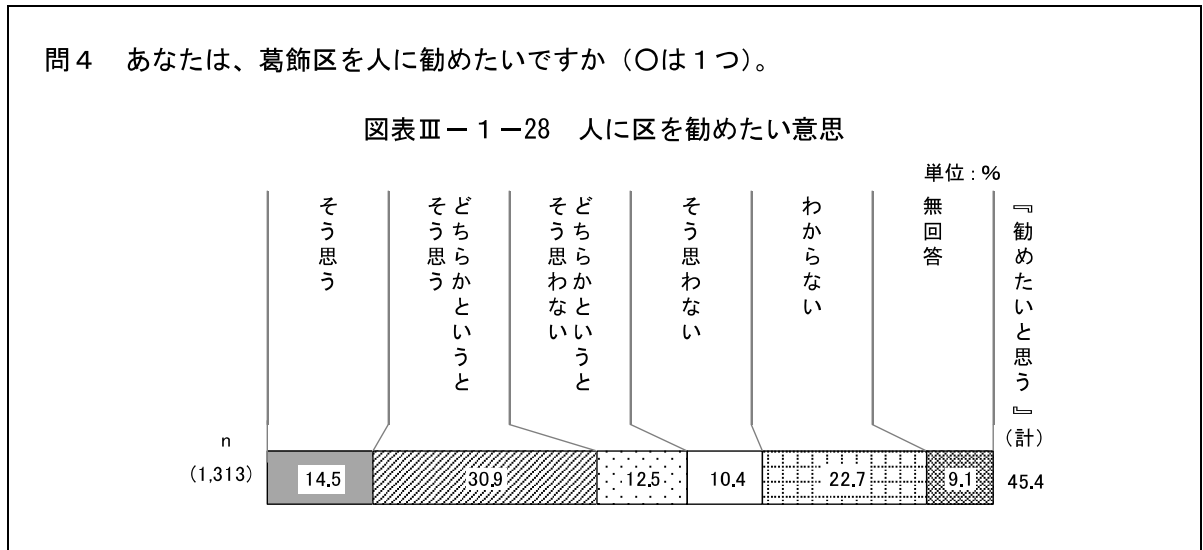
図表Ⅲ－１－２７ 誇りの有無（居住地域別）



居住地域別でみると、『誇りに思う』は「亀有・青戸」(51.9%)が5割強と最も高く、次いで「水元地域」(47.2%)、「立石・四つ木」(46.6%)と続いている。一方、「奥戸・新小岩」(36.6%)は、4割近くと最も低くなっている。(図表Ⅲ－１－２7)

(5) 人に区を勧めたい意思

◆ 『勧めたいと思う』が4割台半ば



人に区を勧めたい意思について、「どちらかというと思う」(30.9%)が最も高く、これと「そう思う」(14.5%)を合わせた『勧めたいと思う』(45.4%)は4割台半ばとなっている。

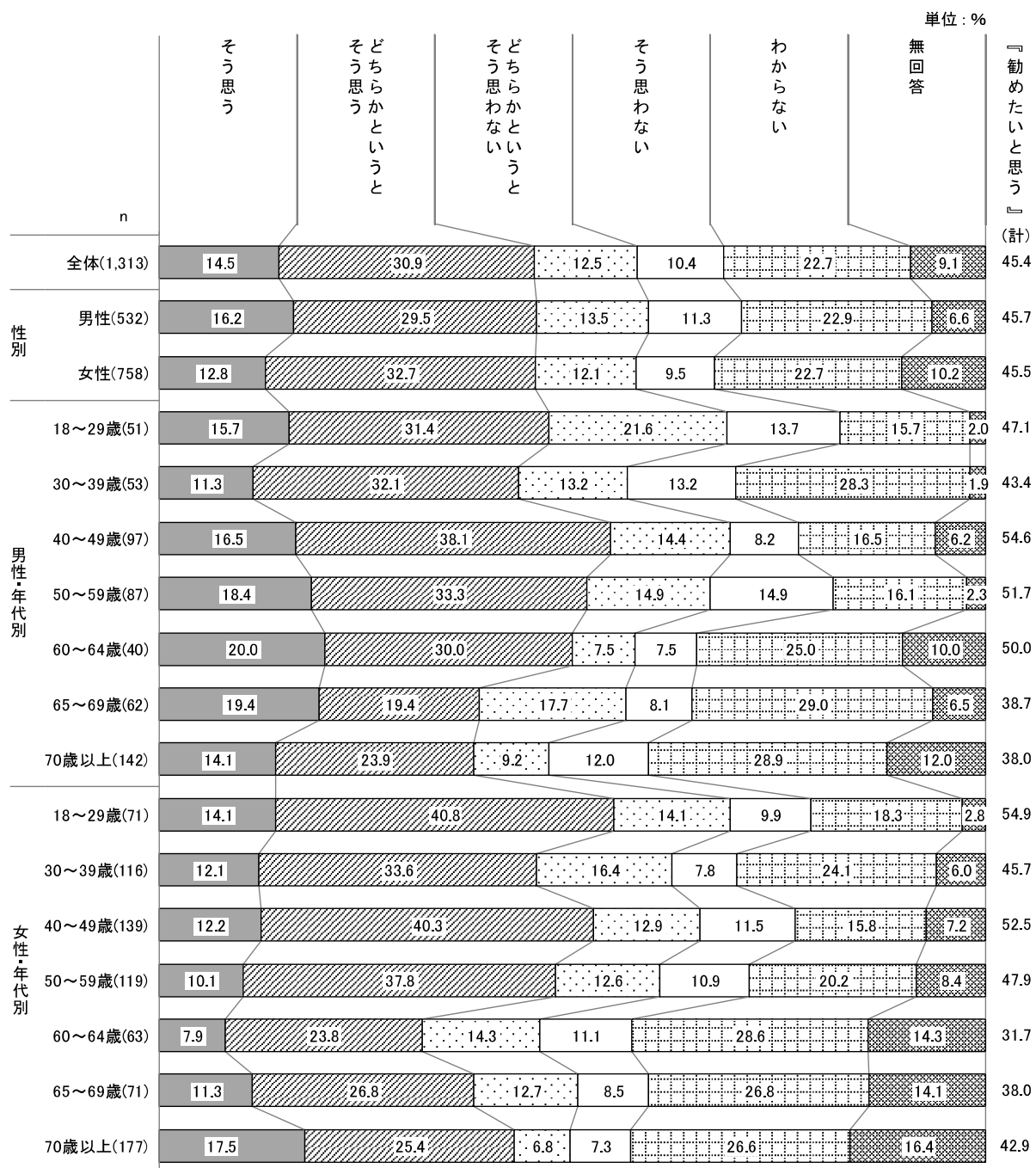
一方、「どちらかというと思わない」(12.5%)と「そう思わない」(10.4%)を合わせた『勧めたいと思わない』(22.9%)は、2割強となっている。(図表Ⅲ－1－28)

【経年変化】

当該項目は、平成30年度調査で新たに設置された調査項目のため、経年比較は行わない。

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－29 人に区を勧めたい意思（性別／性・年代別）

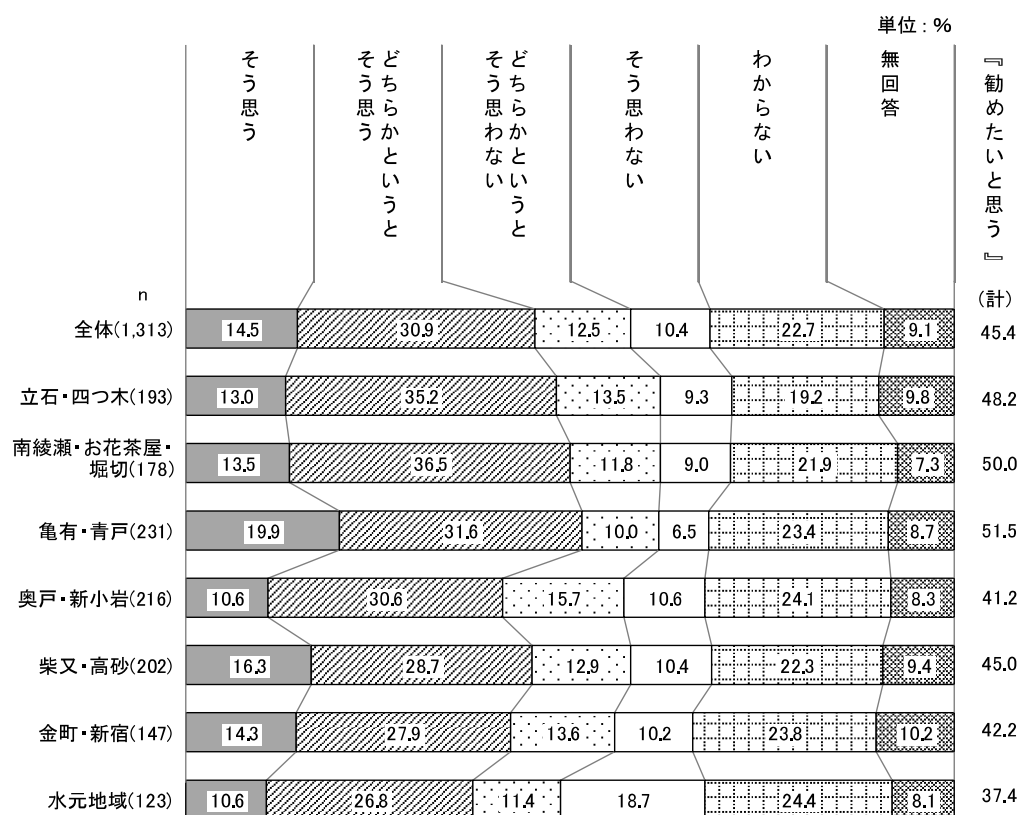


性別で見ると、『勧めたいと思う』は、「男性」(45.7%)、「女性」(45.5%)ともに、4割台半ばとなっている。一方、『勧めたいと思わない』は、「男性」(24.8%)が「女性」(21.6%)より3.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『勧めたいと思う』は、「男性40～49歳」(54.6%)、「女性18～29歳」(54.9%)がそれぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－１－29)

【居住地域別】

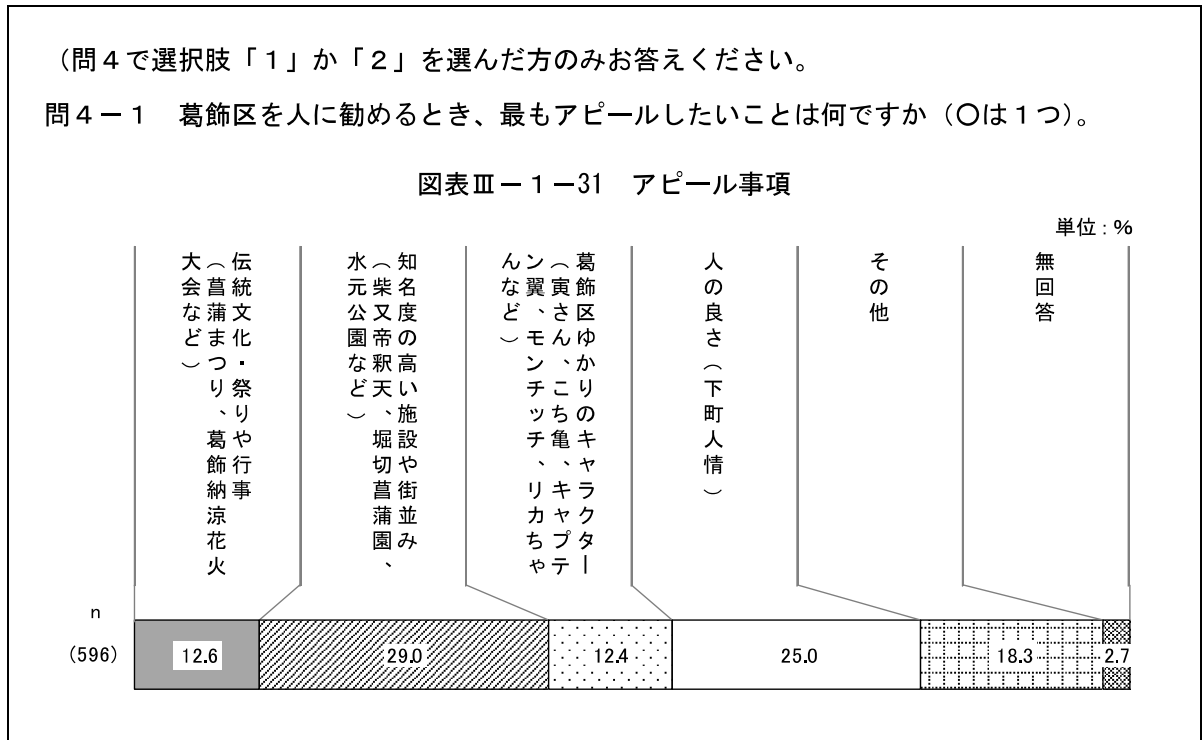
図表Ⅲ－１－３０ 人に区を勧めたい意思（居住地域別）



居住地域別でみると、『勧めたいと思う』は「亀有・青戸」(51.5%)が最も高く、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(50.0%)、「立石・四つ木」(48.2%)と続いている。一方、「水元地域」(37.4%)は4割近くと、最も低くなっている。(図表Ⅲ－１－30)

(5-1) アピール事項

◆ 「知名度の高い施設や街並み（柴又帝釈天、堀切菖蒲園、水元公園など）」が3割弱



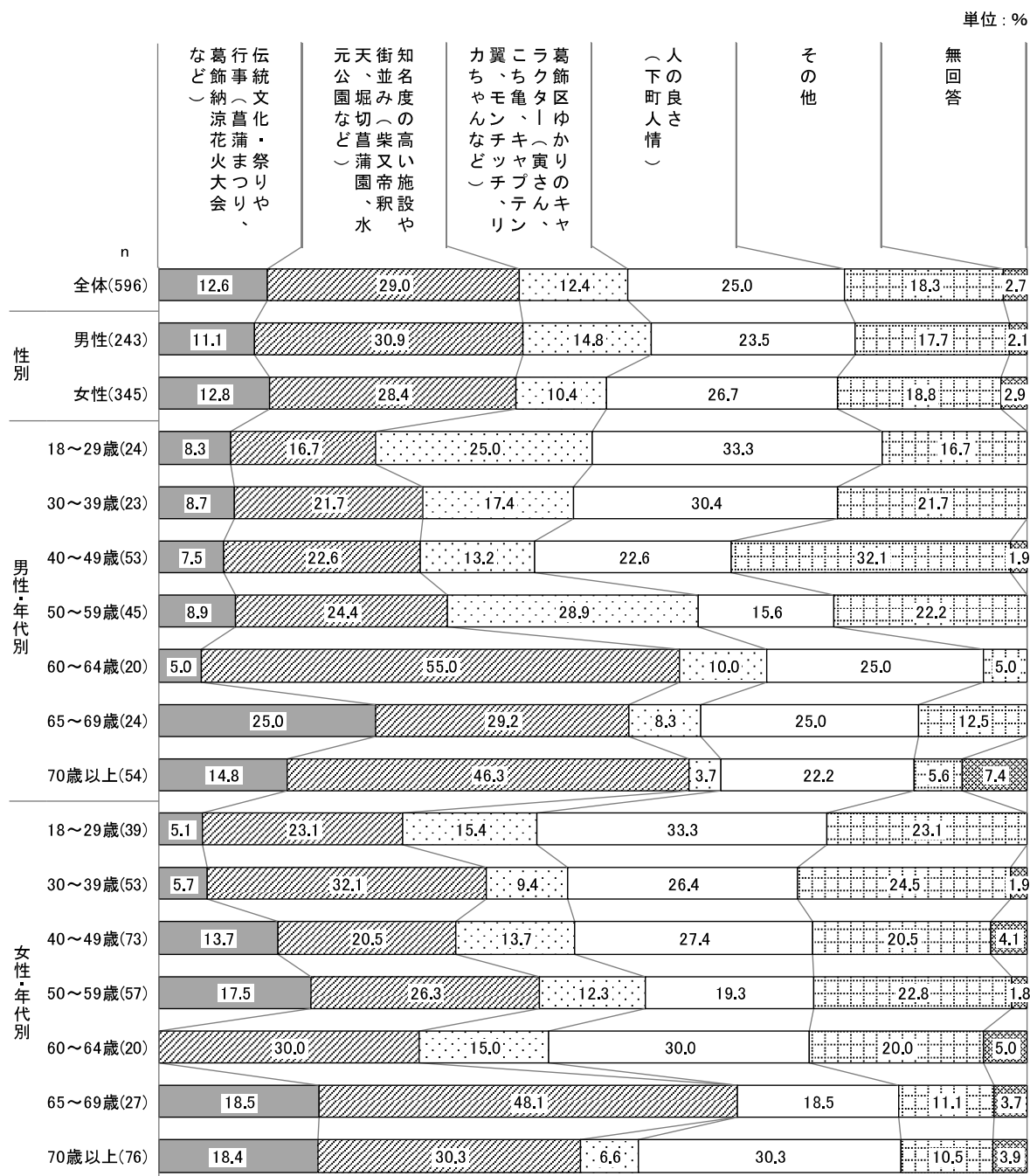
人に区を勧めるときのアピール事項は、「知名度の高い施設や街並み」(29.0%)が3割弱と最も高く、次いで「人の良さ」(25.0%)と続いている。(図表Ⅲ-1-31)

【経年変化】

当該項目は、平成30年度調査で新たに設置された調査項目のため、経年比較は行わない。

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－32 アピール事項（性別／性・年代別）

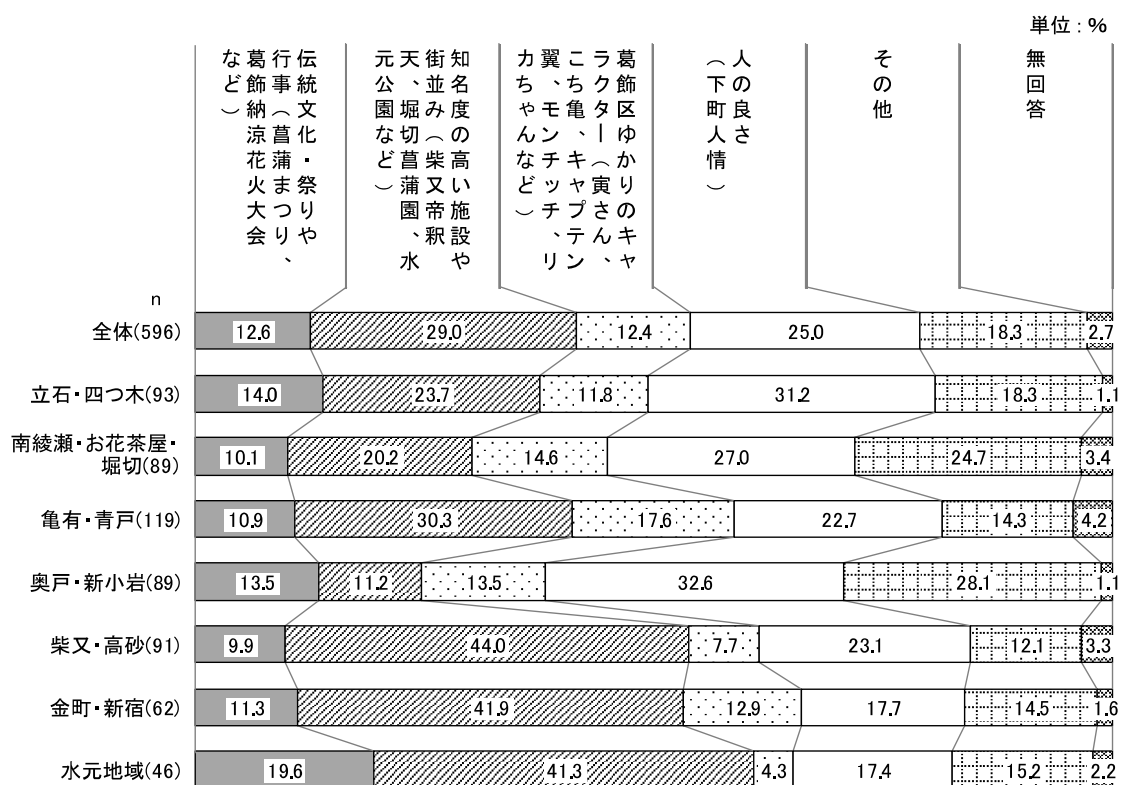


性別で見ると、「葛飾区ゆかりのキャラクター」は、「男性」（14.8%）が「女性」（10.4%）より4.4ポイント高くなっている。一方、「人の良さ」は、「女性」（26.7%）が「男性」（23.5%）より3.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知名度の高い施設や街並み」は、「男性60～64歳」（55.0%）が5割台半ばと最も高くなっており、次いで「女性65～69歳」（48.1%）、「男性70歳以上」（46.3%）と続いている。（図表Ⅲ－１－32）

【居住地域別】

図表Ⅲ－１－３３ アピール事項（居住地域別）



居住地域別で見ると、「知名度の高い施設や街並み」は、「柴又・高砂」（44.0％）が最も高く、次いで「金町・新宿」（41.9％）、「水元地域」（41.3％）と続いている。一方、「奥戸・新小岩」（11.2％）は1割強と最も低くなっている。

また、「人の良さ」は、「奥戸・新小岩」（32.6％）と「立石・四つ木」（31.2％）が3割以上となっている。（図表Ⅲ－１－33）

2. 区政への関心

(1) 整備・充実が必要な施設

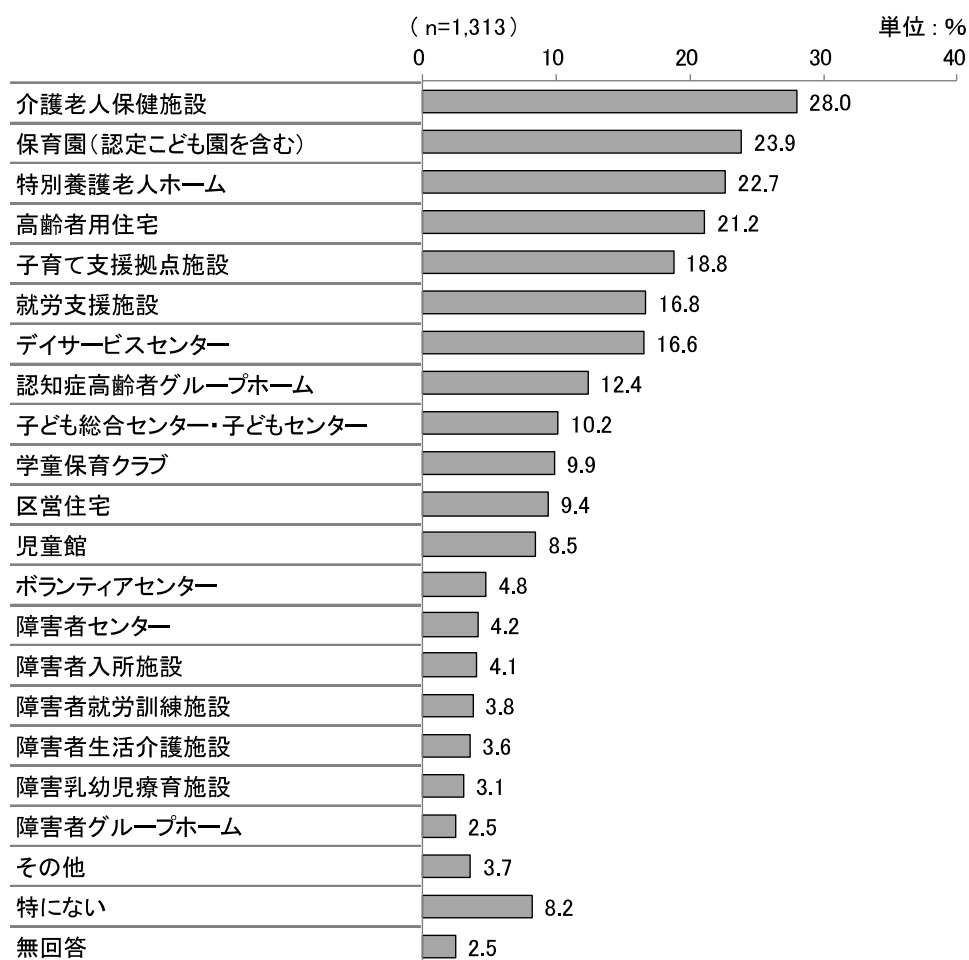
<子育て・福祉施設>

◆ 「介護老人保健施設」が3割近く

問5 今後、葛飾区ではどのような施設の整備・充実を図っていくことが必要だと思えますか。

(1) 子育て、福祉施設について (〇は3つまで)。

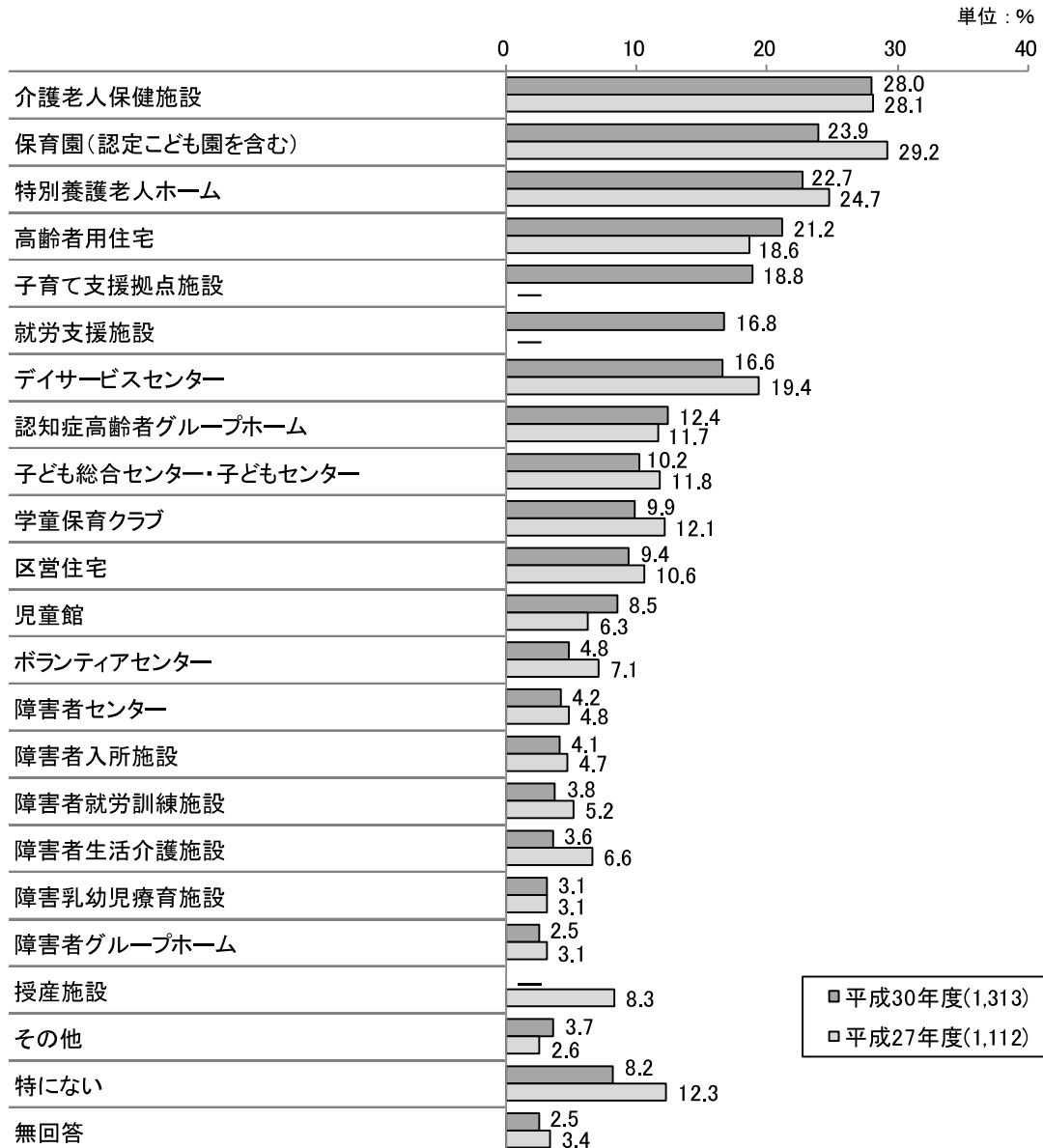
図表Ⅲ-2-1 整備・充実が必要な施設<子育て・福祉施設>



整備・充実が必要な「子育て・福祉施設」は、「介護老人保健施設」(28.0%)が3割近くと最も高く、次いで「保育園(認定こども園を含む)」(23.9%)、「特別養護老人ホーム」(22.7%)と続いている。(図表Ⅲ-2-1)

【経年変化】

図表Ⅲ－２－２ 整備・充実が必要な施設<子育て・福祉施設>（経年変化）



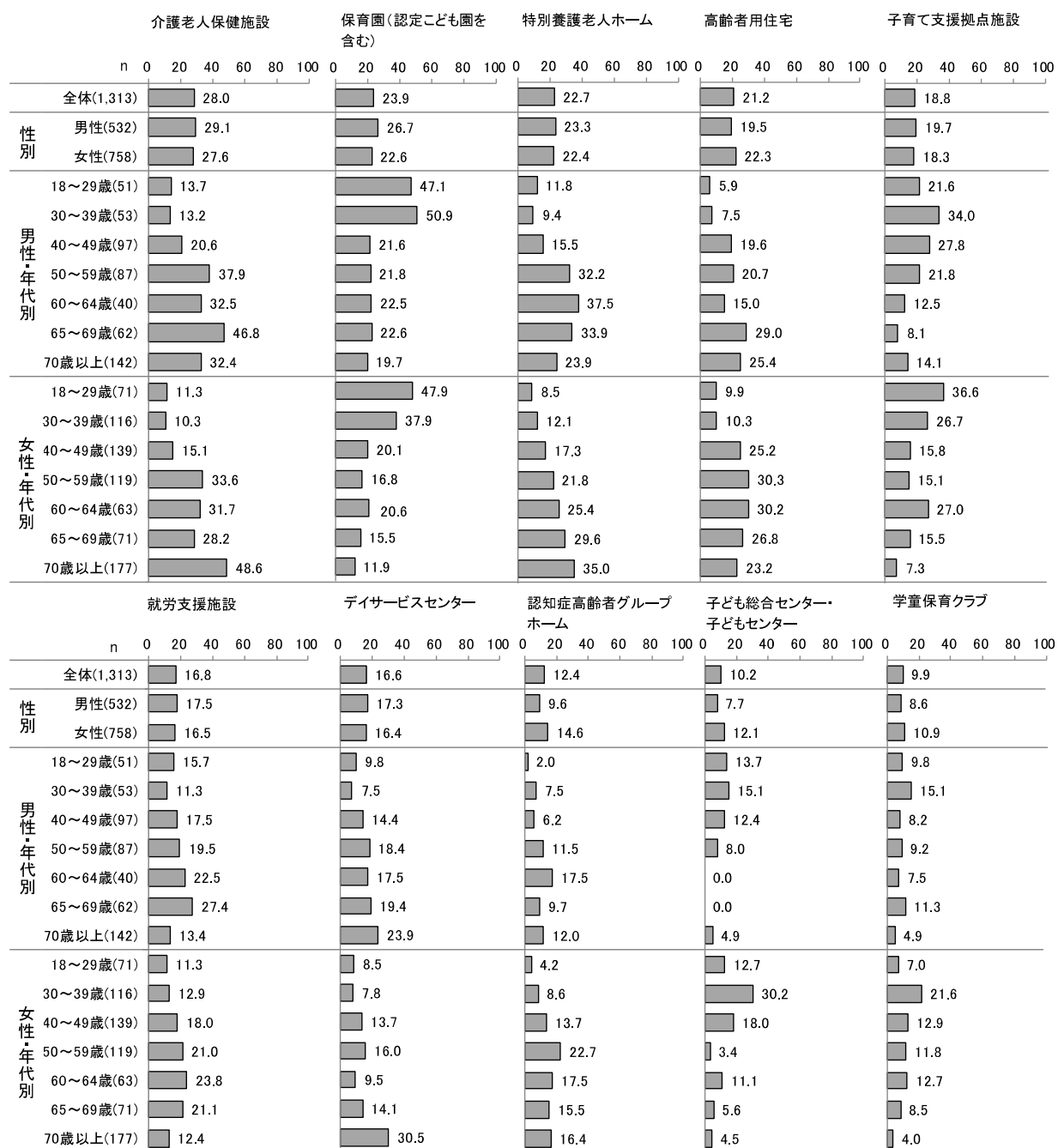
- ※ 平成30年度調査では、「子育て支援拠点施設」、「就労支援施設」が新たに追加になった選択肢となっている。
- ※ 平成30年度調査では、「授産施設」を除外している。
- ※ 平成30年度調査では、平成27年度調査で「心身障害者」と表記していたものを「障害者」と表記している。

「高齢者用住宅」(21.2%)は、平成27年度調査(18.6%)より2.6ポイント増加している。
 一方、「保育園(認定こども園を含む)」(23.9%)は、平成27年度調査(29.2%)より5.3ポイント、「障害者生活介護施設」(3.6%)は、平成27年度調査(6.6%)より3.0ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－２－２)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－２－３ 整備・充実が必要な施設＜子育て・福祉施設＞（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



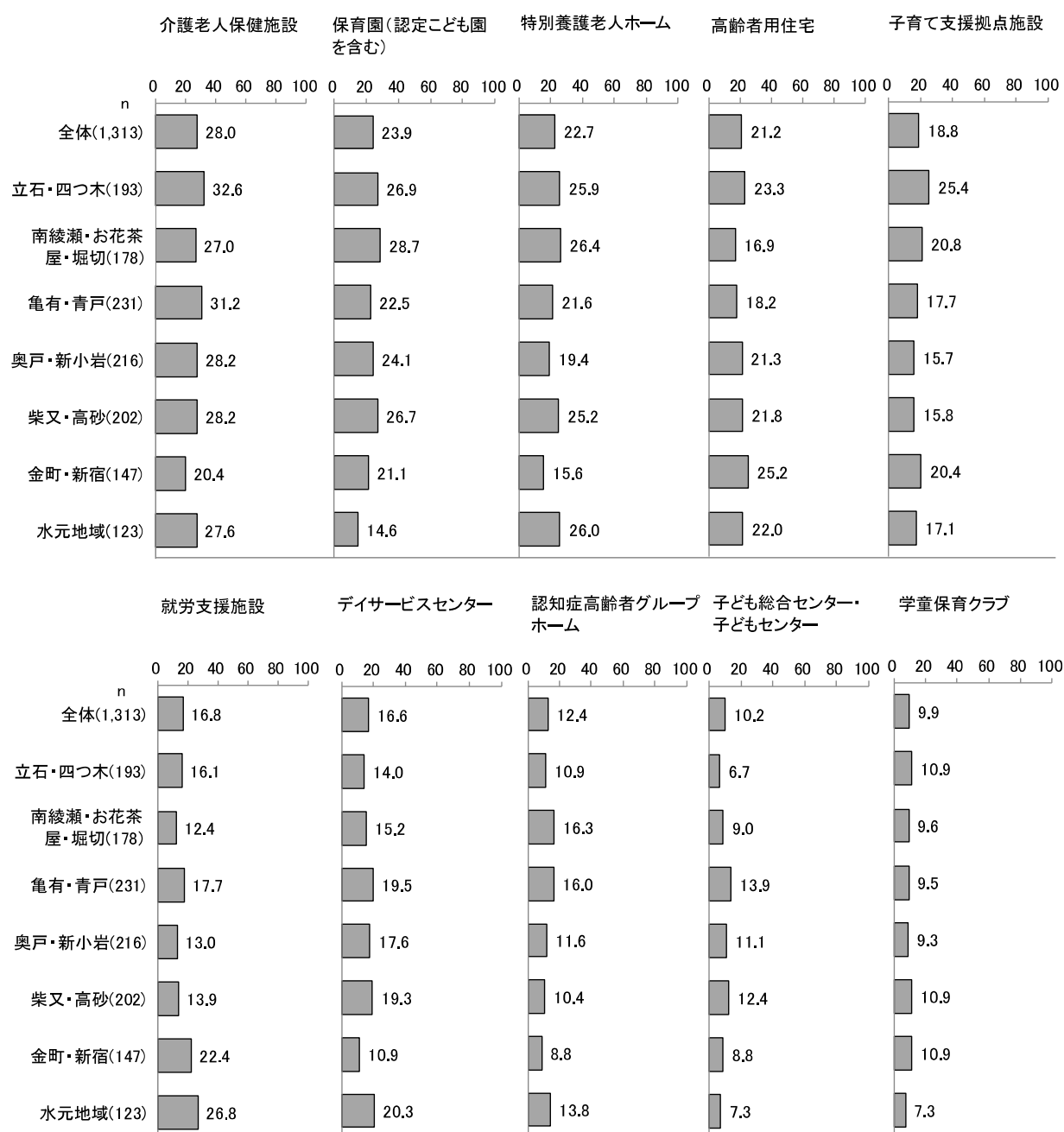
上位10項目について性別で見ると、「保育園（認定こども園を含む）」は、「男性」（26.7％）が「女性」（22.6％）より4.1ポイント高くなっている。一方、「認知症高齢者グループホーム」は、「女性」（14.6％）が「男性」（9.6％）より5.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「介護老人保健施設」は、「男性65～69歳」（46.8％）と「女性70歳以上」（48.6％）が最も高くなっている。また、「保育園（認定こども園を含む）」は、「男性」の39歳以下が4割以上、「女性」の39歳以下が3割以上と高くなっている。（図表Ⅲ－２－3）

【居住地域別】

図表Ⅲ－２－４ 整備・充実が必要な施設＜子育て・福祉施設＞（上位10項目）（居住地域別）

単位：％



上位10項目について居住地域別でみると、「介護老人保健施設」は、「立石・四つ木」(32.6%)が最も高く、次いで「亀有・青戸」(31.2%)、「奥戸・新小岩」および「柴又・高砂」(28.2%)と続いている。また、「保育園(認定こども園を含む)」は、「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(28.7%)が最も高く、次いで「立石・四つ木」(26.9%)、「柴又・高砂」(26.7%)と続いている。(図表Ⅲ－２－４)

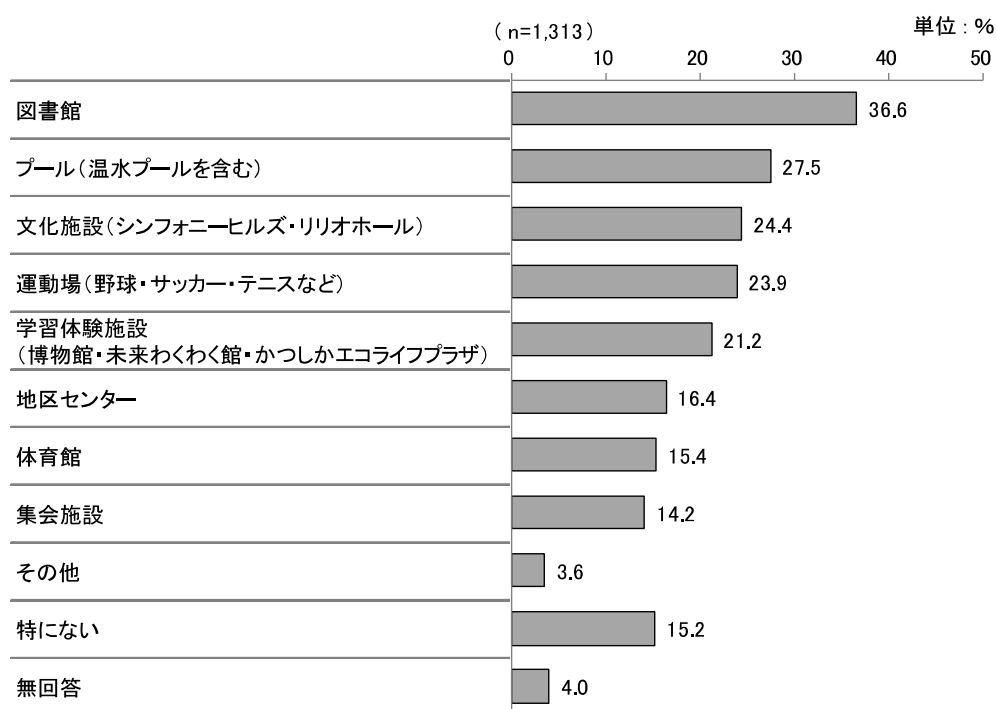
<教育・文化・スポーツ施設>

◆ 「図書館」が4割近く

問5 今後、葛飾区ではどのような施設の整備・充実を図っていくことが必要だと思いますか。

(2) 教育・文化・スポーツ施設について (〇は3つまで)。

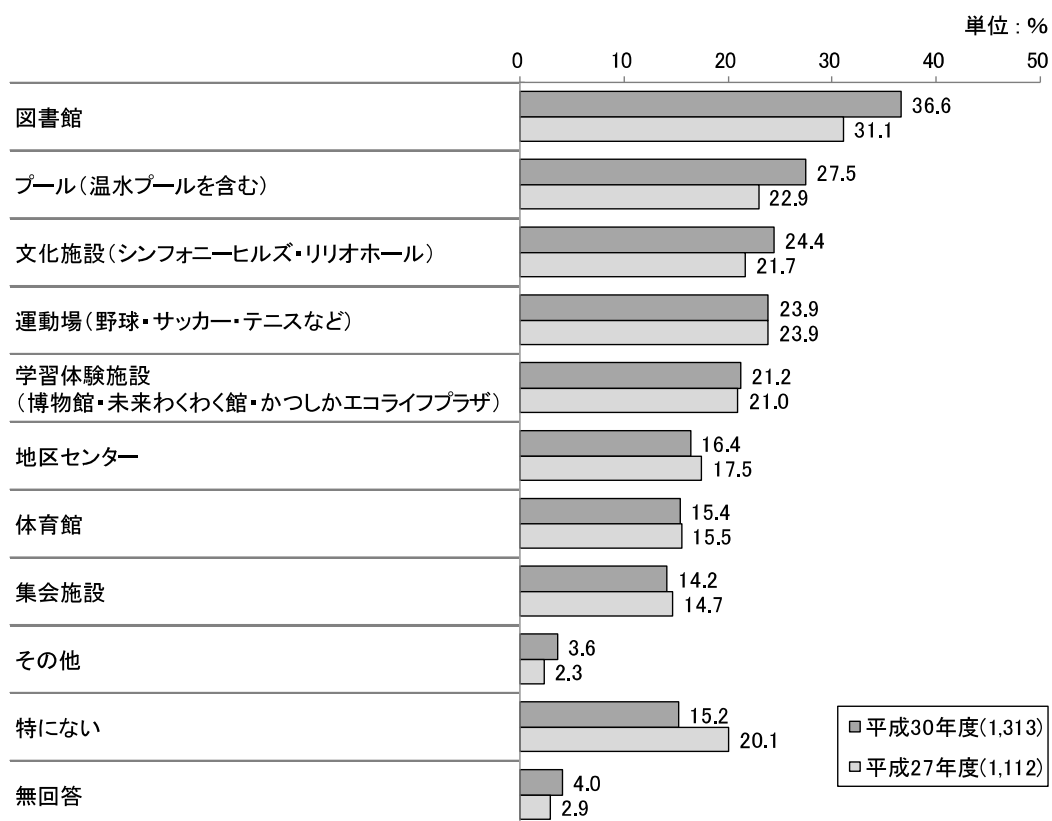
図表Ⅲ-2-5 整備・充実が必要な施設<教育・文化・スポーツ施設>



整備・充実が必要な「教育・文化・スポーツ施設」は、「図書館」(36.6%)が4割近くと最も高く、次いで「プール(温水プールを含む)」(27.5%)、「文化施設(シンフォニーヒルズ・リリオホール)」(24.4%)と続いている。(図表Ⅲ-2-5)

【経年変化】

図表Ⅲ－２－６ 整備・充実が必要な施設＜教育・文化・スポーツ施設＞（経年変化）



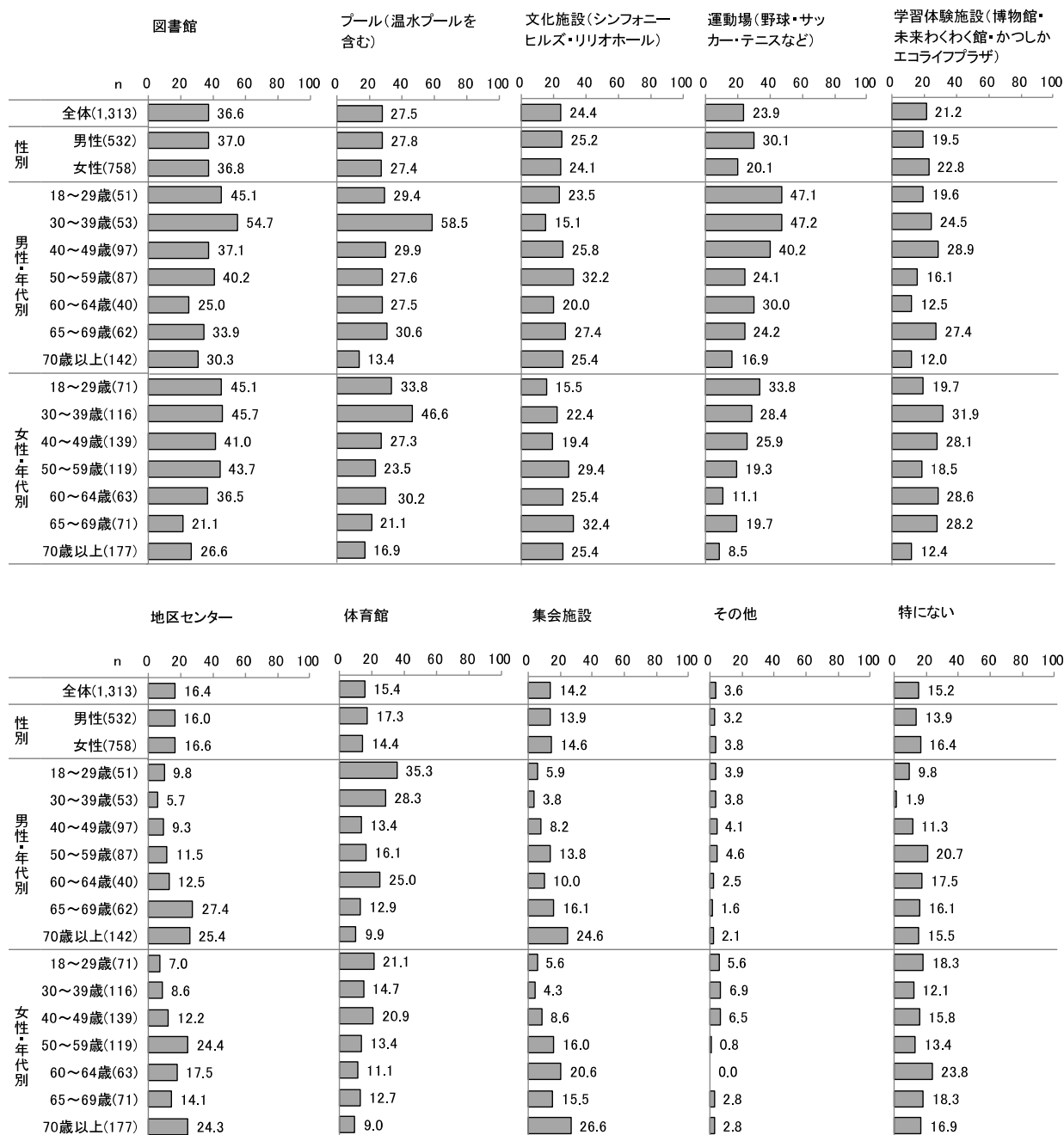
「図書館」(36.6%)は平成27年度調査(31.1%)より5.5ポイント、「プール(温水プールを含む)」(27.5%)は平成27年度調査(22.9%)より4.6ポイント、それぞれ増加している。

一方、「地区センター」(16.4%)は、平成27年度調査(17.5%)より1.1ポイント減少している。
(図表Ⅲ－２－６)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－２－７ 整備・充実が必要な施設＜教育・文化・スポーツ施設＞（性別／性・年代別）

単位：％



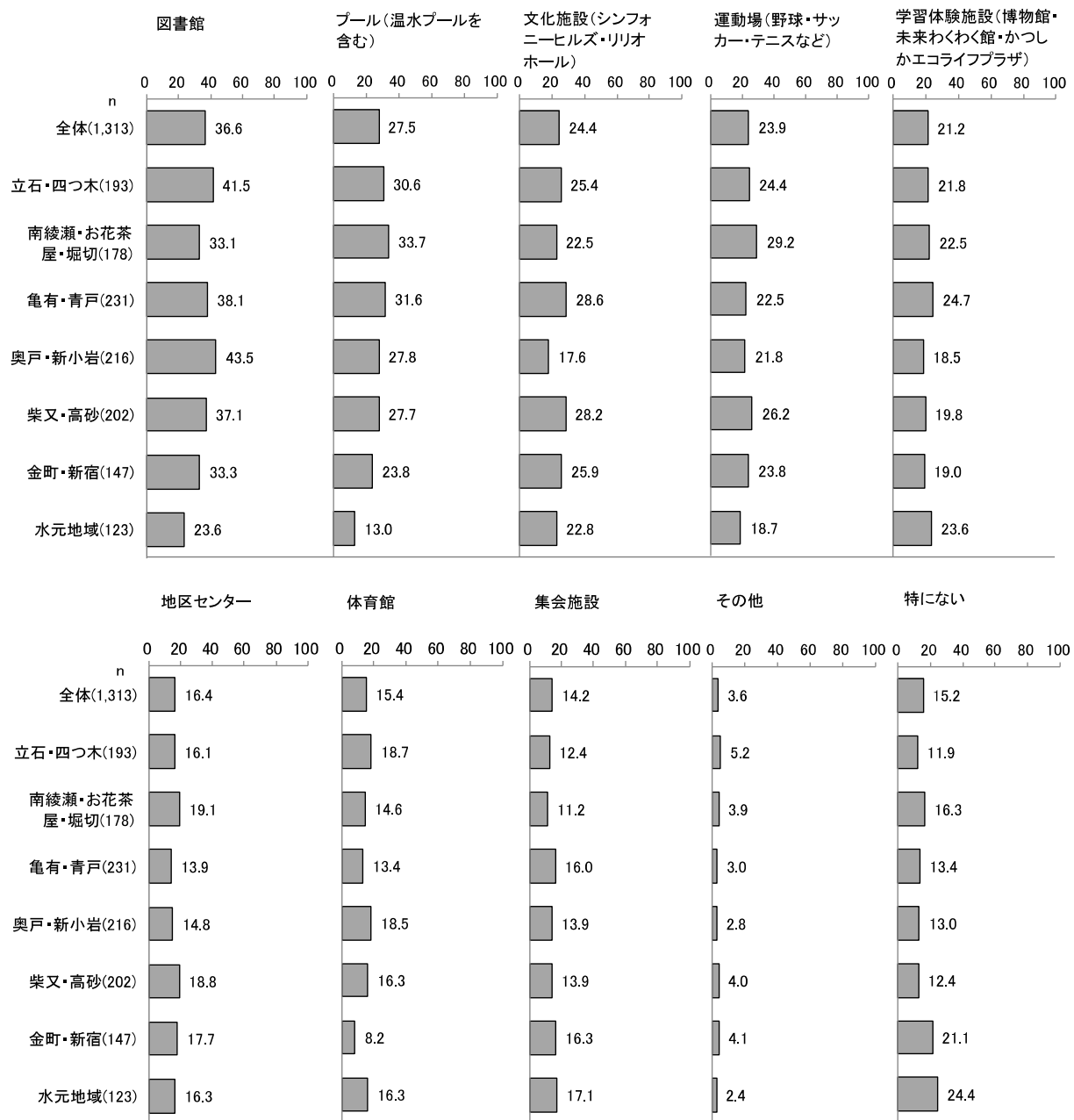
性別で見ると、「運動場（野球・サッカー・テニスなど）」は、「男性」（30.1％）が「女性」（20.1％）より10.0ポイント高くなっている。一方、「学習体験施設（博物館・未来わくわく館・かつしかエコライフプラザ）」は、「女性」（22.8％）が「男性」（19.5％）より3.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「図書館」は、「男性30～39歳」（54.7％）、「女性30～39歳」（45.7％）がそれぞれ最も高くなっている。また、「プール（温水プールを含む）」も、「男性30～39歳」（58.5％）、「女性30～39歳」（46.6％）がそれぞれ最も高くなっている。（図表Ⅲ－２－７）

【居住地域別】

図表Ⅲ－２－８ 整備・充実が必要な施設＜教育・文化・スポーツ施設＞（居住地域別）

単位：％



居住地域別でみると、「図書館」は「奥戸・新小岩」(43.5%)が最も高く、次いで「立石・四つ木」(41.5%)、「亀有・青戸」(38.1%)と続いている。一方、「水元地域」(23.6%)は2割強となっている。また、「プール(温水プールを含む)」は、「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(33.7%)が最も高くなっており、次いで「亀有・青戸」(31.6%)、「立石・四つ木」(30.6%)と続いている。(図表Ⅲ－２－８)

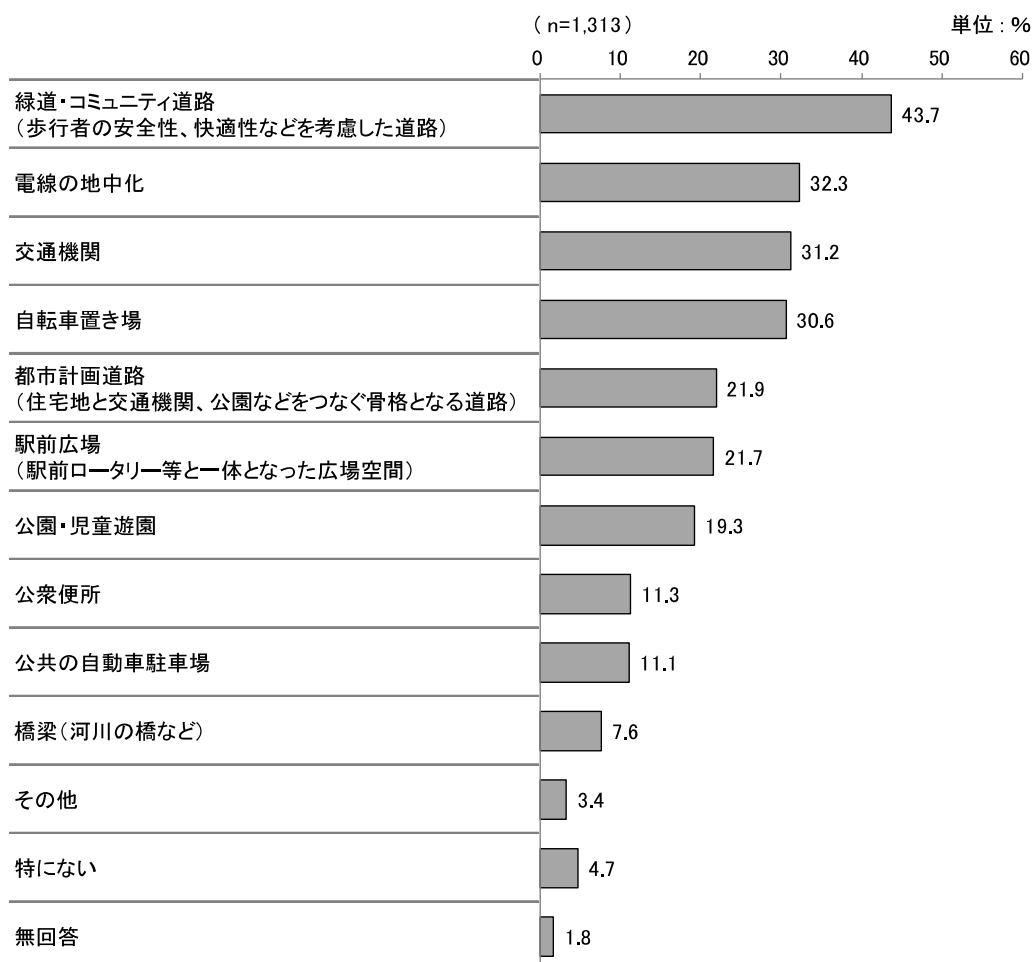
<都市施設>

◆ 「緑道・コミュニティ道路（歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路）」が4割強

問5 今後、葛飾区ではどのような施設の整備・充実を図っていくことが必要だと思いますか。

(3) 都市施設について (○は3つまで)。

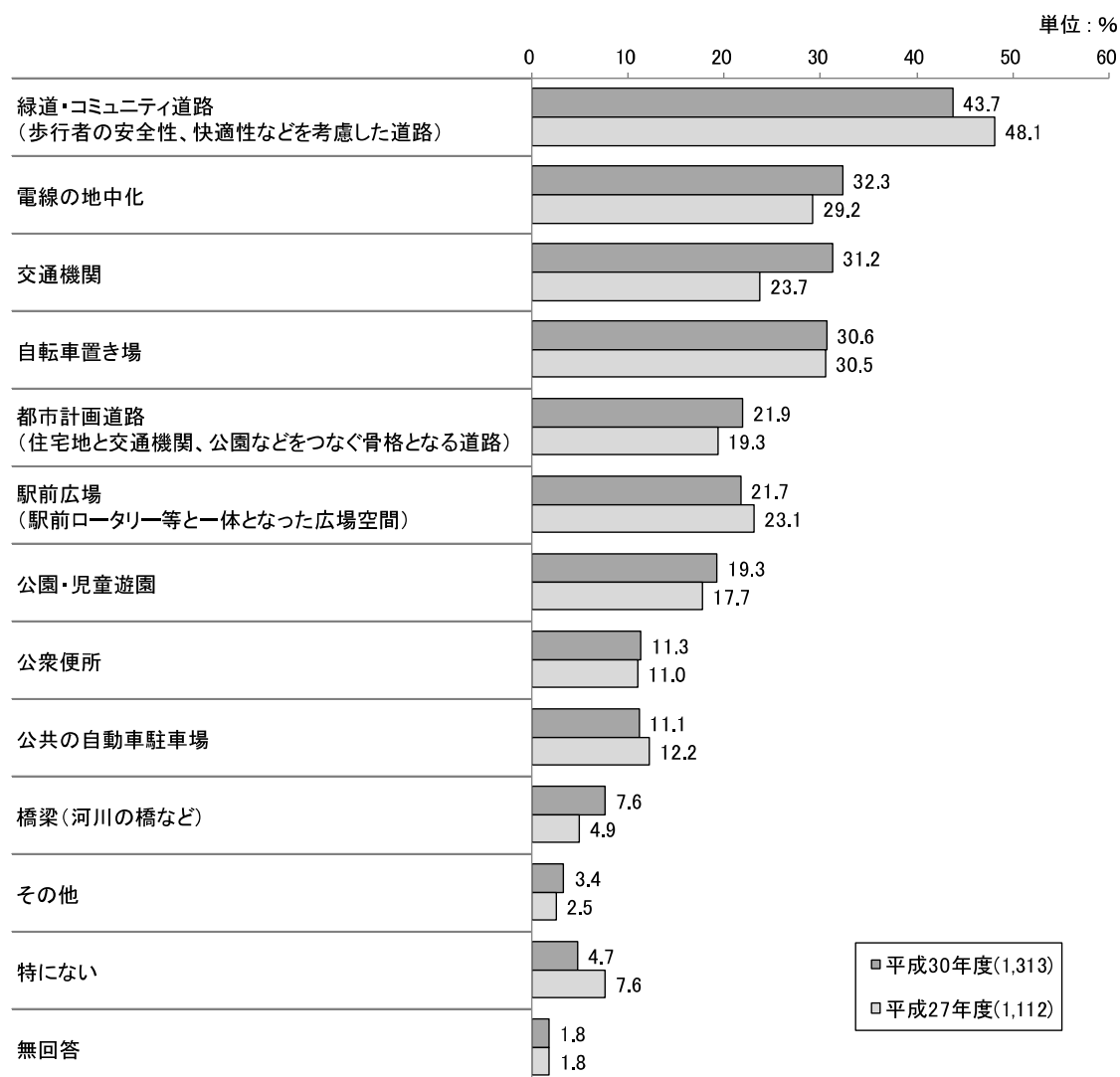
図表Ⅲ－２－９ 整備・充実が必要な施設<都市施設>



整備・充実が必要な「都市施設」は、「緑道・コミュニティ道路（歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路）」(43.7%)が4割強と最も高く、次いで「電線の地中化」(32.3%)、「交通機関」(31.2%)と続いている。(図表Ⅲ－２－９)

【経年変化】

図表Ⅲ－２－10 整備・充実が必要な施設＜都市施設＞（経年変化）



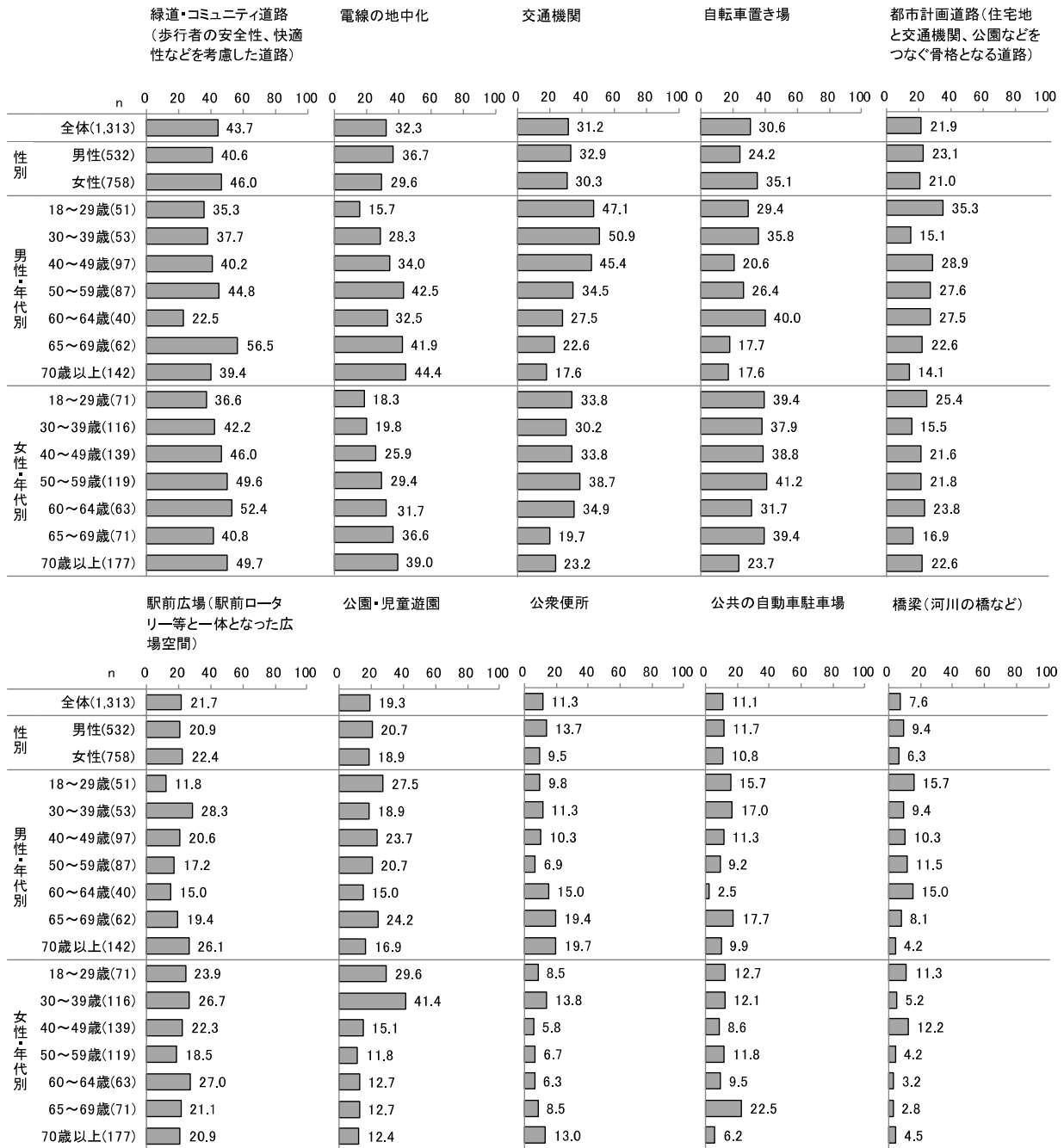
「交通機関」(31.2%)は平成27年度調査(23.7%)より7.5ポイント、「電線の地中化」(32.3%)は平成27年度調査(29.2%)より3.1ポイント、それぞれ増加している。

一方、「緑道・コミュニティ道路(歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路)」(43.7%)は、平成27年度調査(48.1%)より4.4ポイント減少している。(図表Ⅲ－２－10)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－２－１１ 整備・充実が必要な施設＜都市施設＞（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



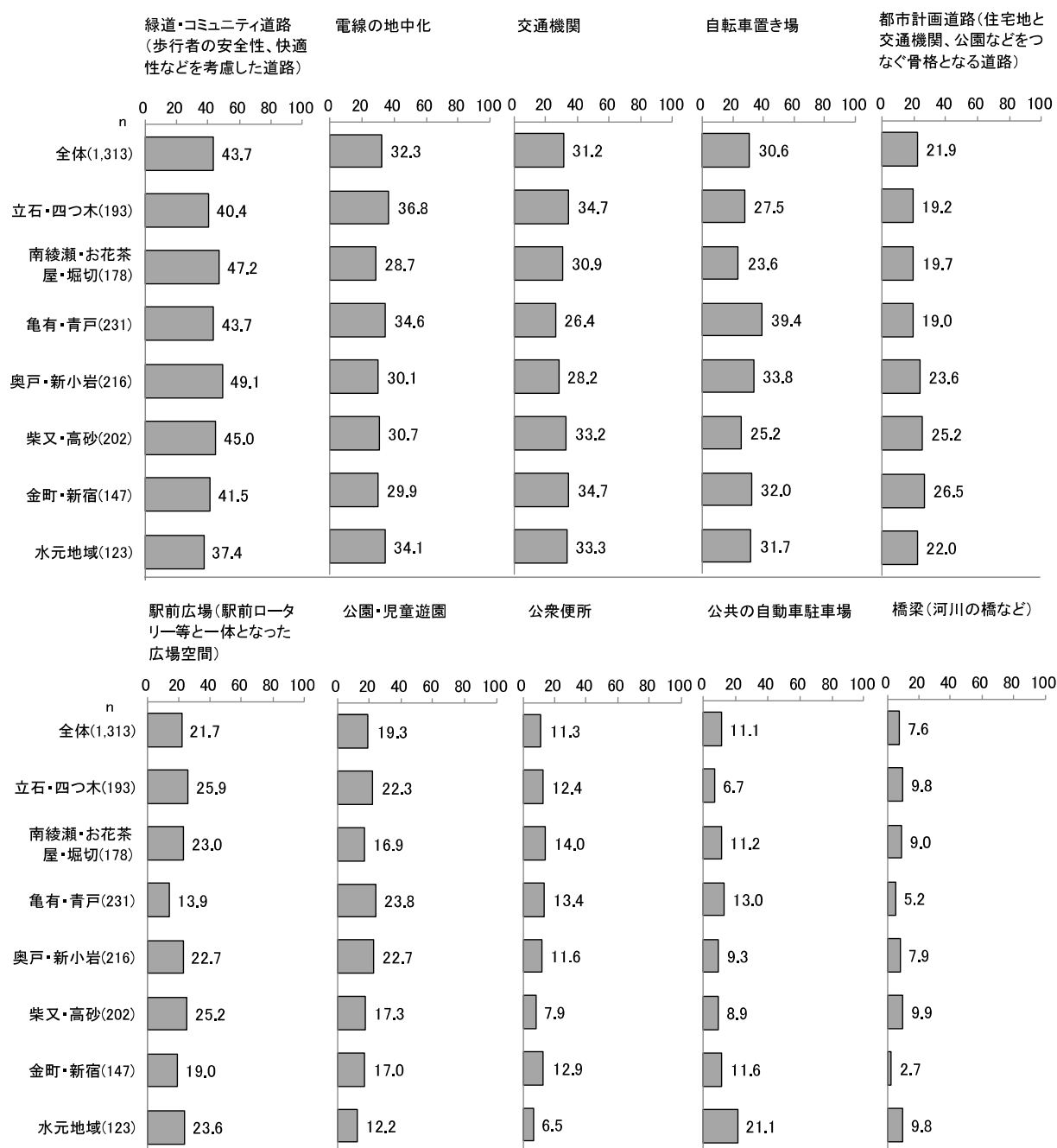
上位10項目について性別で見ると、「電線の地中化」は、「男性」(36.7%)が「女性」(29.6%)より7.1ポイント高くなっている。一方、「自転車置き場」は、「女性」(35.1%)が「男性」(24.2%)より10.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「緑道・コミュニティ道路(歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路)」は、「男性65～69歳」(56.5%)、「女性60～64歳」(52.4%)が5割以上と、それぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－２－11)

【居住地域別】

図表Ⅲ－２－１２ 整備・充実が必要な施設＜都市施設＞（上位 10 項目）（居住地域別）

単位：％



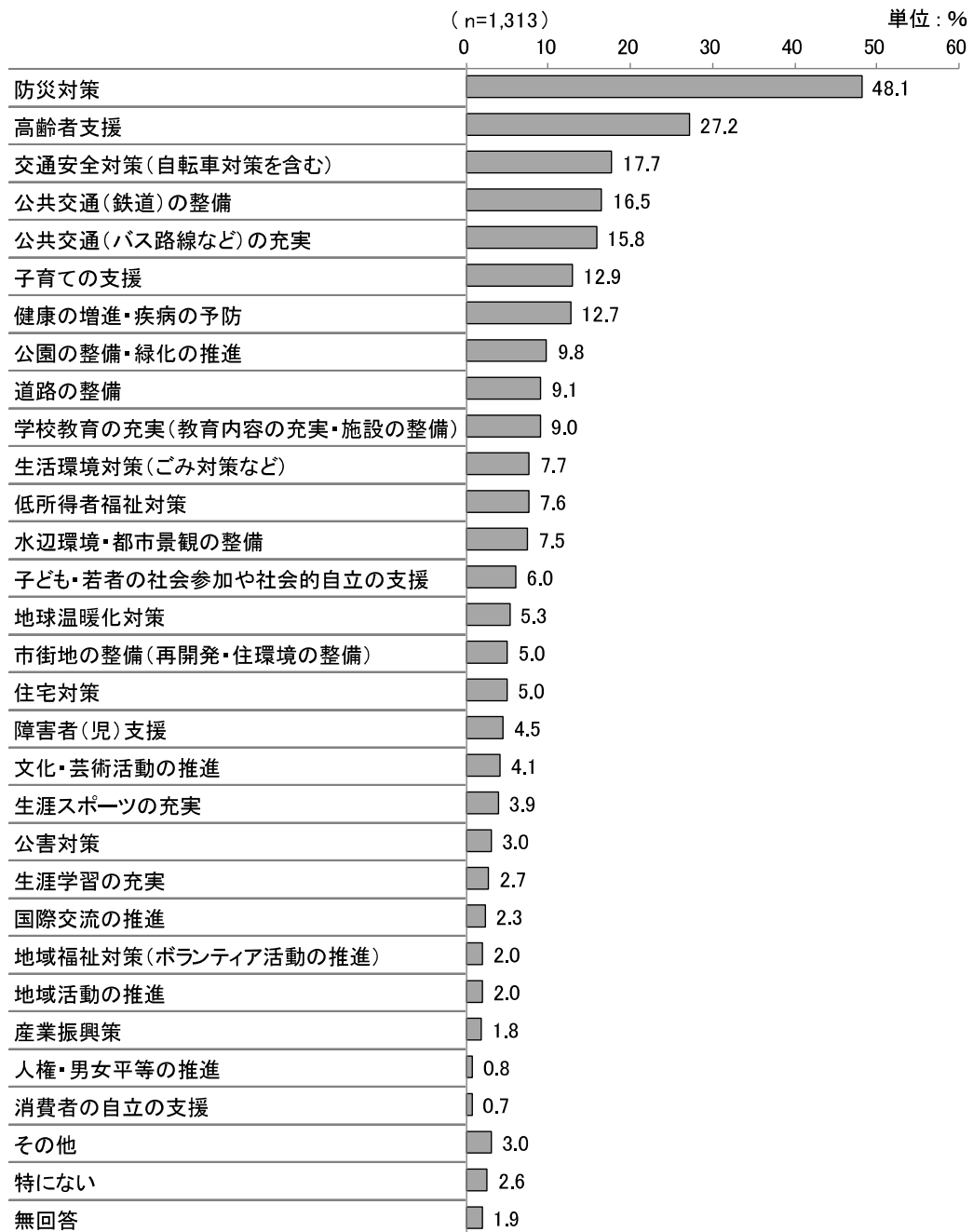
上位 10 項目について居住地域別でみると、「緑道・コミュニティ道路（歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路）」は、「奥戸・新小岩」（49.1％）が最も高く、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」（47.2％）、「柴又・高砂」（45.0％）と続いている。また、「電線の地中化」は「立石・四つ木」（36.8％）、「交通機関」は「立石・四つ木」と「金町・新宿」（34.7％）がそれぞれ最も高くなっている。（図表Ⅲ－２－１２）

(2) 区に力を入れてほしいもの

◆ 「防災対策」が5割近く

問6 あなたが、葛飾区に対して特に力を入れてほしいと思うものは何ですか（〇は3つまで）。

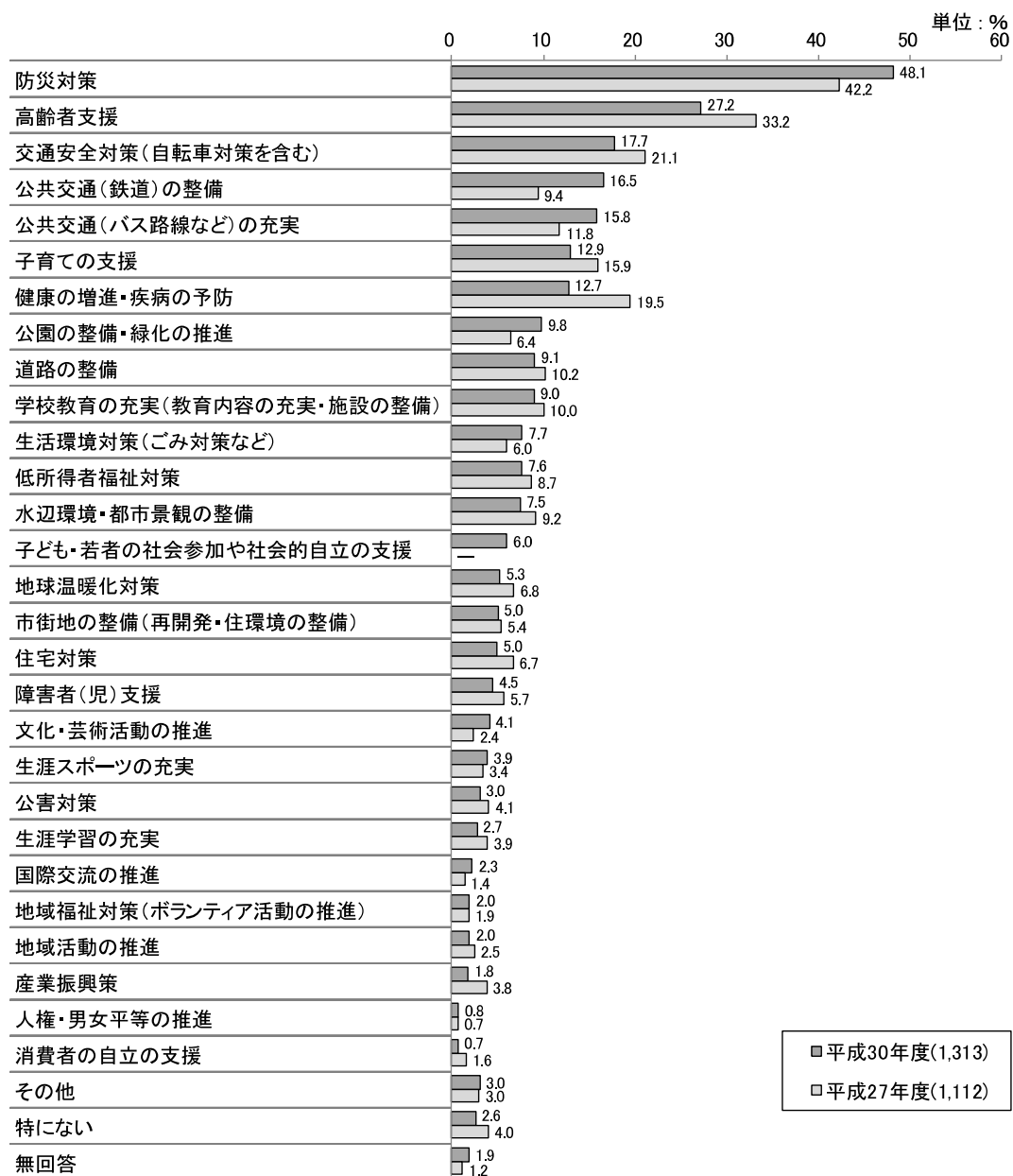
図表Ⅲ－２－13 区に力を入れてほしいもの



区に力を入れてほしいものは、「防災対策」(48.1%)が5割近くと最も高く、次いで「高齢者支援」(27.2%)、「交通安全対策(自転車対策を含む)」(17.7%)と続いている。(図表Ⅲ－２－13)

【経年変化】

図表Ⅲ－２－14 区に力を入れてほしいもの（経年変化）



- ※ 平成30年度調査では、「子ども・若者の社会参加や社会的自立の支援」が新たに追加になった選択肢となっている。
- ※ 平成30年度調査では、平成27年度調査の「高齢者福祉対策」を「高齢者支援」、「心身障害者(児)福祉対策」を「障害者(児)支援」に変更している。

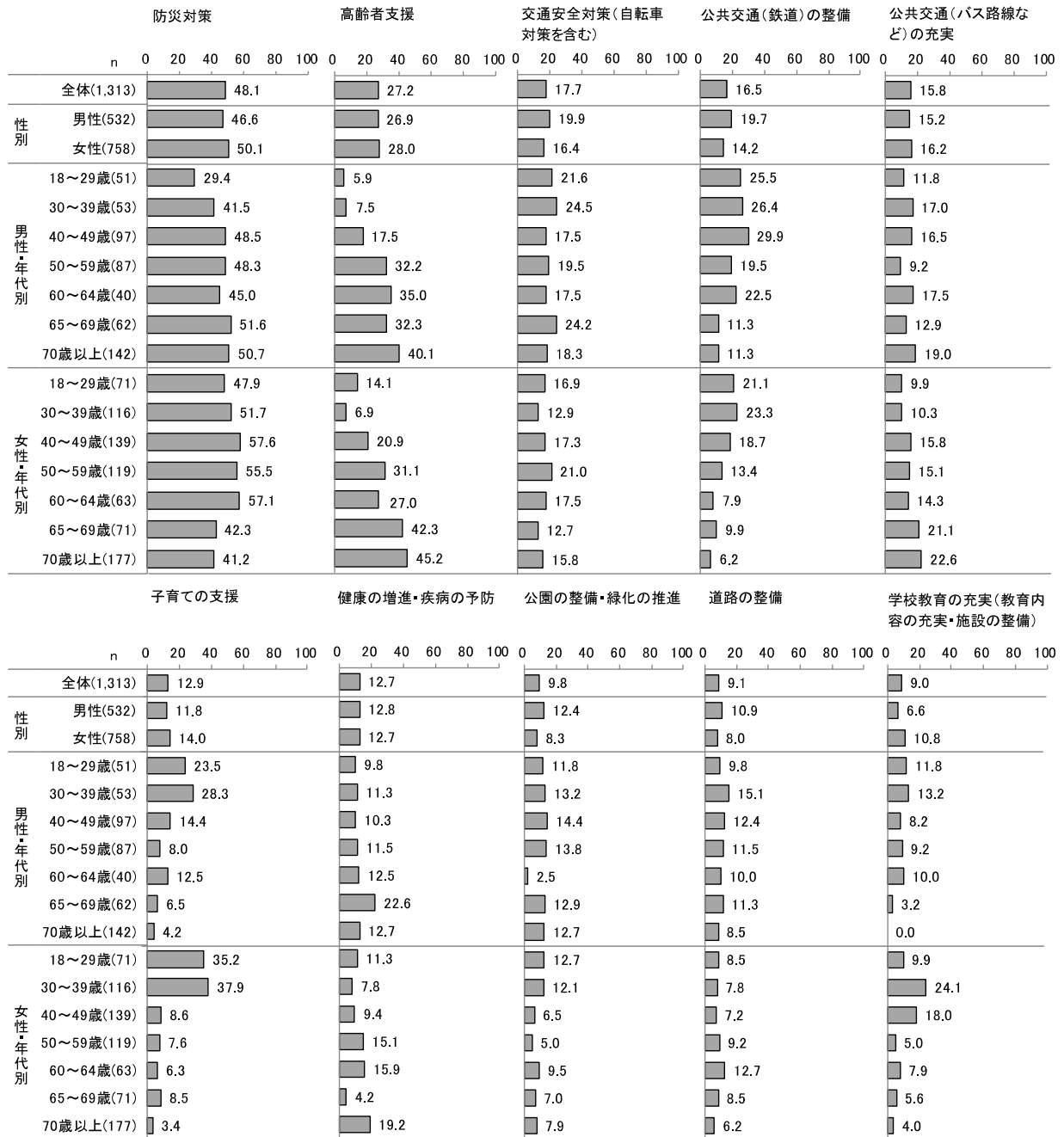
「防災対策」(48.1%)は、平成27年度調査(42.2%)より5.9ポイント増加している。また、「公共交通(鉄道)の整備」(16.5%)は平成27年度調査(9.4%)より7.1ポイント、「公共交通(バス路線など)の充実」(15.8%)は平成27年度調査(11.8%)より4.0ポイント、それぞれ増加している。

一方、「健康の増進・疾病の予防」(12.7%)は、平成27年度調査(19.5%)より6.8ポイント、「高齢者支援」(27.2%)は、平成27年度調査(33.2%)より6.0ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－２－14)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－２－15 区に力を入れてほしいもの（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％

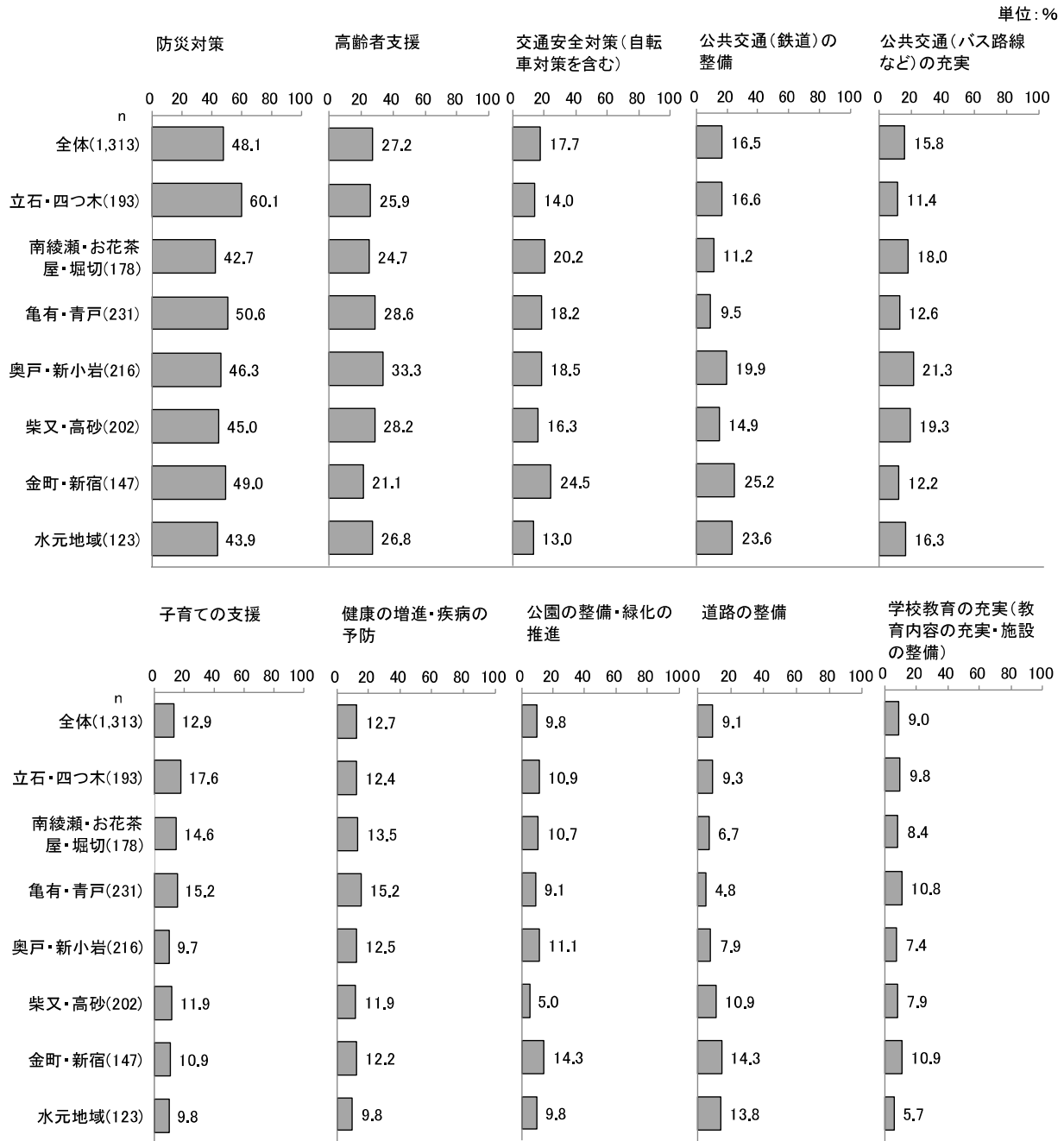


上位10項目について性別でみると、「公共交通（鉄道）の整備」は、「男性」（19.7％）が「女性」（14.2％）より5.5ポイント高くなっている。一方、「学校教育の充実（教育内容の充実・施設の整備）」は、「女性」（10.8％）が「男性」（6.6％）より4.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「防災対策」は、「男性65～69歳」（51.6％）および「女性40～49歳」（57.6％）が最も高くなっている。また、「男性18～29歳」（29.4％）以外は、4割以上となっている。（図表Ⅲ－２－15）

【居住地域別】

図表Ⅲ－２－16 区に力を入れてほしいもの（上位10項目）（居住地域別）

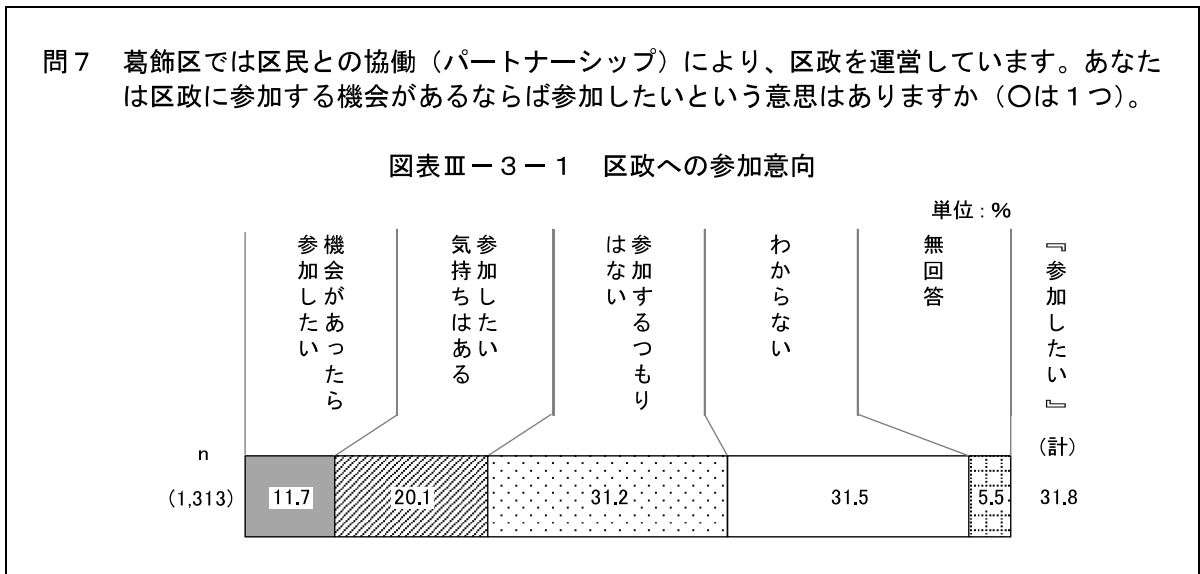


上位10項目について居住地域別でみると、「防災対策」は「立石・四つ木」(60.1%)が最も高く、次いで「亀有・青戸」(50.6%)、「金町・新宿」(49.0%)と続いている。また、「高齢者支援」は「奥戸・新小岩」(33.3%)が最も高く、次いで「亀有・青戸」(28.6%)、「柴又・高砂」(28.2%)と続いている。(図表Ⅲ－２－16)

3. 住民参加

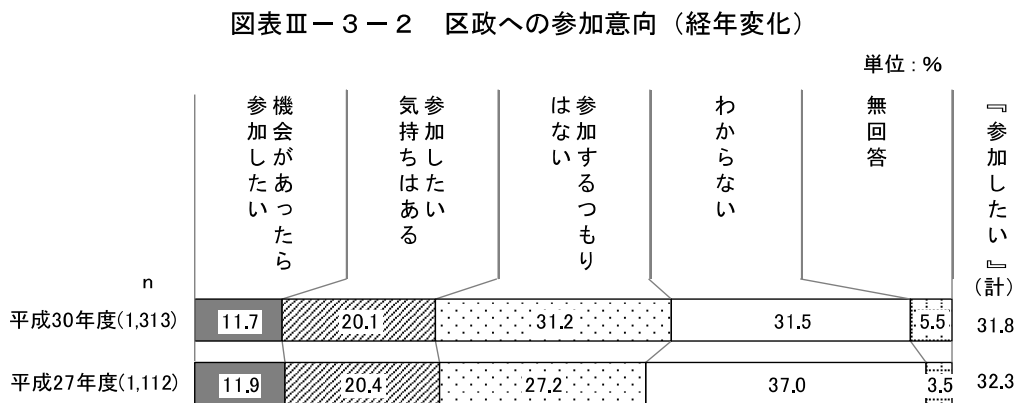
(1) 区政への参加意向

◆ 『参加したい』が3割強



区政への参加意向は、「わからない」(31.5%) および「参加するつもりはない」(31.2%) が、それぞれ3割強となっている。「機会があったら参加したい」(11.7%) と「参加したい気持ちはある」(20.1%) を合わせた『参加したい』(31.8%) も3割強となっている。(図表Ⅲ-3-1)

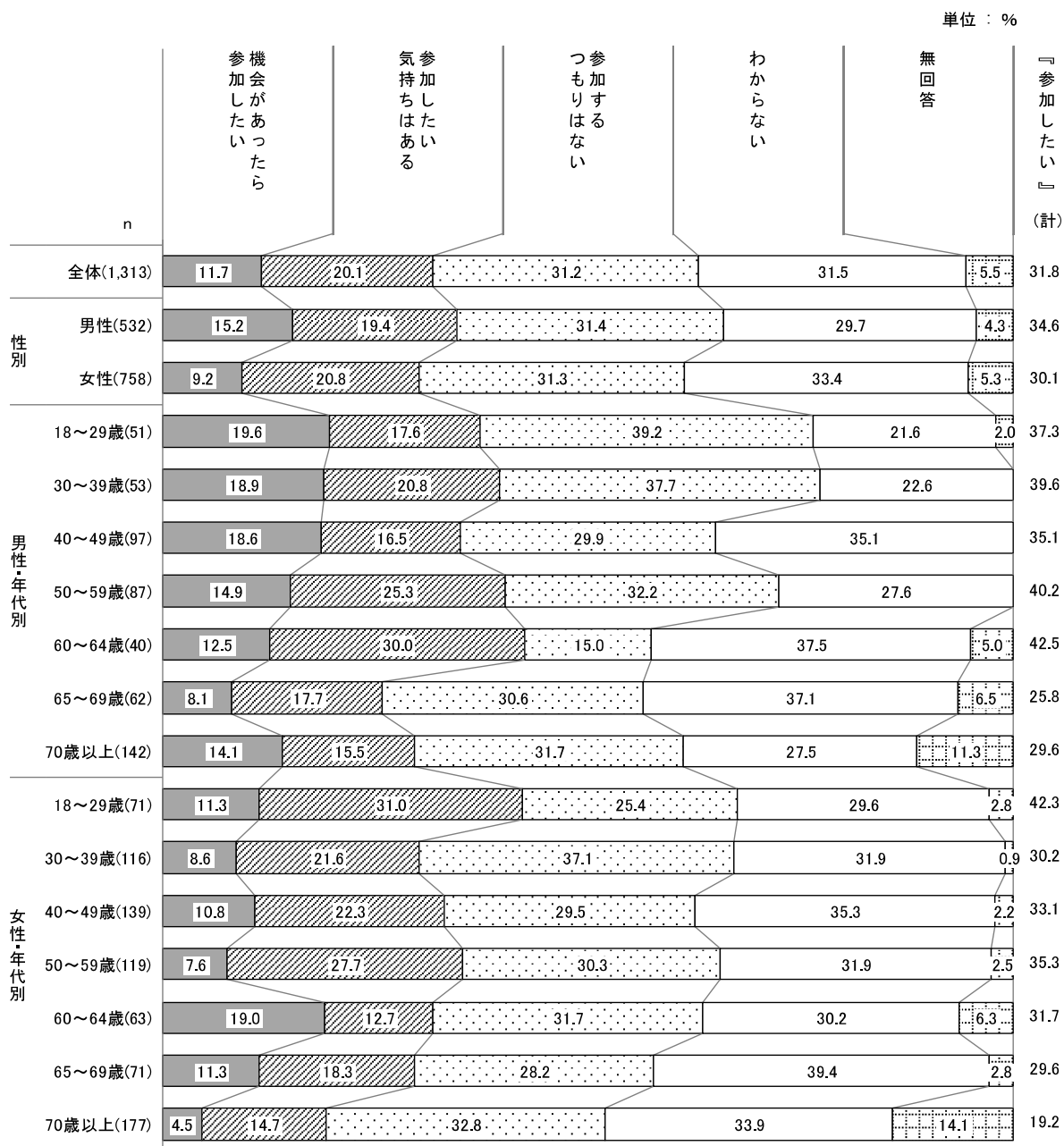
【経年変化】



『参加したい』(31.8%) は、平成27年度調査(32.3%)より0.5ポイント減少している。一方、「参加するつもりはない」(31.2%) は、平成27年度調査(27.2%)より4.0ポイント増加している。(図表Ⅲ-3-2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－３－３ 区政への参加意向（性別／性・年代別）

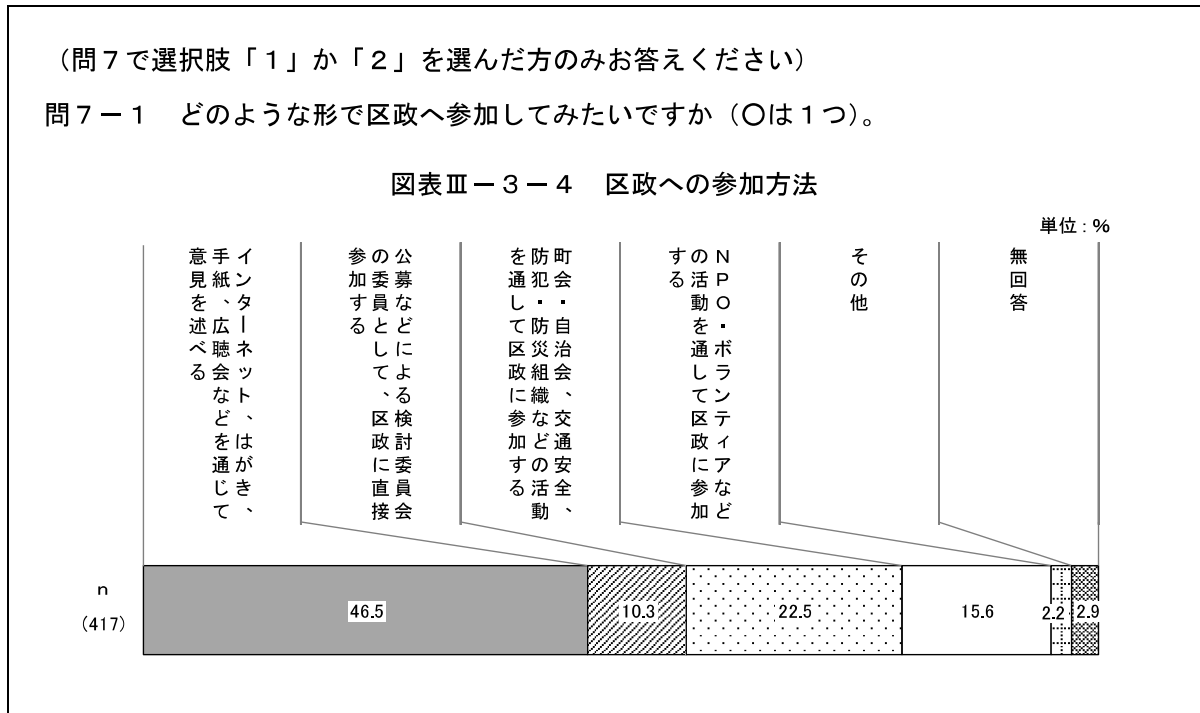


性別で見ると、『参加したい』は、「男性」(34.6%)が「女性」(30.1%)より4.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『参加したい』は、「男性60～64歳」(42.5%)および「女性18～29歳」(42.3%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ－３－３)

(1-1) 区政への参加方法

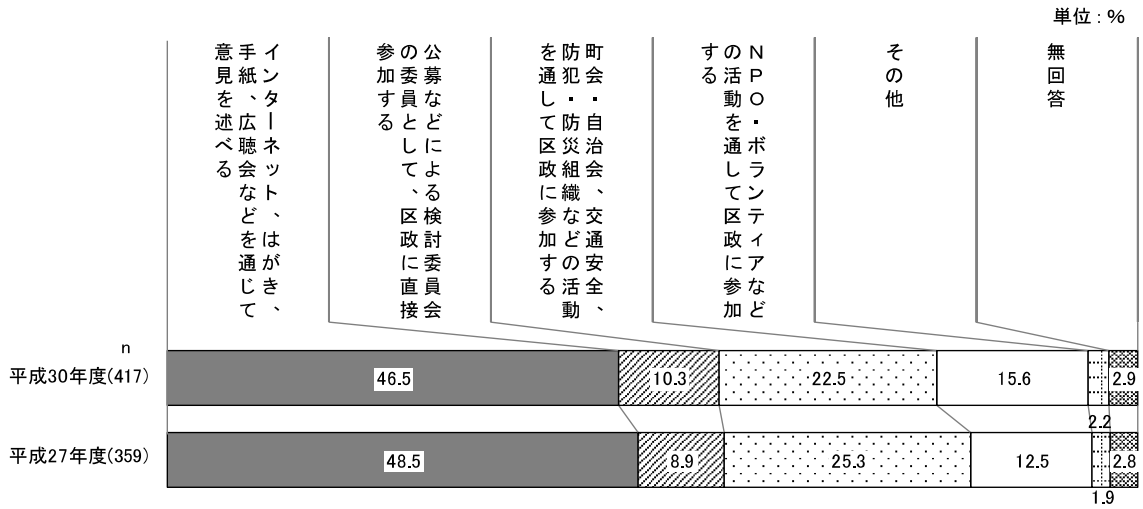
◆ 「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通じて意見を述べる」が5割近く



区政への参加方法は、「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通じて意見を述べる」(46.5%)が5割近くと最も高く、次いで「町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織などの活動を通して区政に参加する」(22.5%)、「NPO・ボランティアなどの活動を通して区政に参加する」(15.6%)と続いている。(図表Ⅲ-3-4)

【経年変化】

図表Ⅲ－３－５ 区政への参加方法（経年変化）

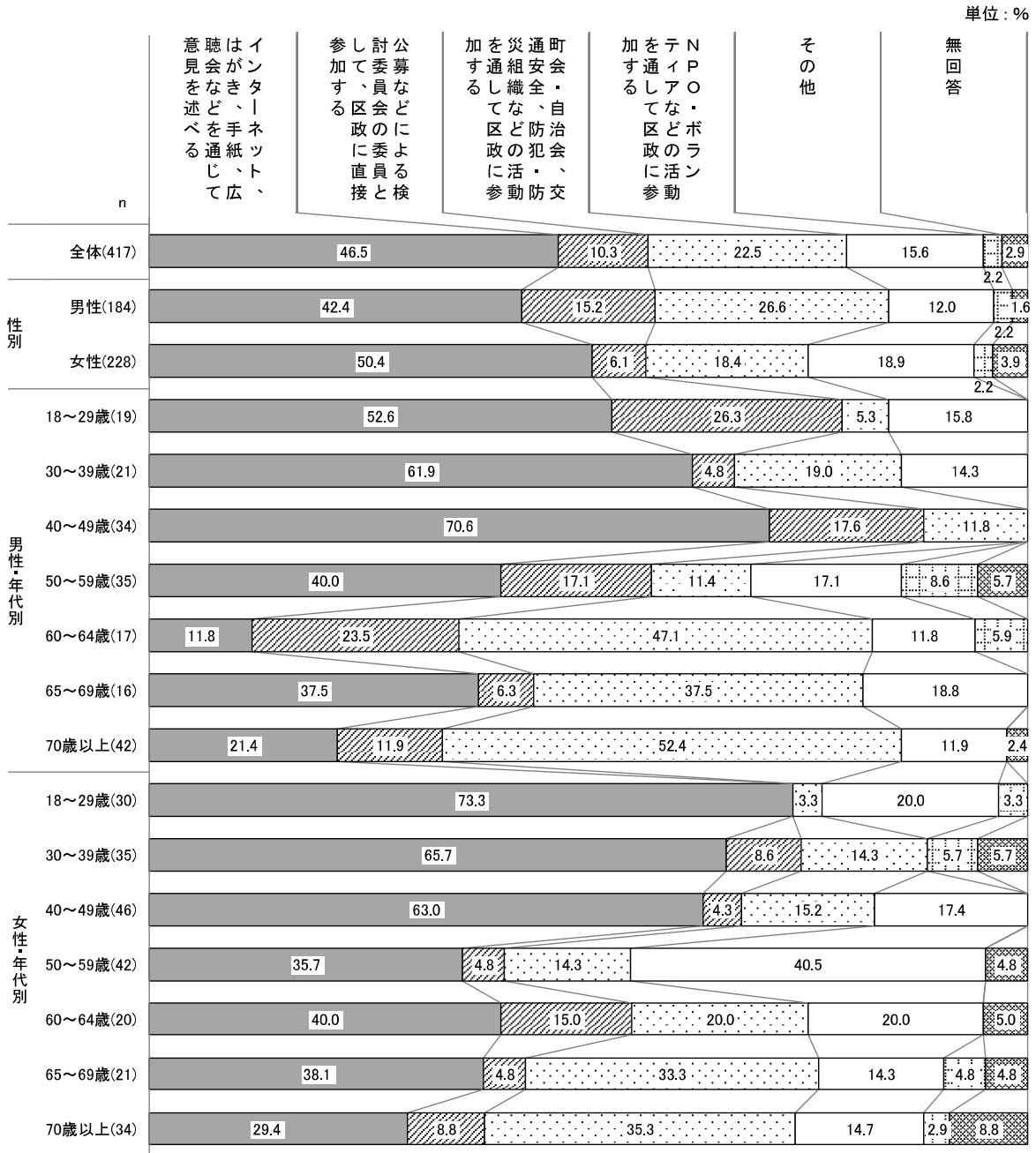


「NPO・ボランティアなどの活動を通して区政に参加する」(15.6%)は、平成27年度調査(12.5%)より3.1ポイント増加している。

一方、「町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織などの活動を通して区政に参加する」(22.5%)は、平成27年度調査(25.3%)より2.8ポイント、「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通じて意見を述べる」(46.5%)は、平成27年度調査(48.5%)より2.0ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－３－５)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－３－６ 区政への参加方法（性別／性・年代別）



性別でみると、「公募などによる検討委員会の委員として、区政に直接参加する」は、「男性」(15.2%)が「女性」(6.1%)より 9.1 ポイント高くなっている。一方、「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通じて意見を述べる」は、「女性」(50.4%)が「男性」(42.4%)より 8.0 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通じて意見を述べる」は、「男性 40～49 歳」(70.6%) および「女性 18～29 歳」(73.3%) が最も高くなっている。また、「町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織などの活動を通して区政に参加する」は、「男性 70 歳以上」(52.4%)、「女性 70 歳以上」(35.3%) がそれぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－３－６)

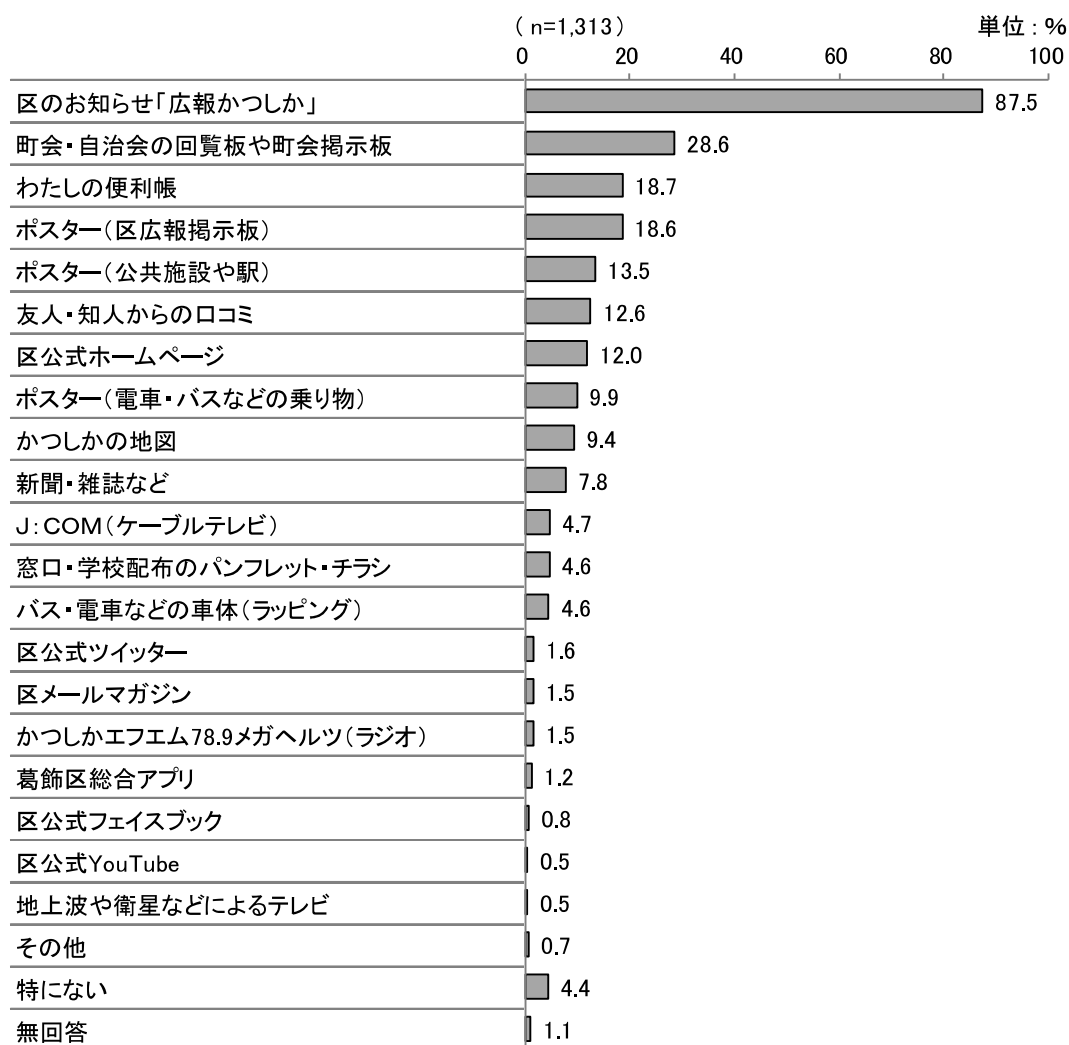
4. 広報媒体

(1) 区の情報入手方法

◆ 「区のお知らせ『広報かつしか』」が9割近く

問8 あなたは、どのようにして葛飾区に関するお知らせや催しなどの情報を入手していますか（〇はいくつでも）。

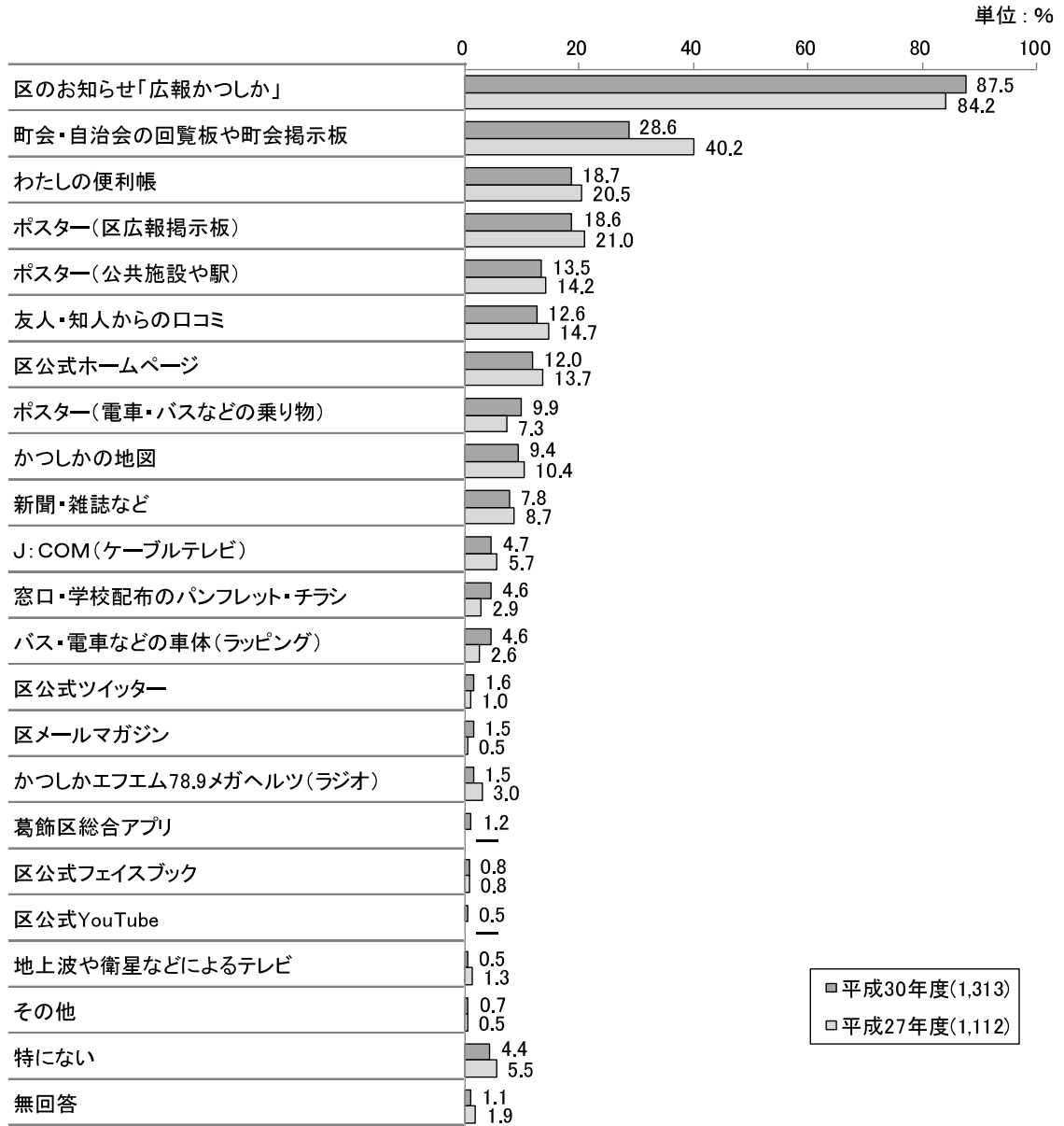
図表Ⅲ－４－１ 区の情報入手方法



区の情報入手方法は、「区のお知らせ『広報かつしか』」(87.5%)が9割近くと最も高く、次いで「町会・自治会の回覧板や町会掲示板」(28.6%)、「わたしの便利帳」(18.7%)と続いている。(図表Ⅲ－４－１)

【経年変化】

図表Ⅲ－４－２ 区の情報の入手方法（経年変化）



※ 平成30年度調査では、「葛飾区総合アプリ」、「区公式 YouTube」が新たに追加になった選択肢となっている。

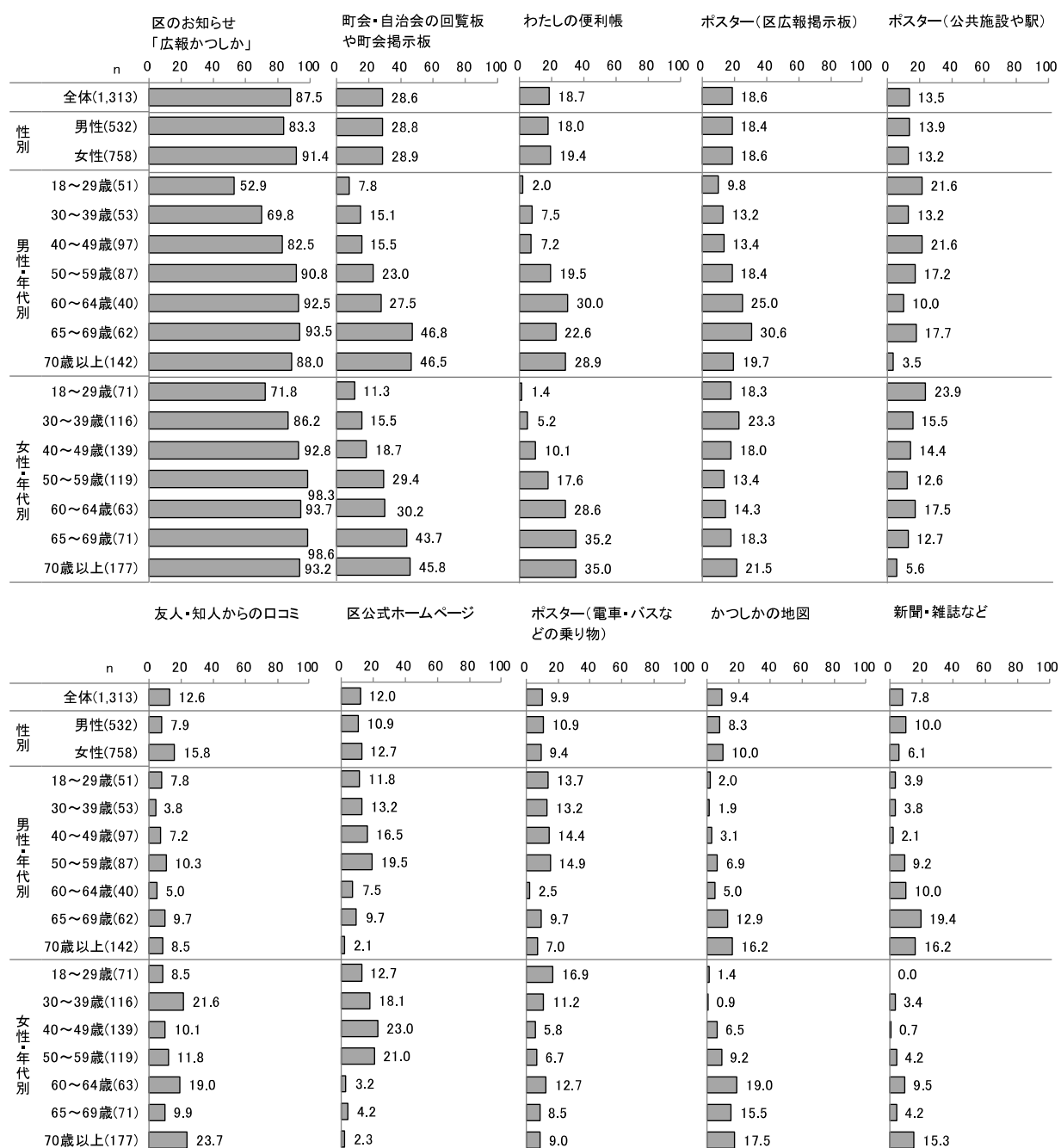
「区のお知らせ『広報かつしか』」(87.5%)は、平成27年度調査(84.2%)より3.3ポイント増加している。

一方、「町会・自治会の回覧板や町会掲示板」(28.6%)は、平成27年度調査(40.2%)より11.6ポイント減少している。(図表Ⅲ－４－２)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－４－３ 区の情報の入手方法（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



上位10項目について性別でみると、「区のお知らせ『広報かつしか』」は、「女性」（91.4％）が「男性」（83.3％）より8.1ポイント高くなっている。

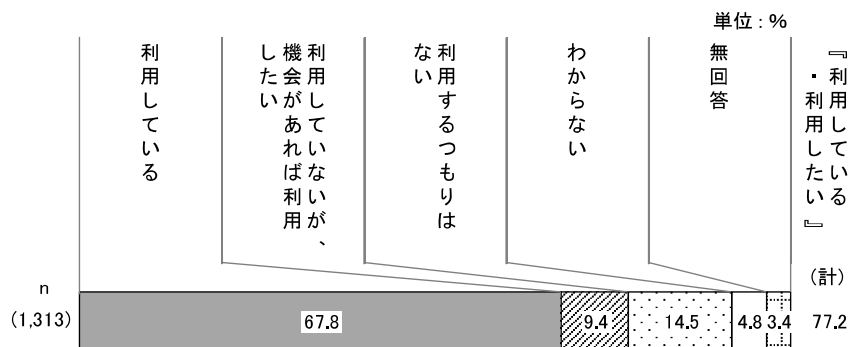
性・年代別でみると、「区のお知らせ『広報かつしか』」は、「男性」が50～69歳、「女性」が40歳以上で9割以上となっている。また、「町会・自治会の回覧板や町会掲示板」は、男女ともに65歳以上が4割以上となっている。（図表Ⅲ－４－３）

(2) インターネットの利用状況

◆ 『利用している・利用したい』が8割近く

問9 あなたは、インターネット（電子メールやスマートフォン利用も含みます）を利用していますか（○は1つ）。

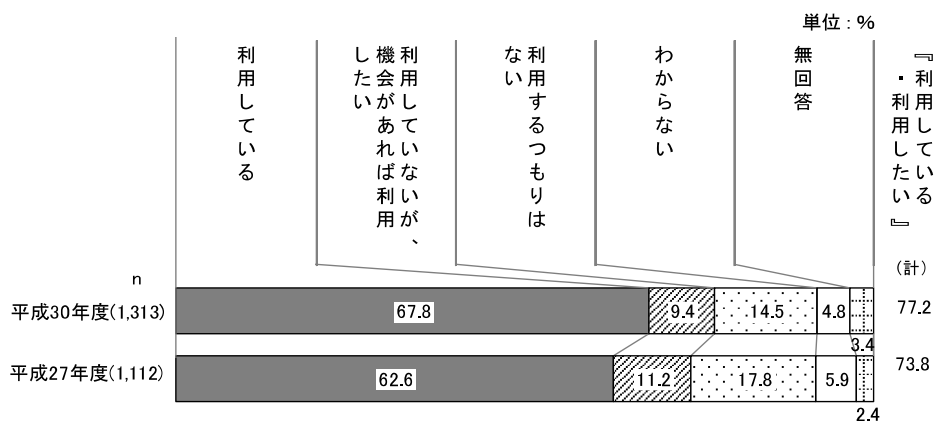
図表Ⅲ-4-4 インターネットの利用状況



インターネットの利用状況は、「利用している」（67.8%）が7割近くと最も高く、これに「利用していないが、機会があれば利用したい」（9.4%）を合わせた『利用している・利用したい』（77.2%）が8割近くとなっている。一方、「利用するつもりはない」は14.5%となっている。（図表Ⅲ-4-4）

【経年変化】

図表Ⅲ-4-5 インターネットの利用状況（経年変化）

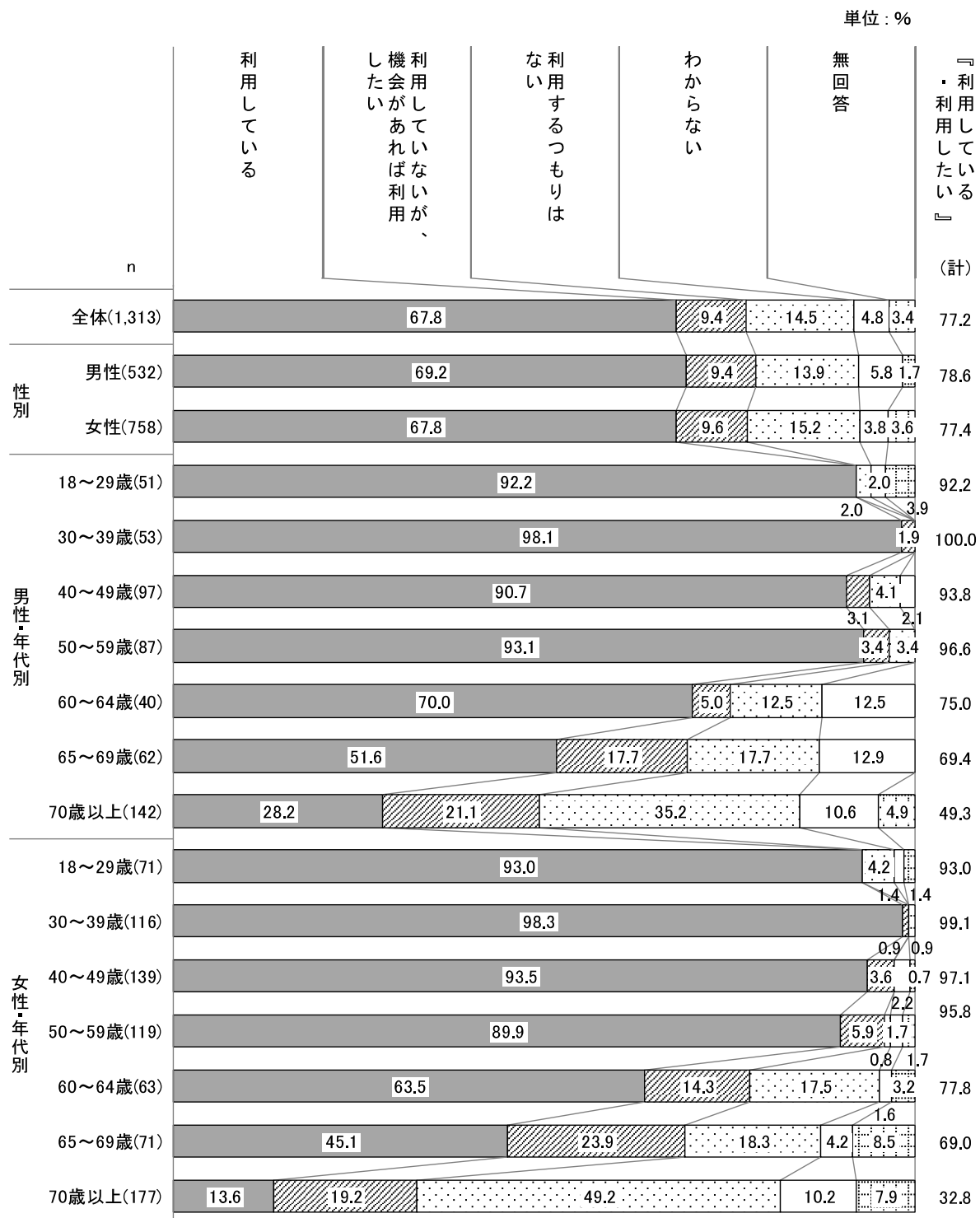


「利用している」（67.8%）は、平成27年度調査（62.6%）より5.2ポイント増加している。また、『利用している・利用したい』（77.2%）も、平成27年度調査（73.8%）より3.4ポイント増加している。

一方、「利用するつもりはない」（14.5%）は、平成27年度調査（17.8%）より3.3ポイント減少している。（図表Ⅲ-4-5）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－４－６ インターネットの利用状況（性別／性・年代別）

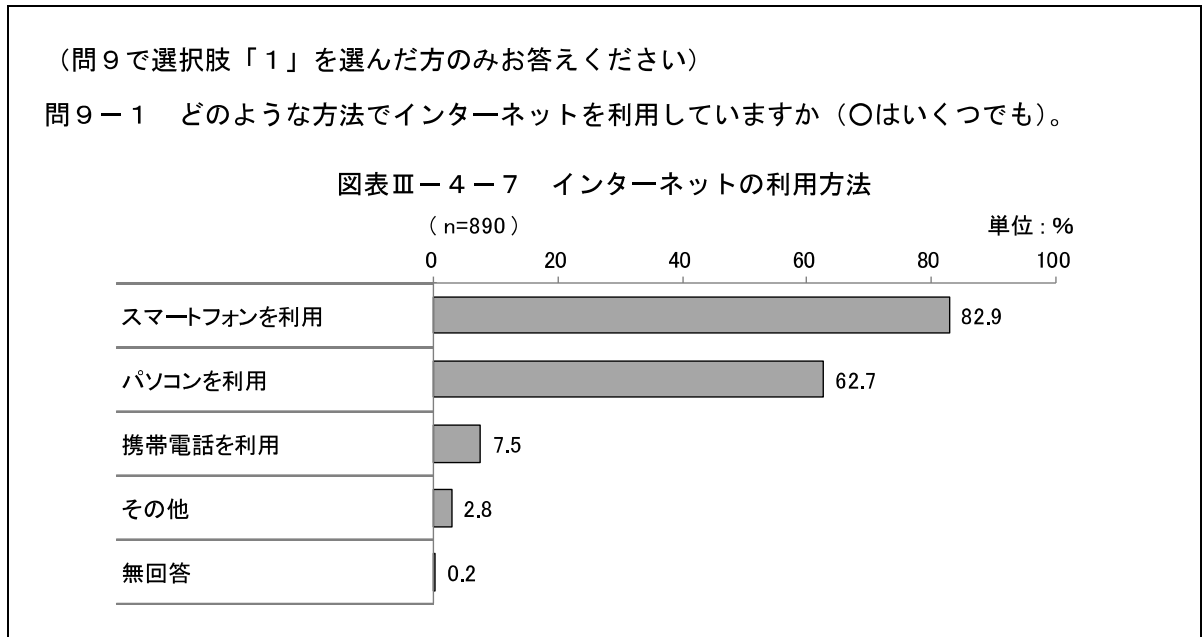


性別で見ると、「利用している」は、「男性」（69.2％）が「女性」（67.8％）より1.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『利用している・利用したい』は、「男性 30～39歳」（100.0％）、「女性 30～39歳」（99.1％）がそれぞれ最も高くなっている。（図表Ⅲ－４－６）

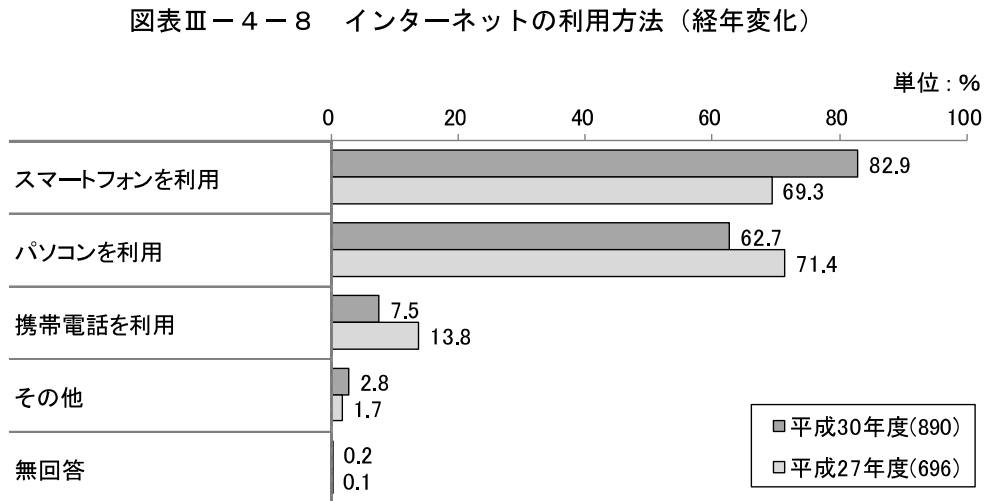
(2-1) インターネットの利用方法

◆ 「スマートフォンを利用」が8割強



インターネットの利用方法は、「スマートフォンを利用」(82.9%)が8割強と最も高く、次いで「パソコンを利用」(62.7%)と続いている。(図表Ⅲ-4-7)

【経年変化】



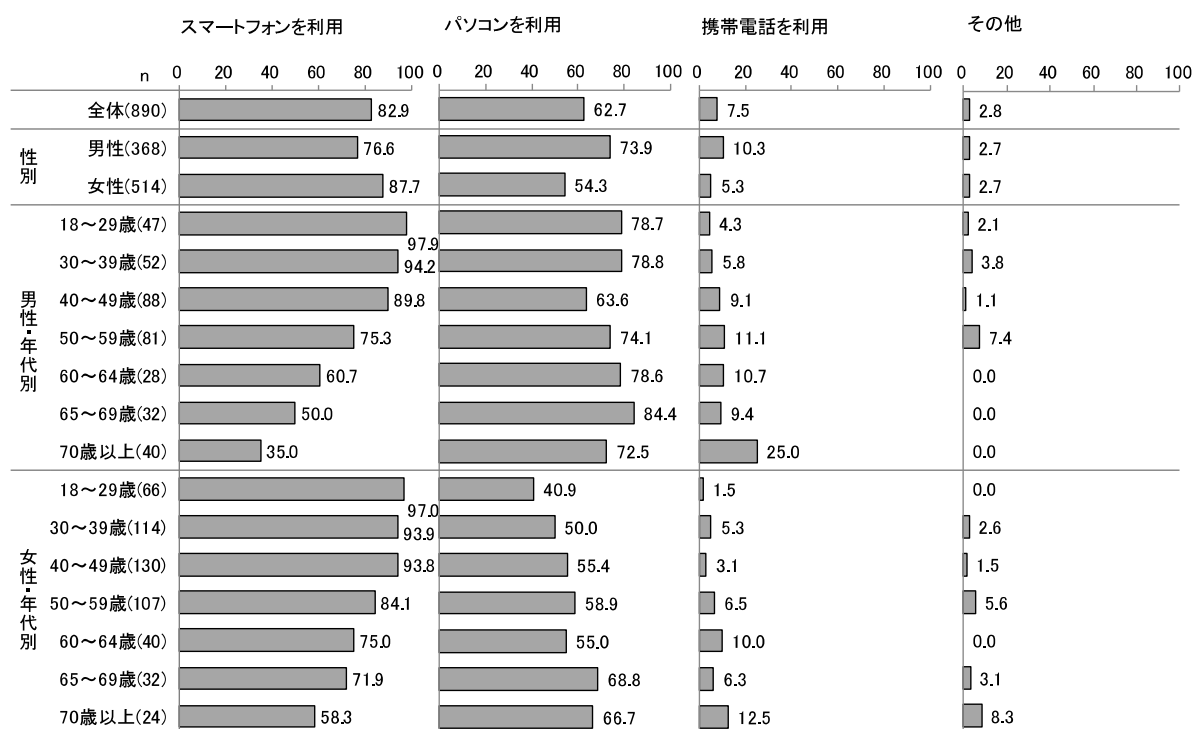
「スマートフォンを利用」(82.9%)は、平成27年度調査(69.3%)より13.6ポイント増加している。

一方、「パソコンを利用」(62.7%)は、平成27年度調査(71.4%)より8.7ポイント減少している。(図表Ⅲ-4-8)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－４－９ インターネットの利用方法（性別／性・年代別）

単位：％



性別で見ると、「パソコンを利用」は、「男性」（73.9％）が「女性」（54.3％）より19.6ポイント高くなっている。一方、「スマートフォンを利用」は、「女性」（87.7％）が「男性」（76.6％）より11.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともに、若年層になるほど「スマートフォンを利用」が高くなっている。また、「パソコンを利用」は「男性」のすべての年代で6割以上となっている。一方、「女性」は65歳以上が6割以上と高くなっているが、「18～29歳」（40.9％）は約4割と最も低くなっている。（図表Ⅲ－４－9）

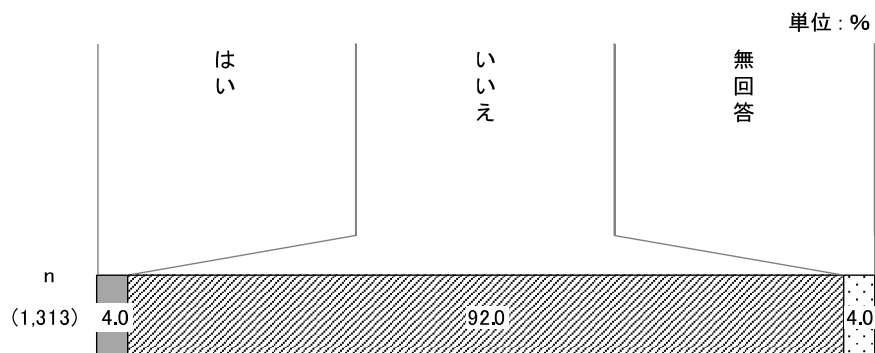
5. IT

(1) 「葛飾区総合アプリ」の利用状況

◆ 「はい」が1割未満

問 10 葛飾区では、平成 29 年 1 月から「葛飾区総合アプリ」として、観光情報や防災情報、ごみ分別、電子母子手帳機能、ARを使った街歩きアプリ等を提供しております。「葛飾区総合アプリ」を使ったことがありますか（○は1つ）。

図表Ⅲ－5－1 「葛飾区総合アプリ」の利用状況



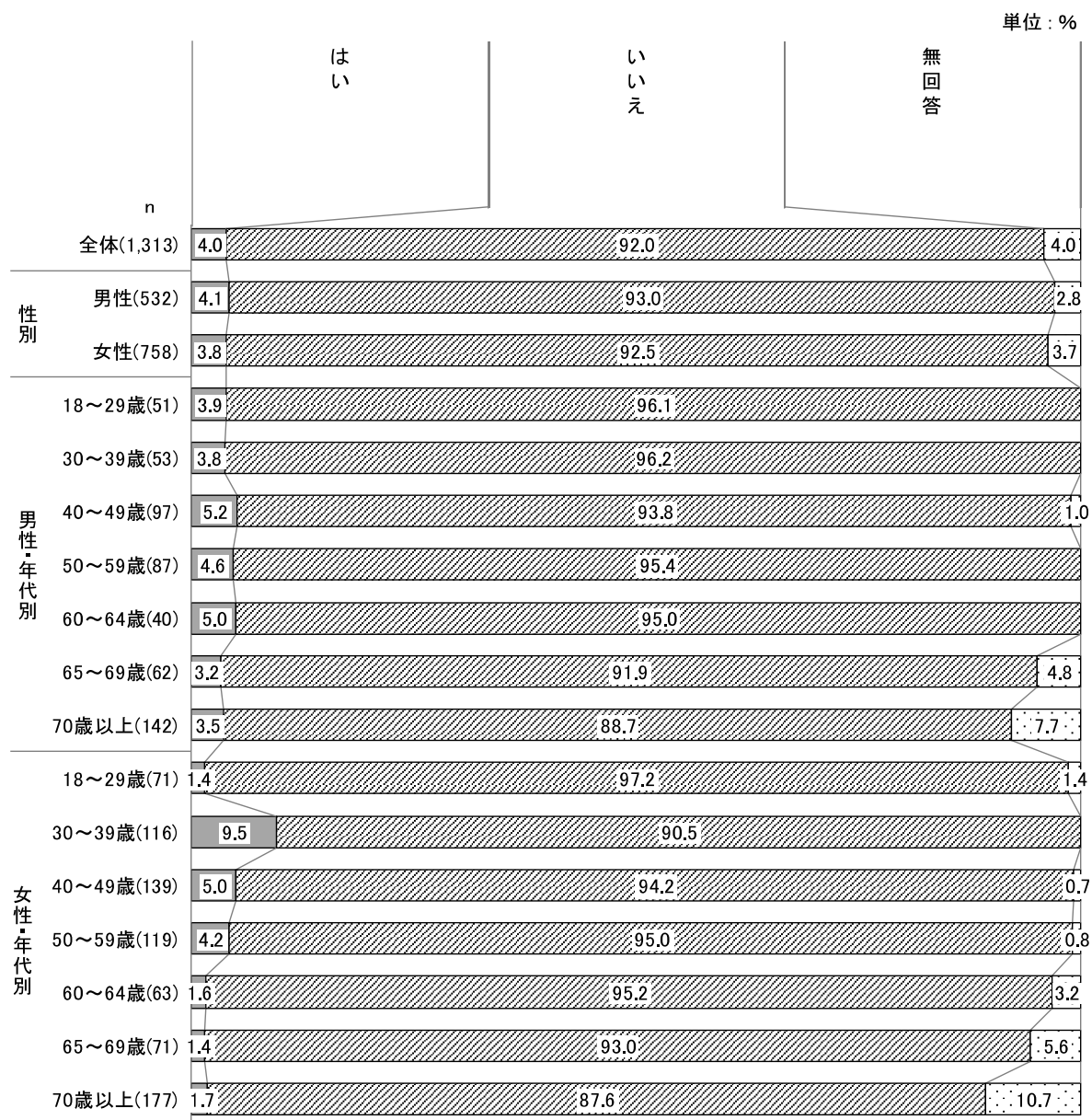
「葛飾区総合アプリ」の利用状況は、「いいえ」（92.0%）が9割強、「はい」（4.0%）は1割未満となっている。（図表Ⅲ－5－1）

【経年変化】

当該項目は、平成 30 年度調査で新たに設置された調査項目のため、経年比較は行わない。

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－５－２ 「葛飾区総合アプリ」の利用状況（性別／性・年代別）

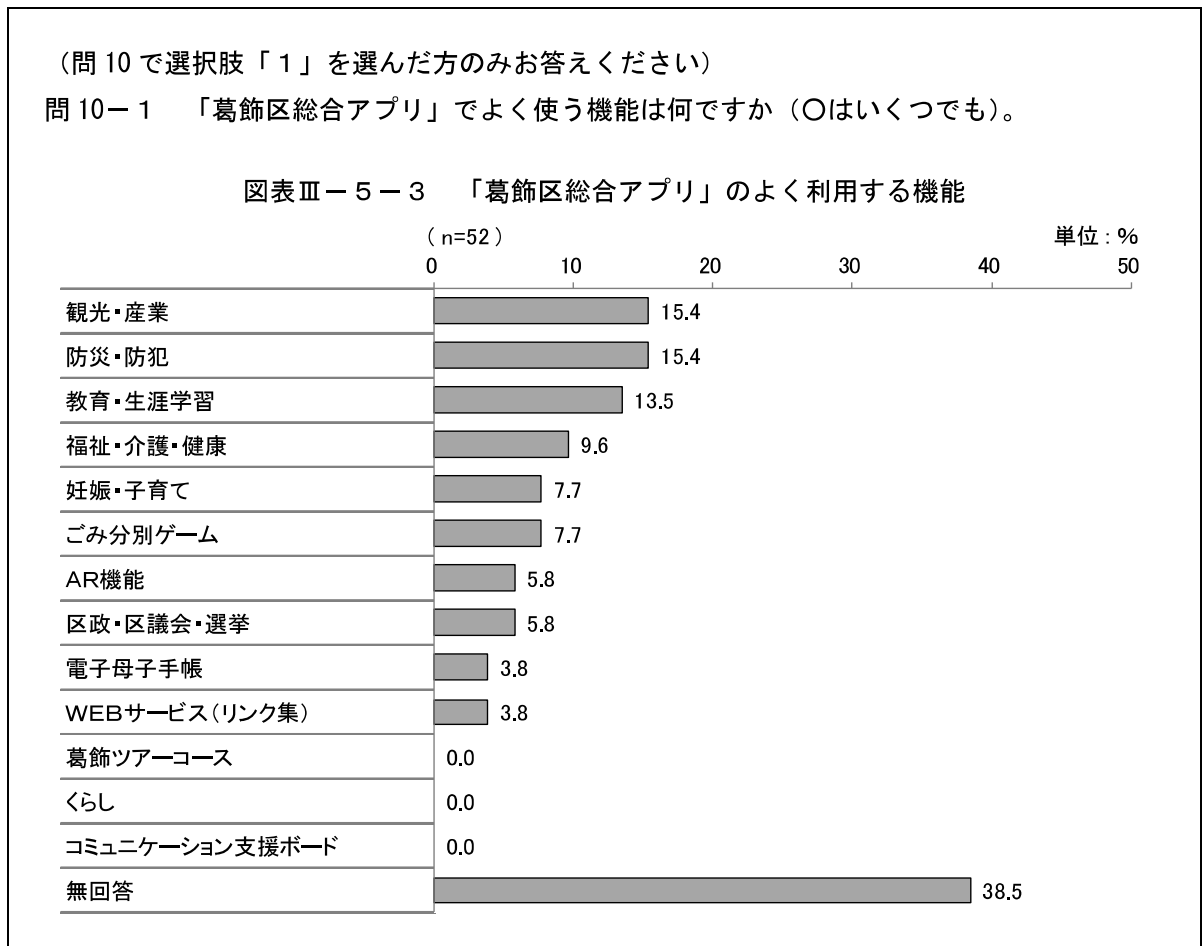


性別で見ると、男女ともに「いいえ」が9割強となっている。

性・年代別で見ると、すべての性・年代において「いいえ」が8割以上となっている。一方、「はい」は、すべての性・年代において1割未満となっており、「女性30～39歳」(9.5%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ－５－２)

(1-1) 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能

◆ 「観光・産業」および「防災・防犯」が最多



「葛飾区総合アプリ」でよく使う機能は、「観光・産業」(15.4%)および「防災・防犯」(15.4%)が同率で1割台半ばと最も高くなっており、次いで「教育・生涯学習」(13.5%)、「福祉・介護・健康」(9.6%)と続いている。

なお、「葛飾区総合アプリ」に追加してほしい機能については、具体的な回答は得られなかった。(図表Ⅲ-5-3)

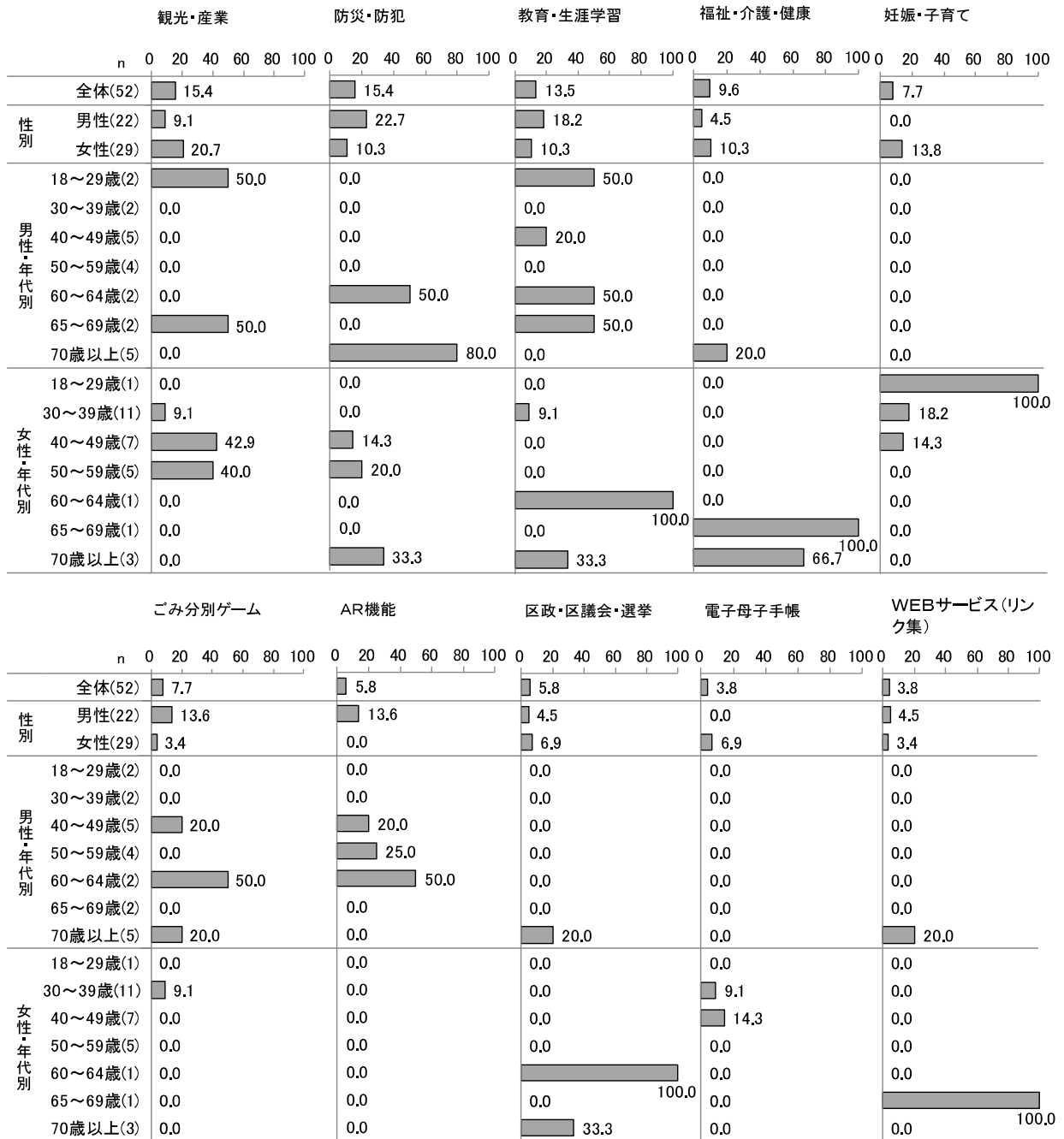
【経年変化】

当該項目は、平成30年度調査で新たに設置された調査項目のため、経年比較は行わない。

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－５－４ 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％

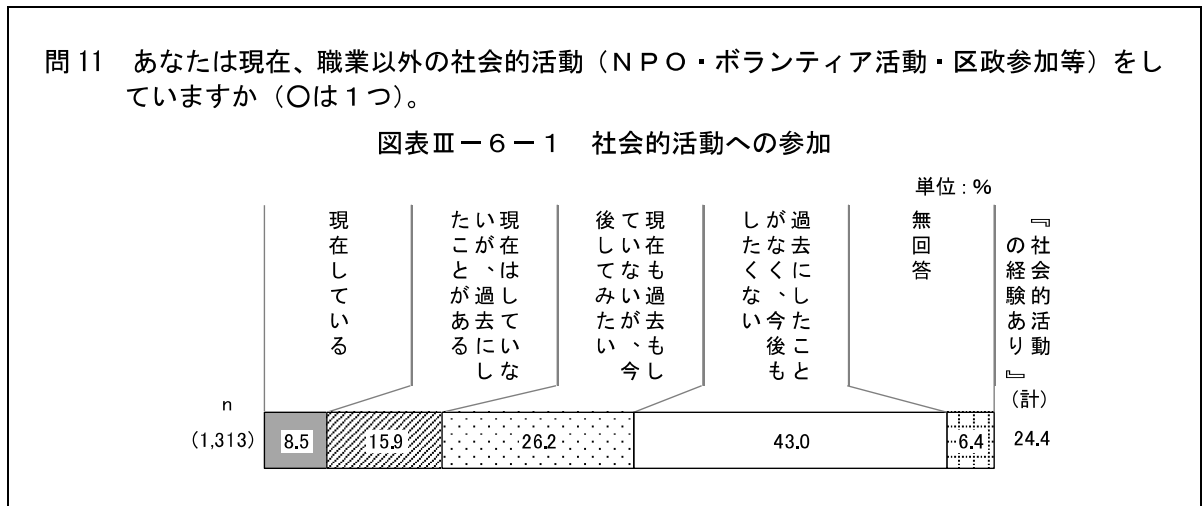


上位10項目について性別で見ると、「男性」は「防災・防犯」（22.7%）、「女性」は「観光・産業」（20.7%）が最も高くなっている。（図表Ⅲ－５－４）

6. 社会参加活動

(1) 社会的活動への参加

◆ 『社会的活動の経験あり』が2割台半ば

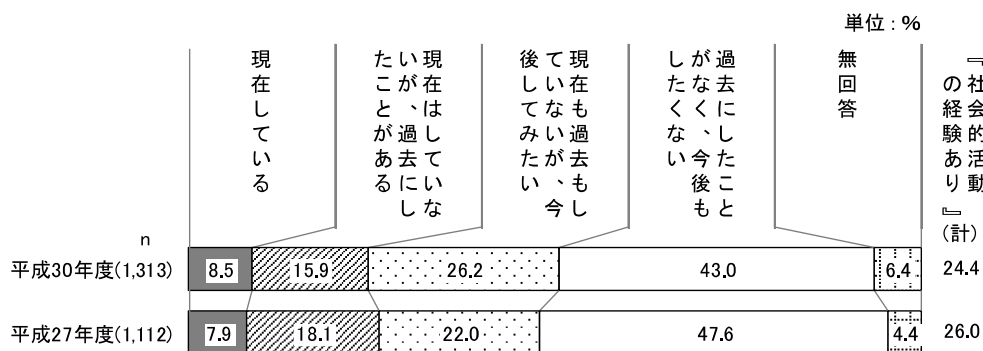


社会的活動への参加は、「現在している」(8.5%)と「現在はしていないが、過去にしたことがある」(15.9%)を合わせた『社会的活動の経験あり』(24.4%)が、2割台半ばとなっている。また、「現在も過去もしていないが、今後してみたい」(26.2%)は3割近くとなっている。

一方、「過去にしたことがなく、今後もしたくない」(43.0%)は4割強となっている。(図表Ⅲ-6-1)

【経年変化】

図表Ⅲ-6-2 社会的活動への参加（経年変化）

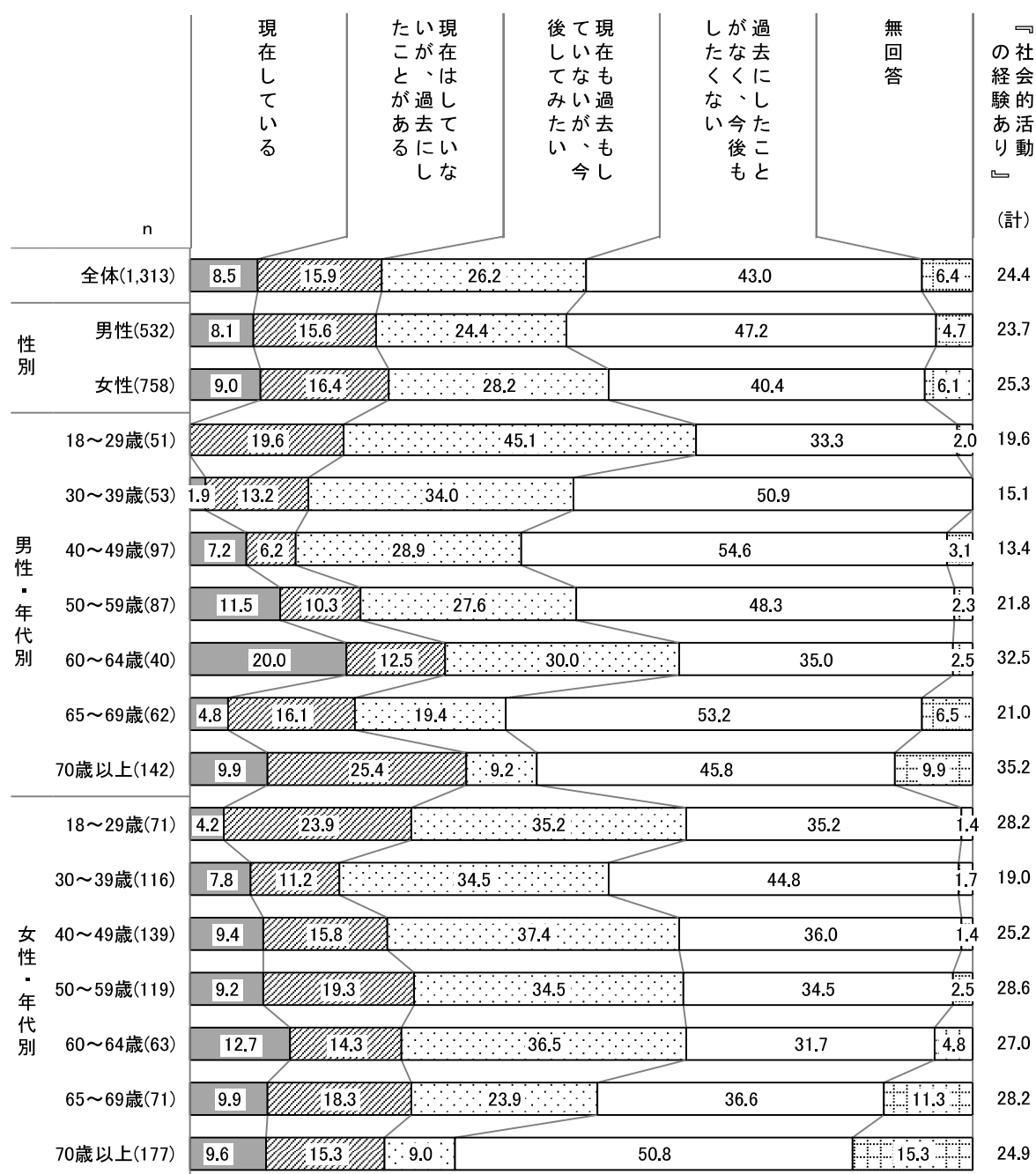


「現在している」(8.5%)は、平成27年度調査(7.9%)より0.6ポイント増加している。また、「現在も過去もしていないが、今後してみたい」(26.2%)も、平成27年度調査(22.0%)より4.2ポイント増加している。一方、『社会的活動の経験あり』(24.4%)は、平成27年度調査(26.0%)より1.6ポイント減少している。(図表Ⅲ-6-2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－６－３ 社会的活動への参加（性別／性・年代別）

単位：％



性別で見ると、「過去にしたことがなく、今後もしたくない」は、「男性」(47.2%)が「女性」(40.4%)より6.8ポイント高くなっている。一方、『社会的活動の経験あり』は、「女性」(25.3%)が「男性」(23.7%)より1.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『社会的活動の経験あり』は、「男性70歳以上」(35.2%)、「女性50～59歳」(28.6%)がそれぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－６－3)

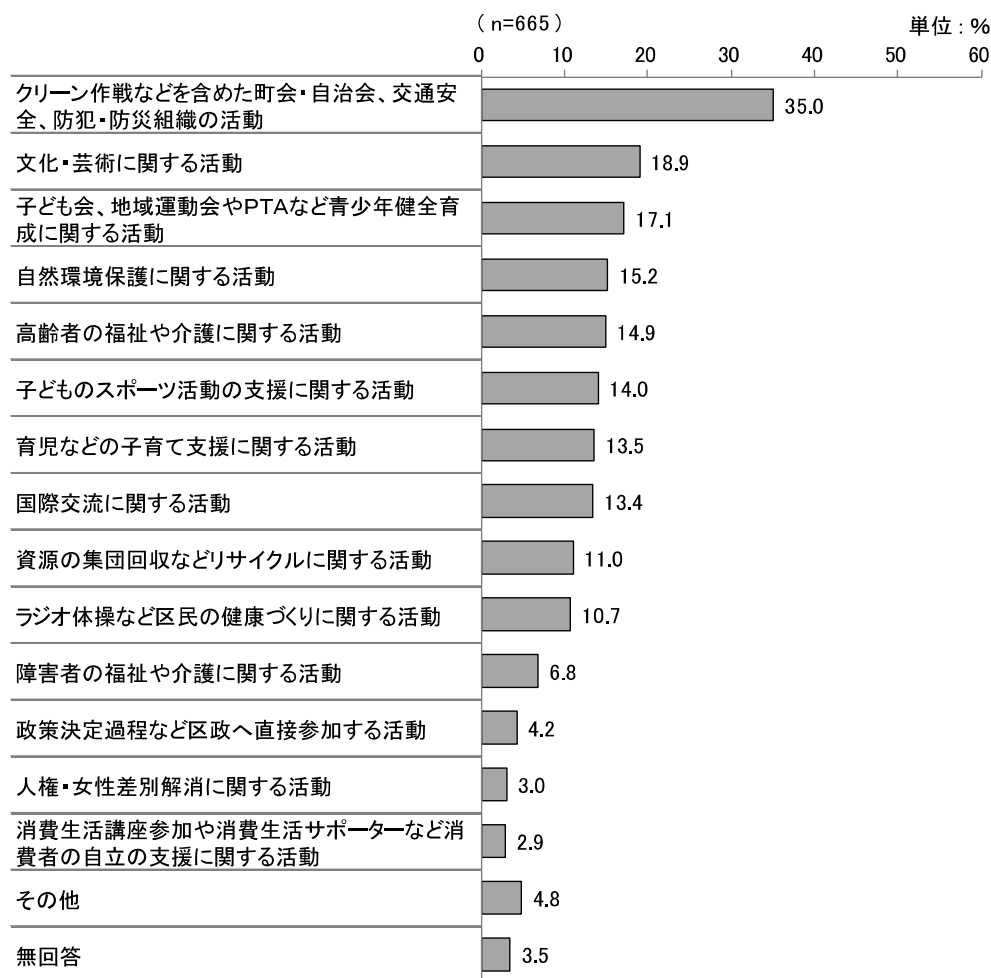
(1-1) 現在参加している・参加してみたい社会的活動

◆「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」が3割台半ば

(問11で選択肢「1」から「3」を選んだ方のみお答えください)

問11-1 あなたが現在参加している、または、参加をしてみたい社会的活動はどのような分野の活動ですか(〇はいくつでも)。

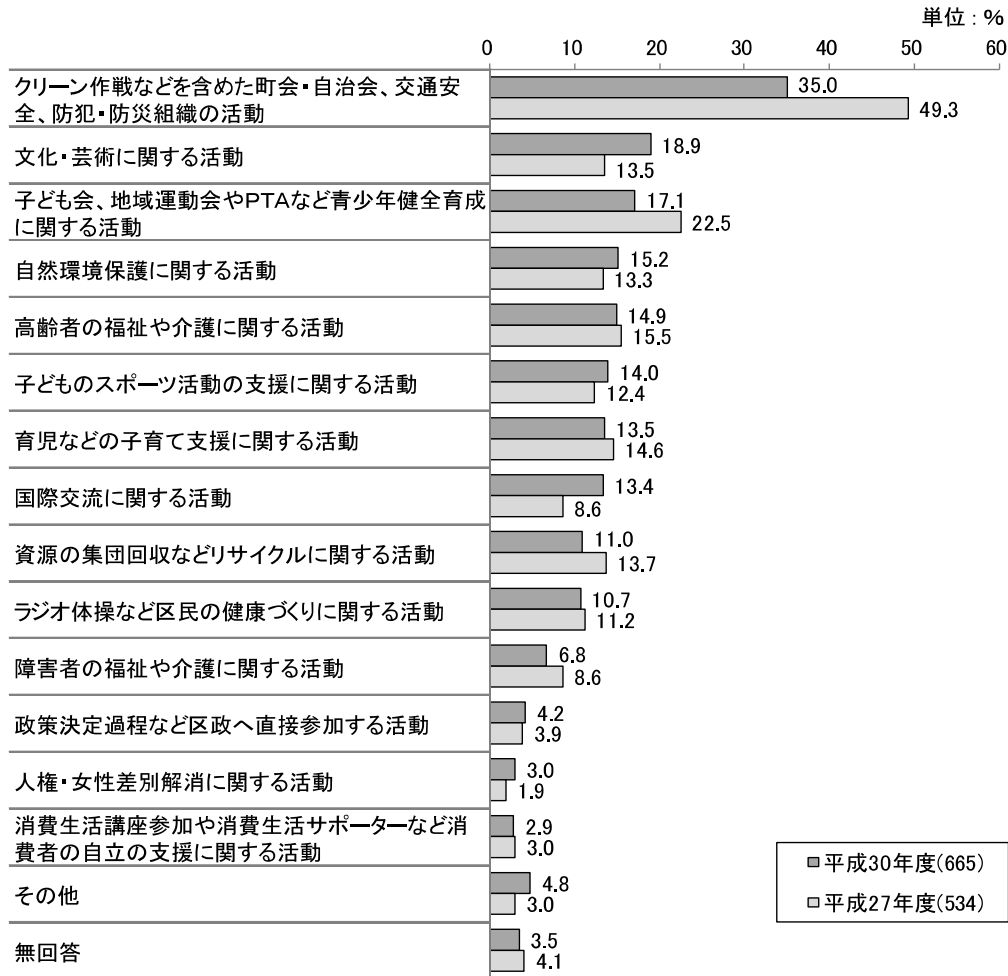
図表Ⅲ-6-4 現在参加している・参加してみたい社会的活動



現在参加している・参加してみたい社会的活動は、「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」(35.0%)が3割台半ばと最も高く、次いで「文化・芸術に関する活動」(18.9%)、「子ども会、地域運動会やPTAなど青少年健全育成に関する活動」(17.1%)と続いている。(図表Ⅲ-6-4)

【経年変化】

図表Ⅲ－６－５ 現在参加している・参加してみたい社会的活動（経年変化）



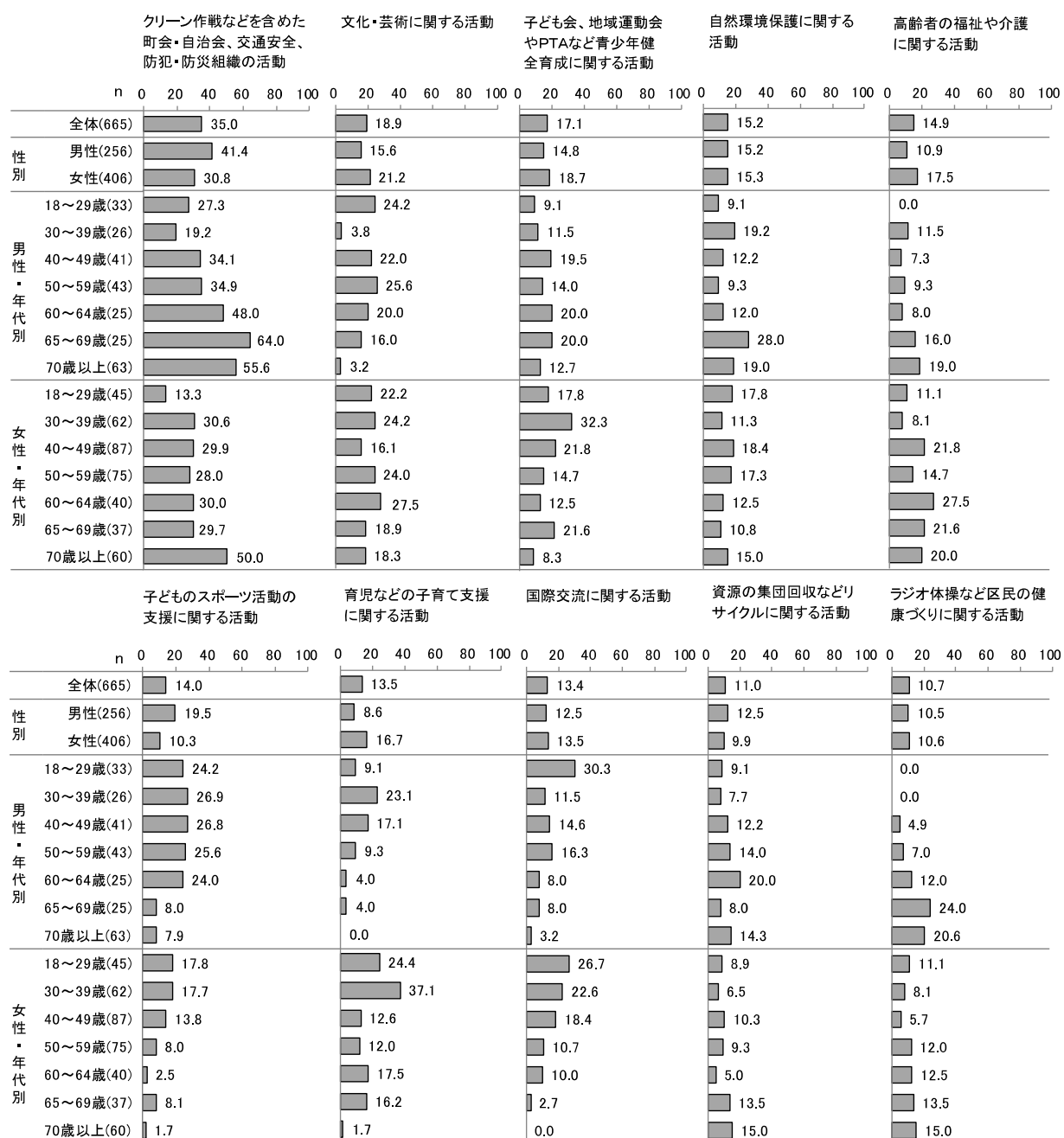
「文化・芸術に関する活動」(18.9%)は、平成27年度調査(13.5%)より5.4ポイント、「国際交流に関する活動」(13.4%)は、平成27年度調査(8.6%)より4.8ポイント、それぞれ増加している。

一方、「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」(35.0%)は、平成27年度調査(49.3%)より14.3ポイント、「子ども会、地域運動会やPTAなど青少年健全育成に関する活動」(17.1%)は、平成27年度調査(22.5%)より5.4ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－６－５)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－６－６ 現在参加している・参加してみたい社会的活動（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



上位10項目について性別でみると、「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」は、「男性」(41.4%)が「女性」(30.8%)より10.6ポイント高くなっている。一方、「育児などの子育て支援に関する活動」は、「女性」(16.7%)が「男性」(8.6%)より8.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」は、「男性65～69歳」(64.0%)が最も高く、次いで「男性70歳以上」(55.6%)、「女性70歳以上」(50.0%)と続いている。また、「男性18～29歳」は「国際交流に関する活動」(30.3%)、「女性30～39歳」は「育児などの子育て支援に関する活動」(37.1%)が3割以上と、それぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－６－6)

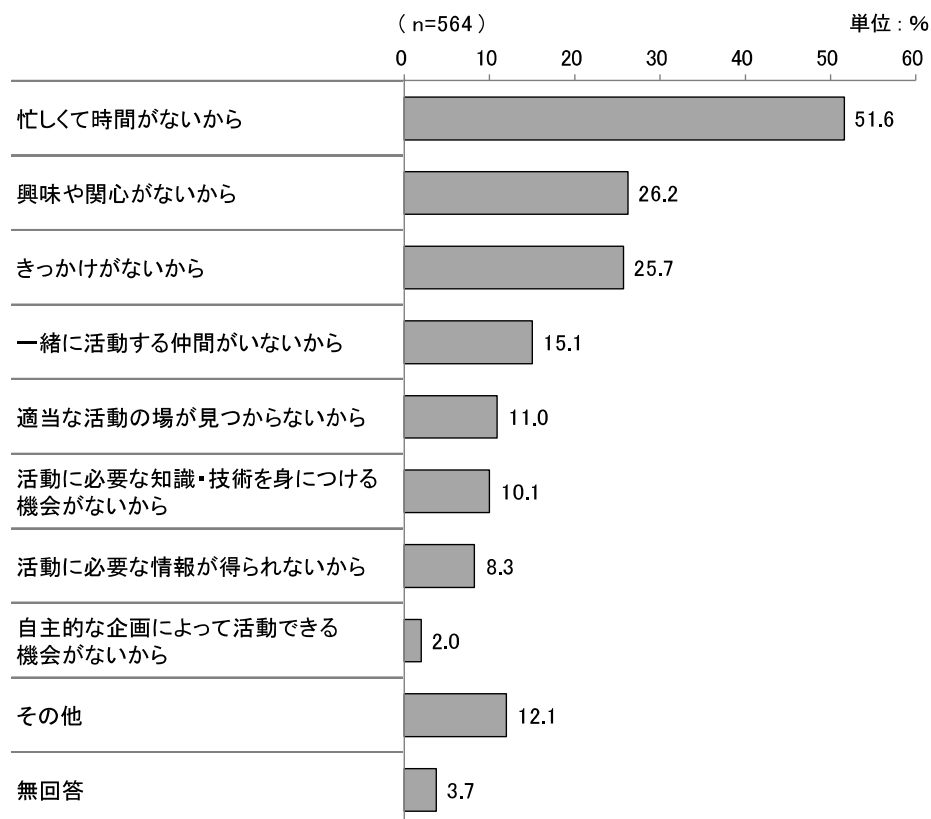
(1-2) 社会的活動をしたくない理由

◆ 「忙しくて時間がないから」が5割強

(問11で選択肢「4」を選んだ方のみお答えください)

問11-2 職業以外の社会的活動をしたくない主な理由は何ですか(〇は3つまで)。

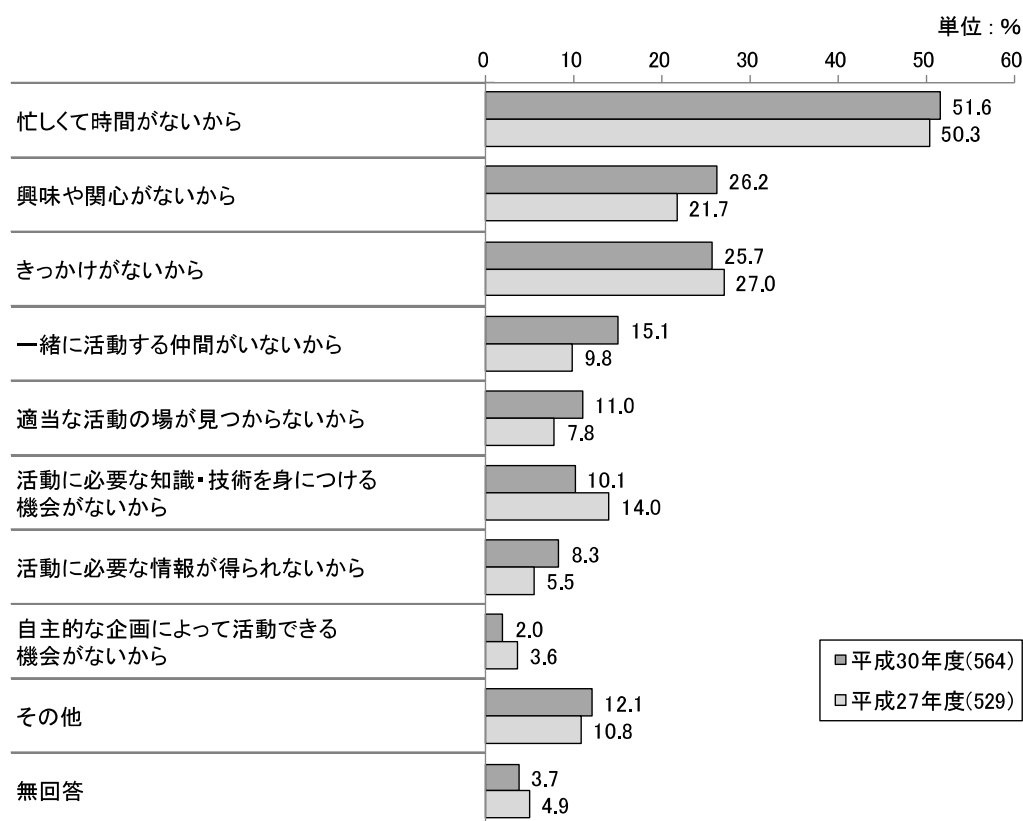
図表Ⅲ-6-7 社会的活動をしたくない理由



社会的活動をしたくない理由は、「忙しくて時間がないから」(51.6%)が5割強と最も高くなっており、次いで「興味や関心がないから」(26.2%)、「きっかけがないから」(25.7%)と続いている。(図表Ⅲ-6-7)

【経年変化】

図表Ⅲ－６－８ 社会的活動をしたくない理由（経年変化）



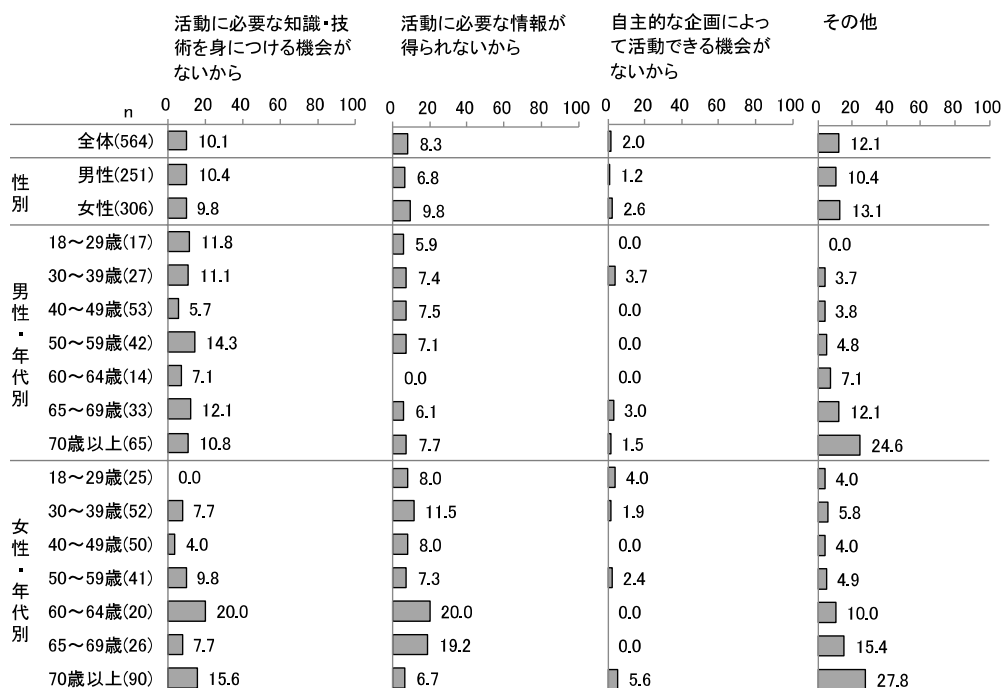
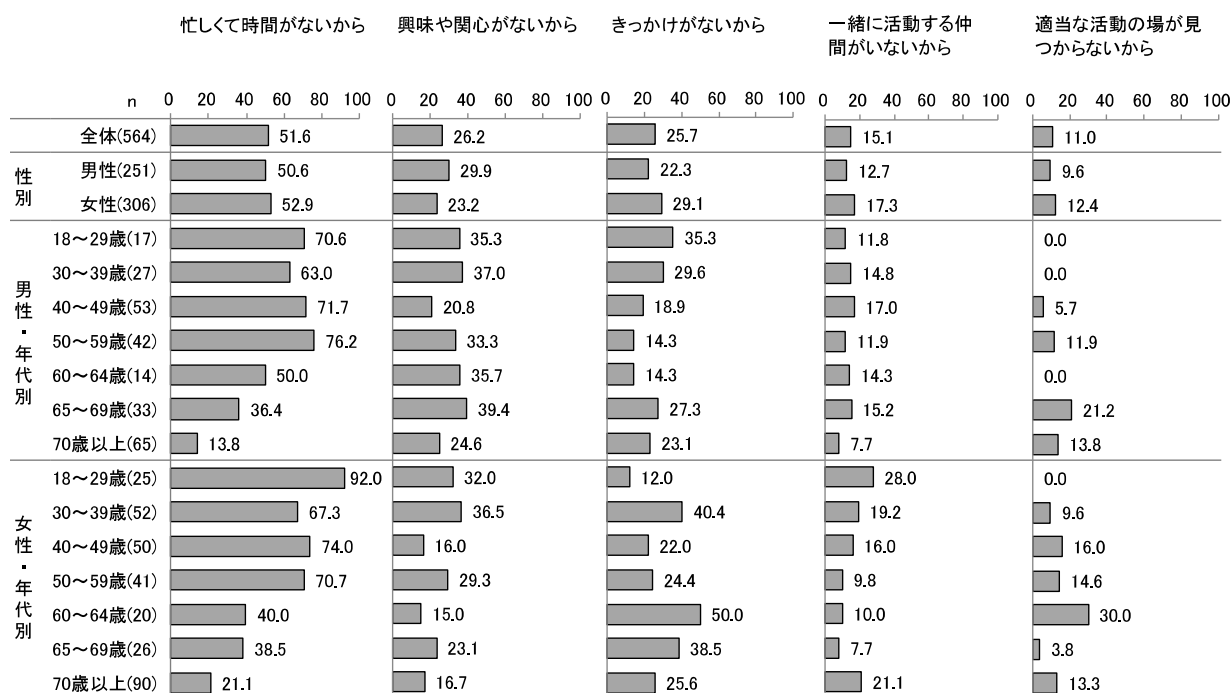
「一緒に活動する仲間がないから」(15.1%)は、平成27年度調査(9.8%)より5.3ポイント、「興味や関心がないから」(26.2%)は、平成27年度調査(21.7%)より4.5ポイント、それぞれ増加している。

一方、「活動に必要な知識・技術を身につける機会がないから」(10.1%)は、平成27年度調査(14.0%)より3.9ポイント減少している。(図表Ⅲ－６－８)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－6－9 社会的活動をしたくない理由（性別／性・年代別）

単位：%



性別で見ると、「興味や関心がないから」は、「男性」(29.9%)が「女性」(23.2%)より6.7ポイント高くなっている。一方、「きっかけがないから」は、「女性」(29.1%)が「男性」(22.3%)より6.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「忙しくて時間がないから」は、男女ともに59歳以下で6割以上となっている。(図表Ⅲ－6－9)

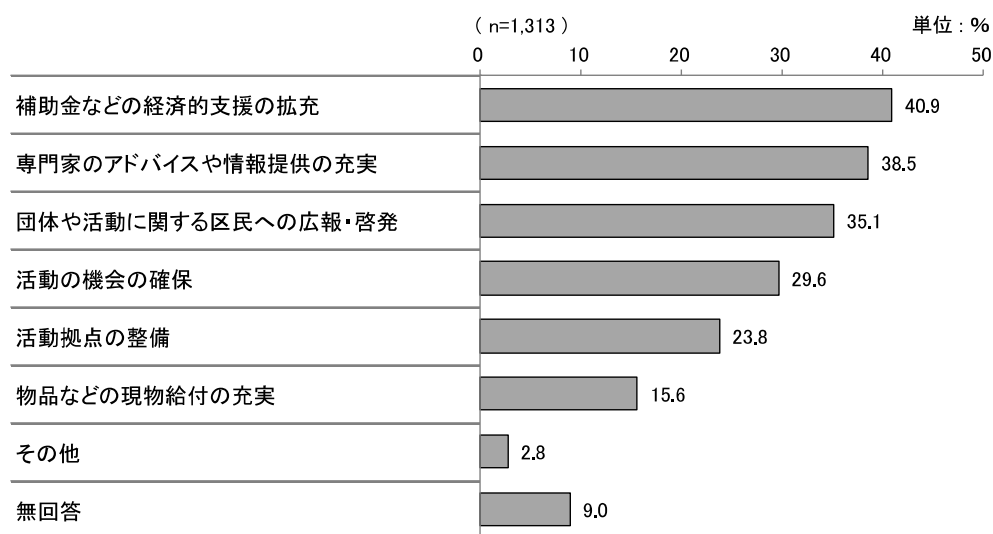
7. 地域貢献活動に対する支援

(1) 地域貢献活動に対する支援

◆ 「補助金などの経済的支援の拡充」が約4割

問12 自治町会や地域ボランティア団体等の活動を促進するために、行政が支援すべきことは何だと思えますか（〇はいくつでも）。

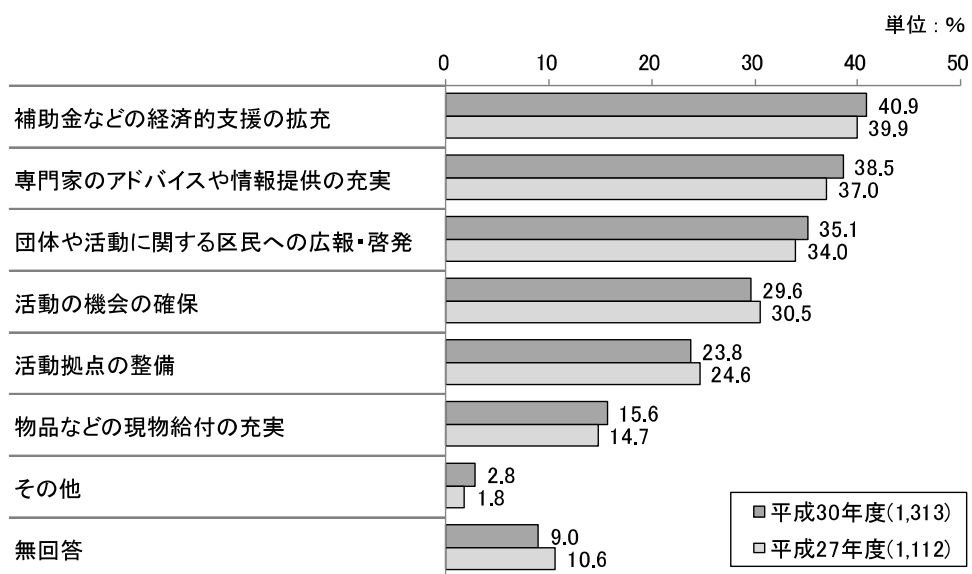
図表Ⅲ－7－1 地域貢献活動に対する支援



地域貢献活動に対する支援は、「補助金などの経済的支援の拡充」（40.9%）が約4割と最も高く、次いで「専門家のアドバイスや情報提供の充実」（38.5%）、「団体や活動に関する区民への広報・啓発」（35.1%）と続いている。（図表Ⅲ－7－1）

【経年変化】

図表Ⅲ－７－２ 地域貢献活動に対する支援（経年変化）



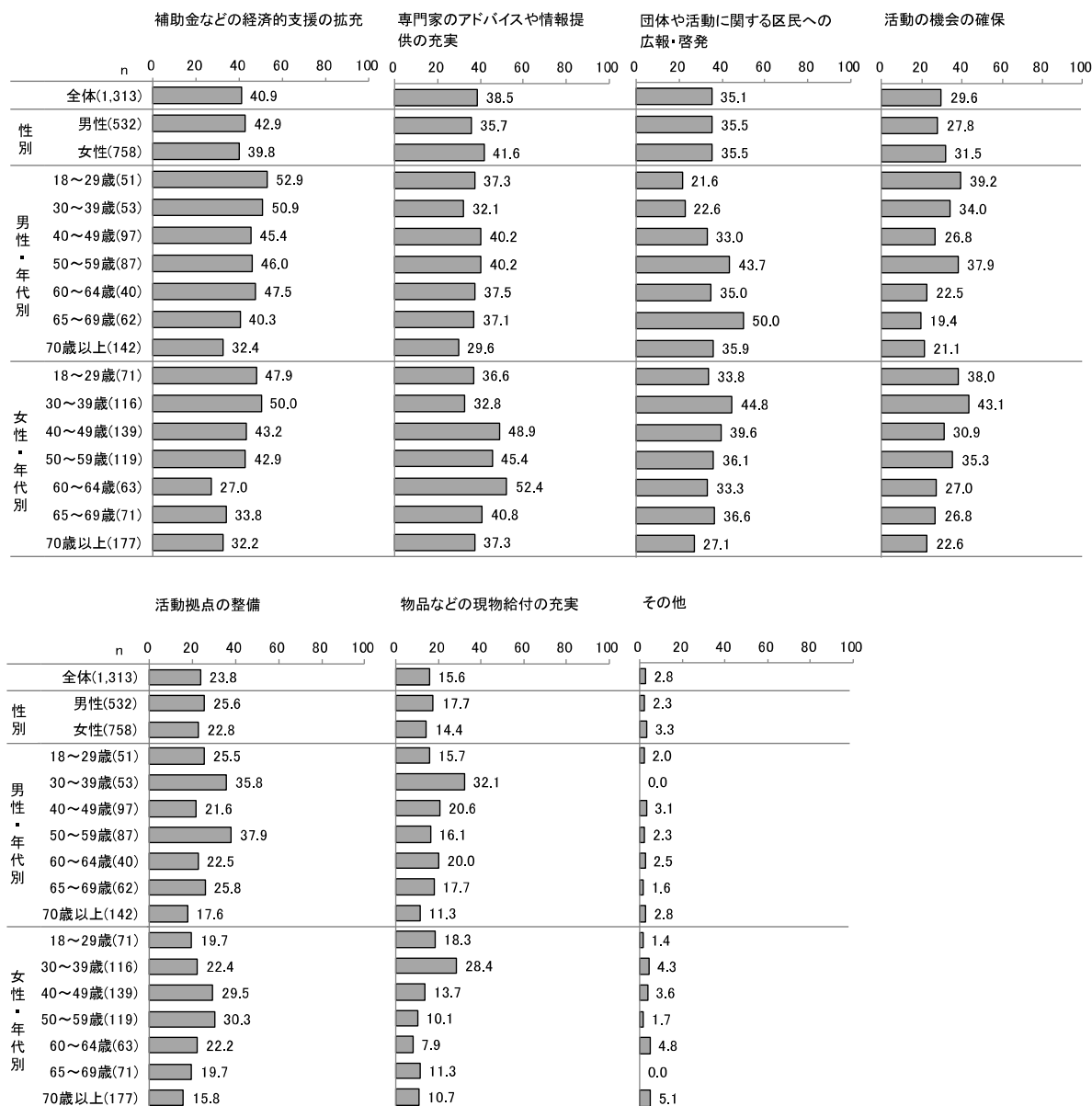
「専門家のアドバイスや情報提供の充実」（38.5%）は、平成27年度調査（37.0%）より1.5ポイント増加している。また、「団体や活動に関する区民への広報・啓発」（35.1%）は、平成27年度調査（34.0%）より1.1ポイント増加している。

一方、「活動の機会の確保」（29.6%）は、平成27年度調査（30.5%）より0.9ポイント減少している。（図表Ⅲ－７－２）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－７－３ 地域貢献活動に対する支援（性別／性・年代別）

単位：％



性別で見ると、「物品などの現物給付の充実」は、「男性」（17.7％）が「女性」（14.4％）より 3.3 ポイント高くなっている。一方、「専門家のアドバイスや情報提供の充実」は、「女性」（41.6％）が「男性」（35.7％）より 5.9 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「男性」は、「補助金などの経済的支援の充実」がすべての年代で 3 割以上となっている。一方、「女性」は、「専門家のアドバイスや情報提供の充実」がすべての年代で 3 割以上となっている。（図表Ⅲ－７－３）

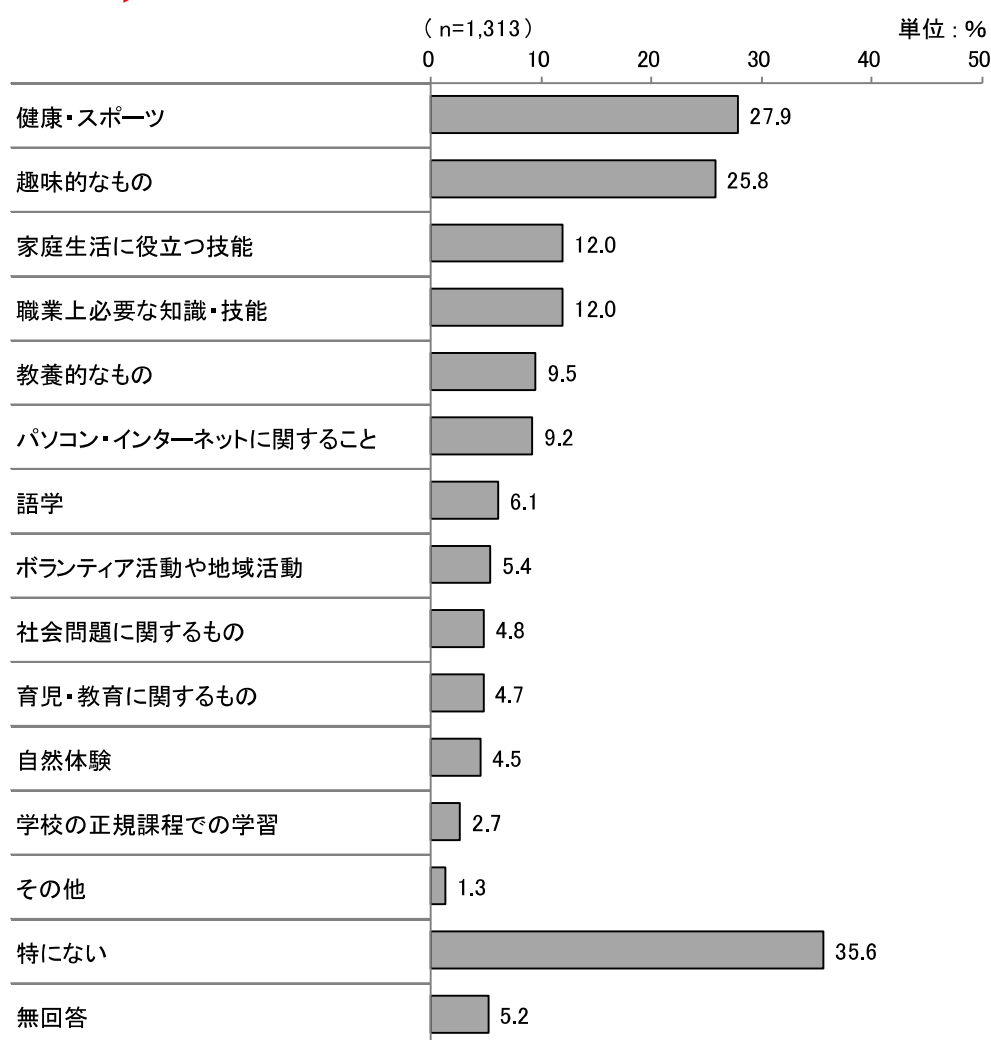
8. 生涯学習

(1) 最近1年間における生涯学習の実施状況

◆ 「健康・スポーツ」が3割近く

問13 「生涯学習」とは、学校教育や社会教育、自宅などで行う学習活動を含めて、自分から進んで行う学習・文化活動、スポーツ、ボランティア活動、趣味などのさまざまな学習活動のことをいいます。あなたは、この1年くらいの間に、このような「生涯学習」をしたことがありますか（〇はいくつでも）。

図表Ⅲ－8－1 最近1年間における生涯学習の実施状況

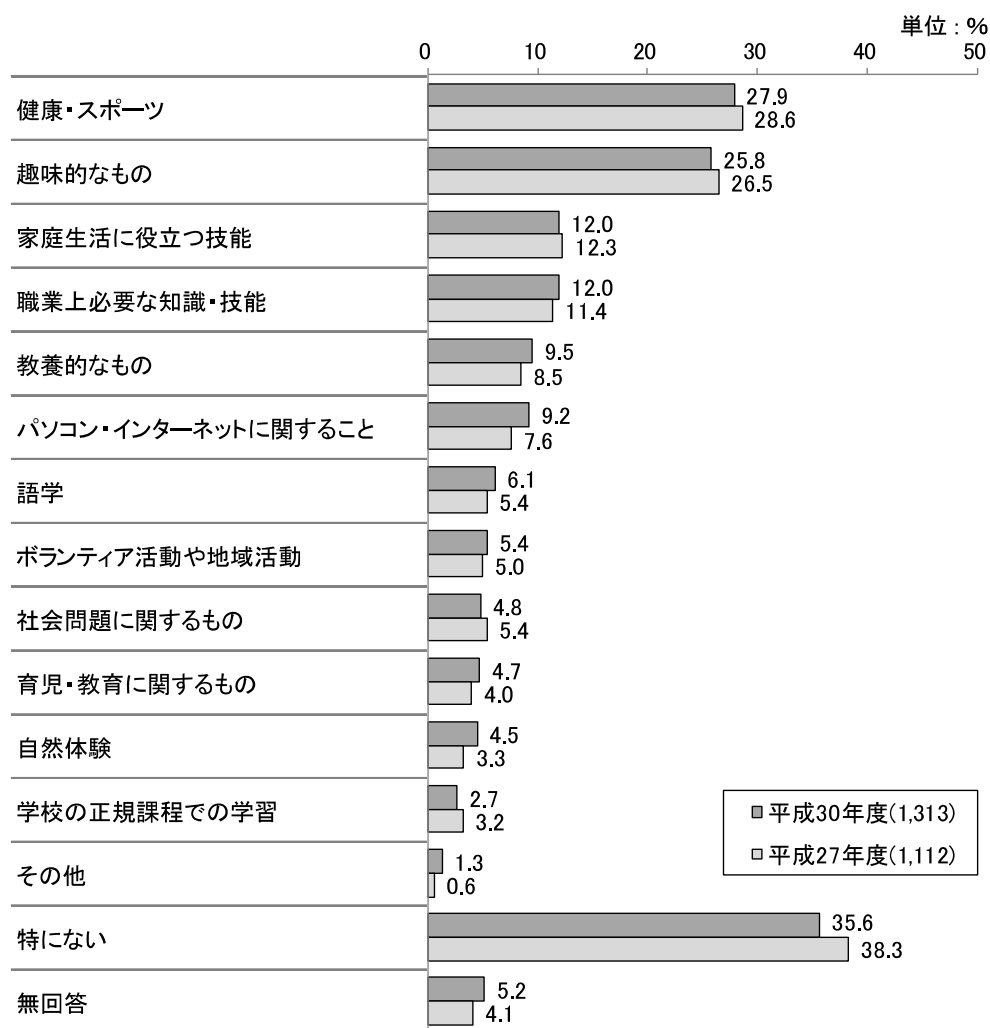


最近1年間における生涯学習の実施状況は、「健康・スポーツ」(27.9%)が3割近くと最も高く、次いで「趣味的なもの」(25.8%)、「家庭生活に役立つ技能」および「職業上必要な知識・技能」(12.0%)と続いている。

なお、「特にない」(35.6%)は、3割台半ばとなっている。(図表Ⅲ－8－1)

【経年変化】

図表Ⅲ－８－２ 最近１年間における生涯学習の実施状況（経年変化）



「パソコン・インターネットに関すること」(9.2%)は、平成27年度調査(7.6%)より1.6ポイント、「自然体験」(4.5%)は、平成27年度調査(3.3%)より1.2ポイント、それぞれ増加している。

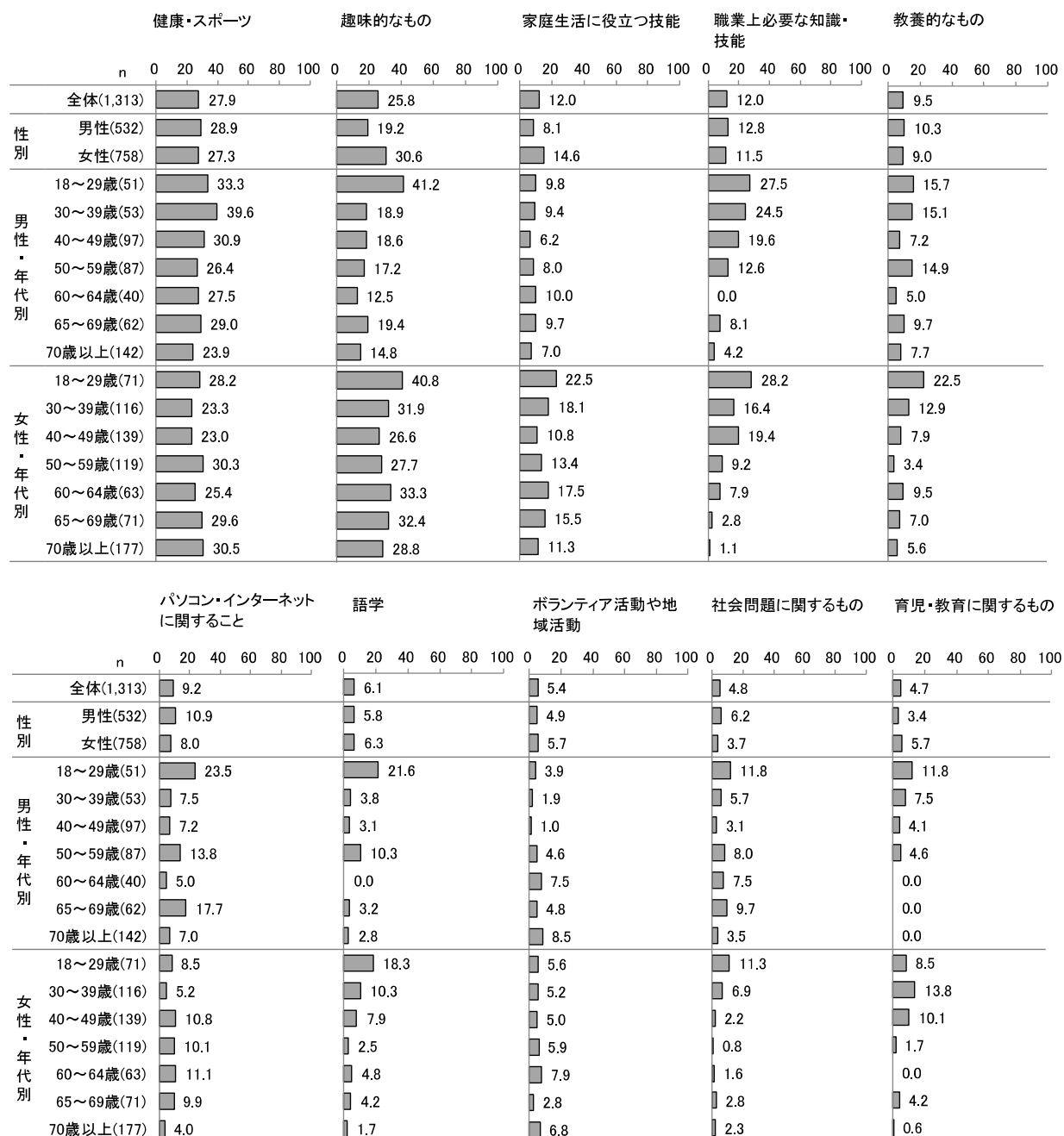
一方、「健康・スポーツ」(27.9%)は、平成27年度調査(28.6%)より0.7ポイント、「趣味的なもの」(25.8%)も、平成27年度調査(26.5%)より0.7ポイント、それぞれ減少している。

なお、「特にない」(35.6%)は、平成27年度調査(38.3%)より2.7ポイント減少している。(図表Ⅲ－８－２)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－８－３ 最近１年間における生涯学習の実施状況（上位１０項目）（性別／性・年代別）

単位：％



上位10項目について性別で見ると、「パソコン・インターネットに関すること」は、「男性」（10.9％）が「女性」（8.0％）より2.9ポイント高くなっている。一方、「趣味的なもの」は、「女性」（30.6％）が「男性」（19.2％）より11.4ポイント高くなっている。

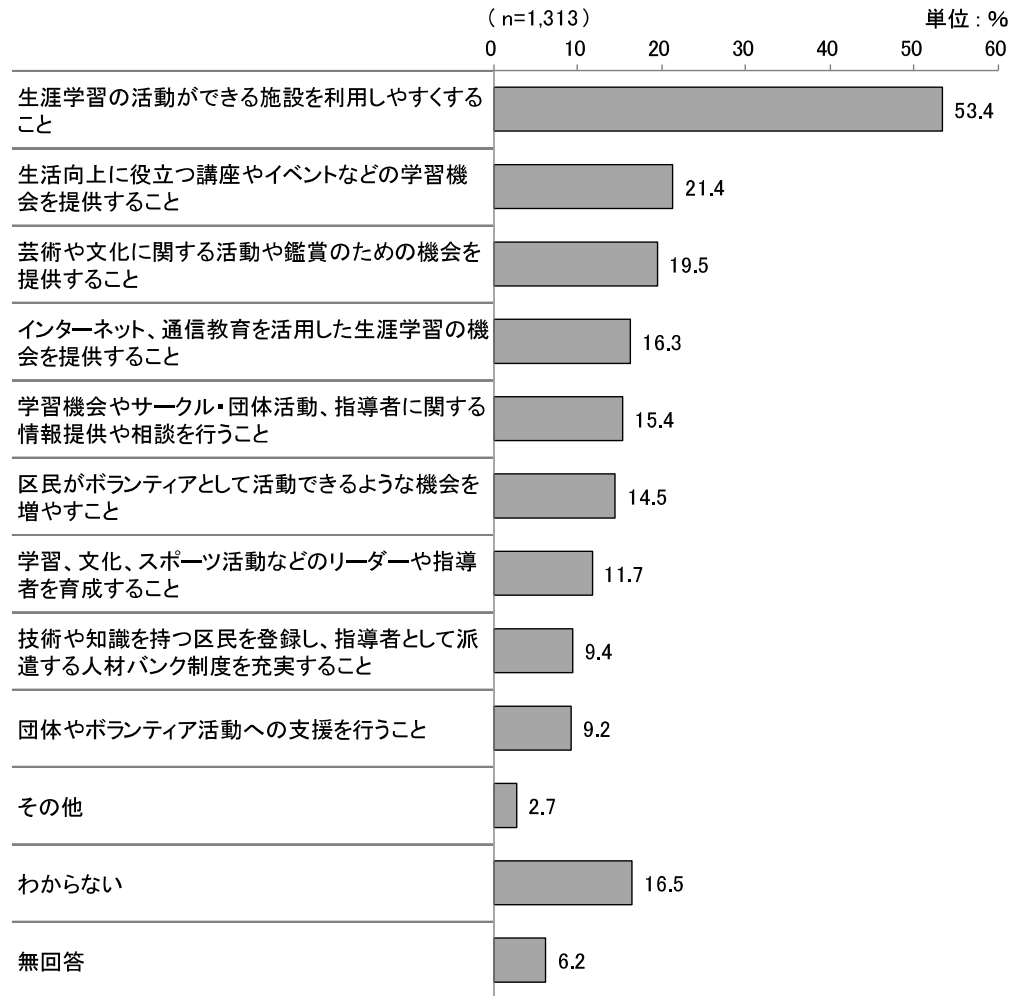
性・年代別で見ると、「趣味的なもの」は、男女ともに「18～29歳」が4割以上と他の年代よりも高くなっている。（図表Ⅲ－８－３）

(2) 生涯学習を充実していくために重要なこと

◆ 「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」が5割強

問 14 生涯学習を充実していくために、どのようなことが重要だと思いますか（〇はいくつでも）。

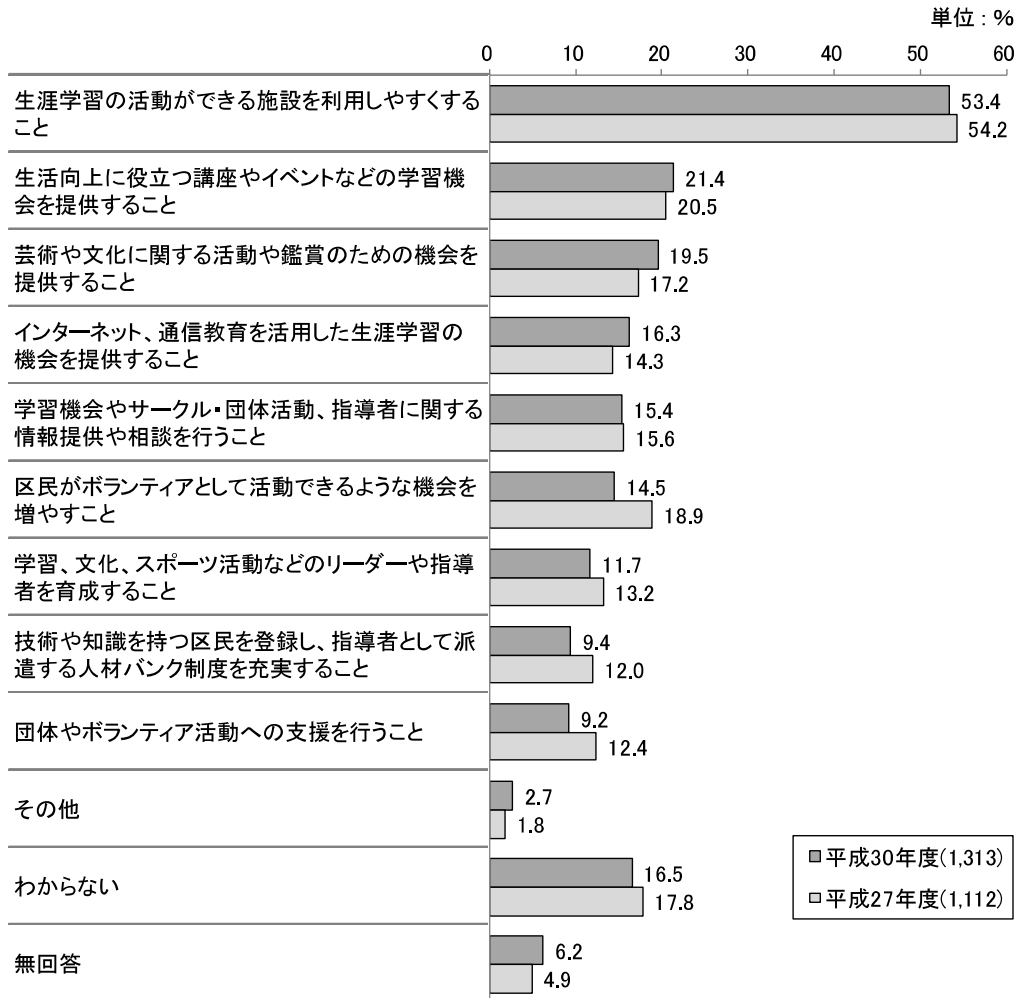
図表Ⅲ－８－４ 生涯学習を充実していくために重要なこと



生涯学習を充実していくために重要なことは、「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」(53.4%)が5割強と最も高く、次いで「生活向上に役立つ講座やイベントなどの学習機会を提供すること」(21.4%)、「芸術や文化に関する活動や鑑賞のための機会を提供すること」(19.5%)と続いている。(図表Ⅲ－８－４)

【経年変化】

図表Ⅲ－８－５ 生涯学習を充実していくために重要なこと（経年変化）

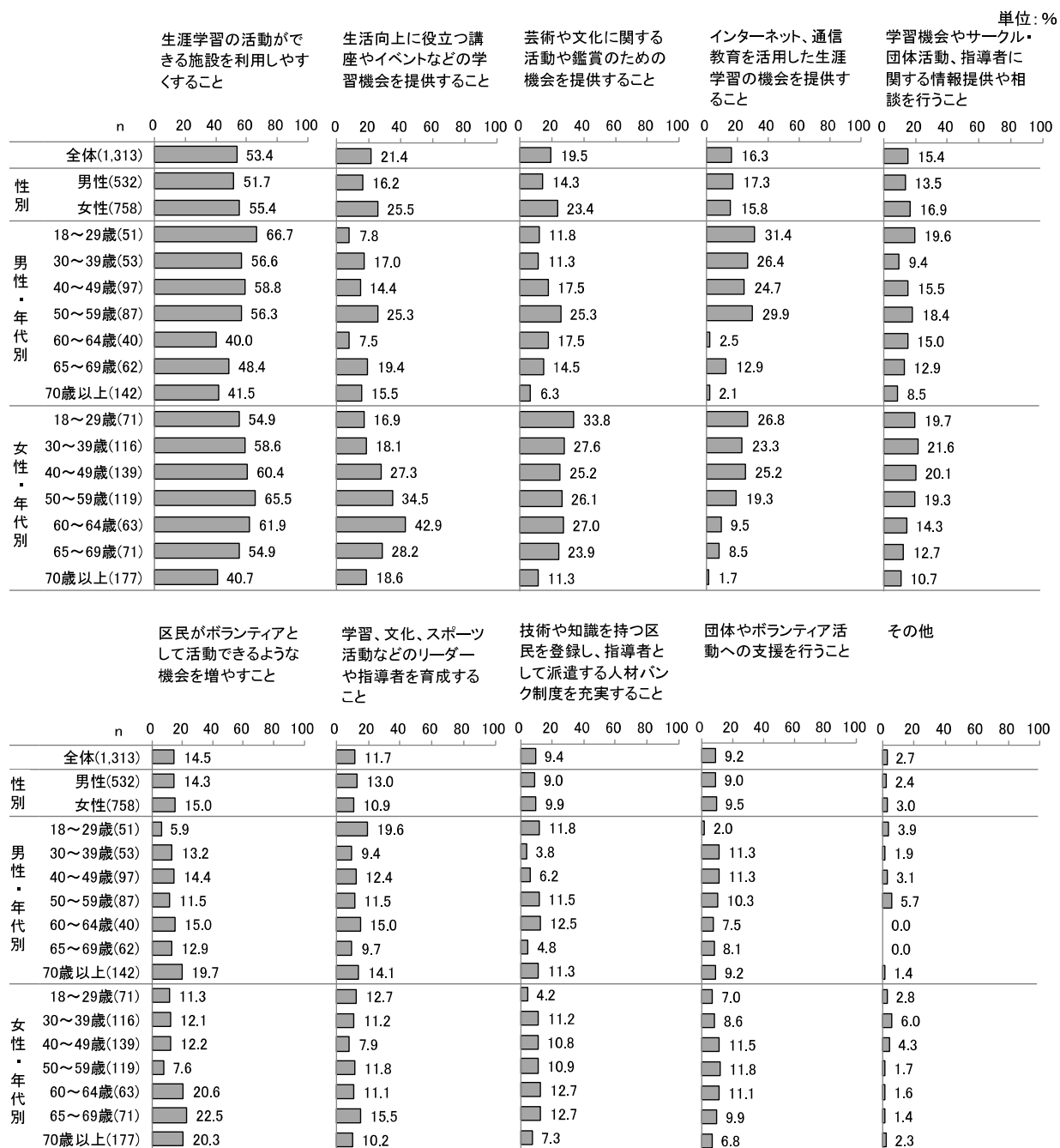


「芸術や文化に関する活動や鑑賞のための機会を提供すること」（19.5%）は、平成 27 年度調査（17.2%）より 2.3 ポイント、「インターネット、通信教育を活用した生涯学習の機会を提供すること」（16.3%）は、平成 27 年度調査（14.3%）より 2.0 ポイント、それぞれ増加している。

一方、「区民がボランティアとして活動できるような機会を増やすこと」（14.5%）は、平成 27 年度調査（18.9%）より 4.4 ポイント減少している。（図表Ⅲ－８－５）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－８－６ 生涯学習を充実していくために重要なこと（上位10項目）（性別／性・年代別）



上位10項目について性別で見ると、「学習、文化、スポーツ活動などのリーダーや指導者を育成すること」は、「男性」(13.0%)が「女性」(10.9%)より2.1ポイント高くなっている。一方、「生活向上に役立つ講座やイベントなどの学習機会を提供すること」は、「女性」(25.5%)が「男性」(16.2%)より9.3ポイント高くなっている。

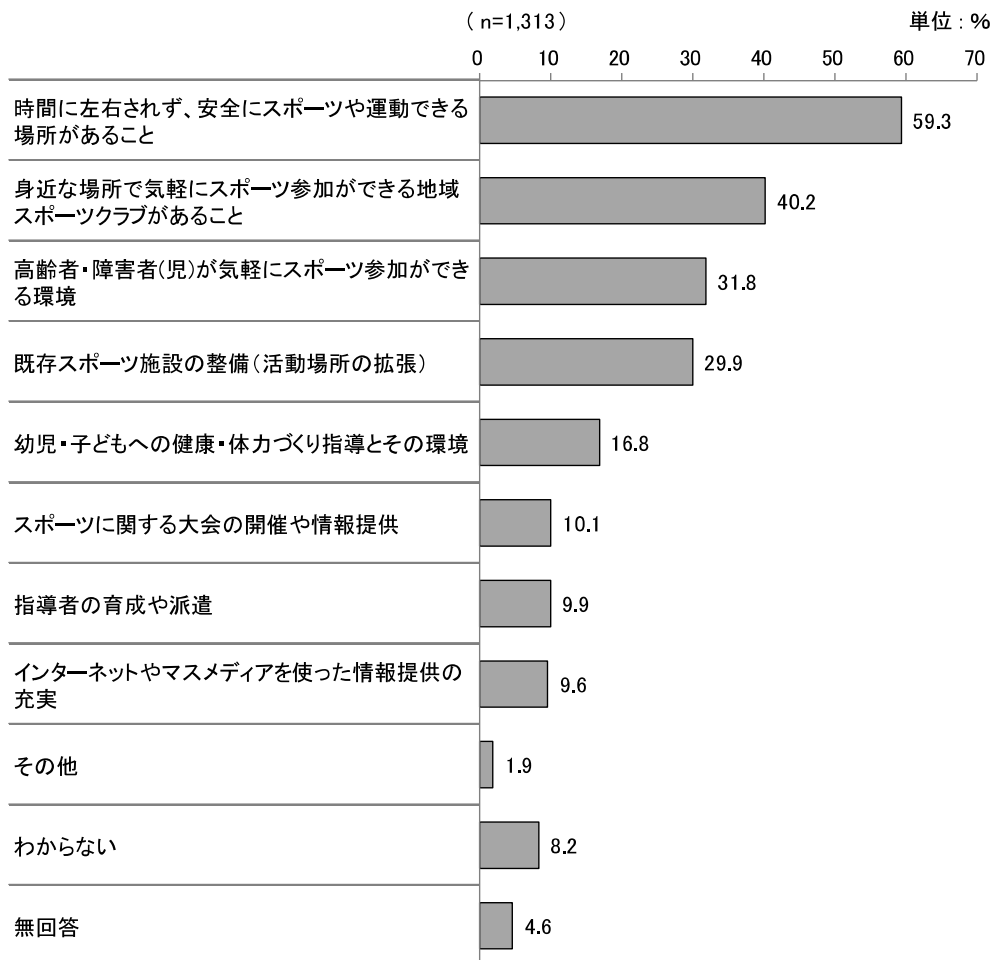
性・年代別で見ると、「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」は、男女ともにすべての年代で4割以上となっている。また、「生活向上に役立つ講座やイベントなどの学習機会を提供すること」は、「女性60～64歳」(42.9%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ－８－６)

(3) 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと

◆ 「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所があること」が6割弱

問 15 誰もがスポーツを楽しむために、どのようなことが重要だと思いますか（〇はいくつでも）。

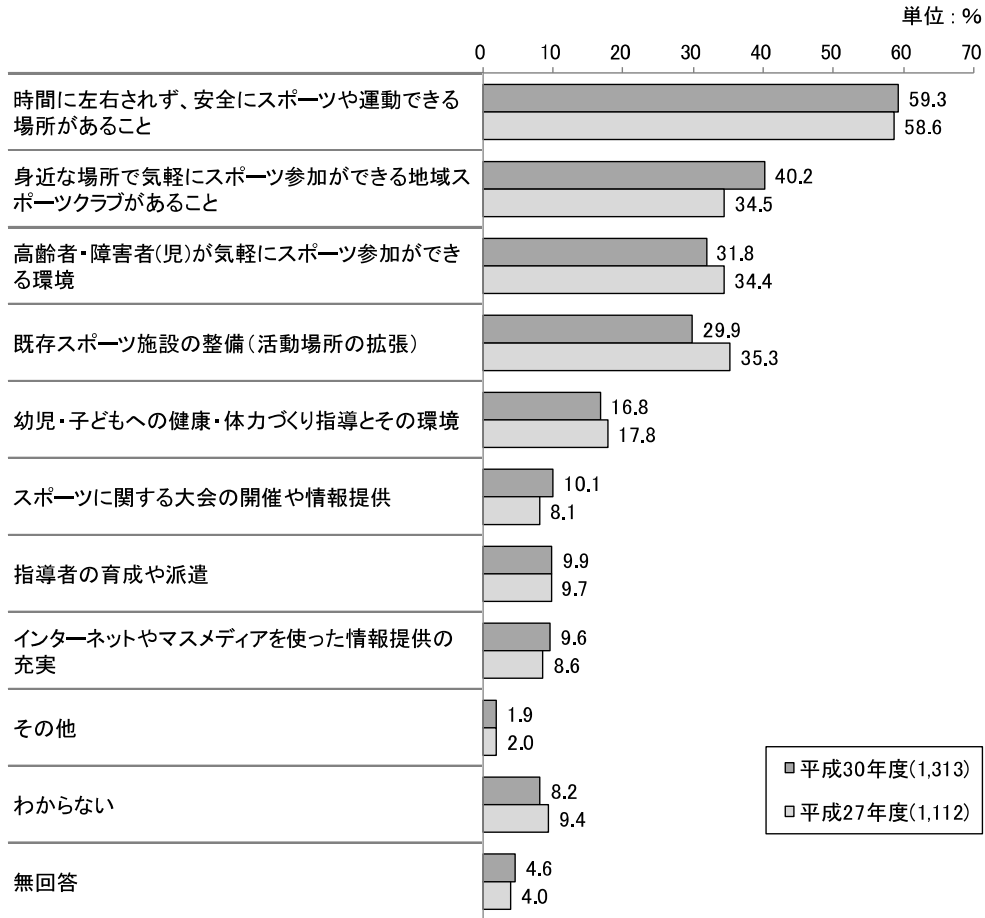
図表Ⅲ－８－７ 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと



誰もがスポーツを楽しむために重要なことは、「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所があること」(59.3%)が6割弱と最も高く、次いで「身近な場所で気軽にスポーツ参加ができる地域スポーツクラブがあること」(40.2%)、「高齢者・障害者(児)が気軽にスポーツ参加ができる環境」(31.8%)と続いている。(図表Ⅲ－８－７)

【経年変化】

図表Ⅲ－８－８ 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと（経年変化）

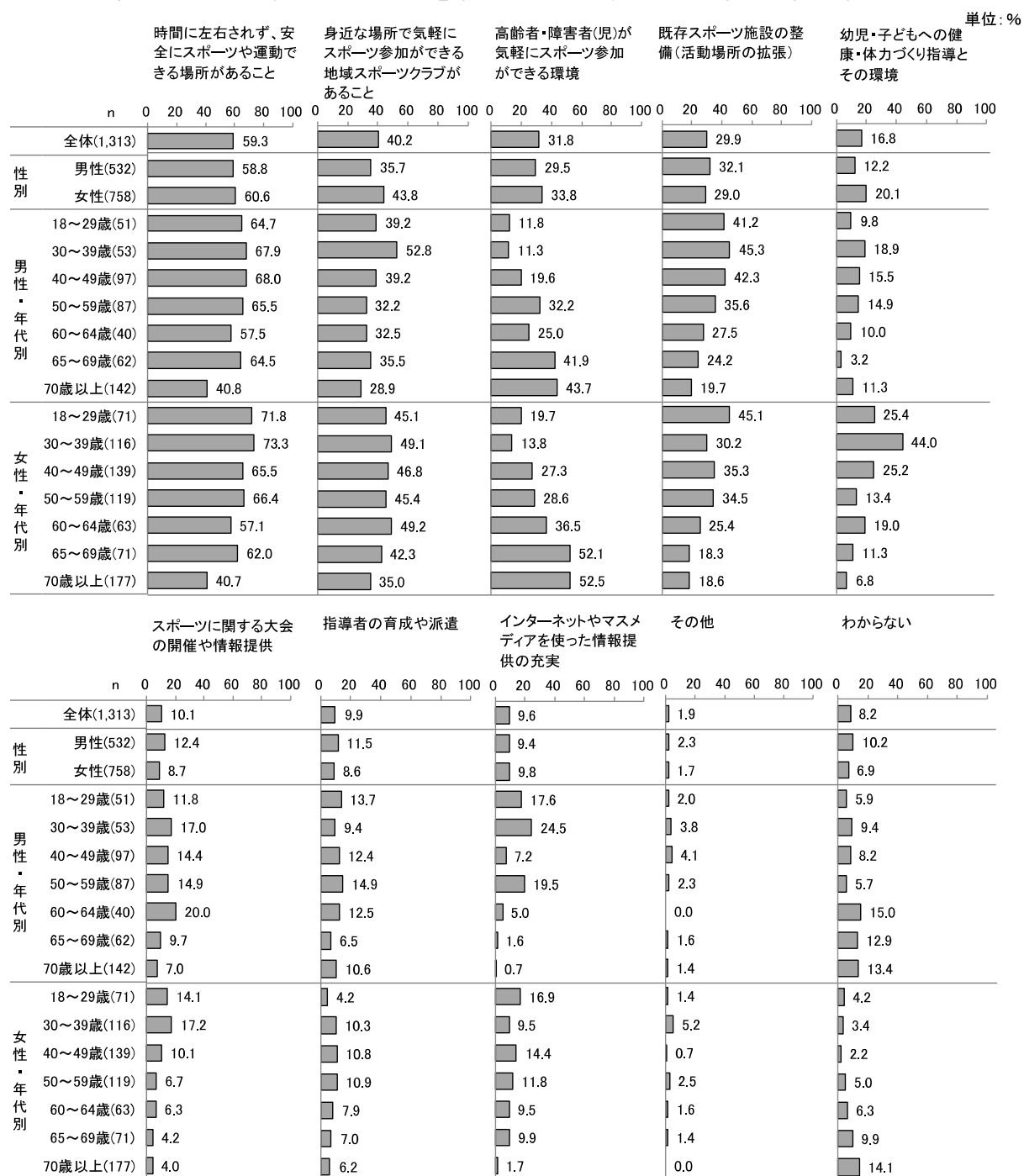


「身近な場所で気軽にスポーツ参加ができる地域スポーツクラブがあること」(40.2%)は、平成27年度調査(34.5%)より5.7ポイント、「スポーツに関する大会の開催や情報提供」(10.1%)は、平成27年度調査(8.1%)より2.0ポイント、それぞれ増加している。

一方、「既存スポーツ施設の整備(活動場所の拡張)」(29.9%)は、平成27年度調査(35.3%)より5.4ポイント、「高齢者・障害者(児)が気軽にスポーツ参加ができる環境」(31.8%)は、平成27年度調査(34.4%)より2.6ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－８－８)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－８－９ 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと（性別／性・年代別）



性別で見ると、「スポーツに関する大会の開催や情報提供」は、「男性」(12.4%)が「女性」(8.7%)より3.7ポイント高くなっている。一方、「身近な場所で気軽にスポーツ参加ができる地域スポーツクラブがあること」は、「女性」(43.8%)が「男性」(35.7%)より8.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所があること」は、男女ともに、69歳以下で5割以上となっている。また、「高齢者・障害者(児)が気軽にスポーツ参加ができる環境」は、65歳以上の「男性」が4割以上、「女性」が5割以上と他の年代よりも高くなっている。(図表Ⅲ－８－９)

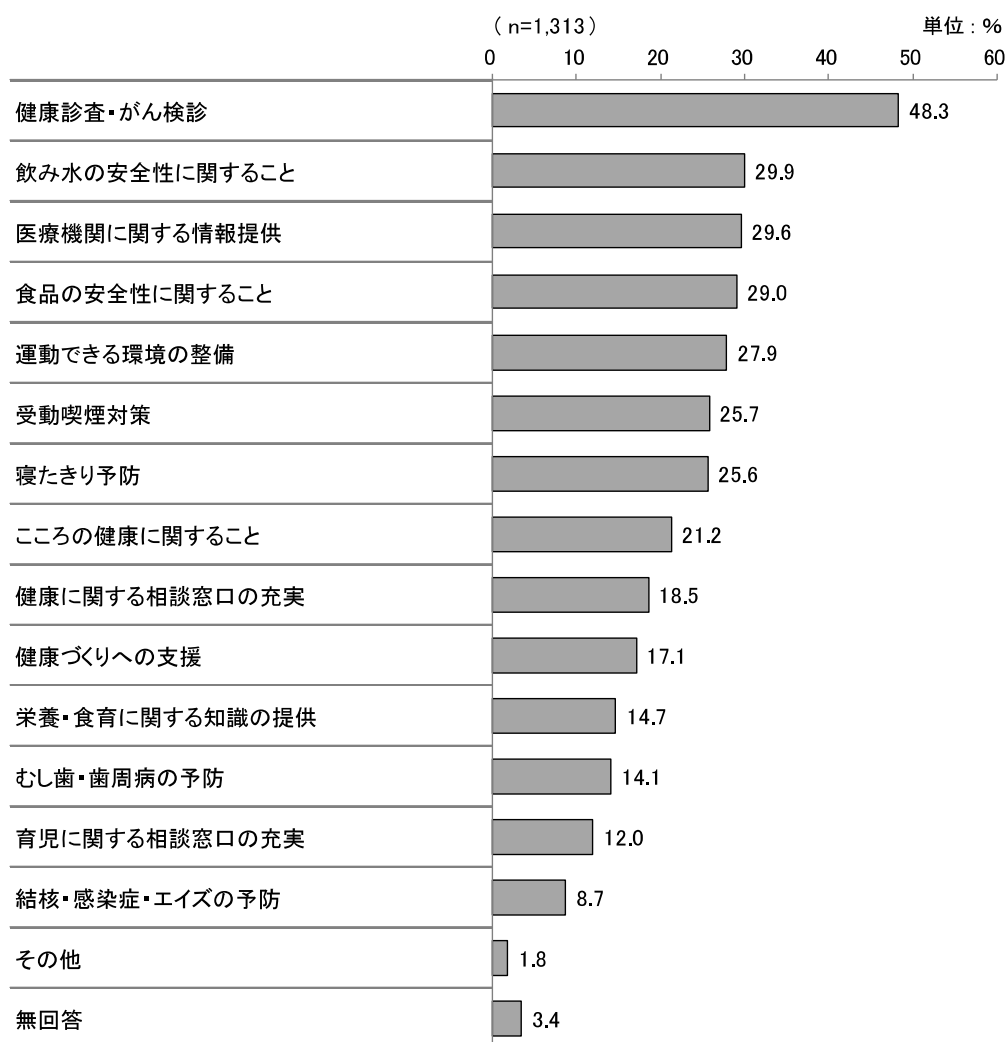
9. 健康

(1) 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと

◆ 「健康診査・がん検診」が5割近く

問16 あなたがより健康な生活を送るために、葛飾区にはどのようなことに力を入れてほしいですか（〇はいくつでも）。

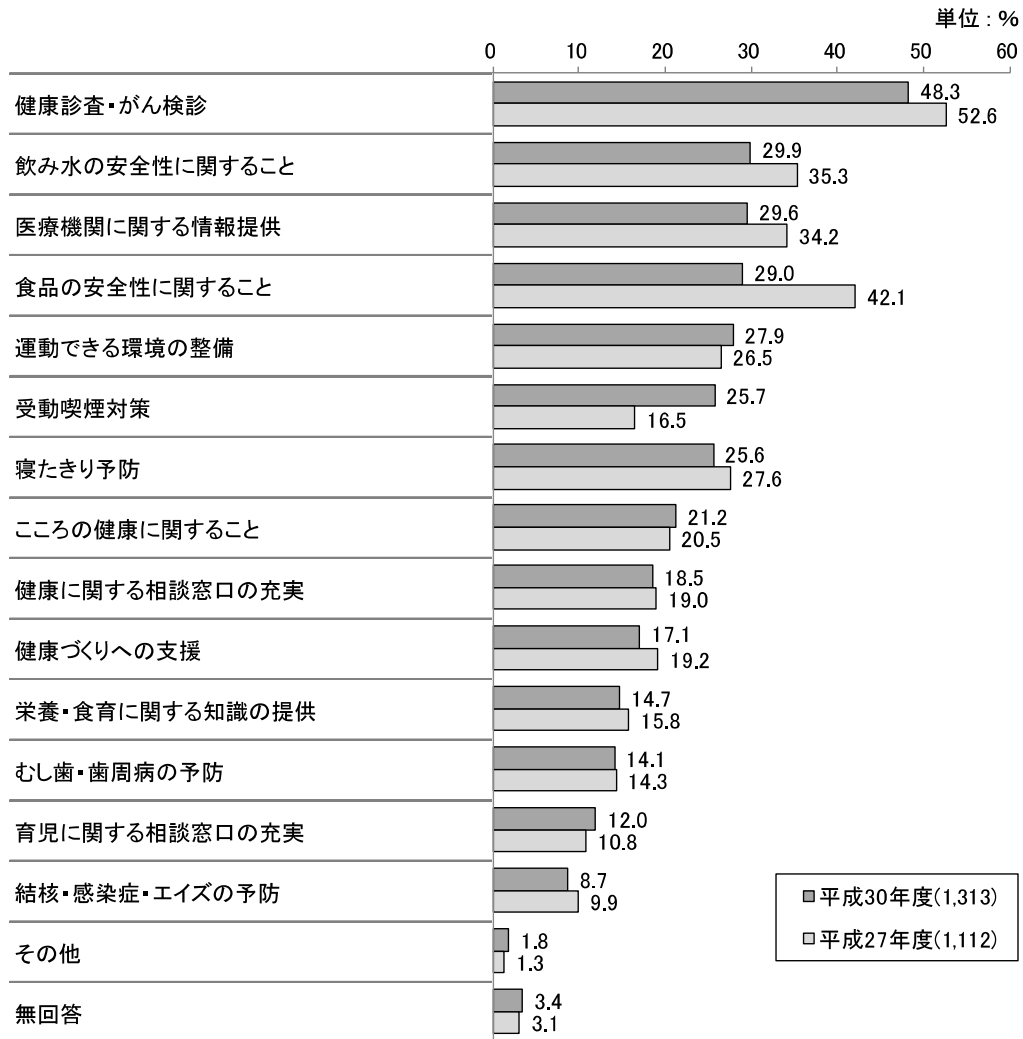
図表Ⅲ－9－1 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと



健康な生活を送るために力を入れてほしいことは、「健康診査・がん検診」（48.3%）が5割近くと最も高く、次いで「飲み水の安全性に関すること」（29.9%）、「医療機関に関する情報提供」（29.6%）と続いている。（図表Ⅲ－9－1）

【経年変化】

図表Ⅲ－９－２ 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと（経年変化）

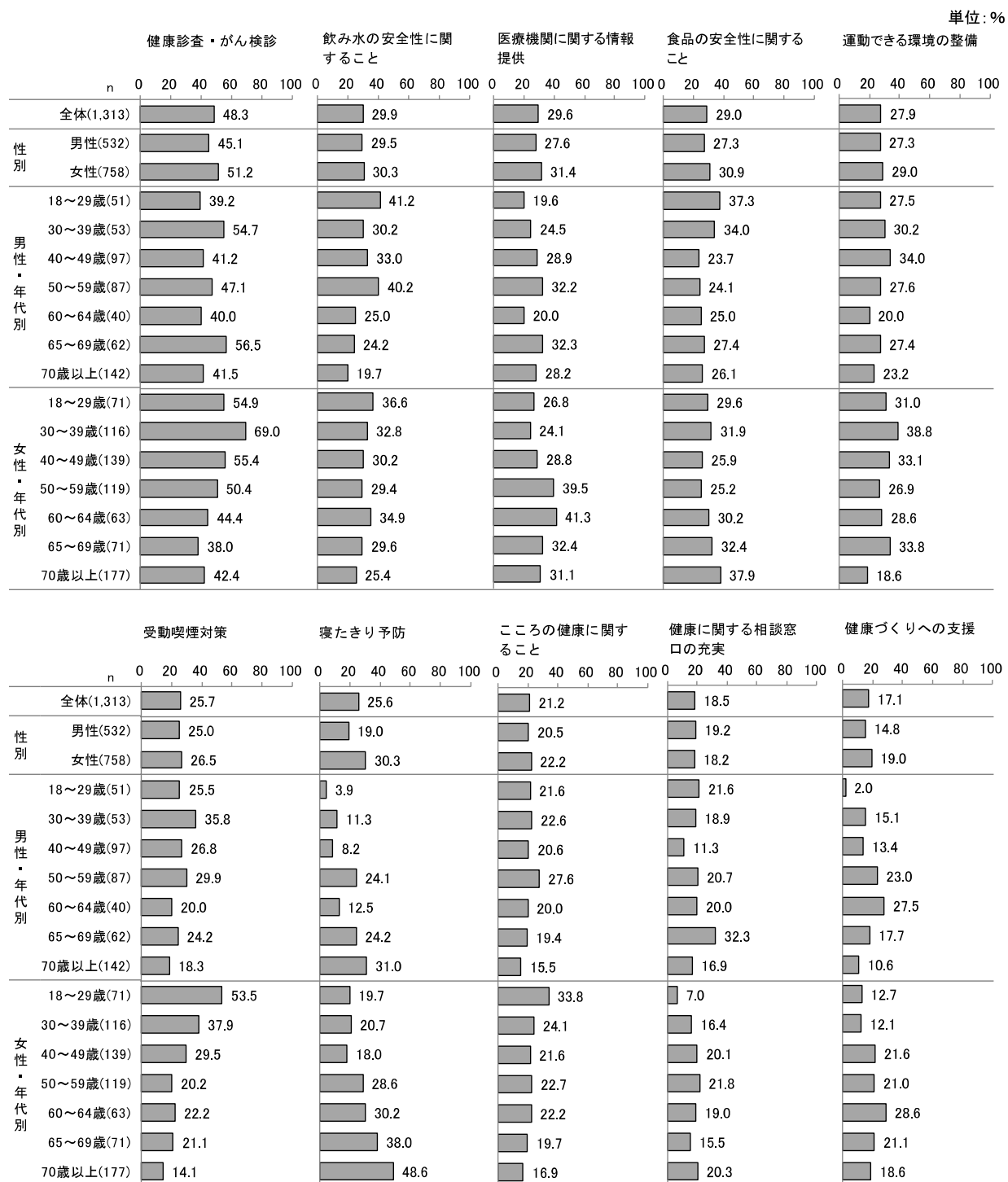


「受動喫煙対策」(25.7%)は、平成27年度調査(16.5%)より9.2ポイント、「運動できる環境の整備」(27.9%)は、平成27年度調査(26.5%)より1.4ポイント、それぞれ増加している。

一方、「食品の安全性に関すること」(29.0%)は、平成27年度調査(42.1%)より13.1ポイント、「飲み水の安全性に関すること」(29.9%)は、平成27年度調査(35.3%)より5.4ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－９－２)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－９－３ 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと（上位10項目）（性別／性・年代別）



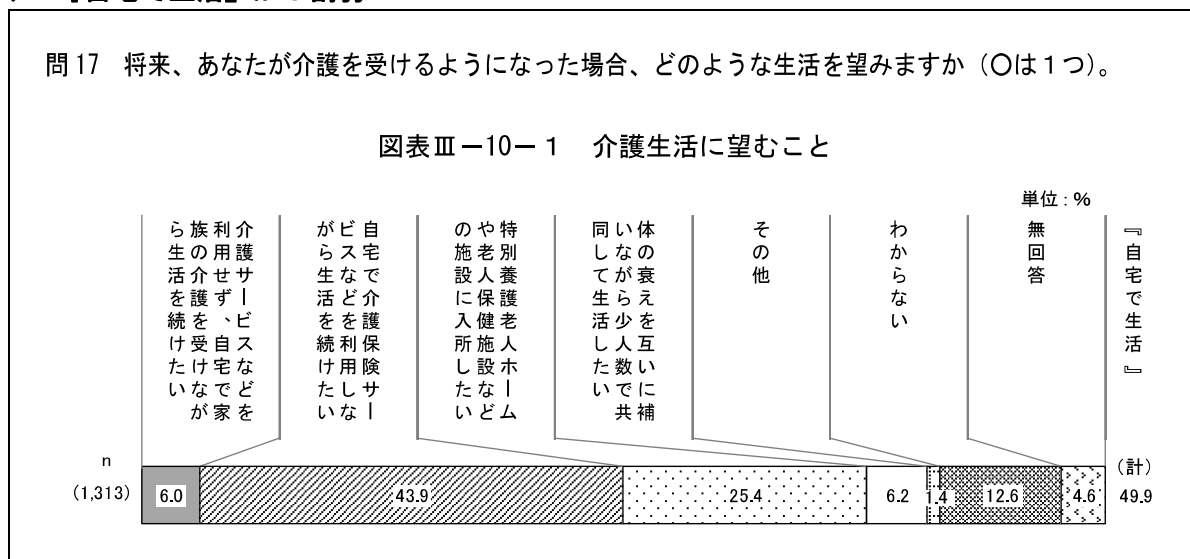
上位10項目について性別で見ると、「健康に関する相談窓口の充実」は、「男性」（19.2%）が「女性」（18.2%）より1.0ポイント高くなっている。一方、「寝たきり予防」は、「女性」（30.3%）が「男性」（19.0%）より11.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「健康診査・がん検診」は、「男性65～69歳」（56.5%）、「女性30～39歳」（69.0%）がそれぞれ最も高くなっている。また、「受動喫煙対策」は、「女性18～29歳」（53.5%）が5割強と最も高くなっている。（図表Ⅲ－9－3）

10. 高齢者支援

(1) 介護生活に望むこと

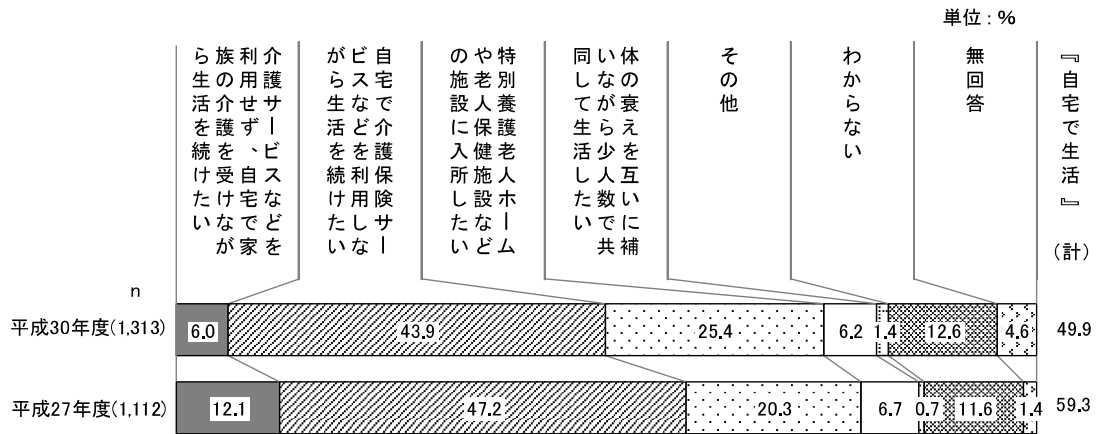
◆ 『自宅で生活』が5割弱



介護生活に望むことは、「自宅で介護保険サービスなどを利用しながら生活を続けたい」（43.9%）が4割強と最も高くなっている。また、これに「介護サービスなどを利用せず、自宅で家族の介護を受けながら生活を続けたい」（6.0%）を合わせた『自宅で生活』（49.9%）が5割弱となっている。（図表Ⅲ-10-1）

【経年変化】

図表Ⅲ-10-2 介護生活に望むこと（経年変化）

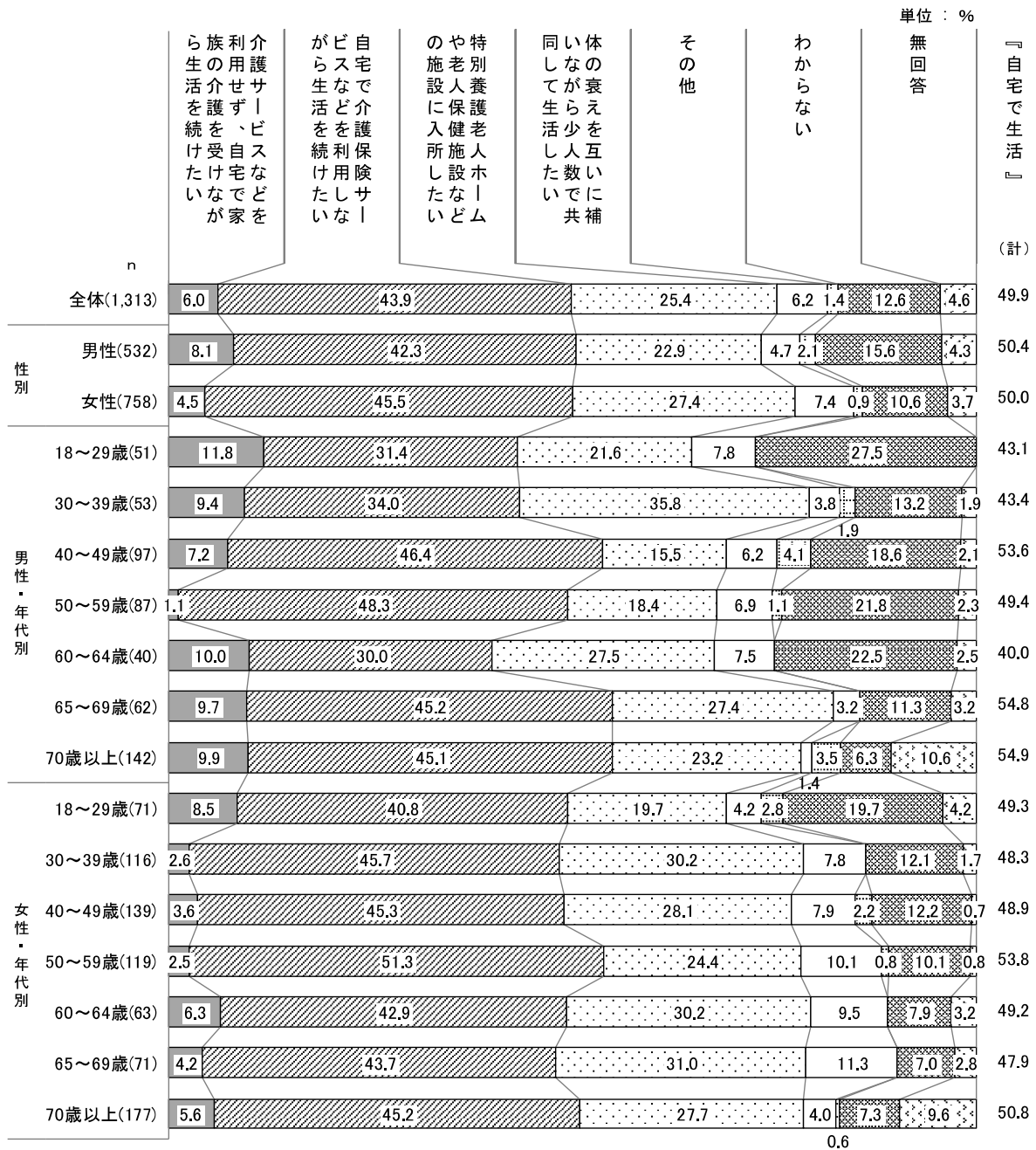


「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい」(25.4%)は、平成27年度調査(20.3%)より5.1ポイント増加している。

一方、『自宅で生活』(49.9%)は、平成27年度調査(59.3%)より9.4ポイント減少している。(図表Ⅲ-10-2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-10-3 介護生活に望むこと（性別／性・年代別）



性別でみると、「介護サービスなどを利用せず、自宅で家族の介護を受けながら生活を続けたい」は、「男性」(8.1%)が「女性」(4.5%)より3.6ポイント高くなっている。一方、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい」は、「女性」(27.4%)が「男性」(22.9%)より4.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「自宅で介護保険サービスなどを利用しながら生活を続けたい」は、「女性50～59歳」(51.3%)が最も高く、次いで「男性50～59歳」(48.3%)、「男性40～49歳」(46.4%)と続いている。(図表Ⅲ-10-3)

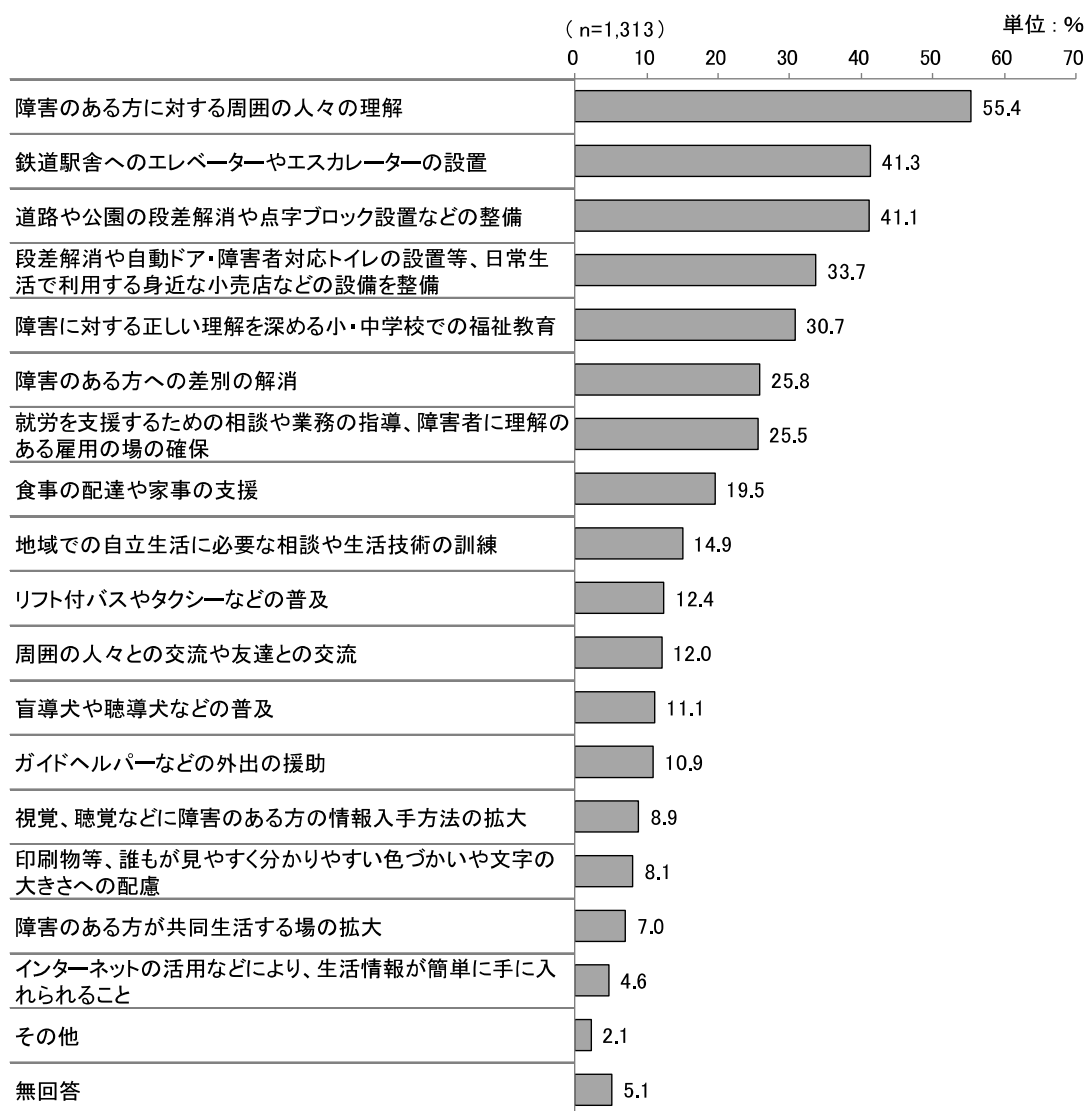
11. 障害者支援

(1) 障害者が安心して暮らすために重要なこと

◆ 「障害のある方に対する周囲の人々の理解」が5割台半ば

問18 障害がある方など誰もが安心して暮らせるためには、何が重要だと思いますか（〇は5つまで）。

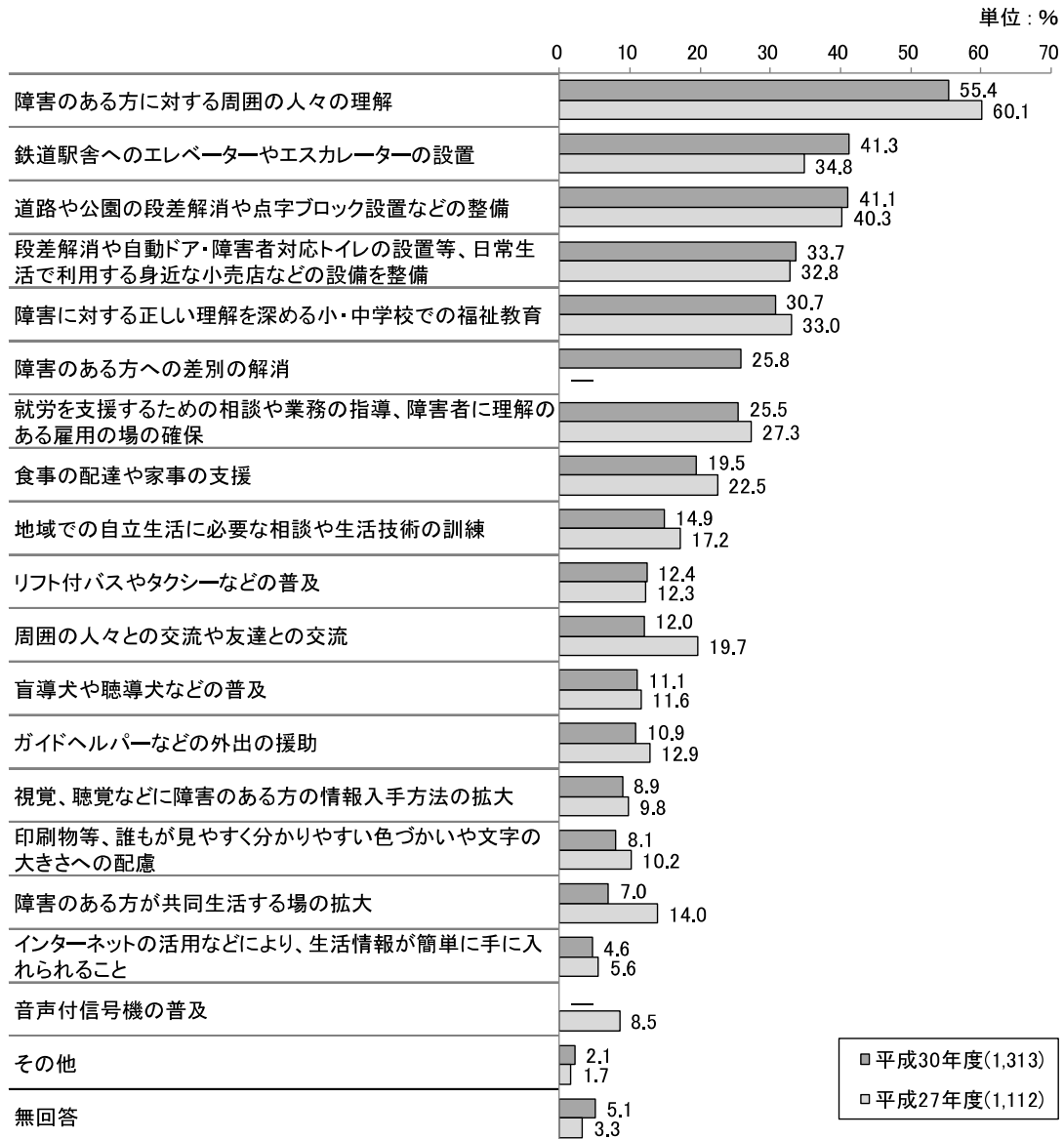
図表Ⅲ-11-1 障害者が安心して暮らすために重要なこと



障害者が安心して暮らすために重要なことは、「障害のある方に対する周囲の人々の理解」(55.4%)が5割台半ばと最も高く、次いで「鉄道駅舎へのエレベーターやエスカレーターの設置」(41.3%)、「道路や公園の段差解消や点字ブロック設置などの整備」(41.1%)と続いている。(図表Ⅲ-11-1)

【経年変化】

図表Ⅲ－11－2 障害者が安心して暮らすために重要なこと（経年変化）



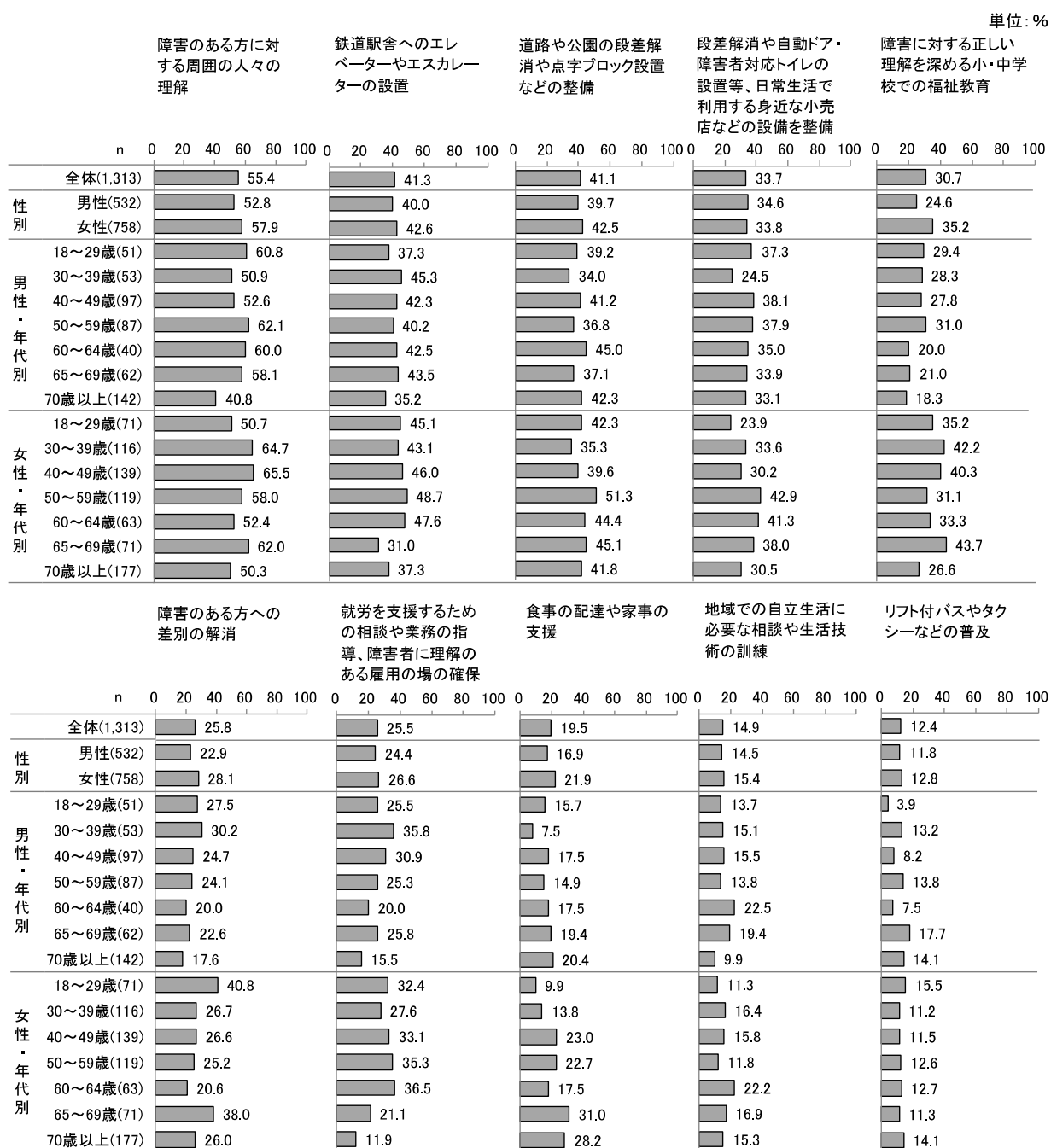
- ※ 平成30年度調査では、「障害のある方への差別の解消」が新たに追加された選択肢となっている。
- ※ 平成30年度調査では、「音声付信号機の普及」を除外している。

「鉄道駅舎へのエレベーターやエスカレーターを設置」（41.3%）は、平成27年度調査（34.8%）より6.5ポイント増加している。

一方、「周囲の人々との交流や友達との交流」（12.0%）は、平成27年度調査（19.7%）より7.7ポイント、「障害のある方が共同生活する場の拡大」（7.0%）は、平成27年度調査（14.0%）より7.0ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅲ－11－2）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-11-3 障害者が安心して暮らすために重要なこと（上位10項目）（性別／性・年代別）



上位10項目について性別で見ると、「段差解消や自動ドア・障害者対応トイレの設置等、日常生活で利用する身近な小売店などの設備を整備」は、「男性」(34.6%)が「女性」(33.8%)より0.8ポイント高くなっている。一方、「障害に対する正しい理解を深める小・中学校での福祉教育」は、「女性」(35.2%)が「男性」(24.6%)より10.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「障害のある方に対する周囲の人々の理解」は、「男性」の「18～29歳」(60.8%)、「50～59歳」(62.1%)、「60～64歳」(60.0%)が6割以上となっている。また、「女性」は「30～39歳」(64.7%)、「40～49歳」(65.5%)、「65～69歳」(62.0%)が6割以上となっている。(図表Ⅲ-11-3)

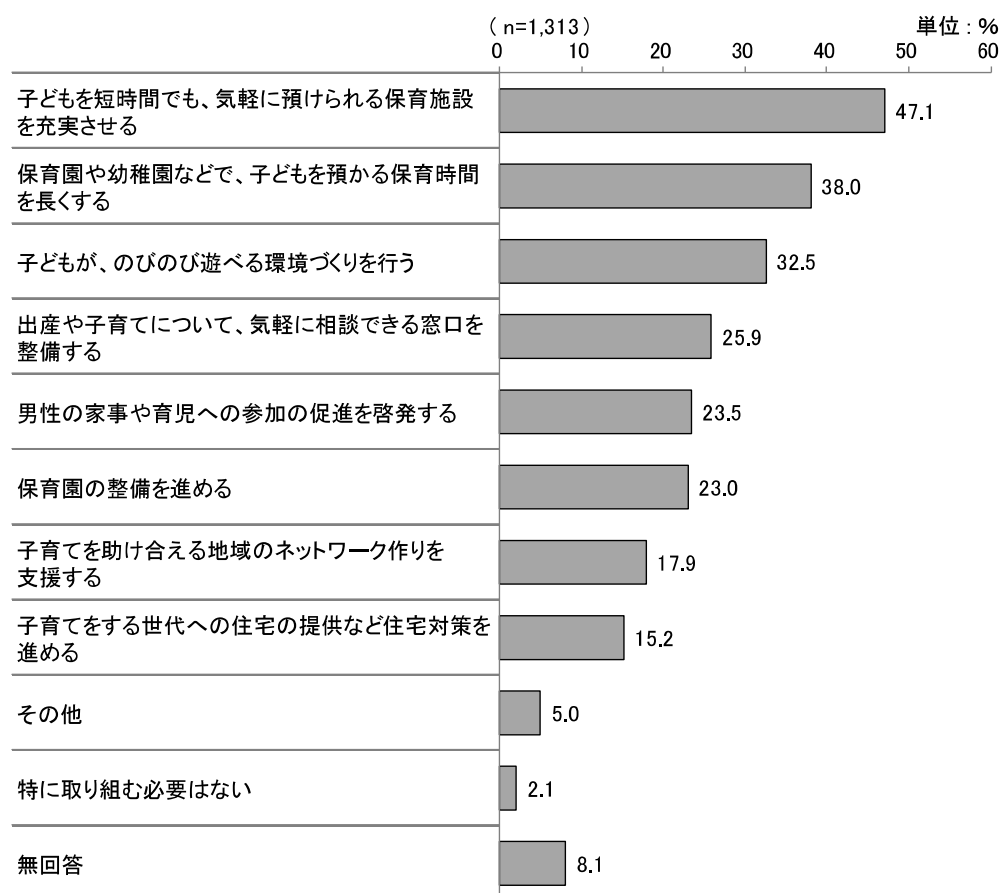
12. 子育て

(1) 少子化対策における必要な施策

◆ 「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」が5割近く

問19 少子化社会の中で、葛飾区はどのような施策を進めていく必要があると思いますか（〇は3つまで）。

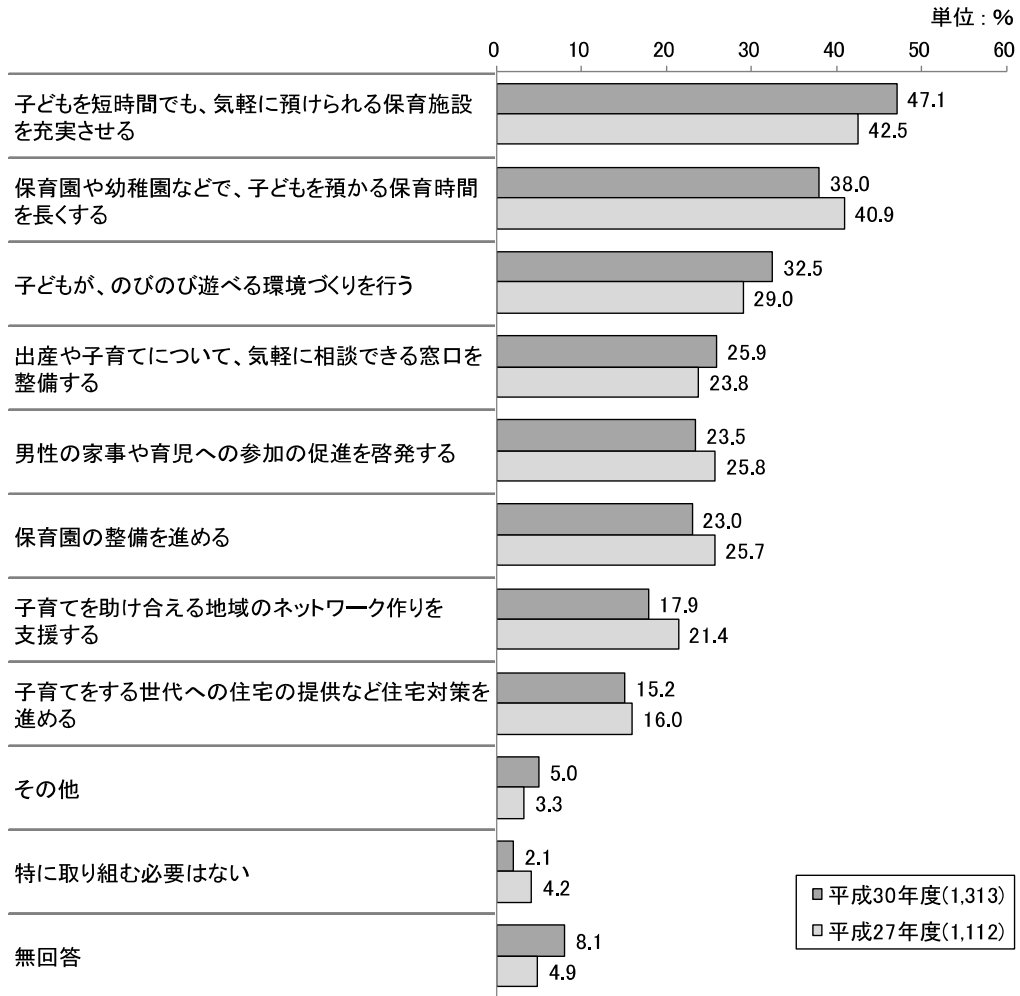
図表Ⅲ-12-1 少子化対策における必要な施策



少子化対策における必要な施策は、「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」(47.1%)が5割近くと最も高くなっている。次いで「保育園や幼稚園などで、子どもを預かる保育時間を長くする」(38.0%)、「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」(32.5%)が続いている。(図表Ⅲ-12-1)

【経年変化】

図表Ⅲ－12－2 少子化対策における必要な施策（経年変化）

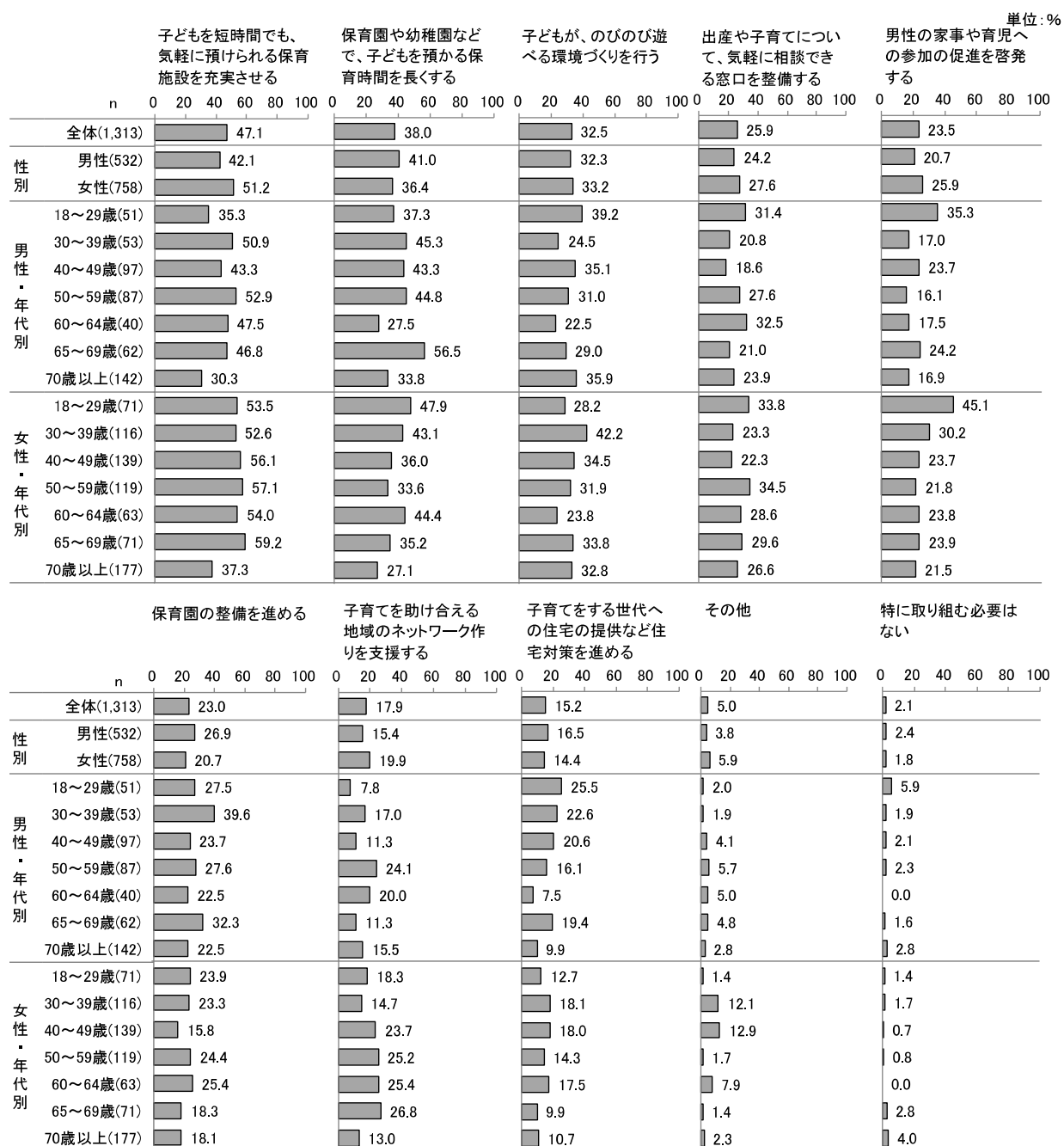


「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」（47.1％）は、平成27年度調査（42.5％）より4.6ポイント、「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」（32.5％）は、平成27年度調査（29.0％）より3.5ポイント、それぞれ増加している。

一方、「子育てを助け合える地域のネットワーク作りを支援する」（17.9％）は、平成27年度調査（21.4％）より3.5ポイント、「保育園や幼稚園などで、子どもを預かる保育時間を長くする」（38.0％）は、平成27年度調査（40.9％）より2.9ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅲ－12－2）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-12-3 少子化対策における必要な施策（性別／性・年代別）

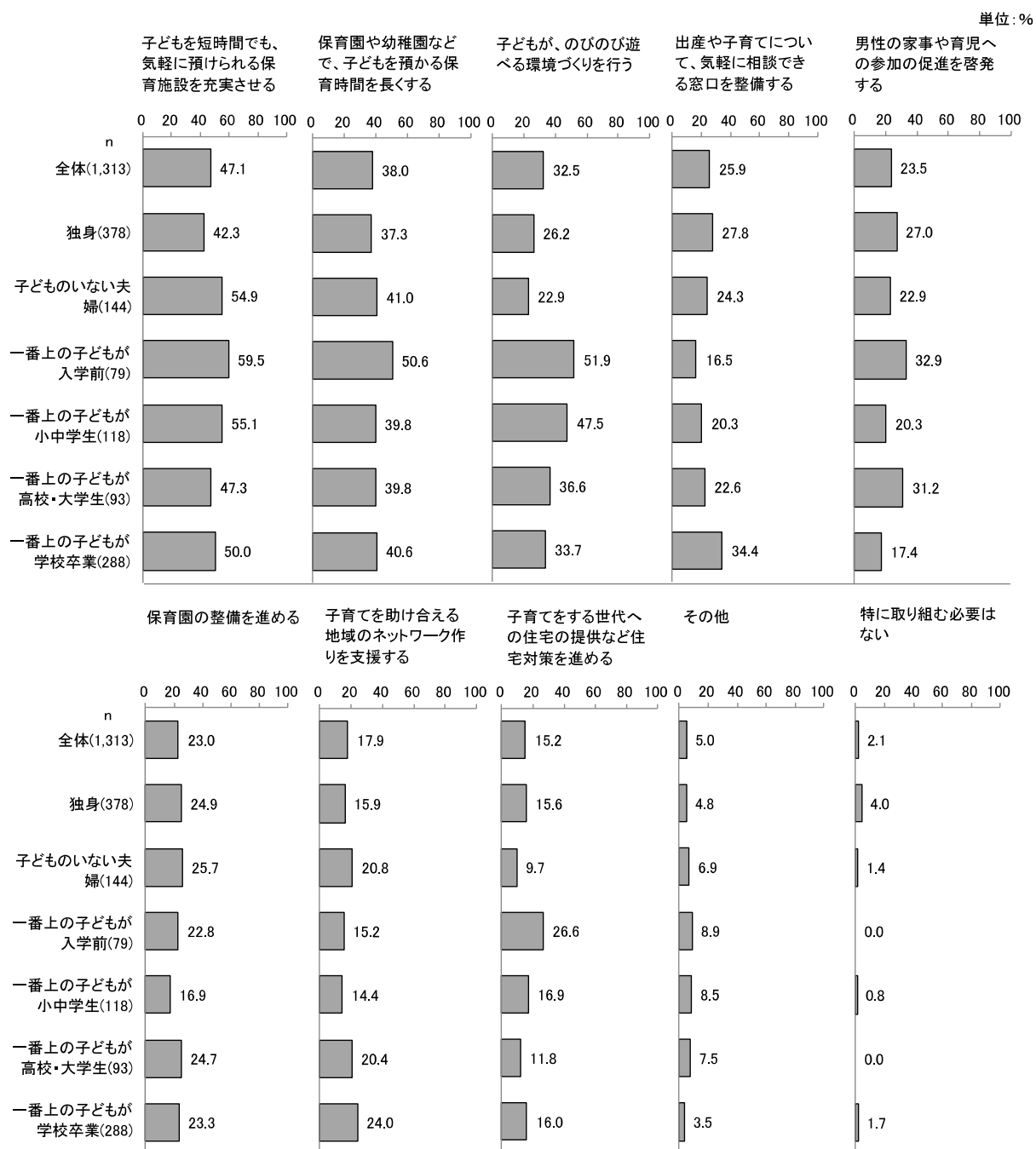


性別で見ると、「保育園の整備を進める」は、「男性」(26.9%)が「女性」(20.7%)より6.2ポイント高くなっている。一方、「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」は、「女性」(51.2%)が「男性」(42.1%)より9.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「保育園や幼稚園などで、子どもを預かる保育時間を長くする」は、「男性65～69歳」(56.5%)が6割近くと最も高くなっている。また、「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」は、69歳以下の「女性」で5割以上となっている。(図表Ⅲ-12-3)

【ご自身の状況別】

図表Ⅲ-12-4 少子化対策における必要な施策（ご自身の状況別）



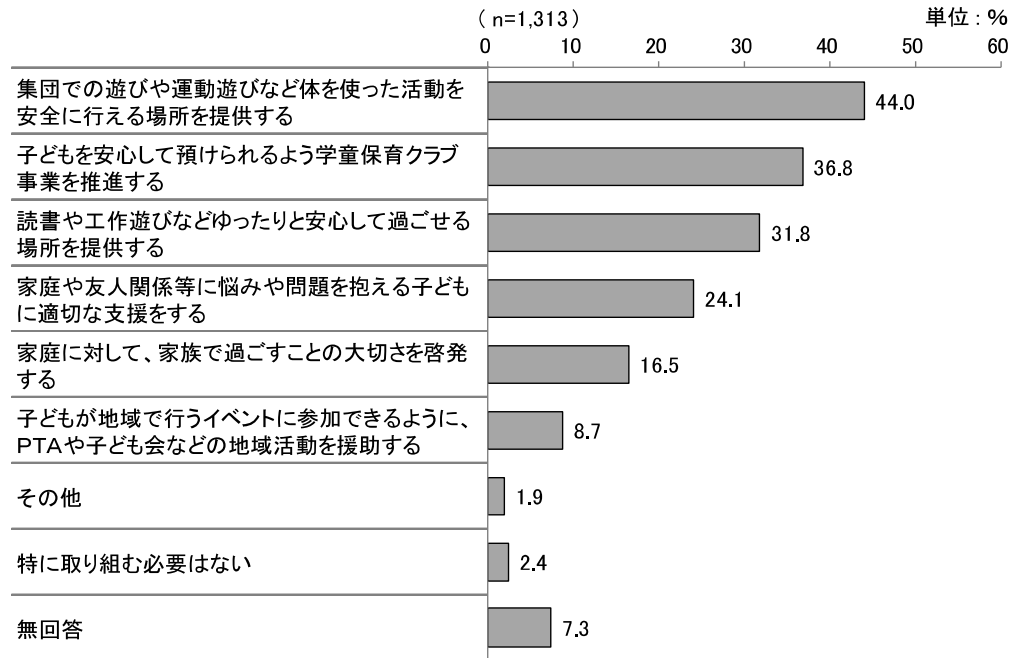
ご自身の状況別でみると、「一番上の子どもが入学前」が、「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」(59.5%)、「保育園や幼稚園などで、子どもを預かる保育時間を長くする」(50.6%)、「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」(51.9%)において、5割以上となっている。(図表Ⅲ-12-4)

(2) 子どもたちの放課後等の過ごし方に必要な施策

◆ 「集団での遊びや運動遊びなど体を使った活動を安全に行える場所を提供する」が4割台半ば

問 20 子どもたちの放課後等の過ごし方について、葛飾区はどのような施策を進めていく必要があると思いますか（〇は2つまで）。

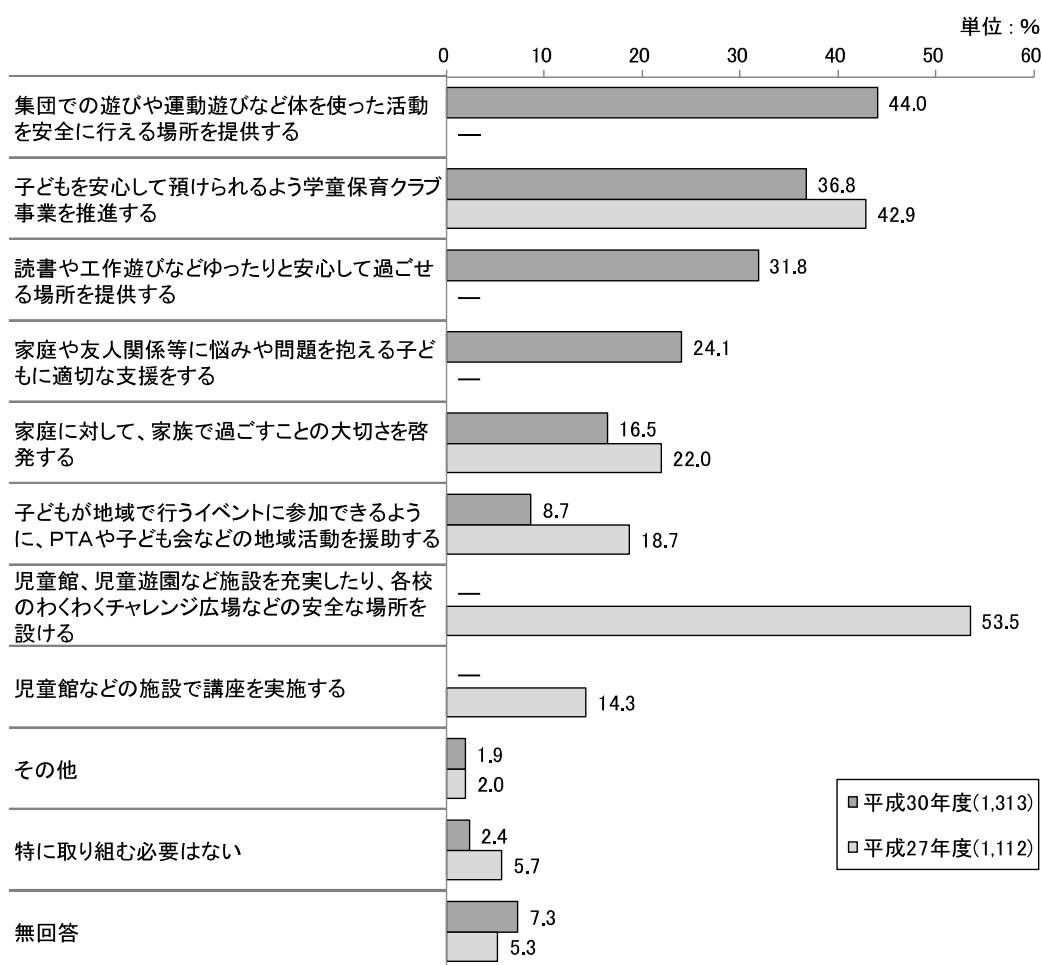
図表Ⅲ-12-5 子どもたちの放課後等の過ごし方に必要な施策



子どもたちの放課後等の過ごし方に必要な施策は、「集団での遊びや運動遊びなど体を使った活動を安全に行える場所を提供する」(44.0%)が4割台半ばと最も高く、次いで「子どもを安心して預けられるよう学童保育クラブ事業を推進する」(36.8%)、「読書や工作遊びなどゆったりと安心して過ごせる場所を提供する」(31.8%)と続いている。(図表Ⅲ-12-5)

【経年変化】

図表Ⅲ－12－6 子どもたちの放課後等の過ごし方に必要な施策（経年変化）



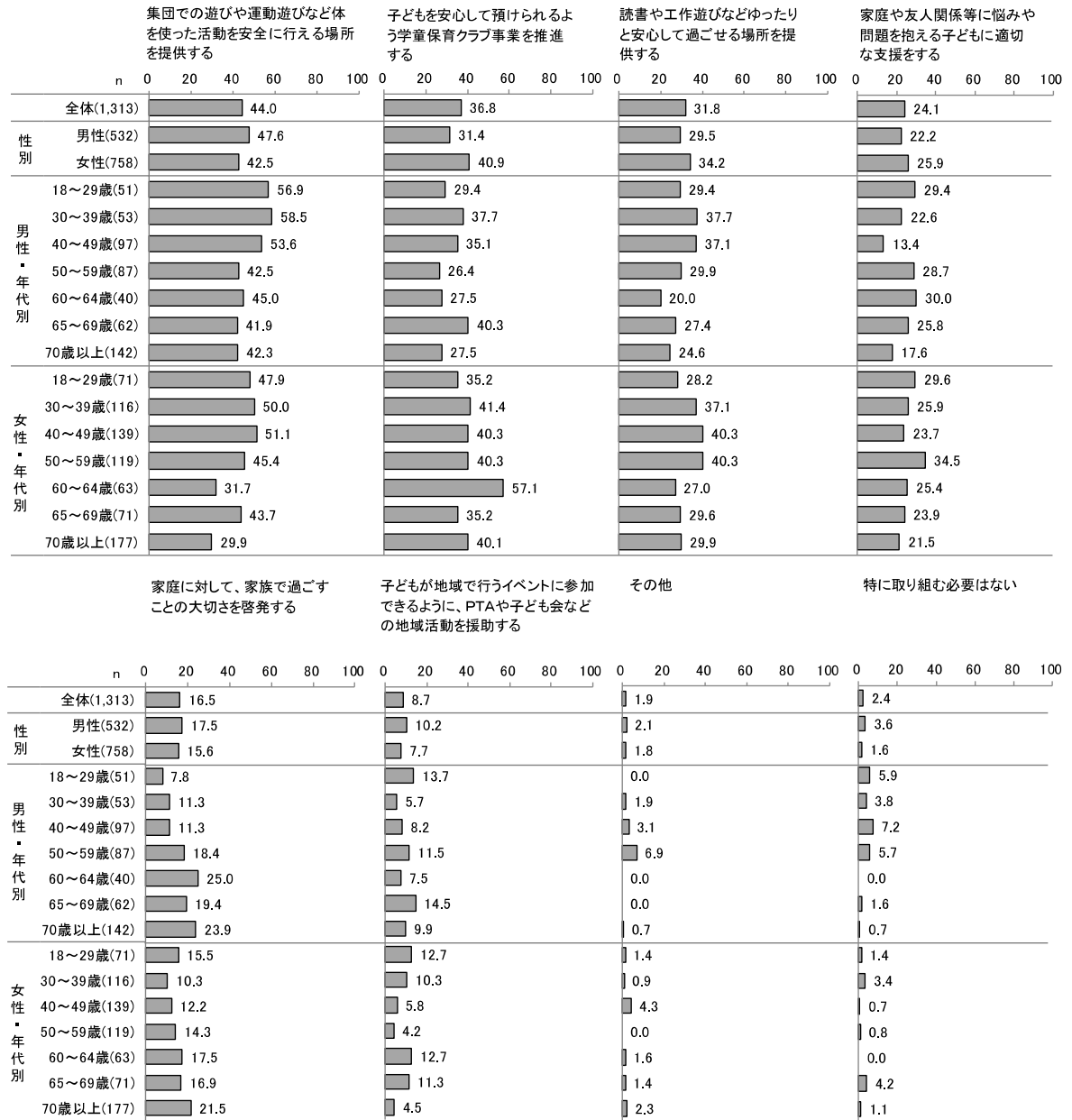
- ※ 平成30年度調査では、「集団での遊びや運動遊びなど体を使った活動を安全に行える場所を提供する」、「読書や工作遊びなどゆったりと安心して過ごせる場所を提供する」、「家庭や友人関係等に悩みや問題を抱える子どもに適切な支援をする」が新たに追加された選択肢となっている。
- ※ 平成30年度調査では、「子どもを安心して預けられるよう学童保育クラブ事業を推進する」を平成27年度調査の「学童保育クラブの整備促進」と比較している。
- ※ 平成30年度調査では、「児童館、児童遊園など施設を充実したり、各校のわくわくチャレンジ広場などの安全な場所を設ける」、「児童館などの施設で講座を実施する」を除外している。

「子どもが地域で行うイベントに参加できるように、PTAや子ども会などの地域活動を援助する」(8.7%)は平成27年度調査(18.7%)より10.0ポイント、「子どもを安心して預けられるよう学童保育クラブ事業を推進する」(36.8%)は、平成27年度調査(42.9%)より6.1ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－12－6)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-12-7 子どもたちの放課後等の過ごし方に必要な施策（性別／性・年代別）

単位：%

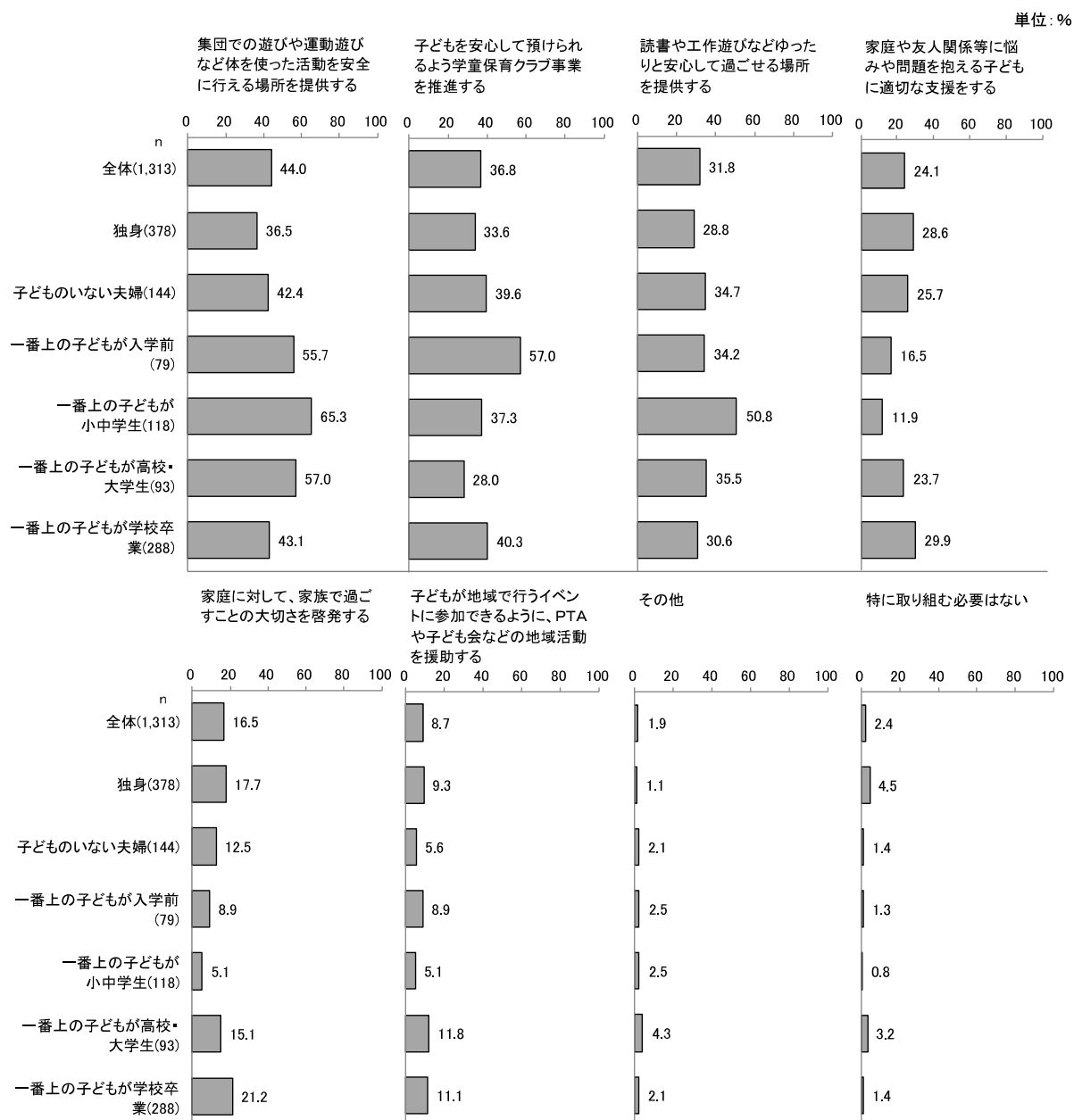


性別で見ると、「集団での遊びや運動遊びなど体を使った活動を安全に行える場所を提供する」は、「男性」(47.6%)が「女性」(42.5%)より5.1ポイント高くなっている。一方、「子どもを安心して預けられるよう学童保育クラブ事業を推進する」は、「女性」(40.9%)が「男性」(31.4%)より9.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「集団での遊びや運動遊びなど体を使った活動を安全に行える場所を提供する」は、「男性」の18～49歳と「女性」の30～49歳が5割以上と、他の年代と比べ高くなっている。また、「子どもを安心して預けられるよう学童保育クラブ事業を推進する」では、「女性 60～64歳」(57.1%)が6割近くとなっている。(図表Ⅲ-12-7)

【ご自身の状況別】

図表Ⅲ-12-8 子どもたちの放課後等の過ごし方に必要な施策（ご自身の状況別）



ご自身の状況別でみると、「集団での遊びや運動遊びなど体を使った活動を安全に行える場所を提供する」は、「一番上の子どもが小中学生」（65.3%）が最も高くなっている。

また、「子どもを安心して預けられるよう学童保育クラブ事業を推進する」は、「一番上の子どもが入学前」（57.0%）が最も高くなっている。（図表Ⅲ-12-8）

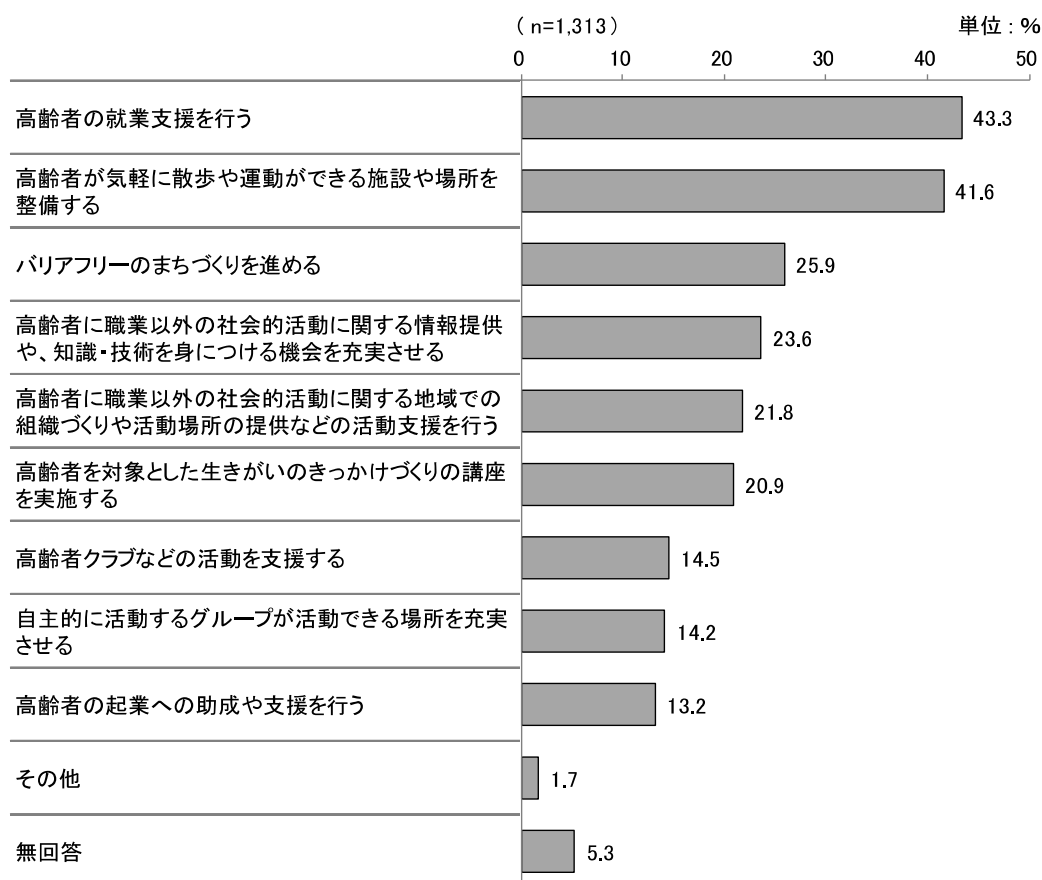
13. 高齢社会への対応

(1) 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策

◆ 「高齢者の就業支援を行う」が4割強

問 21 高齢社会の中で葛飾区は社会参加を促すため、どのような施策を進めていく必要があると思いますか（〇は3つまで）。

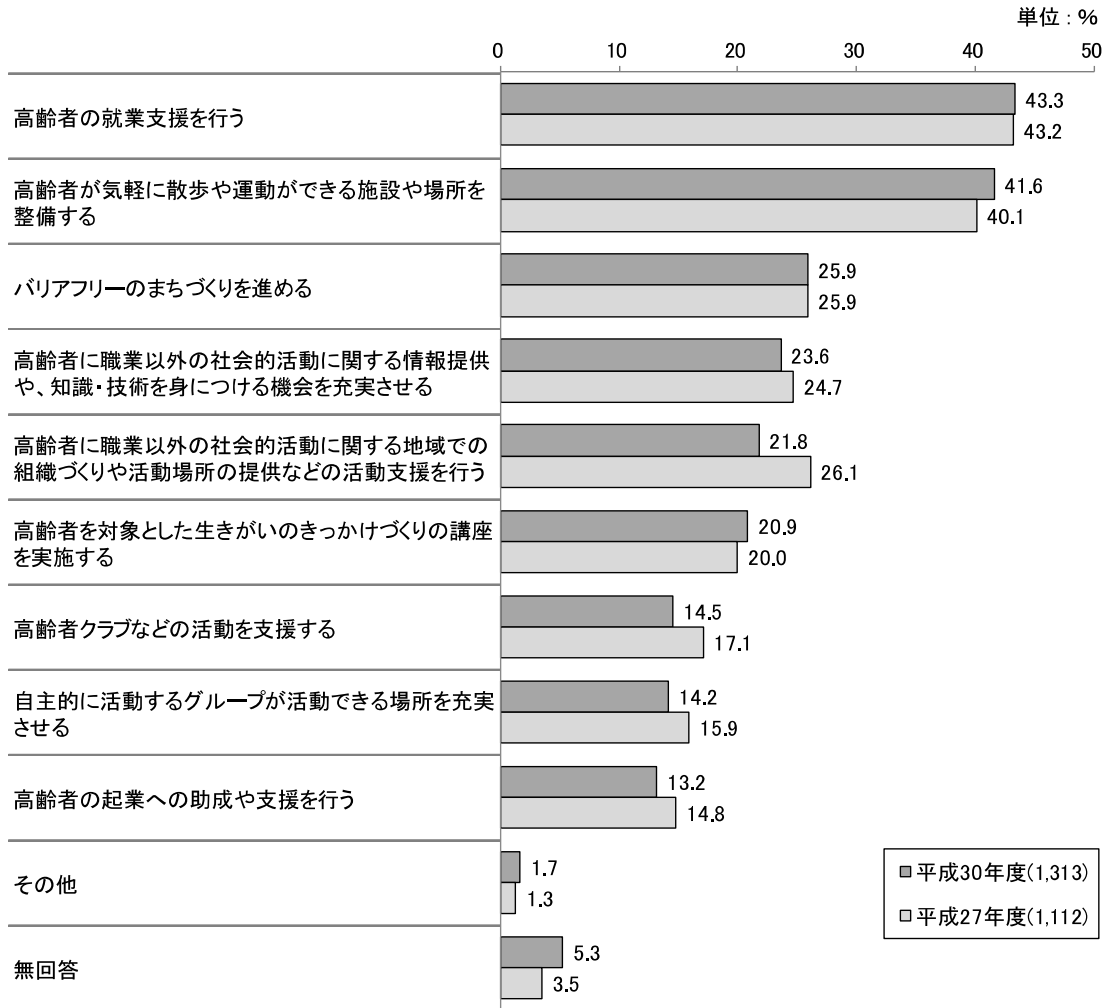
図表Ⅲ-13-1 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策



高齢社会の社会参加を促すために必要な施策は、「高齢者の就業支援を行う」（43.3%）が4割強と最も高く、次いで「高齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」（41.6%）、「バリアフリーのまちづくりを進める」（25.9%）と続いている。（図表Ⅲ-13-1）

【経年変化】

図表Ⅲ－13－2 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策（経年変化）



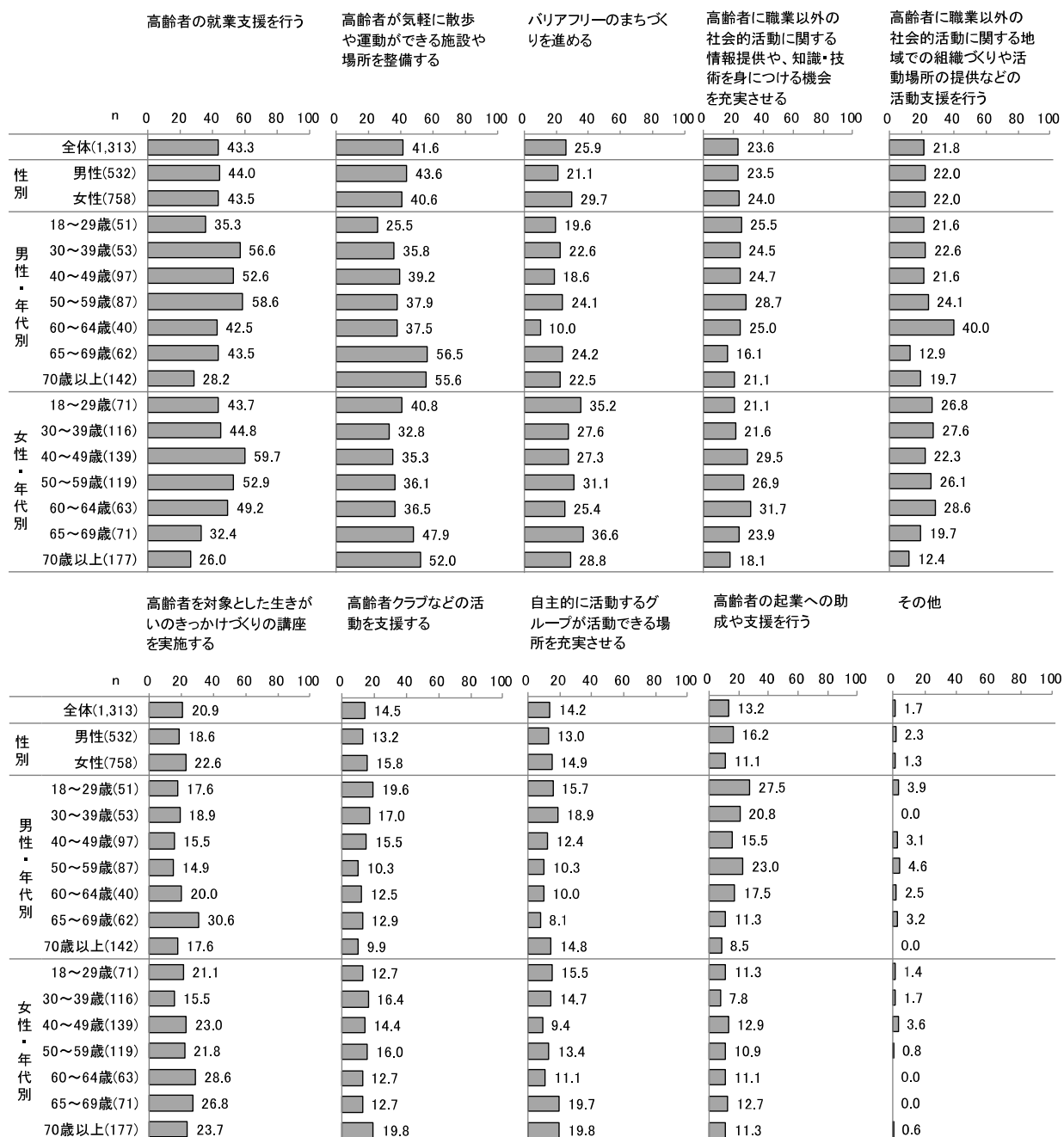
「高齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」（41.6％）は、平成 27 年度調査（40.1％）より 1.5 ポイント増加している。

一方、「高齢者に職業以外の社会的活動に関する地域での組織づくりや活動場所の提供などの活動支援を行う」（21.8％）は、平成 27 年度調査（26.1％）より 4.3 ポイント減少している。（図表Ⅲ－13－2）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－13－3 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策（性別／性・年代別）

単位：%

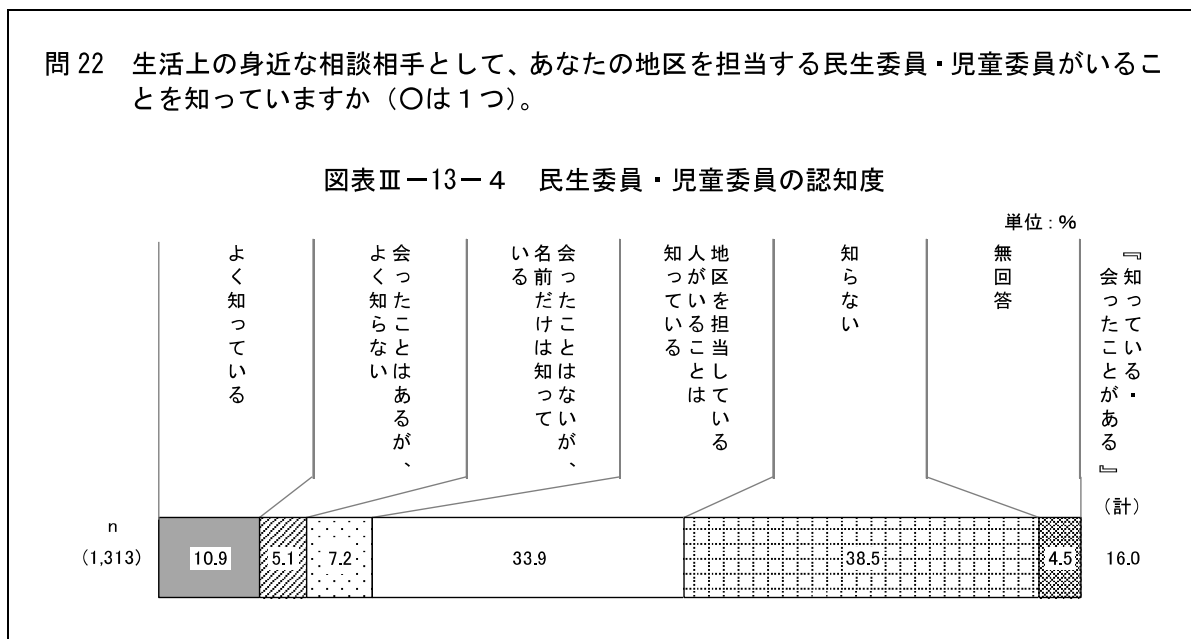


性別で見ると、「高齢者の起業への助成や支援を行う」は、「男性」(16.2%)が「女性」(11.1%)より5.1ポイント高くなっている。一方、「バリアフリーのまちづくりを進める」は、「女性」(29.7%)が「男性」(21.1%)より8.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「高齢者の就業支援を行う」は、「男性」30～59歳および「女性」40～59歳で5割以上となっており、他の年代と比べ高くなっている。また、「高齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」では、「男性」65歳以上と「女性」70歳以上が5割以上となっている。(図表Ⅲ－13－3)

(2) 民生委員・児童委員の認知度

◆ 『知っている・会ったことがある』が2割近く

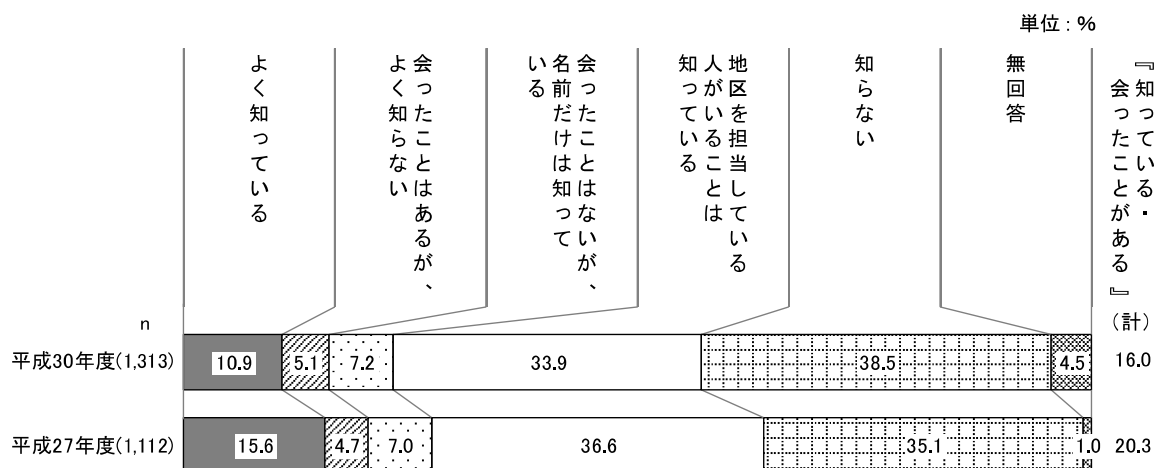


民生委員・児童委員の認知度は、「知らない」(38.5%)が4割近くと最も高く、次いで「地区を担当している人がいることは知っている」(33.9%)と続いている。

「よく知っている」(10.9%)と「会ったことはあるが、よく知らない」(5.1%)を合わせた『知っている・会ったことがある』(16.0%)は、2割近くとなっている。(図表Ⅲ-13-4)

【経年変化】

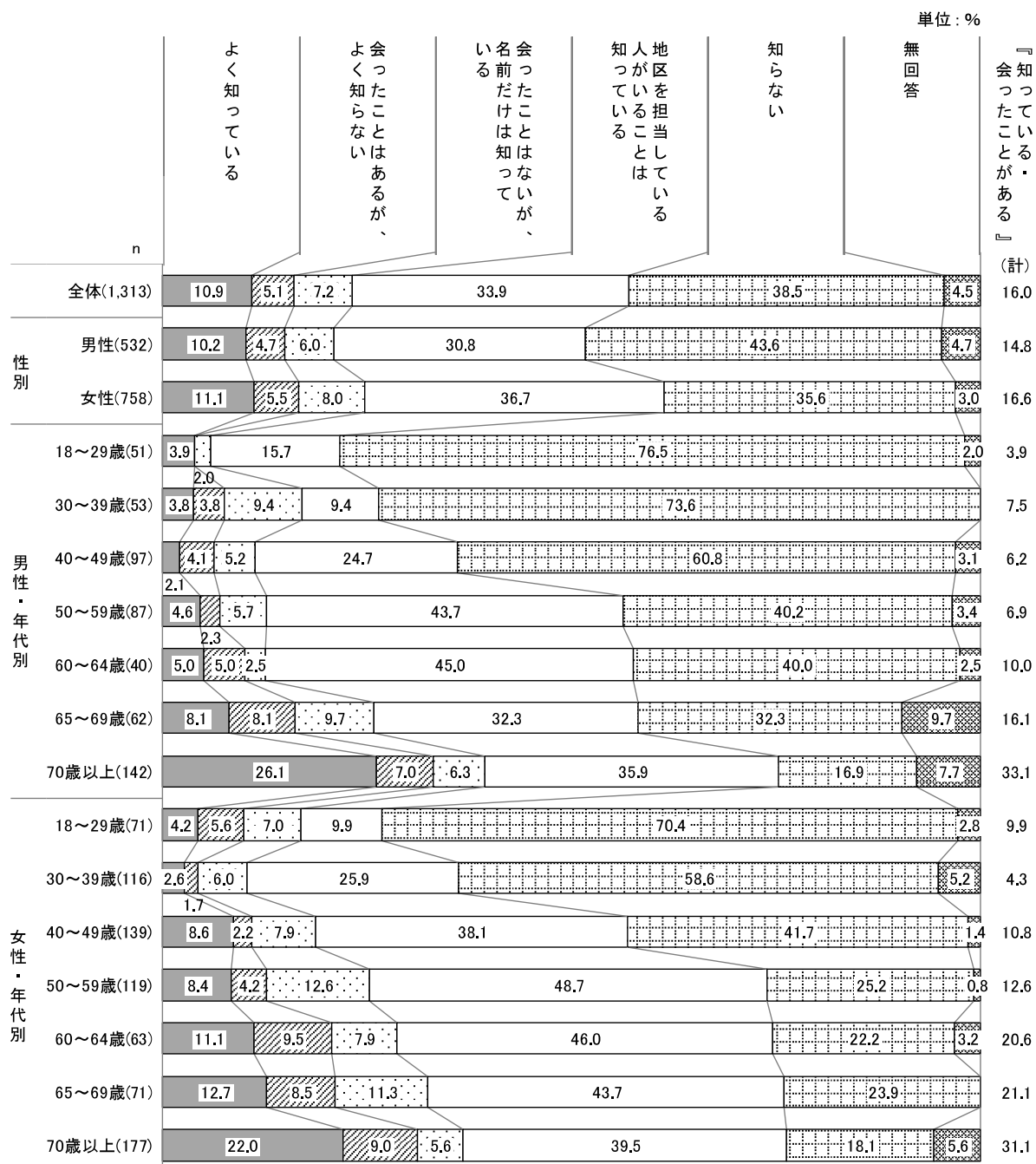
図表Ⅲ-13-5 民生委員・児童委員の認知度(経年変化)



『知っている・会ったことがある』(16.0%)は、平成27年度調査(20.3%)より4.3ポイント減少している。一方、「知らない」(38.5%)は、平成27年度調査(35.1%)より3.4ポイント増加している。(図表Ⅲ-13-5)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-13-6 民生委員・児童委員の認知度（性別／性・年代別）

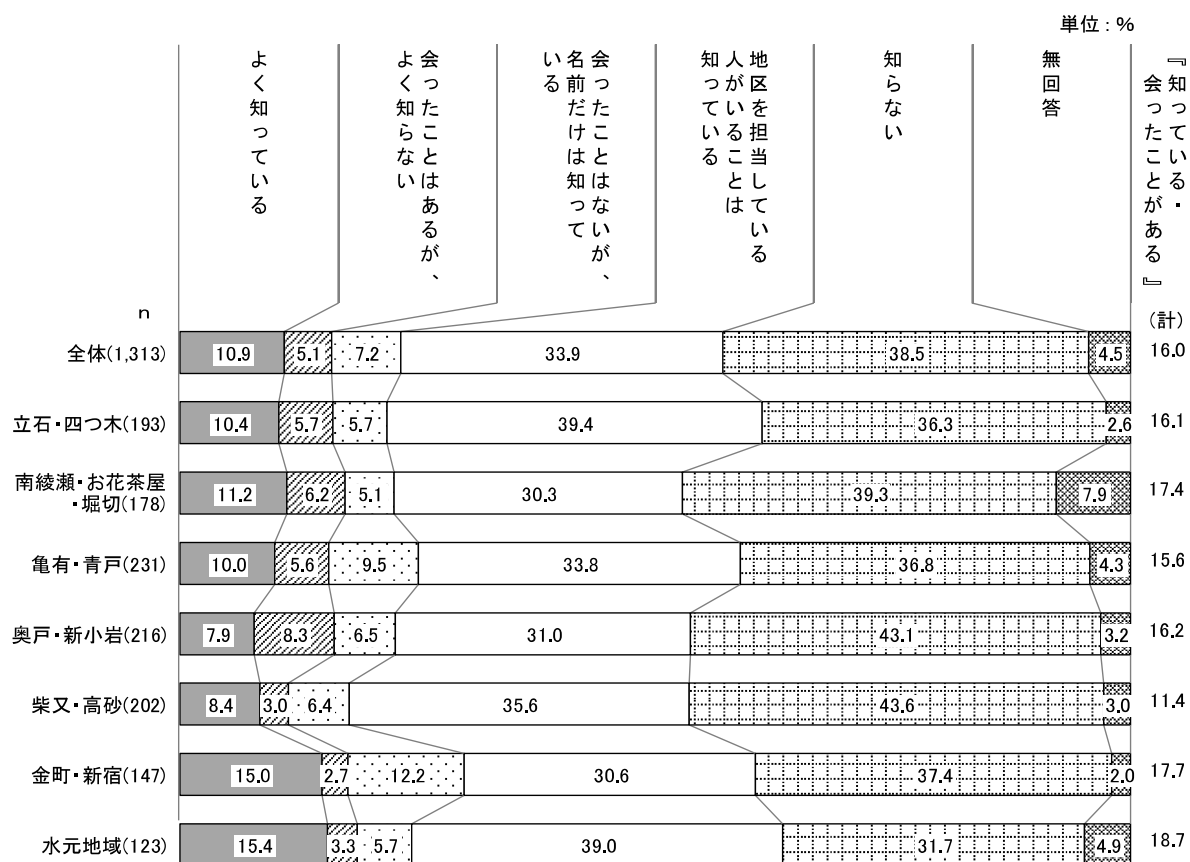


性別で見ると、『知っている・会ったことがある』は、「女性」(16.6%)が「男性」(14.8%)より1.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知らない」が男女ともに「18～29歳」が7割以上となっている。一方、『知っている・会ったことがある』は、男女ともに「70歳以上」が3割以上となっている。(図表Ⅲ-13-6)

【居住地域別】

図表Ⅲ-13-7 民生委員・児童委員の認知度（居住地域別）



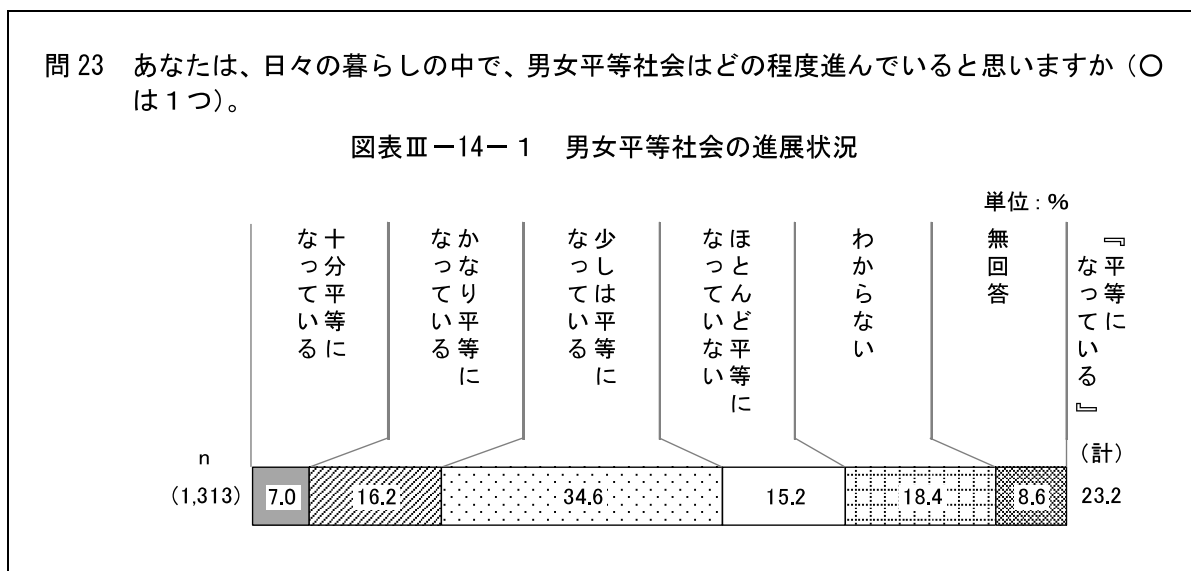
居住地域別でみると、『知っている・会ったことがある』は、「水元地域」（18.7%）が最も高く、次いで「金町・新宿」（17.7%）、「南綾瀬・お花茶屋・堀切」（17.4%）と続いている。

一方、「知らない」は、「柴又・高砂」（43.6%）が最も高くなっており、次いで「奥戸・新小岩」（43.1%）、「南綾瀬・お花茶屋・堀切」（39.3%）と続いている。（図表Ⅲ-13-7）

14. 男女平等社会の実現

(1) 男女平等社会の進展状況

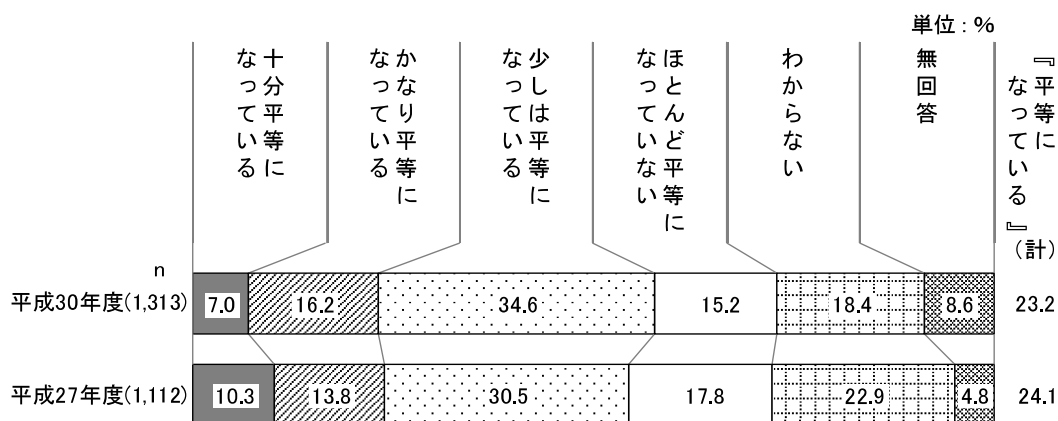
◆ 『平等になっている』が2割強



男女平等社会の進展状況は、「少しは平等になっている」(34.6%)が3割台半ばと最も高くなっている。また、「十分に平等になっている」(7.0%)と「かなり平等になっている」(16.2%)を合わせた『平等になっている』(23.2%)が2割強となっている。一方、「ほとんど平等になっていない」(15.2%)は、1割台半ばとなっている。(図表Ⅲ-14-1)

【経年変化】

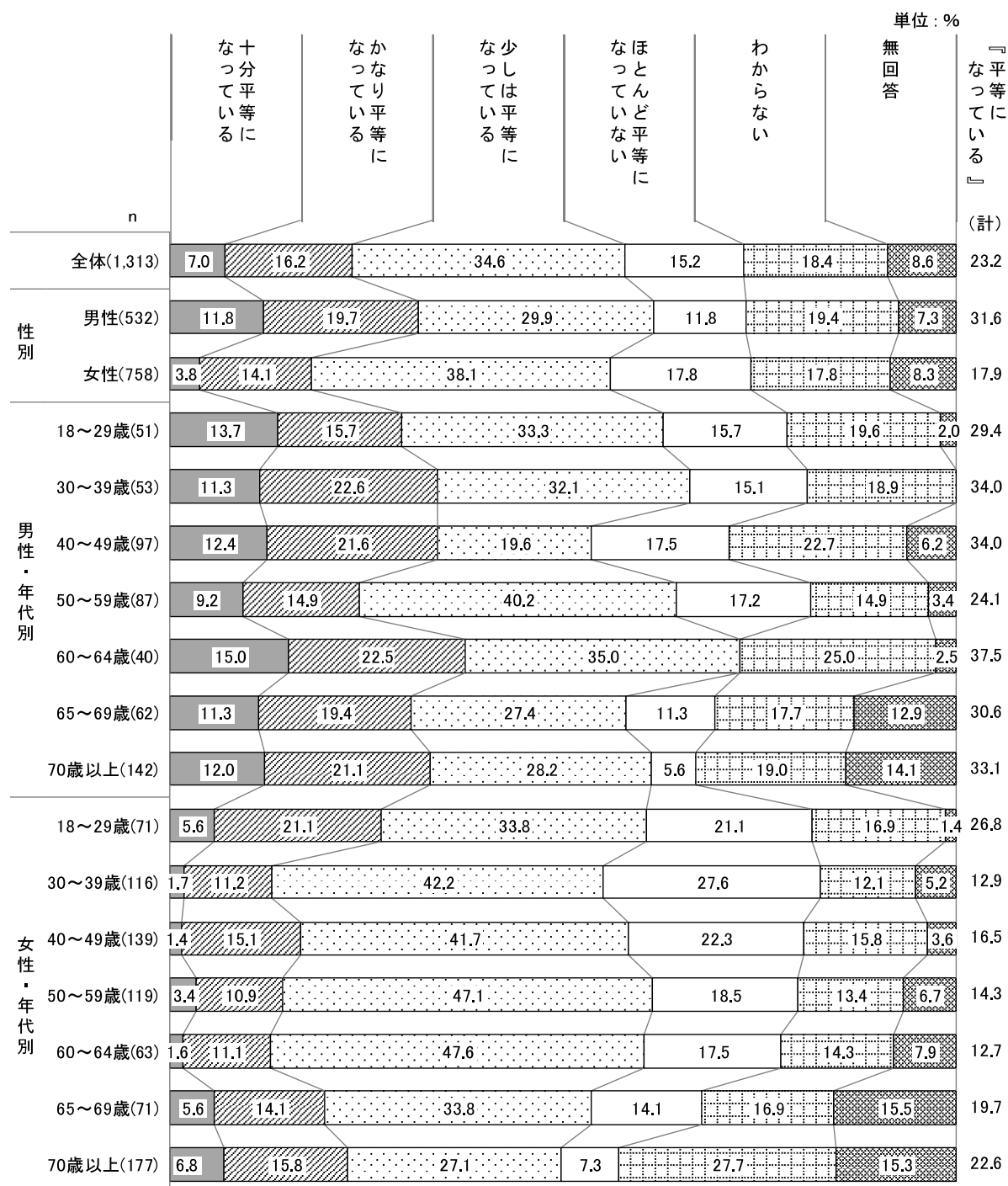
図表Ⅲ-14-2 男女平等社会の進展状況（経年変化）



「少しは平等になっている」(34.6%)は、平成27年度調査(30.5%)より4.1ポイント増加している。一方、「十分に平等になっている」(7.0%)は、平成27年度調査(10.3%)より3.3ポイント減少している。(図表Ⅲ-14-2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-14-3 男女平等社会の進展状況（性別／性・年代別）

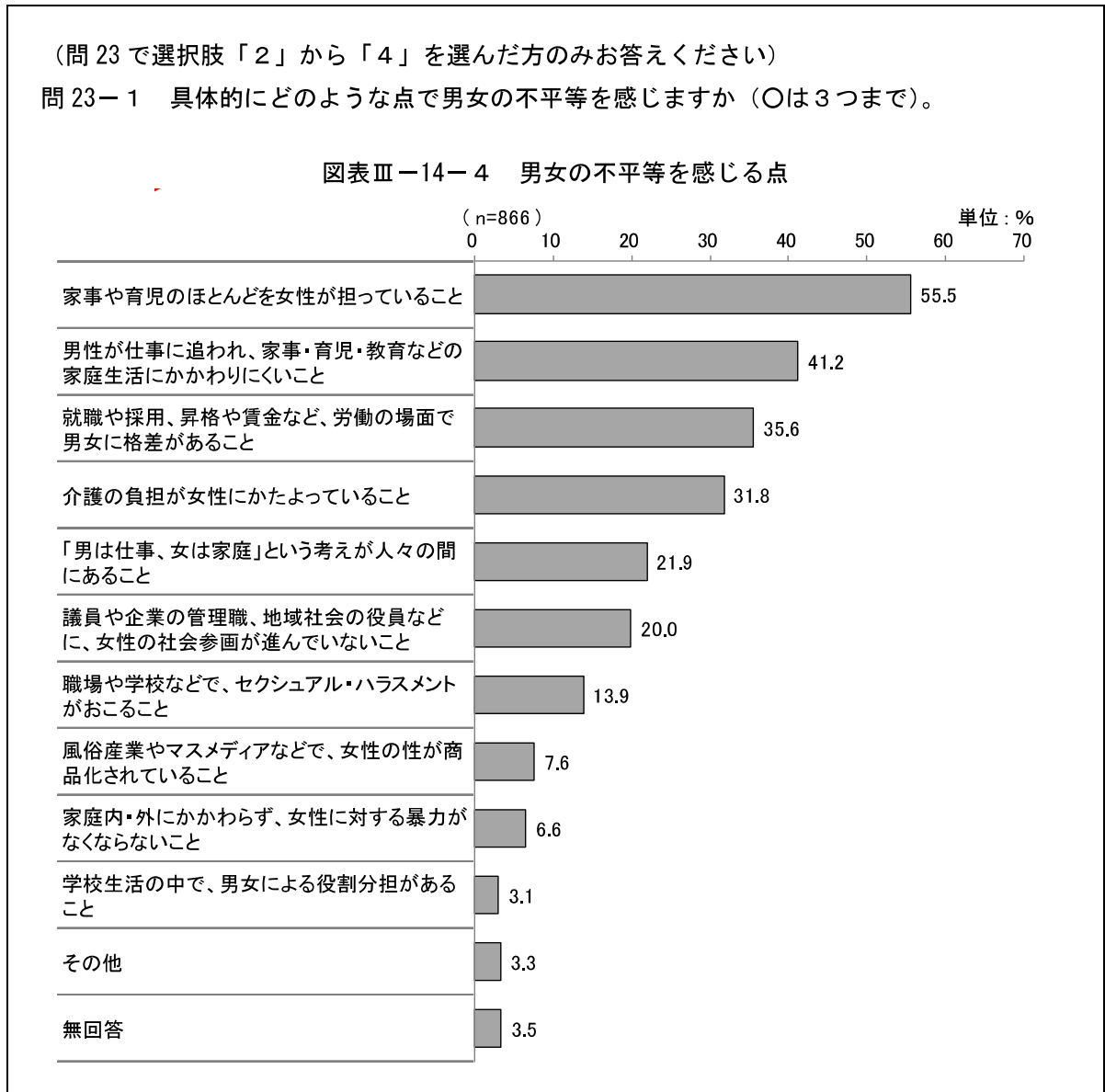


性別で見ると、『平等になっている』は、「男性」(31.6%)が「女性」(17.9%)より13.7ポイント高くなっている。一方、「少しは平等になっている」は、「女性」(38.1%)が「男性」(29.9%)より8.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『平等になっている』は、「男性60～64歳」(37.5%)、「女性18～29歳」(26.8%)が最も高くなっている。一方、「ほとんど平等になっていない」は、「男性40～49歳」(17.5%)、「女性30～39歳」(27.6%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-14-3)

(1-1) 男女の不平等を感じる点

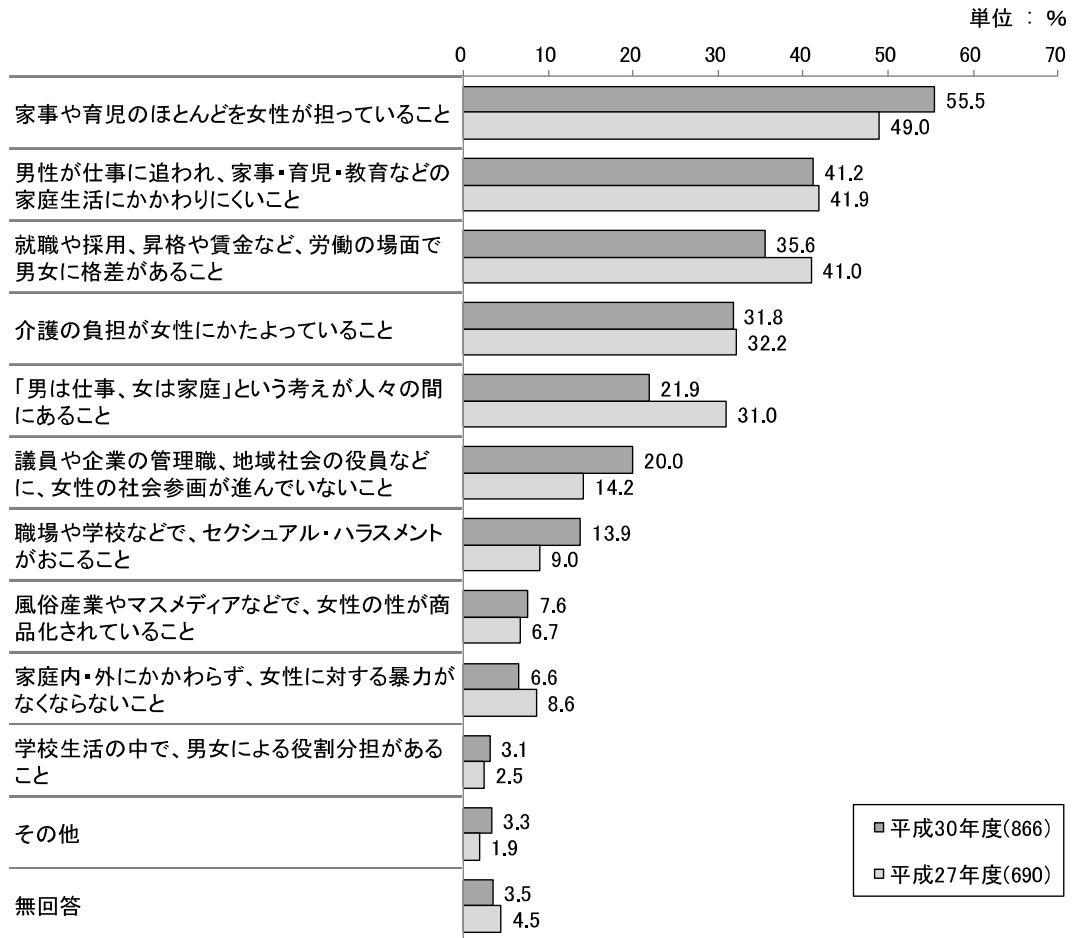
◆ 「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」が5割台半ば



男女の不平等を感じる点は、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」(55.5%)が5割台半ばと最も高く、次いで「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活にかかわりにくいこと」(41.2%)、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること」(35.6%)と続いている。(図表Ⅲ-14-4)

【経年変化】

図表Ⅲ－14－5 男女の不平等を感じる点（経年変化）



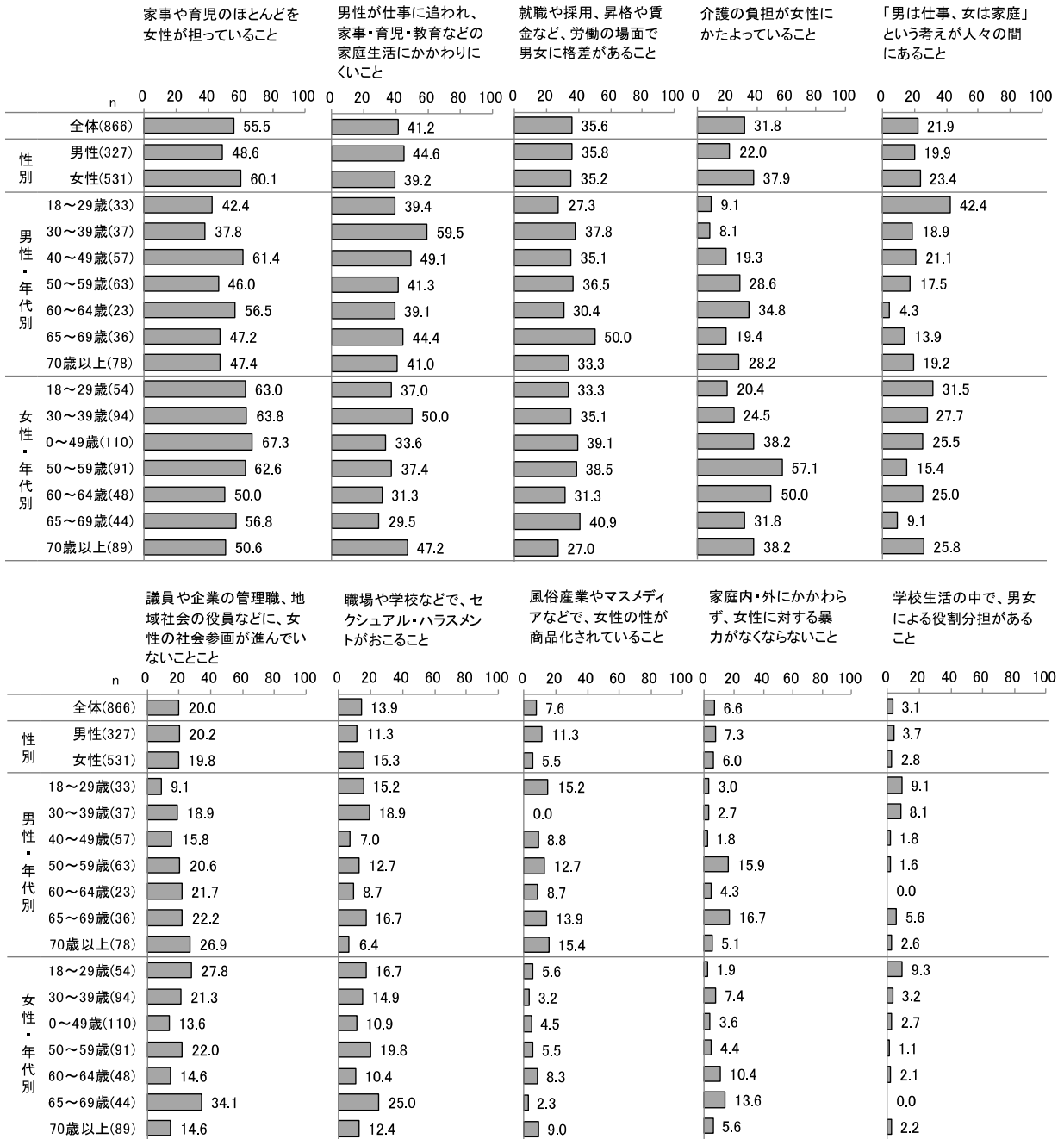
「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」（55.5％）は、平成27年度調査（49.0％）より6.5ポイント、「議員や企業の管理職、地域社会の役員などに、女性の社会参画が進んでいないこと」（20.0％）は、平成27年度調査（14.2％）より5.8ポイント、それぞれ増加している。

一方、「『男は仕事、女は家庭』という考えが人々の間にあること」（21.9％）は、平成27年度調査（31.0％）より9.1ポイント、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること」（35.6％）は、平成27年度調査（41.0％）より5.4ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅲ－14－5）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-14-6 男女の不平等を感じる点（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：%



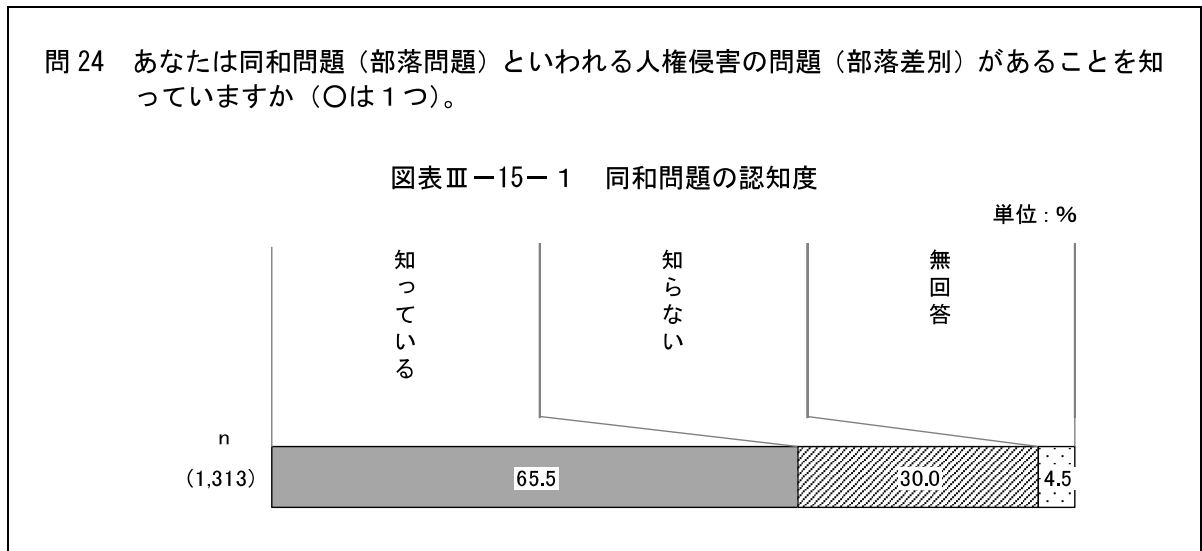
上位10項目について性別で見ると、「風俗産業やマスメディアなどで、女性の性が商品化されていること」は、「男性」(11.3%)が「女性」(5.5%)より5.8ポイント高くなっている。一方、「介護の負担が女性にかたよっていること」は、「女性」(37.9%)が「男性」(22.0%)より15.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」は、「女性」のすべての年代で5割以上となっている。また、「『男は仕事、女は家庭』という考えが人々の間にあること」は、「男性18～29歳」(42.4%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-14-6)

15. 同和問題

(1) 同和問題の認知度

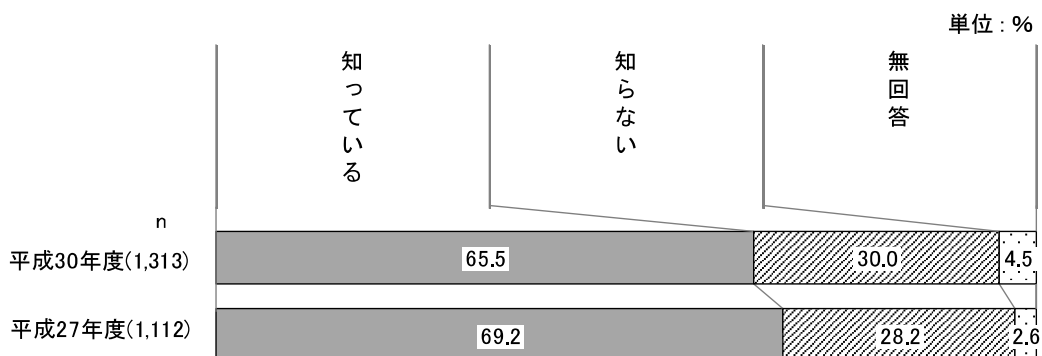
◆ 「知っている」が6割台半ば



同和問題の認知度は、「知っている」（65.5%）が6割台半ば、「知らない」（30.0%）は3割となっている。（図表Ⅲ-15-1）

【経年変化】

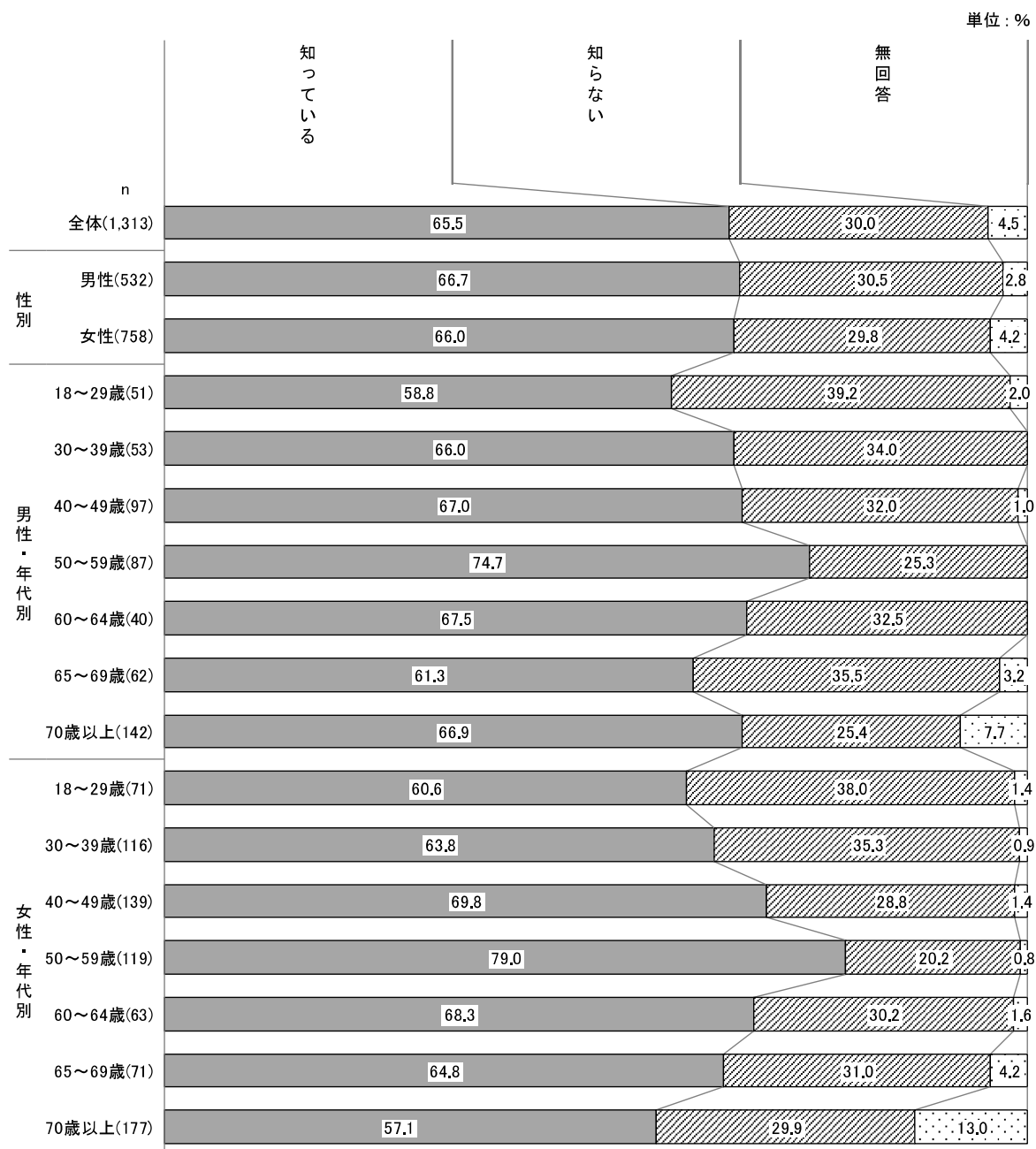
図表Ⅲ-15-2 同和問題の認知度（経年変化）



「知っている」（65.5%）は、平成27年度調査（69.2%）より3.7ポイント減少している。一方、「知らない」（30.0%）は、平成27年度調査（28.2%）より1.8ポイント増加している。（図表Ⅲ-15-2）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－15－3 同和問題の認知度（性別／性・年代別）



性別で見ると、「知っている」は、「男性」（66.7%）、「女性」（66.0%）ともに7割近くとなっている。

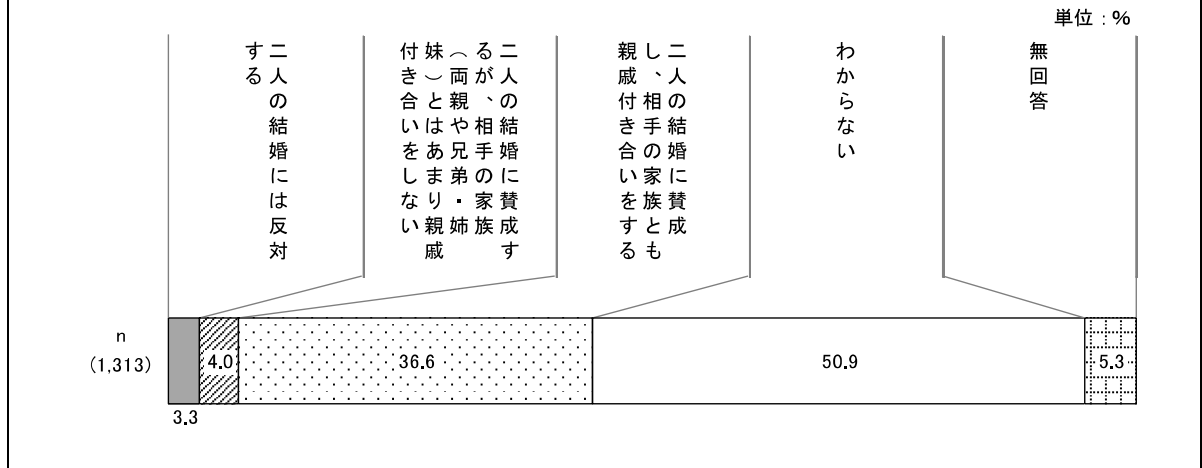
性・年代別で見ると、「知っている」は、「50～59歳」の「男性」（74.7%）、「女性」（79.0%）ともに最も高くなっている。（図表Ⅲ－15－3）

(2) 子どもの結婚相手が「同和地区」出身者における対処

◆ 「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」が4割近く

問 25 もしあなたのお子さんの結婚相手が「同和地区」（被差別部落）出身の人だとわかった場合、あなたはどのようにお考えですか（○は1つ）。

図表Ⅲ-15-4 子どもの結婚相手が「同和地区」出身者における対処

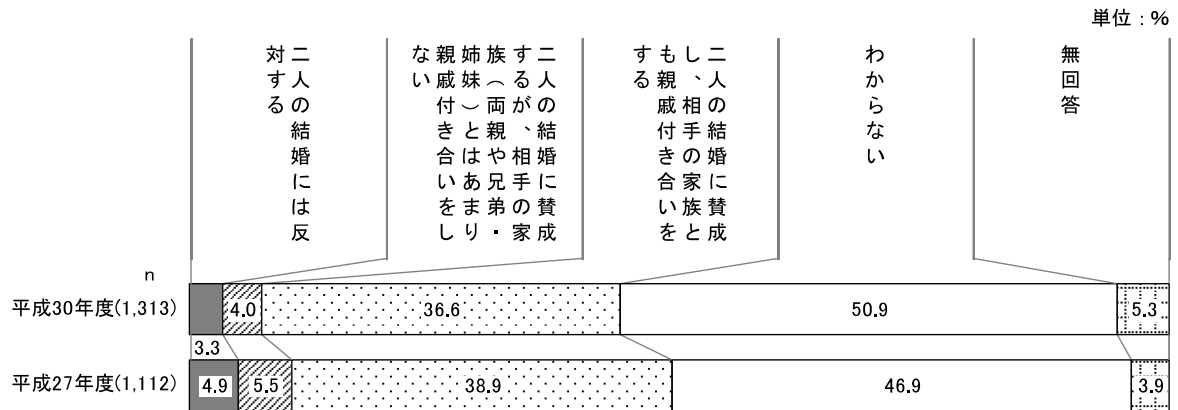


子どもの結婚相手が「同和地区」出身者における対処は、「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」（36.6%）が4割近くと最も高く、次いで「二人の結婚に賛成するが、相手の家族（両親や兄弟・姉妹）とはあまり親戚付き合いをしない」（4.0%）、「二人の結婚には反対する」（3.3%）と続いている。

なお、「わからない」（50.9%）が約5割となっている。（図表Ⅲ-15-4）

【経年変化】

図表Ⅲ－15－5 子どもの結婚相手が「同和地区」出身者における対処（経年変化）

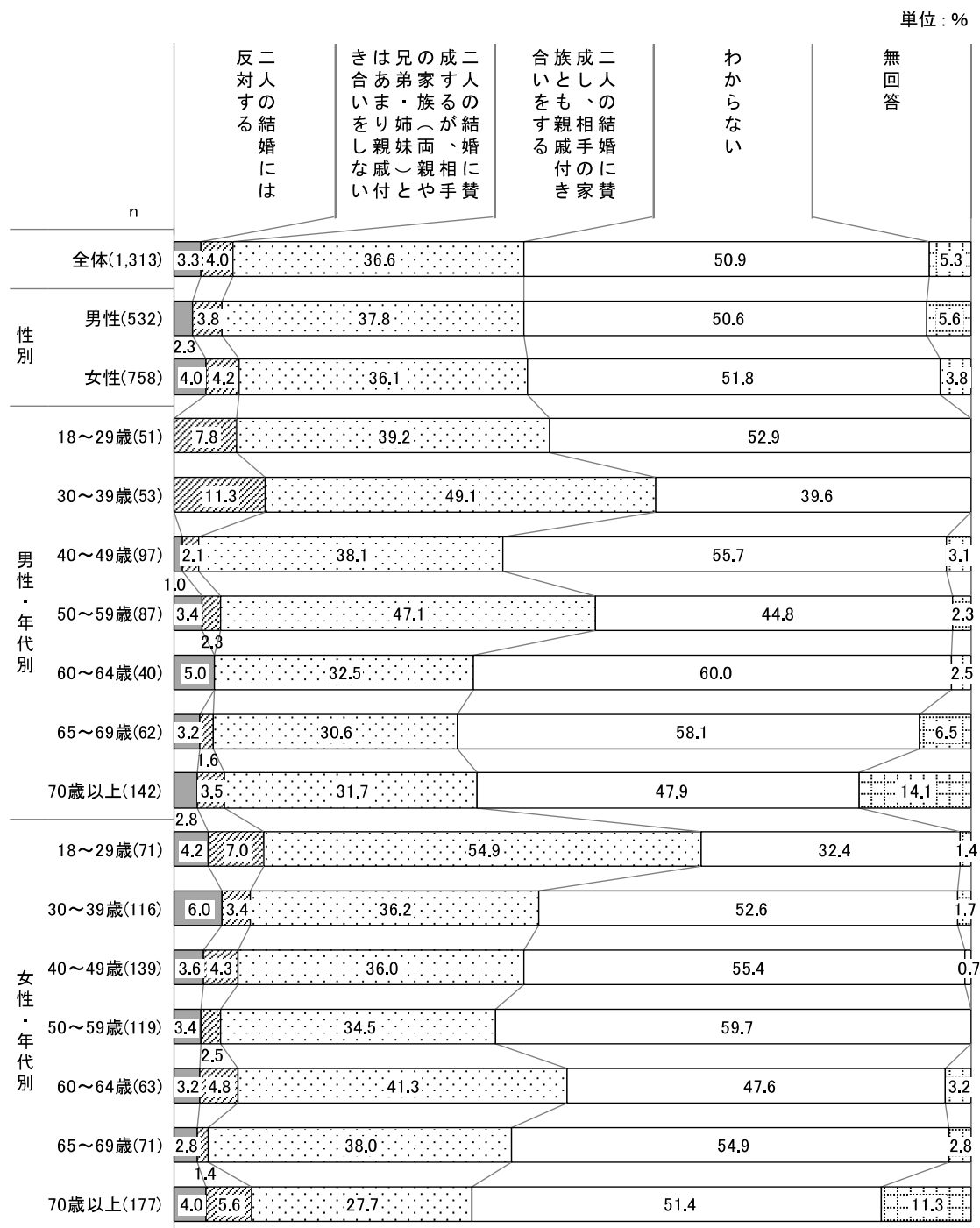


「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」(36.6%)は、平成27年度調査(38.9%)より2.3ポイント減少している。また、「二人の結婚には反対する」(3.3%)は、平成27年度調査(4.9%)より1.6ポイント、「二人の結婚に賛成するが、相手の家族（両親や兄弟・姉妹）とはあまり親戚付き合いをしない」(4.0%)も、平成27年度調査(5.5%)より1.5ポイント、それぞれ減少している。

一方、「わからない」(50.9%)は、平成27年度調査(46.9%)より4.0ポイント増加している。(図表Ⅲ－15－5)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-15-6 子どもの結婚相手が「同和地区」出身者における対処（性別／性・年代別）

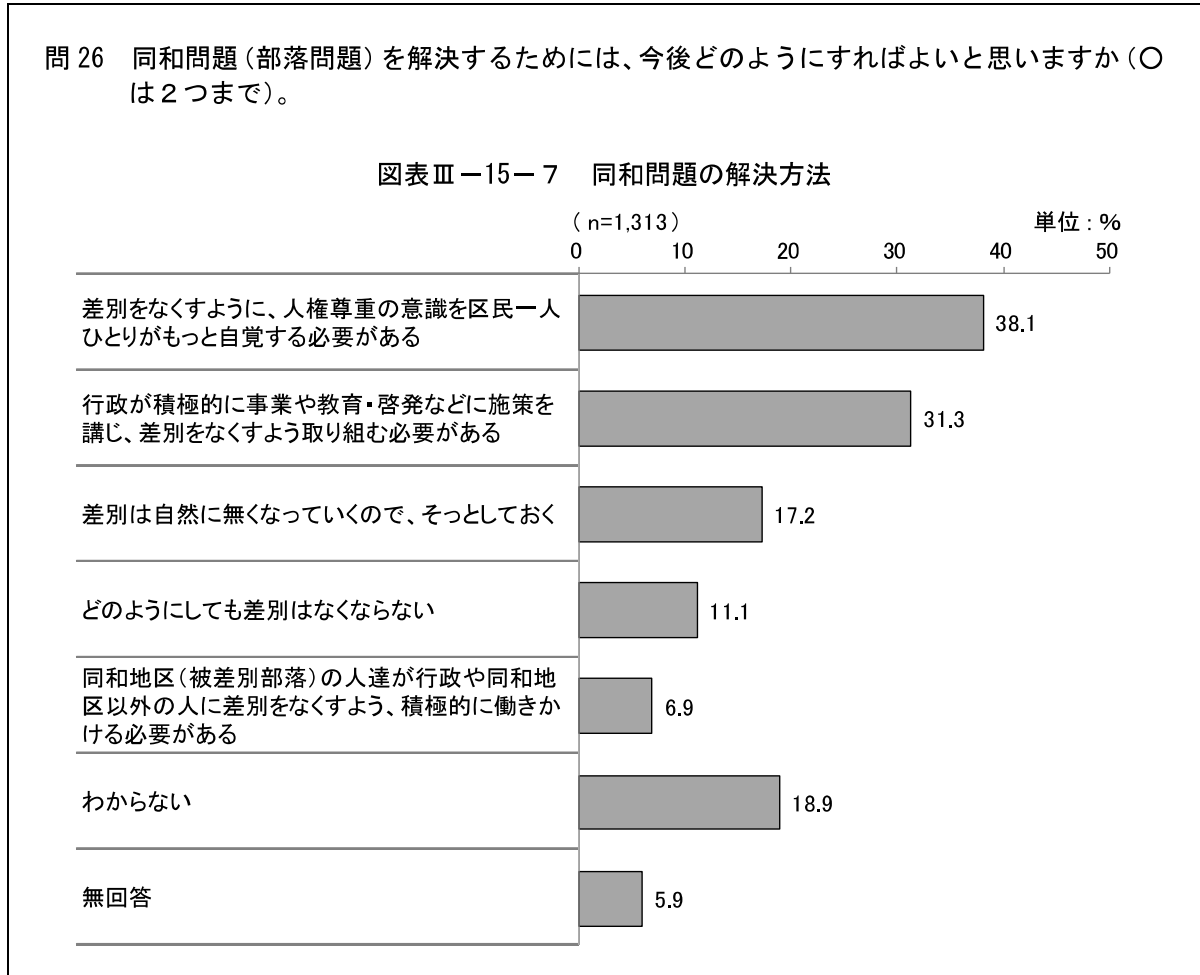


性別で見ると、「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」は、「男性」(37.8%)、「女性」(36.1%)ともに4割近くとなっている。

性・年代別で見ると、「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」は、「男性 30～39歳」(49.1%)、「女性 18～29歳」(54.9%)がそれぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ-15-6)

(3) 同和問題の解決方法

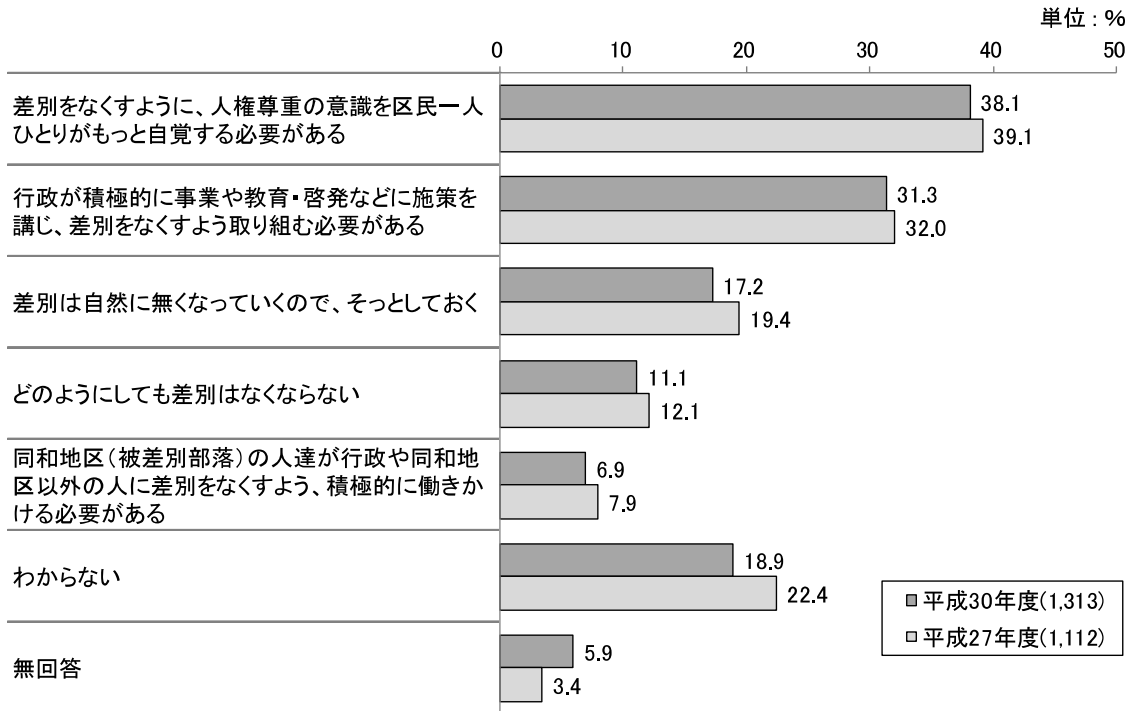
◆ 「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人ひとりがもっと自覚する必要がある」が4割近く



同和問題の解決方法は、「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人ひとりがもっと自覚する必要がある」(38.1%)が4割近くと最も高く、次いで「行政が積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」(31.3%)、「差別は自然に無くなっていくので、そっとしておく」(17.2%)と続いている。(図表Ⅲ-15-7)

【経年変化】

図表Ⅲ－15－8 同和問題の解決方法（経年変化）

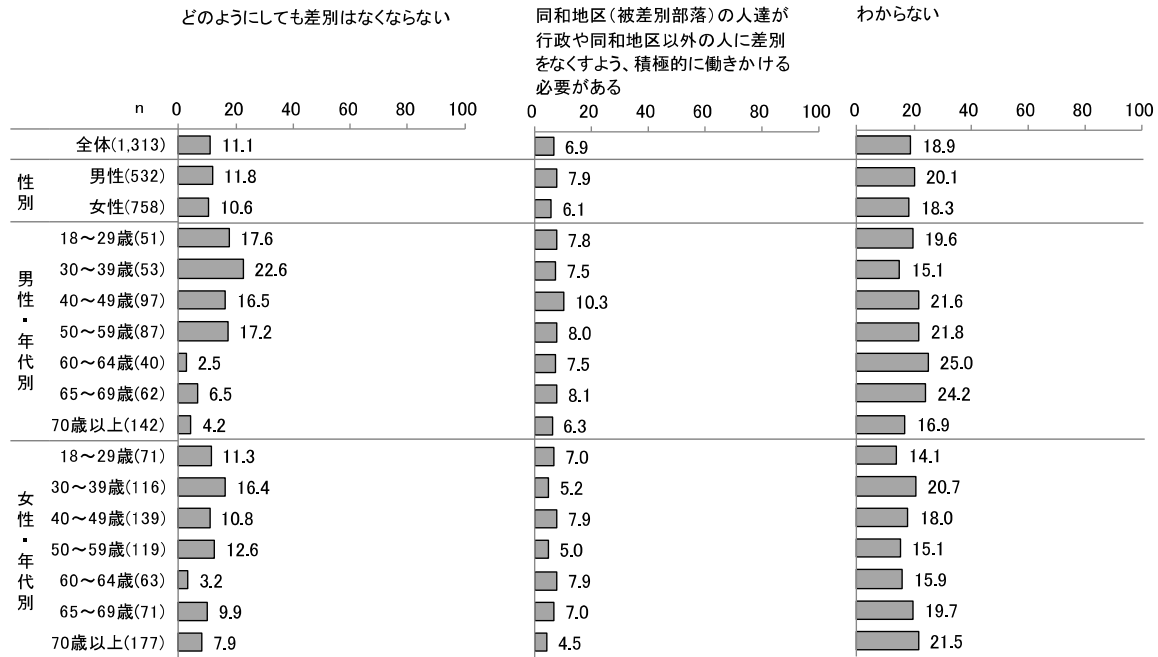
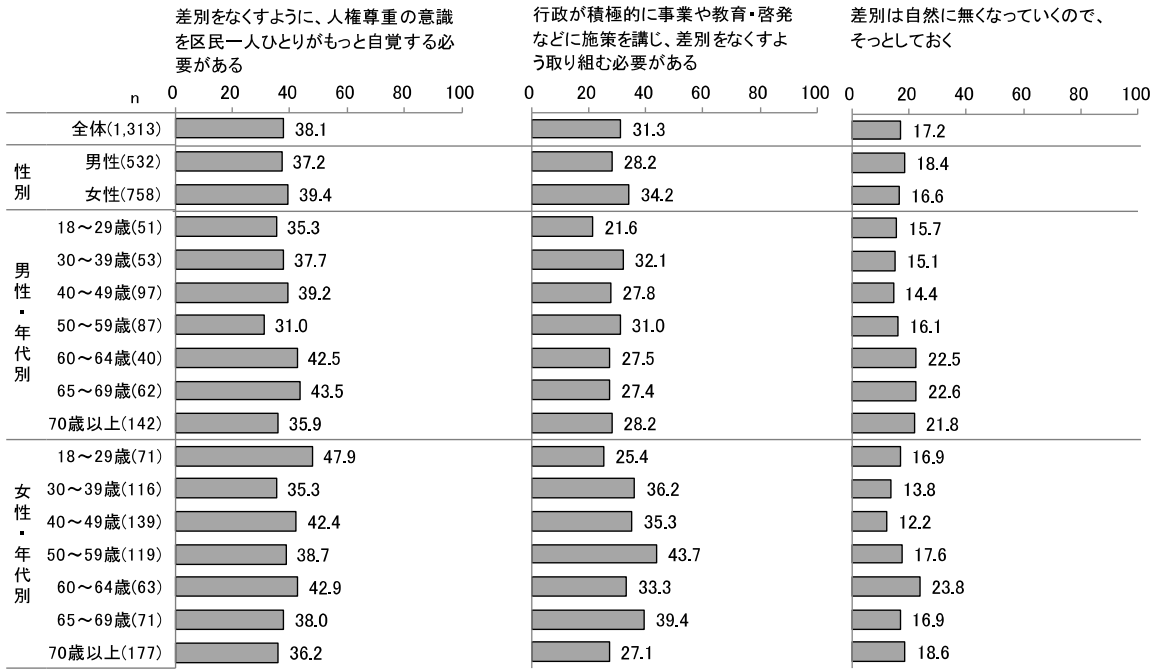


「差別は自然に無くなっていくので、そっとしておく」（17.2%）は、平成27年度調査（19.4%）より2.2ポイント減少している。また、「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人ひとりがもっと自覚する必要がある」（38.1%）は、平成27年度調査（39.1%）より1.0ポイント、「どのようにしても差別はなくなるらない」（11.1%）は、平成27年度調査（12.1%）より1.0ポイント、「同和地区（被差別部落）の人達が行政や同和地区以外の人に差別をなくすよう、積極的に働きかける必要がある」（6.9%）は、平成27年度調査（7.9%）より1.0ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅲ－15－8）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－15－9 同和問題の解決方法（性別／性・年代別）

単位：%



性別で見ると、「差別は自然に無くなっていくので、そっとしておく」は、「男性」(18.4%)が「女性」(16.6%)より1.8ポイント高くなっている。一方、「行政が積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」は、「女性」(34.2%)が「男性」(28.2%)より6.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人ひとりがもっと自覚する必要がある」は、「女性 18～29歳」(47.9%)が最も高く、次いで「男性 65～69歳」(43.5%)、「女性 60～64歳」(42.9%)が続いている。(図表Ⅲ－15－9)

16. 産業

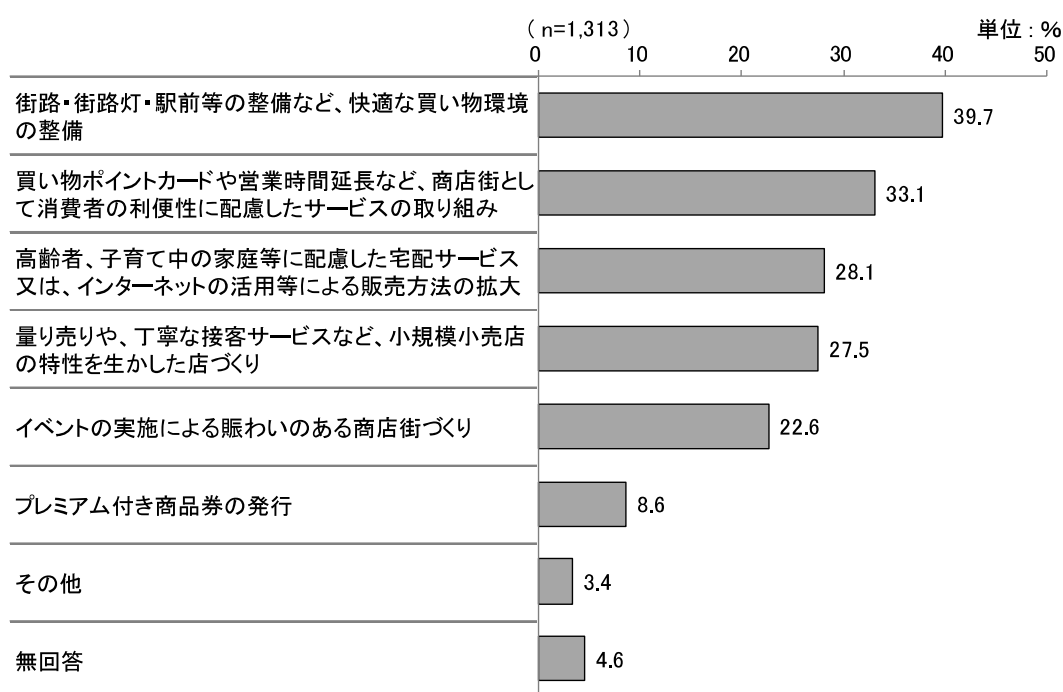
(1) 商業振興について大切なこと

◆ 「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」が4割弱

問 27 葛飾区では商業、工業、伝統産業、農業など様々な産業が営まれています。あなたは、これら産業の振興についてどれが大切だと思いますか。

(1) 商業振興について (○は2つまで)

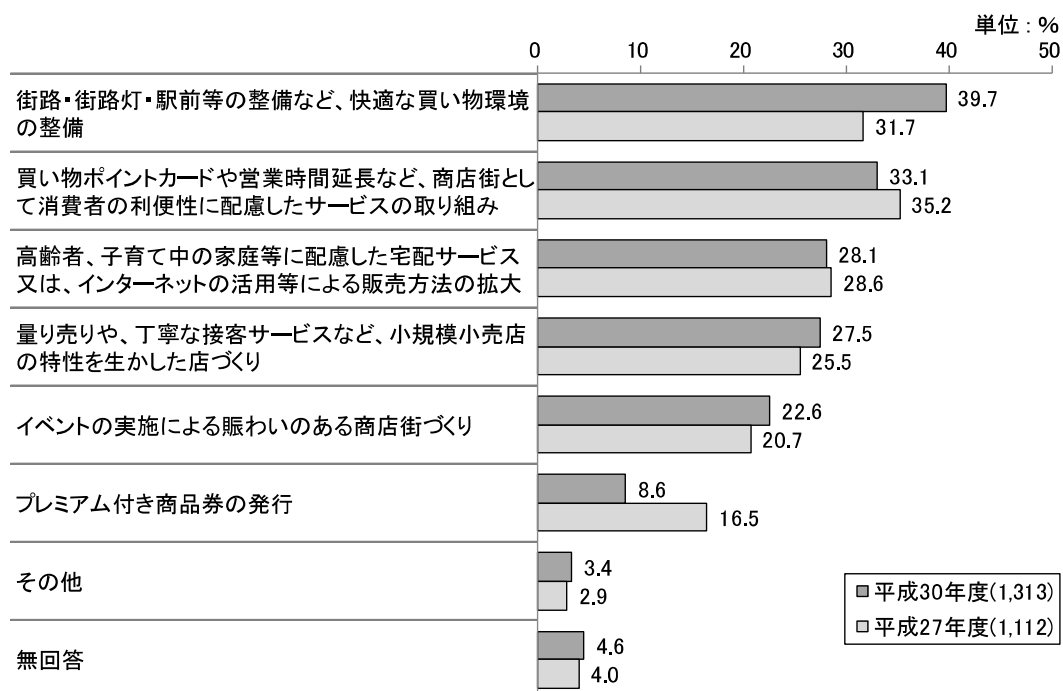
図表Ⅲ-16-1 商業振興について大切なこと



商業振興について大切なことは、「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」(39.7%)が4割弱と最も高く、次いで「買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取り組み」(33.1%)、「高齢者、子育て中の家庭等に配慮した宅配サービス又は、インターネットの活用等による販売方法の拡大」(28.1%)と続いている。(図表Ⅲ-16-1)

【経年変化】

図表Ⅲ－16－2 商業振興について大切なこと（経年変化）

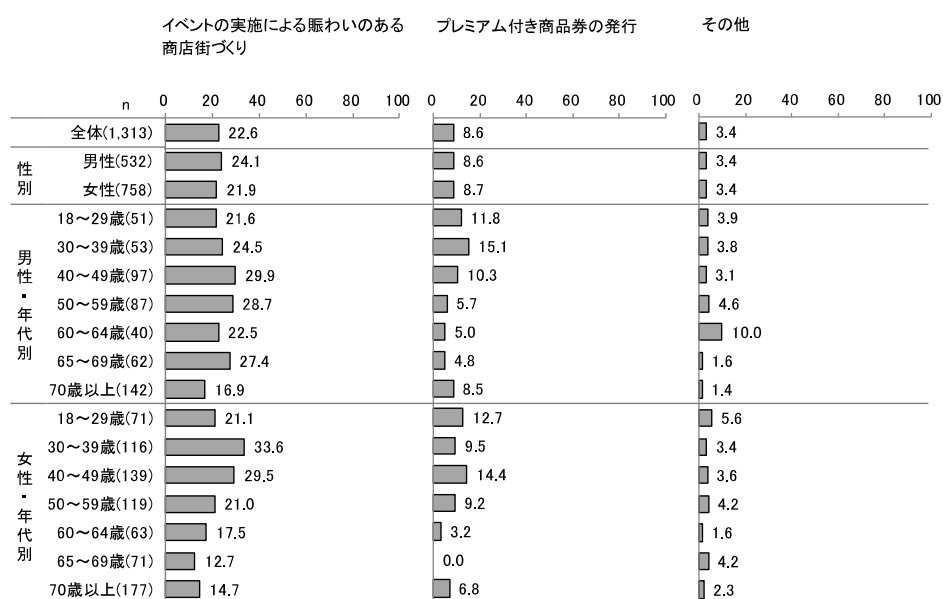
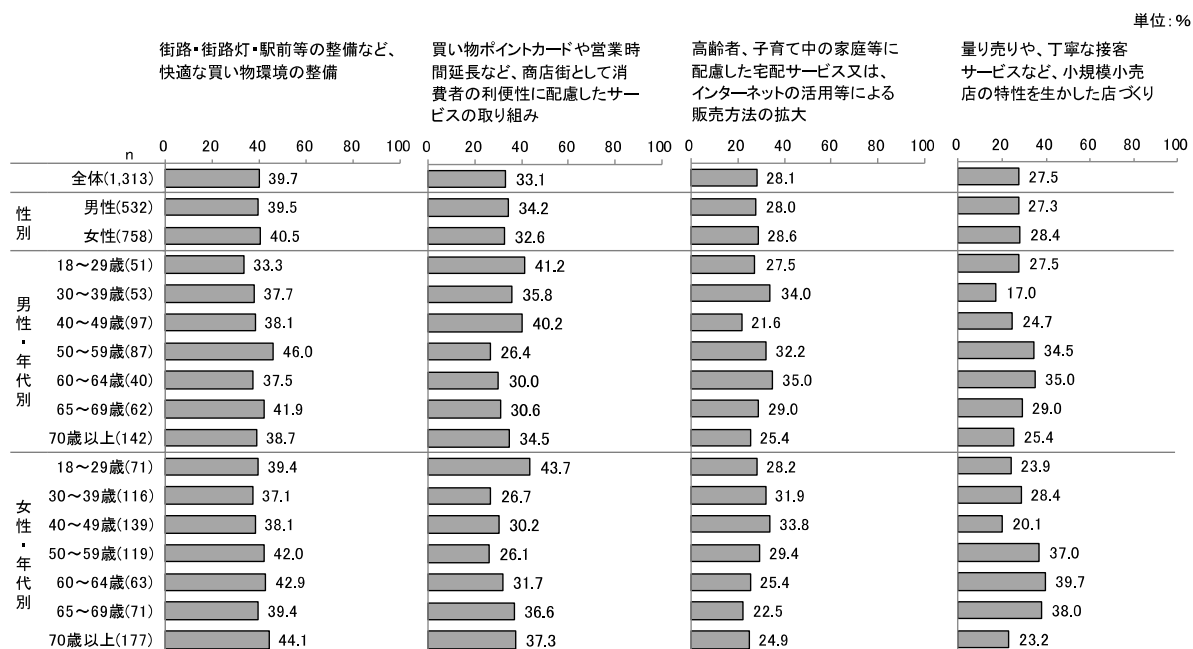


「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」(39.7%)は、平成27年度調査(31.7%)より8.0ポイント、「量り売りや、丁寧な接客サービスなど、小規模小売店の特性を生かした店づくり」(27.5%)は、平成27年度調査(25.5%)より2.0ポイント、それぞれ増加している。

一方、「プレミアム付き商品券の発行」(8.6%)は、平成27年度調査(16.5%)より7.9ポイント、「買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取り組み」(33.1%)は、平成27年度調査(35.2%)より2.1ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－16－2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-16-3 商業振興について大切なこと（性別／性・年代別）



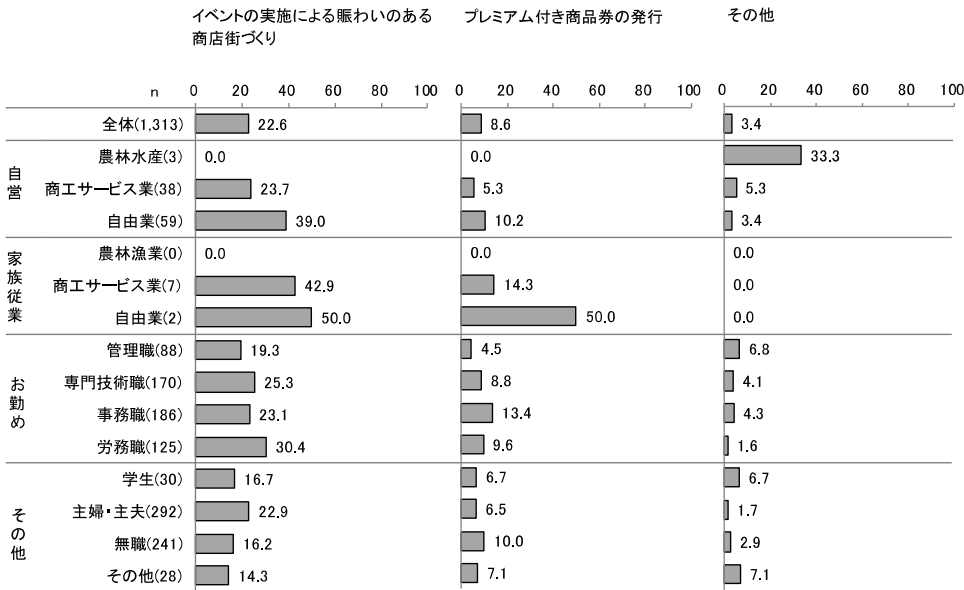
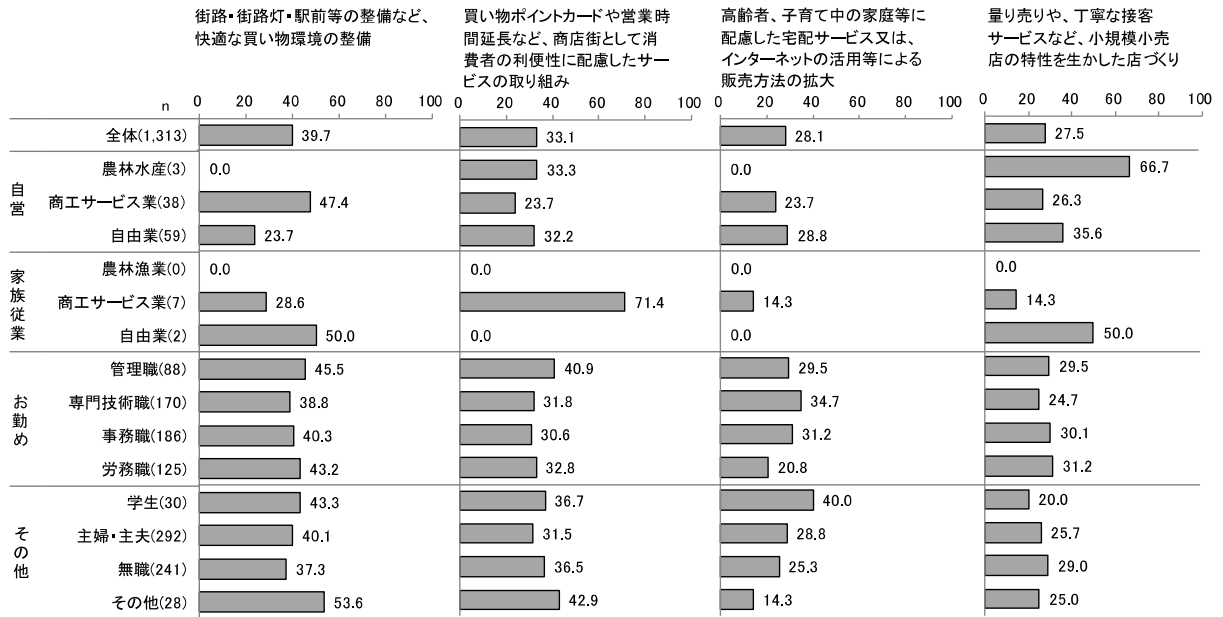
性別で見ると、「イベントの実施による賑わいのある商店街づくり」は、「男性」(24.1%)が「女性」(21.9%)より2.2ポイント高くなっている。一方、「量り売りや、丁寧な接客サービスなど、小規模小売店の特性を生かした店づくり」は、「女性」(28.4%)が「男性」(27.3%)より1.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取り組み」は、「18～29歳」が「男性」(41.2%)、「女性」(43.7%)ともに最も高くなっている。(図表Ⅲ-16-3)

【職業別】

図表Ⅲ-16-4 商業振興について大切なこと（職業別）

単位：%



職業別でみると、「高齢者、子育て中の家庭等に配慮した宅配サービス又は、インターネットの活用等による販売方法の拡大」は、「その他・学生」(40.0%)が4割と最も高くなっている。

一方、「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」は、「自営・自由業」(23.7%)が3割未満となっている。(図表Ⅲ-16-4)

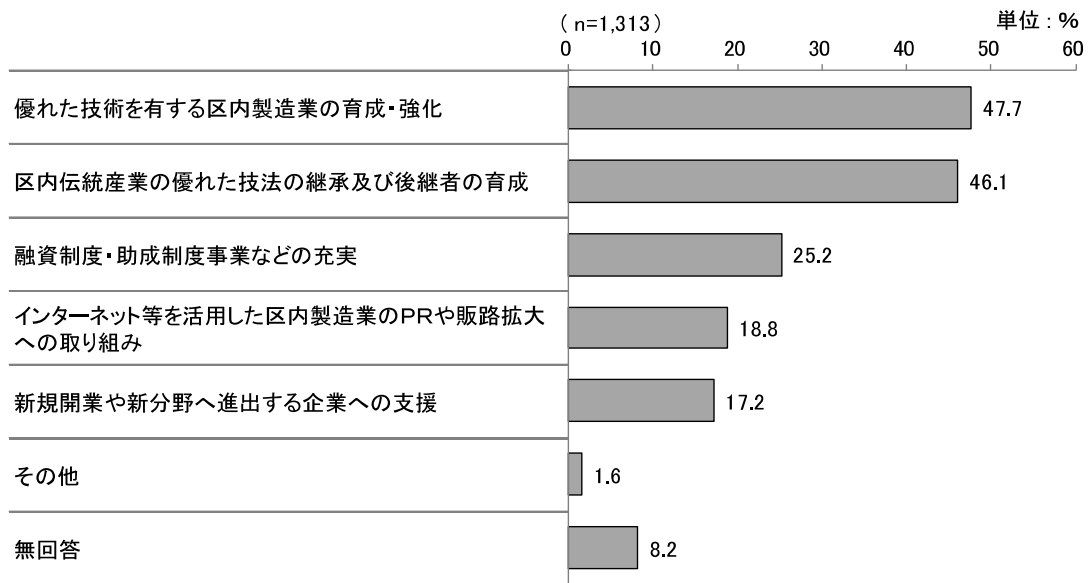
(2) 工業振興について大切なこと

◆ 「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」が5割近く

問 27 葛飾区では商業、工業、伝統産業、農業など様々な産業が営まれています。あなたは、これら産業の振興についてどれが大切だと思いますか。

(2) 工業振興について (○は2つまで)

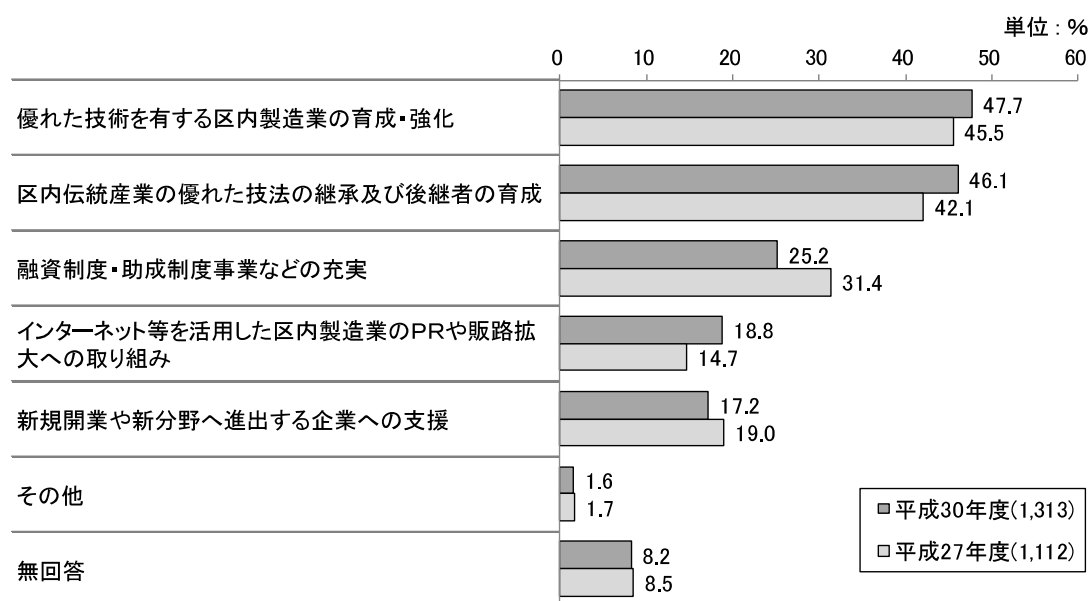
図表Ⅲ-16-5 工業振興について大切なこと



工業振興について大切なことは、「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」(47.7%)が5割近くと最も高く、次いで「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」(46.1%)、「融資制度・助成制度事業などの充実」(25.2%)と続いている。(図表Ⅲ-16-5)

【経年変化】

図表Ⅲ－16－6 工業振興について大切なこと（経年変化）



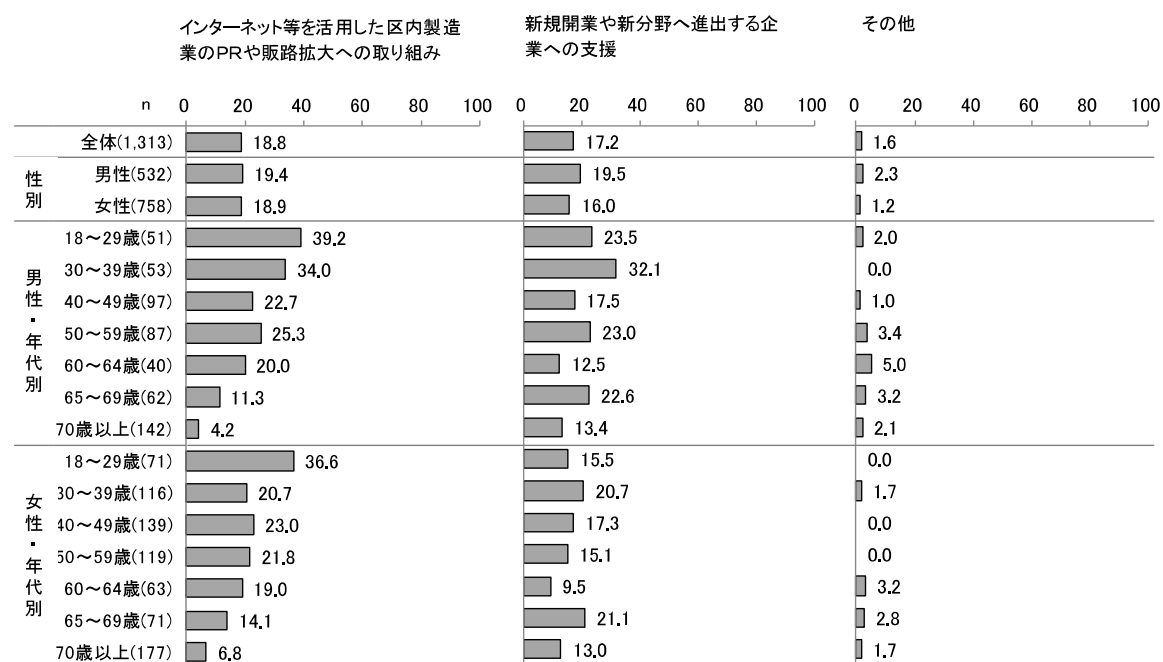
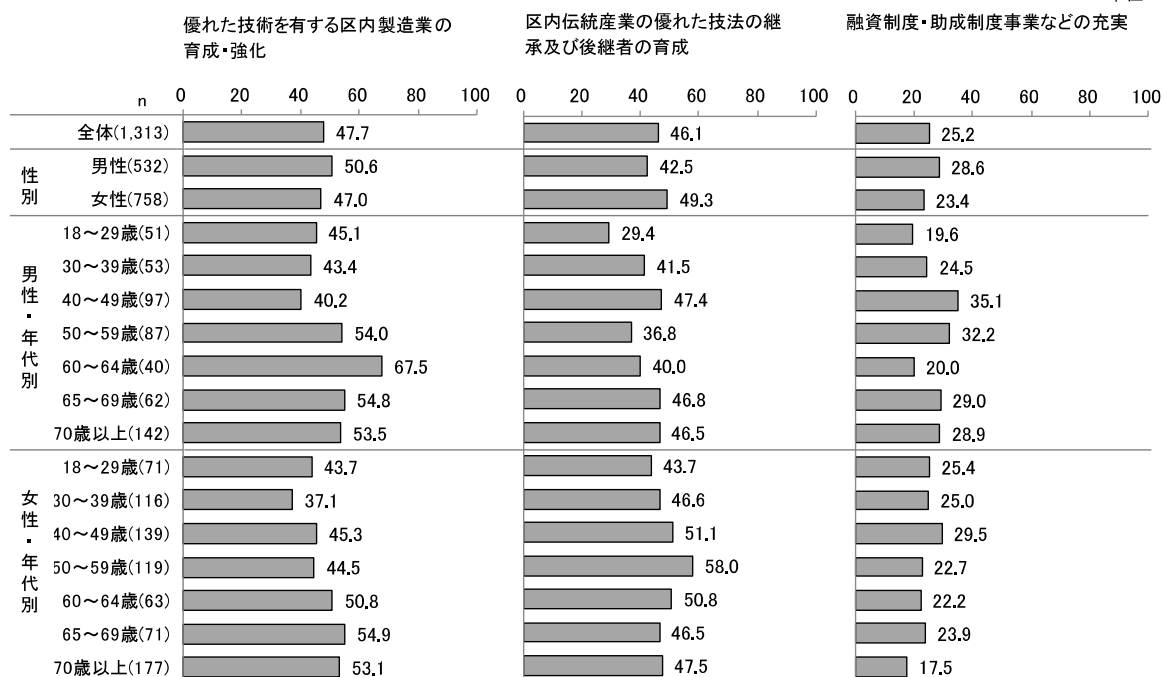
「インターネット等を活用した区内製造業のPRや販路拡大への取り組み」（18.8%）は、平成27年度調査（14.7%）より4.1ポイント、「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」（46.1%）は、平成27年度調査（42.1%）より4.0ポイント、それぞれ増加している。

一方、「融資制度・助成制度事業などの充実」（25.2%）は、平成27年度調査（31.4%）より6.2ポイント減少している。（図表Ⅲ－16－6）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-16-7 工業振興について大切なこと（性別／性・年代別）

単位：％



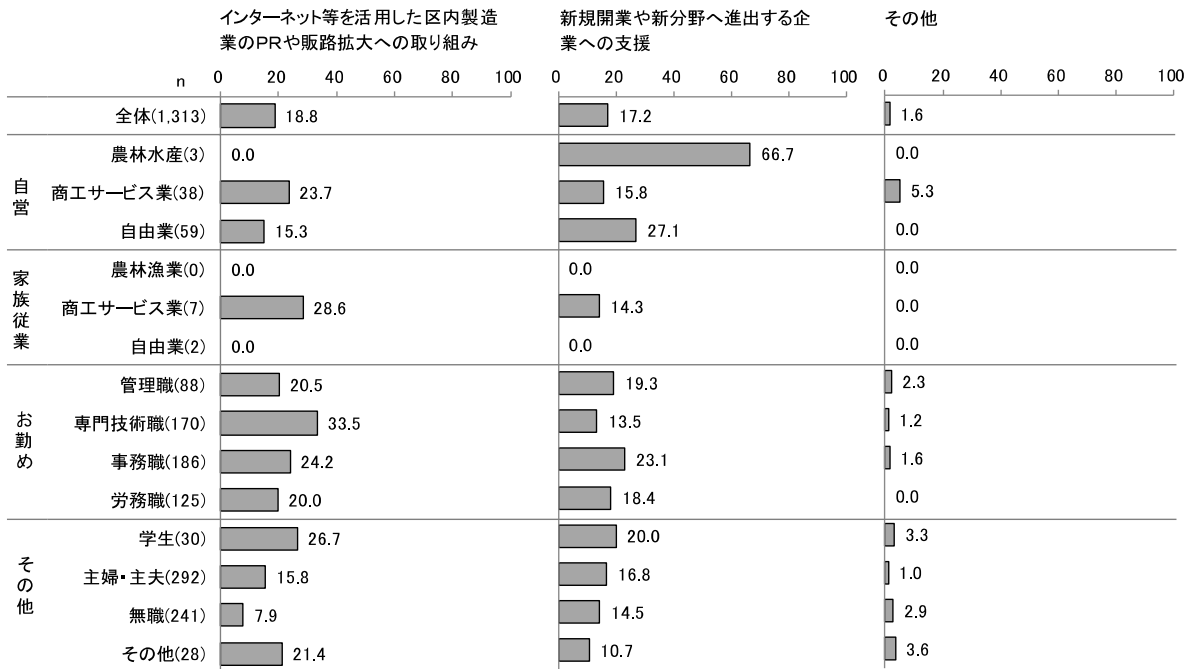
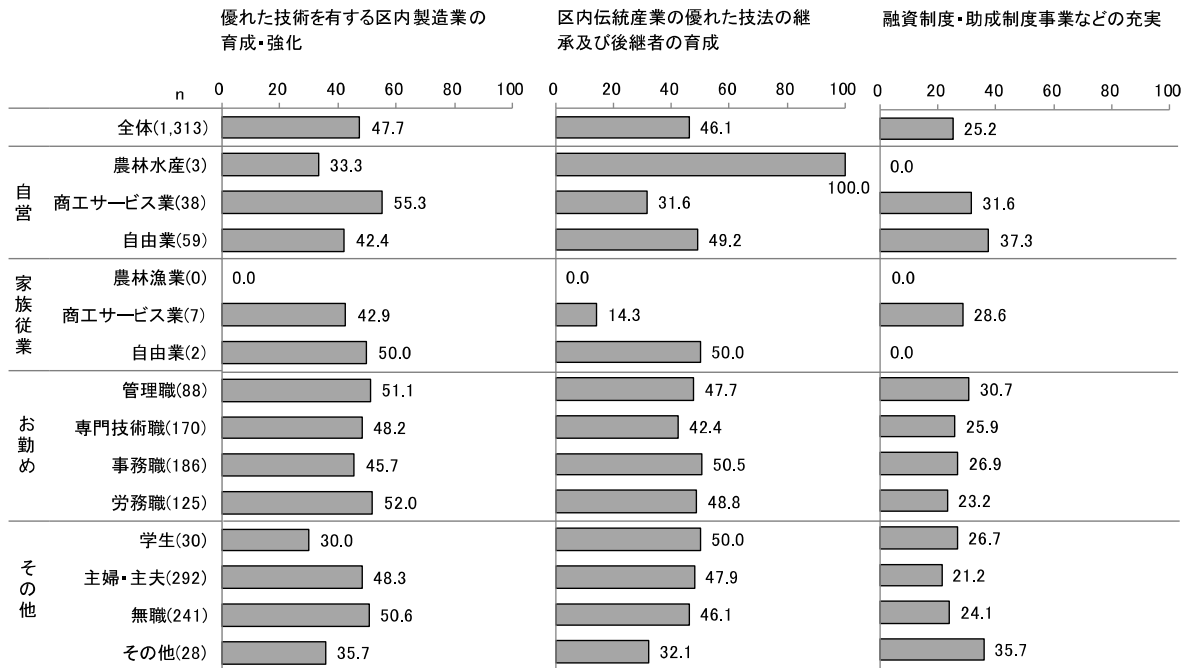
性別で見ると、「融資制度・助成制度事業などの充実」は、「男性」(28.6%)が「女性」(23.4%)より5.2ポイント高くなっている。一方、「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」は、「女性」(49.3%)が「男性」(42.5%)より6.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」は、「男性」50歳以上、「女性」60歳以上で5割以上となっている。また、「インターネット等を活用した区内製造業のPRや販路拡大への取り組み」は、「18～29歳」が「男性」(39.2%)、「女性」(36.6%)ともに最も高くなっている。(図表Ⅲ-16-7)

【職業別】

図表Ⅲ－16－8 工業振興について大切なこと（職業別）

単位：％



職業別でみると、「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」は、「お勤め・事務職」(50.5%) および「その他・学生」(50.0%) が5割以上となっている。(図表Ⅲ－16－8)

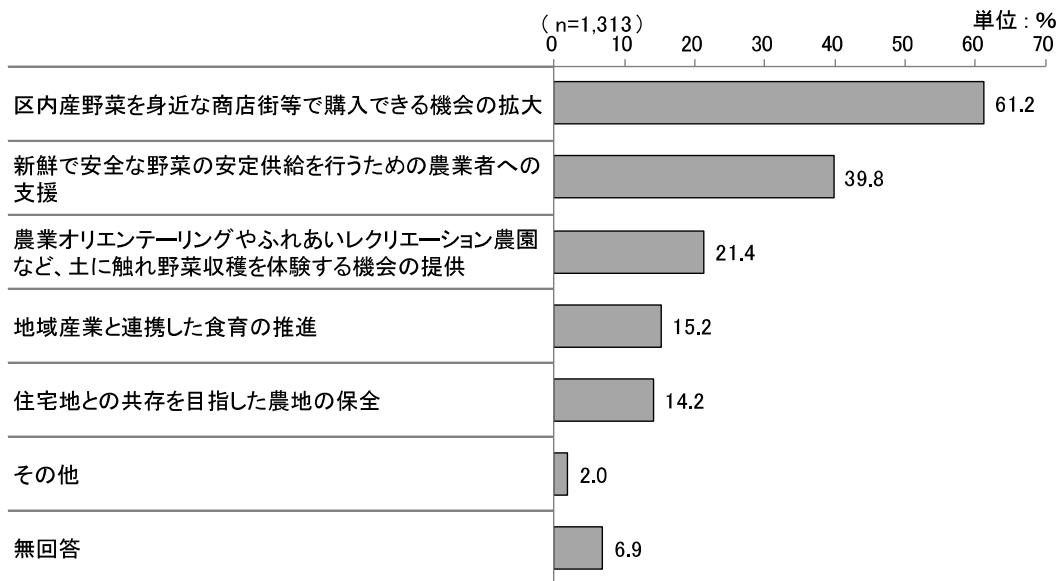
(3) 農業振興について大切なこと

◆ 「区内産野菜を身近な商店街等で購入できる機会の拡大」が6割強

問 27 葛飾区では商業、工業、伝統産業、農業など様々な産業が営まれています。あなたは、これら産業の振興についてどれが大切だと思いますか。

(3) 農業振興について (〇は2つまで)

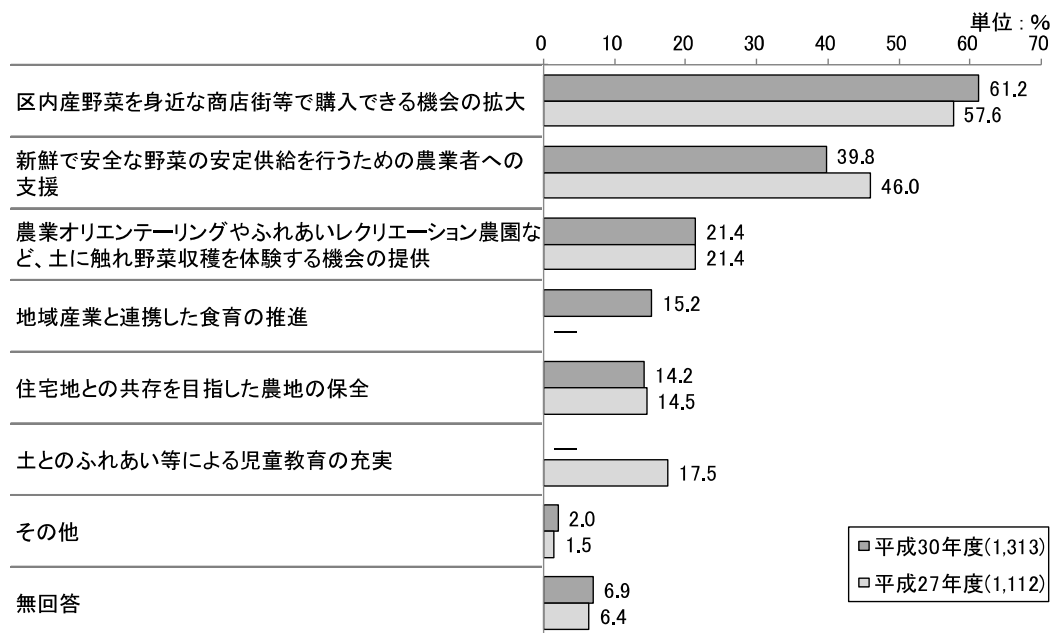
図表Ⅲ-16-9 農業振興について大切なこと



農業振興について大切なことは、「区内産野菜を身近な商店街等で購入できる機会の拡大」(61.2%)が6割強と最も高く、次いで「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」(39.8%)、「農業オリエンテーリングやふれあいレクリエーション農園など、土に触れ野菜収穫を体験する機会の提供」(21.4%)と続いている。(図表Ⅲ-16-9)

【経年変化】

図表Ⅲ-16-10 農業振興について大切なこと（経年変化）



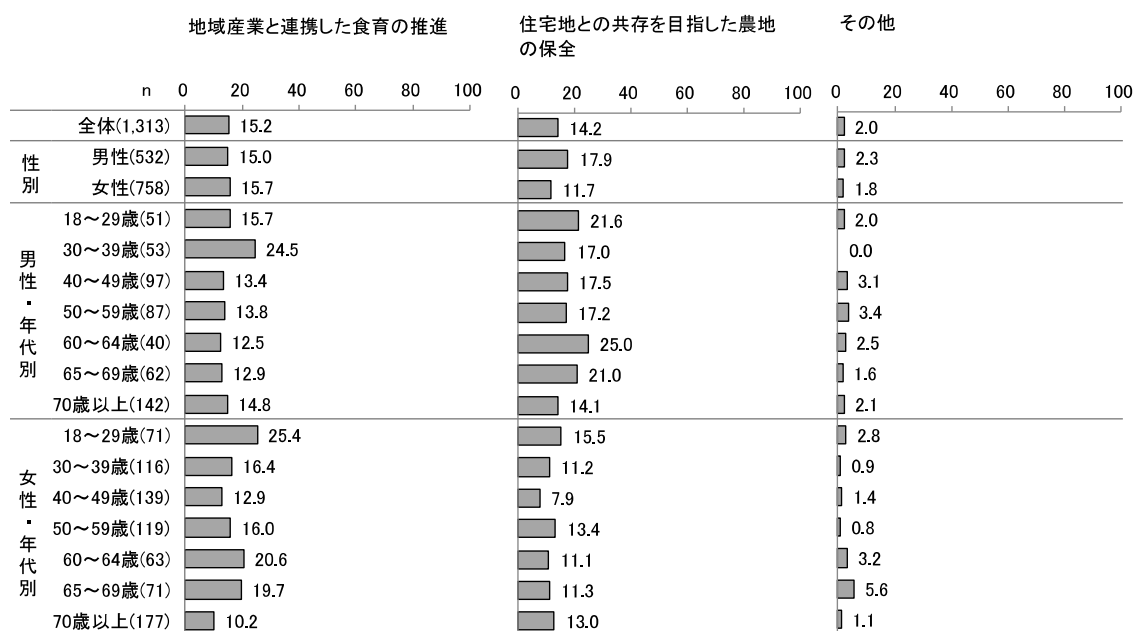
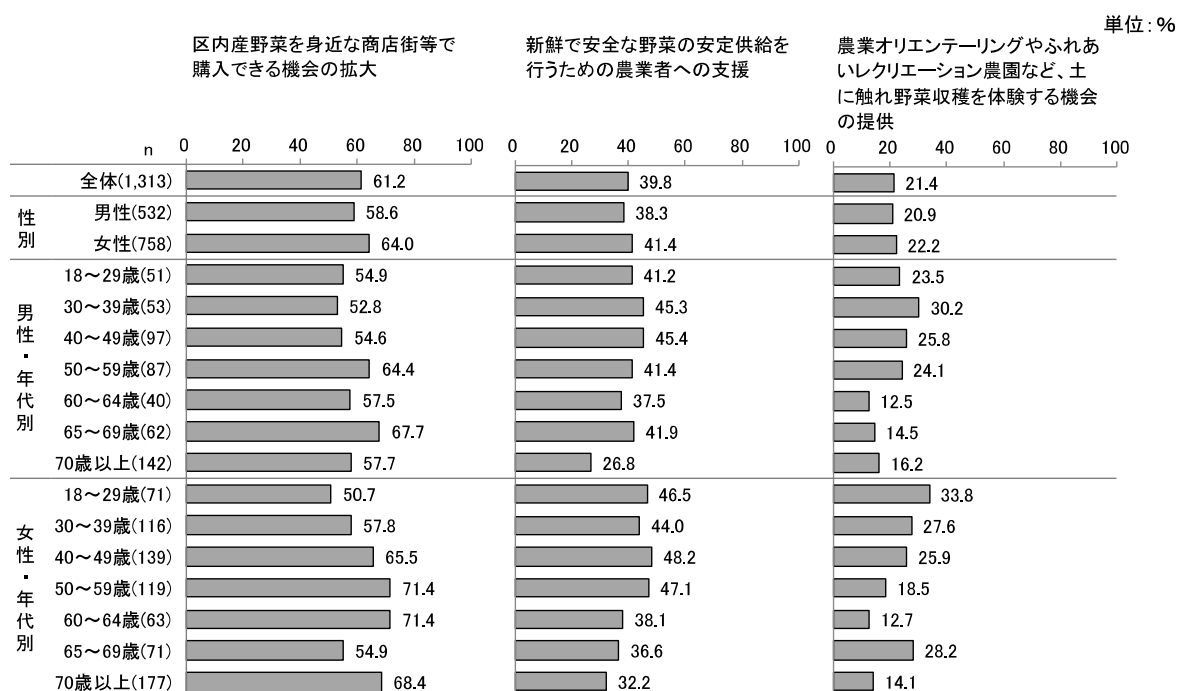
- ※ 平成30年度調査では、「地域産業と連携した食育の推進」が新たに追加された選択肢となっている。
- ※ 平成30年度調査では、「土とのふれあい等による児童教育の充実」を除外している。
- ※ 平成30年度調査では、「区内産野菜を身近な商店街等で購入できる機会の拡大」を平成27年度調査の「区内産野菜を身近な商店街等で購入できる販路の拡大」と比較している。また、「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」は、平成27年度調査の「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農産物の提供」と比較している。

「区内産野菜を身近な商店街等で購入できる機会の拡大」(61.2%)は、平成27年度調査(57.6%)より3.6ポイント増加している。

一方、「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」(39.8%)は、平成27年度調査(46.0%)より6.2ポイント減少している。(図表Ⅲ-16-10)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－16－11 農業振興について大切なこと（性別／性・年代別）

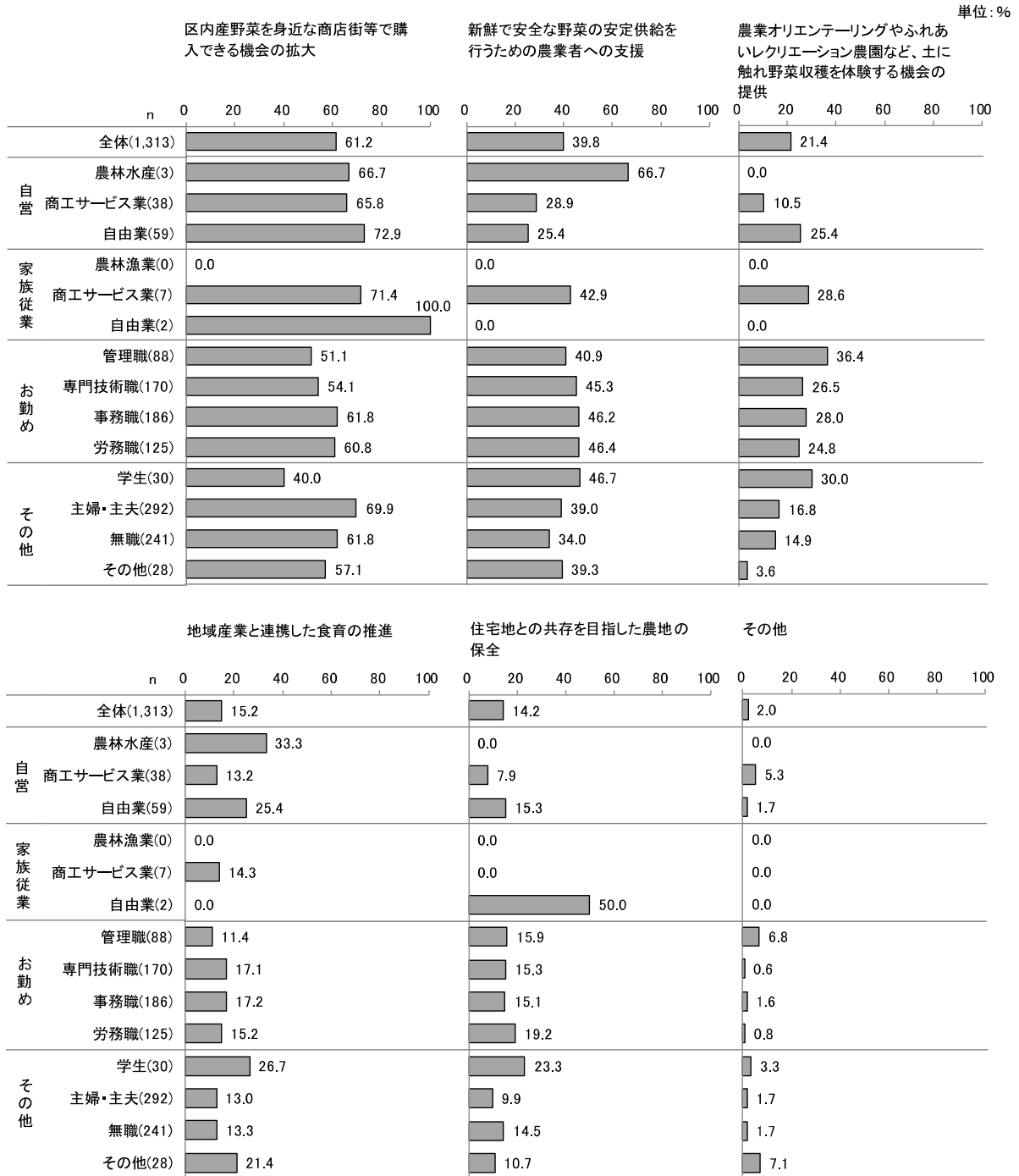


性別で見ると、「住宅地との共存を目指した農地の保全」は、「男性」（17.9%）が「女性」（11.7%）より 6.2 ポイント高くなっている。一方、「区内産野菜を身近な商店街等で購入できる機会の拡大」は、「女性」（64.0%）が「男性」（58.6%）より 5.4 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「区内産野菜を身近な商店街等で購入できる機会の拡大」は、「女性 50～59歳」（71.4%）および「女性 60～64歳」（71.4%）で7割強と最も高くなっている。また、「農業オリエンテーリングやふれあいレクリエーション農園など、土に触れ野菜収穫を体験する機会の提供」は、「女性 18～29歳」（33.8%）で3割強と、最も高くなっている。（図表Ⅲ－16－11）

【職業別】

図表Ⅲ-16-12 農業振興について大切なこと（職業別）



職業別でみると、「区内産野菜を身近な商店街等で購入できる機会の拡大」は、「自営・自由業」(72.9%)が7割強と最も高くなっている。

一方、「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」は、「自営・商工サービス業」(28.9%)および「自営・自由業」(25.4%)が3割未満となっている。(図表Ⅲ-16-12)

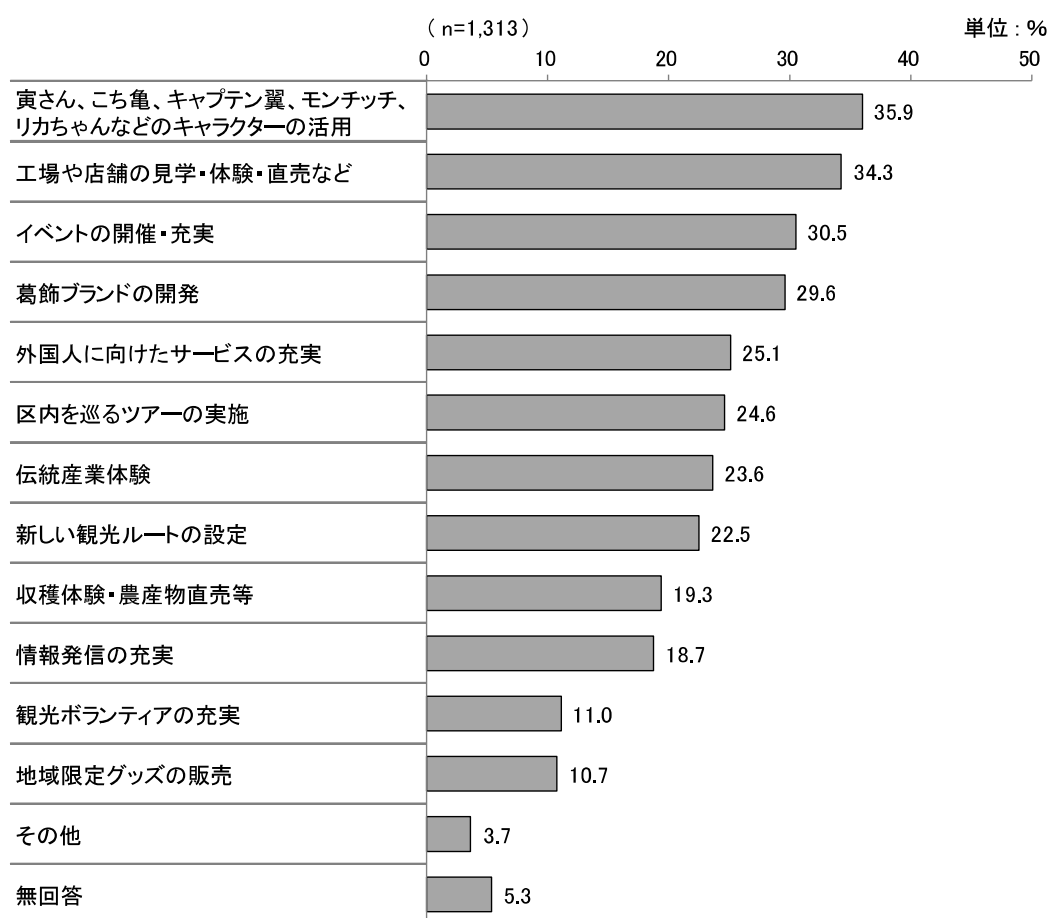
17. 観光

(1) 葛飾区の観光客誘致における重要なこと

- ◆ 「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」が3割台半ば

問 28 葛飾区ではまちの賑わいを創出するために、観光振興を進めています。葛飾区に観光客を誘致するために、あなたが特に重要と思うものは何ですか（〇はいくつでも）。

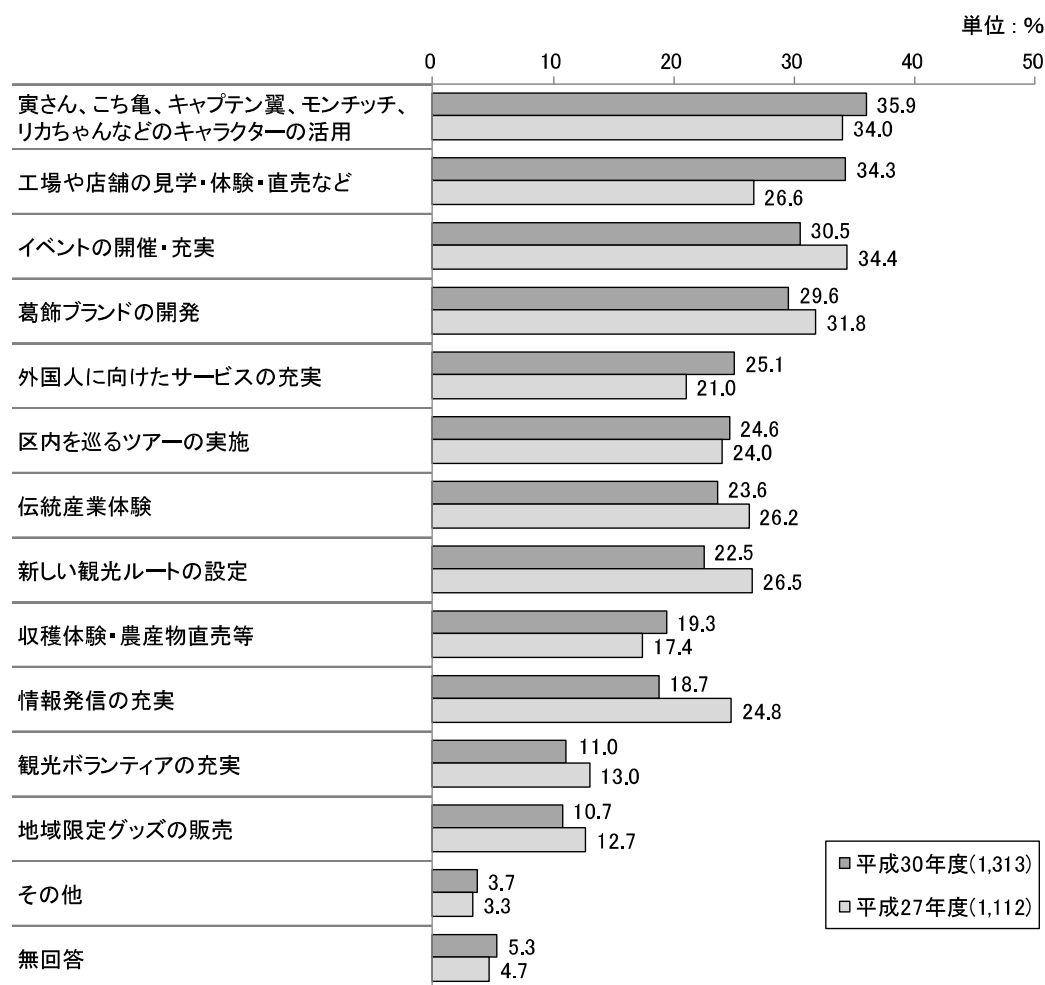
図表Ⅲ-17-1 葛飾区の観光客誘致における重要なこと



葛飾区の観光客誘致における重要なことは、「キャラクターの活用」(35.9%)が3割台半ばと最も高く、次いで「工場や店舗の見学・体験・直売など」(34.3%)、「イベントの開催・充実」(30.5%)と続いている。(図表Ⅲ-17-1)

【経年変化】

図表Ⅲ-17-2 葛飾区の観光客誘致における重要なこと（経年変化）

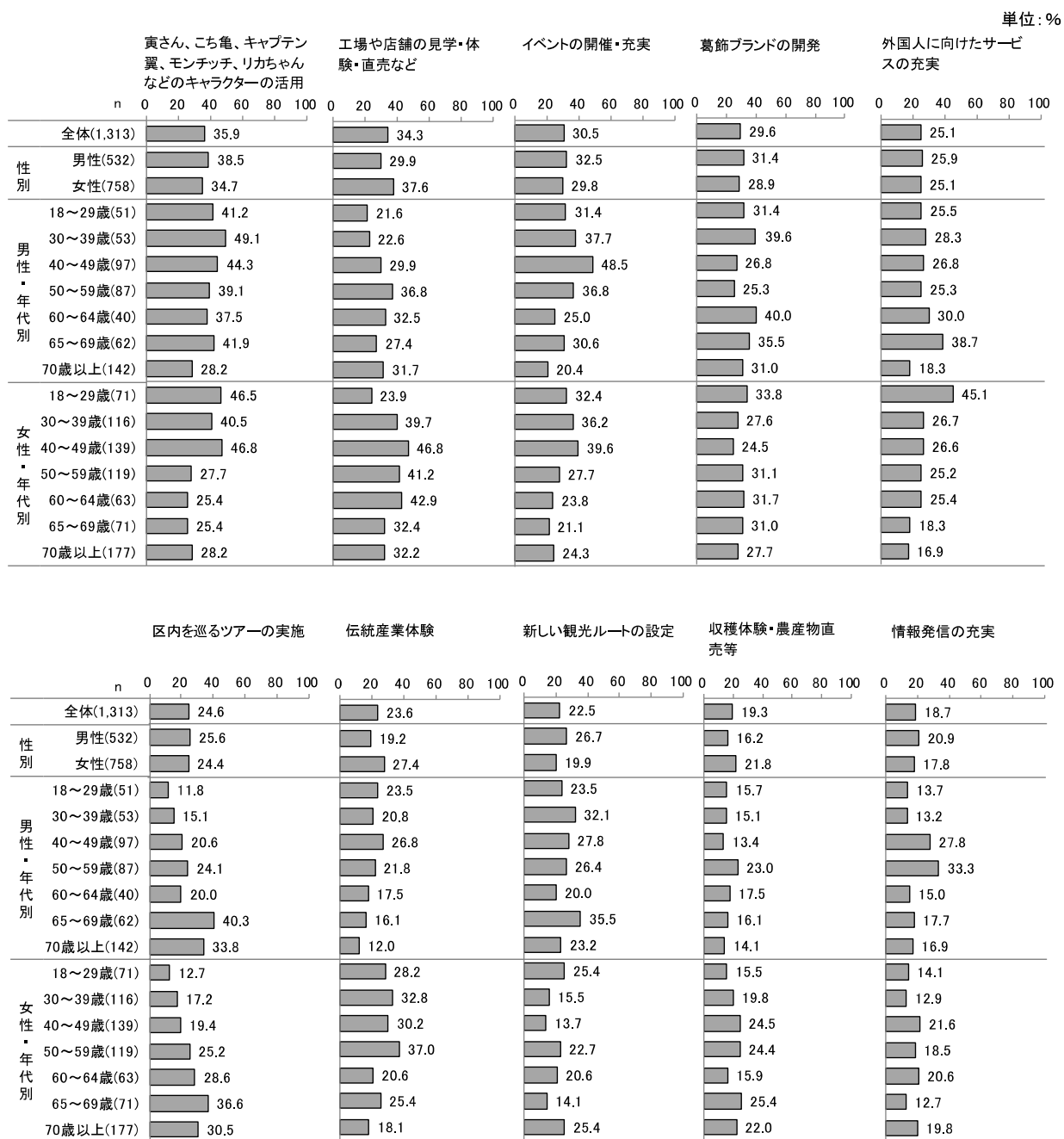


「工場や店舗の見学・体験・直売など」(34.3%)は、平成27年度調査(26.6%)より7.7ポイント、「外国人に向けたサービスの充実」(25.1%)は、平成27年度調査(21.0%)より4.1ポイント、それぞれ増加している。

一方、「情報発信の充実」(18.7%)は、平成27年度調査(24.8%)より6.1ポイント、「新しい観光ルートの設定」(22.5%)は、平成27年度調査(26.5%)より4.0ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ-17-2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-17-3 葛飾区の観光客誘致における重要なこと（上位10項目）（性別／性・年代別）

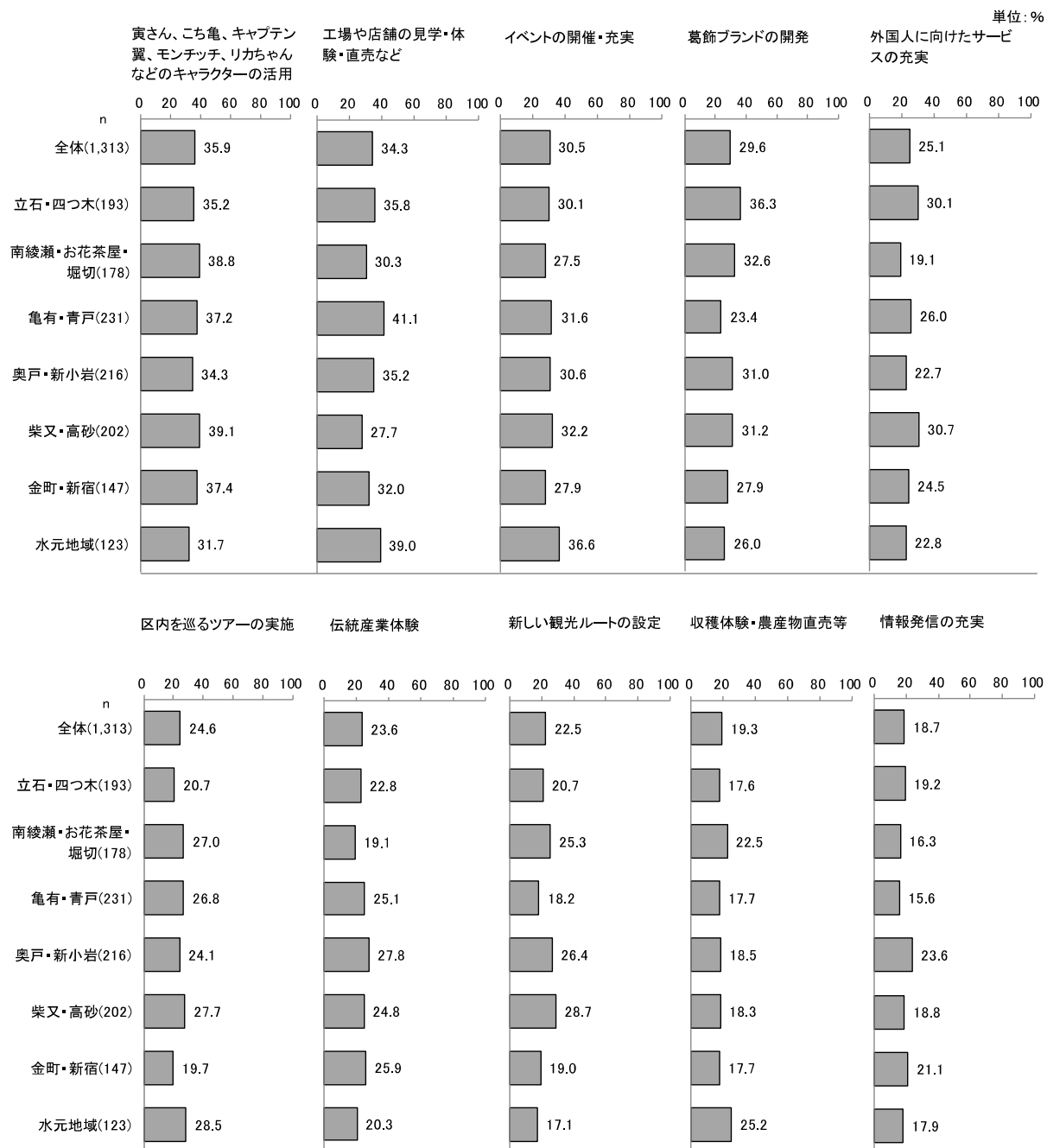


上位10項目について性別でみると、「新しい観光ルートの設定」は、「男性」(26.7%)が「女性」(19.9%)より6.8ポイント高くなっている。一方、「伝統産業体験」は、「女性」(27.4%)が「男性」(19.2%)より8.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「キャラクターの活用」は、男女ともに49歳以下で4割以上となっている。一方、「区内を巡るツアーの実施」は、男女ともに65歳以上で3割以上となっている。(図表Ⅲ-17-3)

【居住地域別】

図表Ⅲ-17-4 葛飾区の観光客誘致における重要なこと（上位10項目）（居住地域別）



上位10項目について居住地域別でみると、「キャラクターの活用」は、「柴又・高砂」(39.1%)が最も高く、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(38.8%)、「金町・新宿」(37.4%)と続いている。

また、「工場や店舗の見学・体験・直売など」は、「亀有・青戸」(41.1%)が最も高く、次いで「水元地域」(39.0%)、「立石・四つ木」(35.8%)と続いている。(図表Ⅲ-17-4)

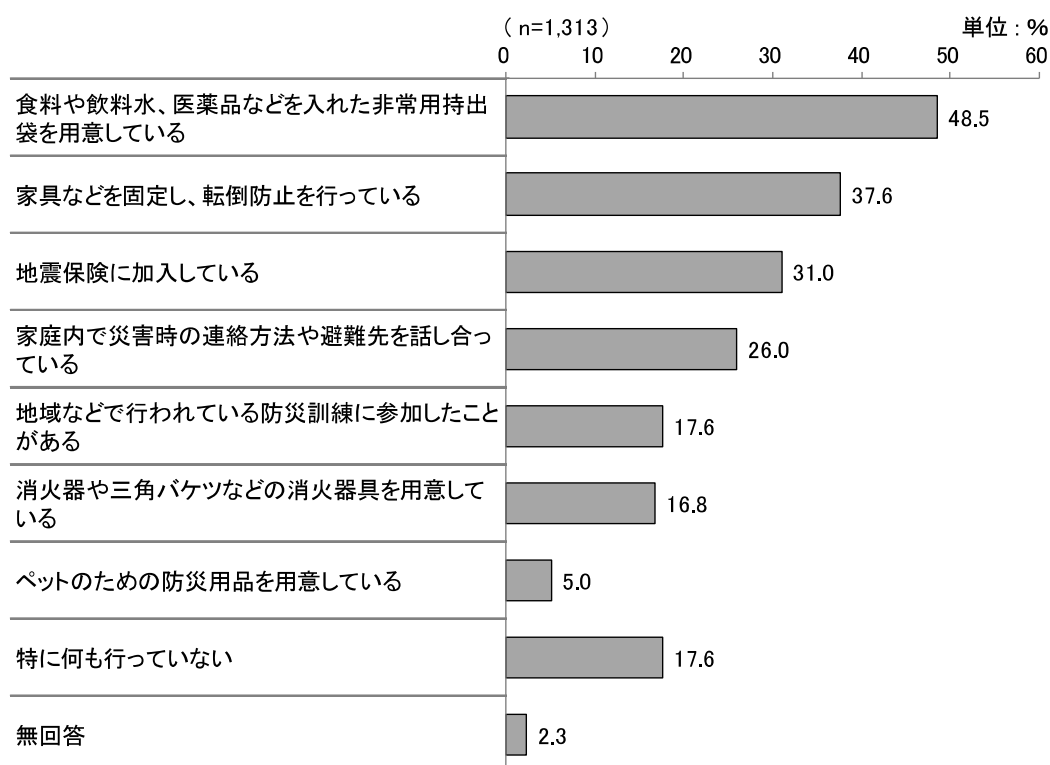
18. 防災

(1) 日頃行っている防災対策

◆ 「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」が5割近く

問 29 あなたが、日頃行っている防災対策や準備は何ですか（〇はいくつでも）。

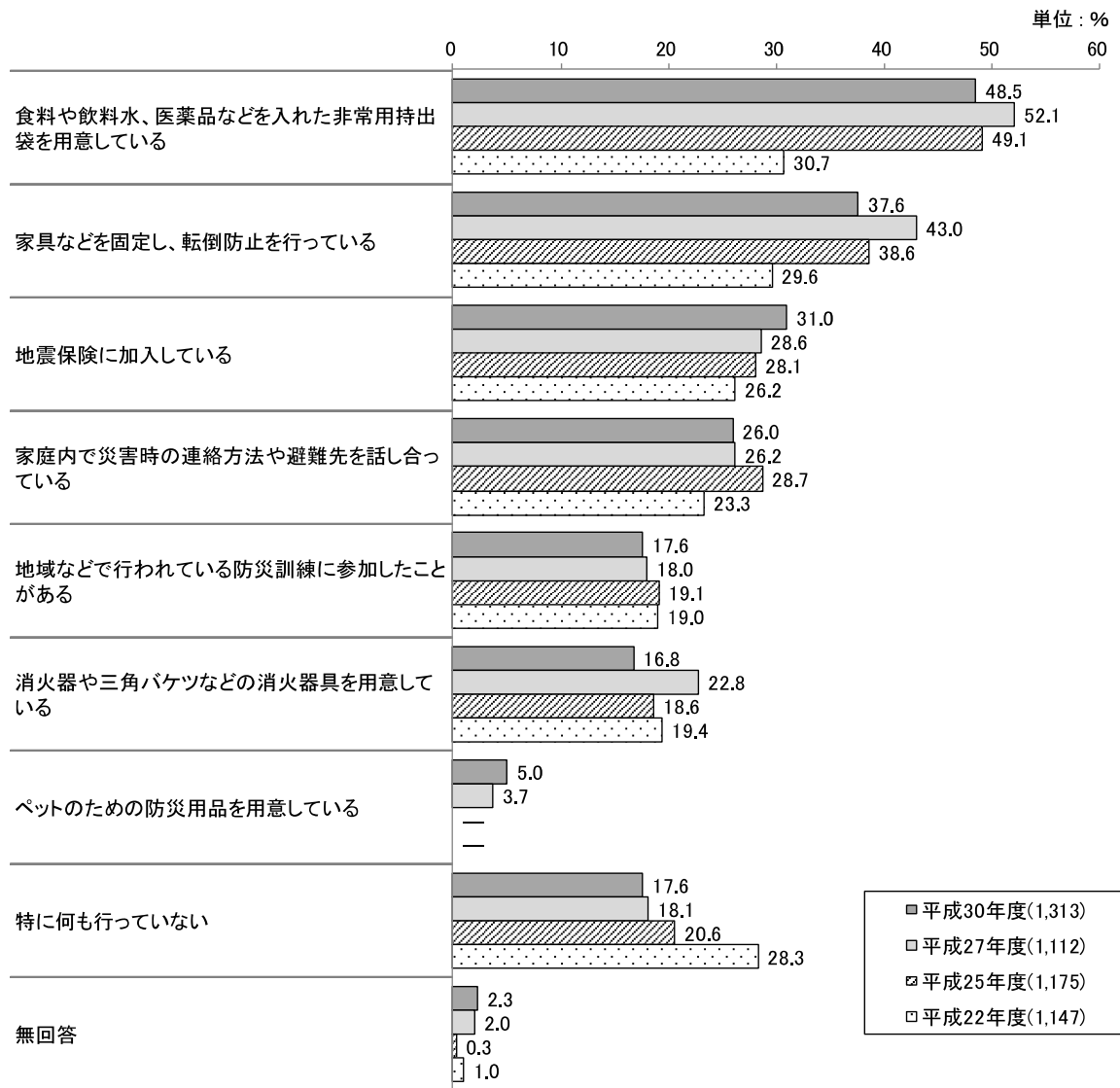
図表Ⅲ-18-1 日頃行っている防災対策



日頃行っている防災対策は、「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」(48.5%)が5割近くと最も高く、次いで「家具などを固定し、転倒防止を行っている」(37.6%)、「地震保険に加入している」(31.0%)と続いている。(図表Ⅲ-18-1)

【経年変化】

図表Ⅲ－18－2 日頃行っている防災対策（経年変化）



※ 「ペットのための防災用品を用意している」は、平成 27 年度調査で新たに追加された選択肢となっている。

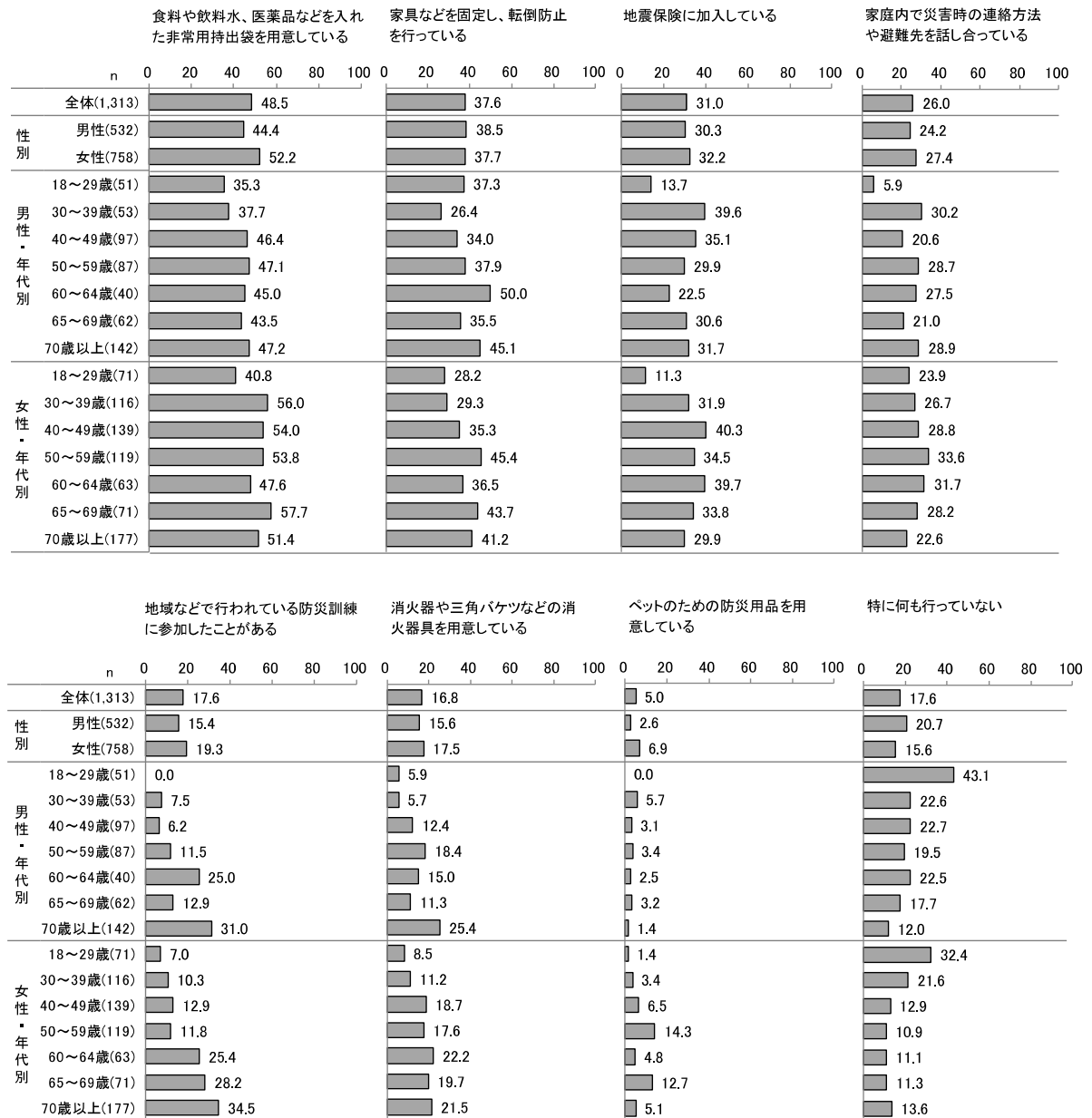
「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」（48.5％）は、過去 3 回の調査と同様、最も高くなっている。また、平成 22 年度調査（30.7％）より 17.8 ポイント増加しているが、平成 27 年度調査（52.1％）より 3.6 ポイント減少している。

その他、「地震保険に加入している」（31.0％）は 3 割強と、過去 3 回の調査と比較し、最も高くなっている。（図表Ⅲ－18－2）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-18-3 日頃行っている防災対策（性別／性・年代別）

単位：%

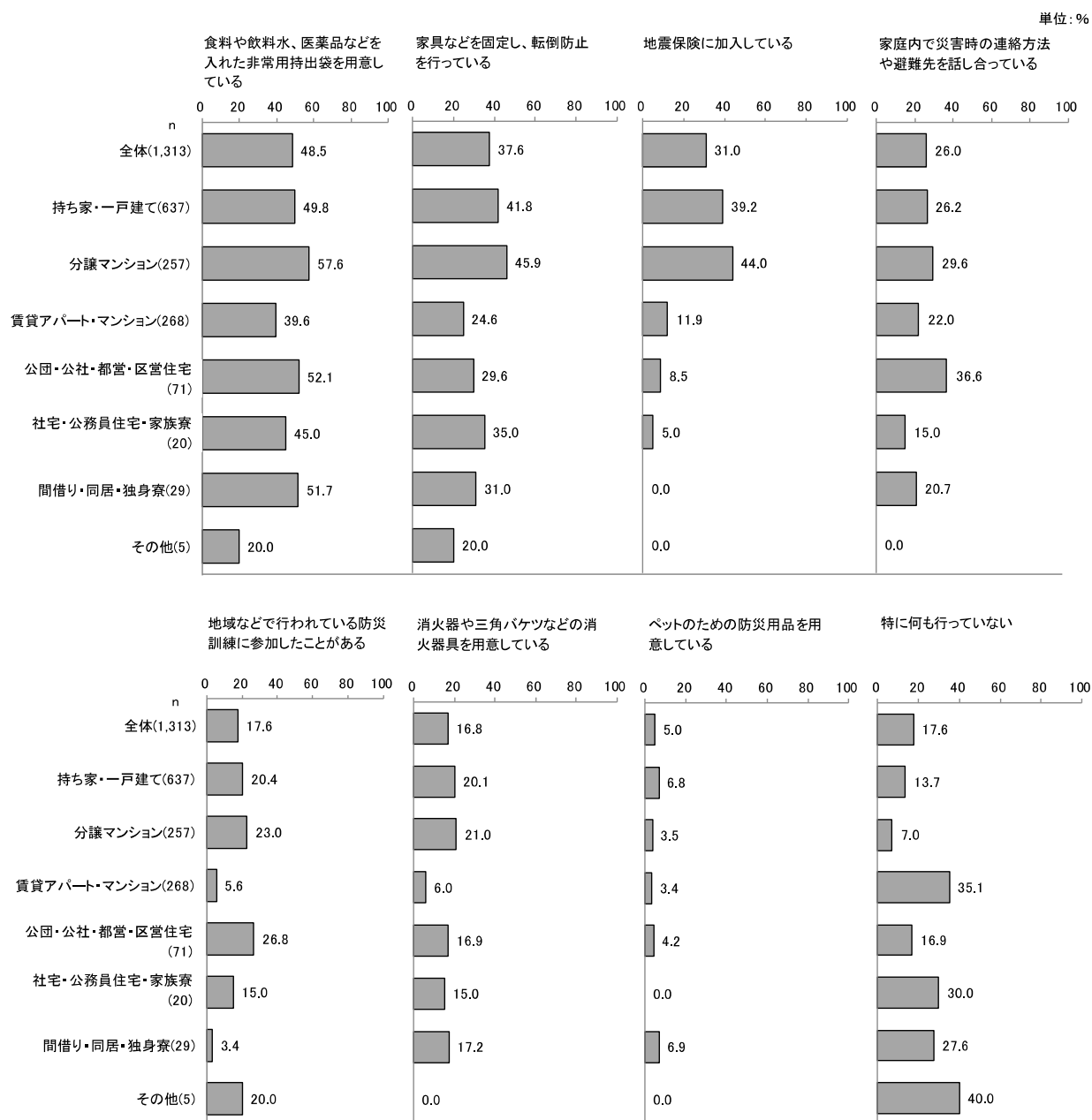


性別で見ると、「特に何も行っていない」は、「男性」(20.7%)が「女性」(15.6%)より5.1ポイント高くなっている。一方、「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」は、「女性」(52.2%)が「男性」(44.4%)より7.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」は、「女性 65～69歳」(57.7%)が他の性・年代と比べ高くなっている。また、「地域などで行われている防災訓練に参加したことがある」は、「70歳以上」の「男性」(31.0%)、「女性」(34.5%)がそれぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ-18-3)

【住居形態別】

図表Ⅲ－18－4 日頃行っている防災対策（住居形態別）

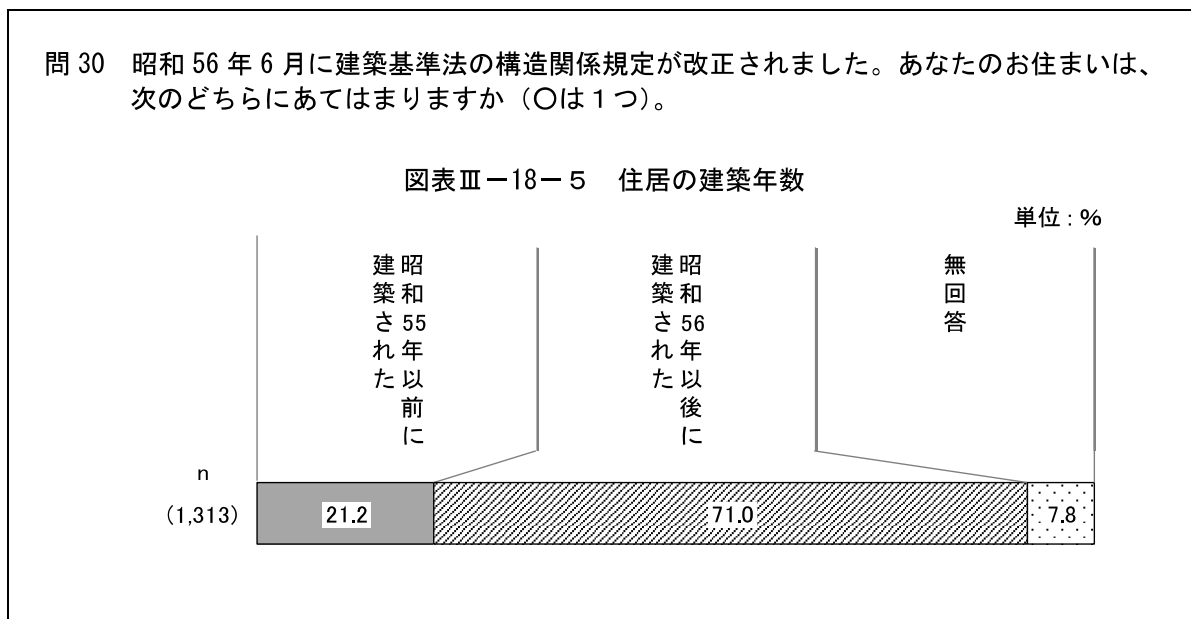


住居形態別でみると、「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」は、「分譲マンション」(57.6%)が最も高く、次いで「公団・公社・都営・区営住宅」(52.1%)、「間借り・同居・独身寮」(51.7%)と続いている。

また、「分譲マンション」は、「家具などを固定し、転倒防止を行っている」(45.9%)、「地震保険に加入している」(44.0%)においても、他の住居形態より高くなっている。(図表Ⅲ－18－4)

(2) 住居の建築年数

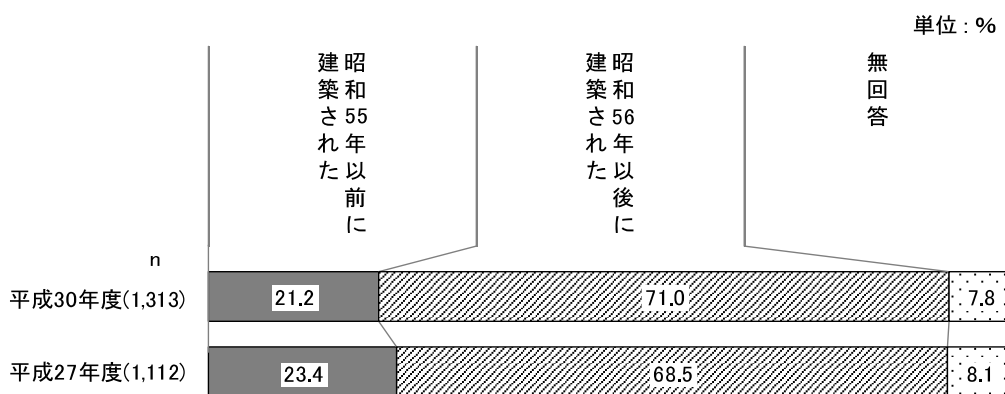
◆ 「昭和 56 年以後に建築された」が 7 割強



住居の建築年数は、「昭和 56 年以後に建築された」(71.0%) が 7 割強、「昭和 55 年以前に建築された」(21.2%) は、2 割強となっている。(図表Ⅲ-18-5)

【経年変化】

図表Ⅲ-18-6 住居の建築年数（経年変化）

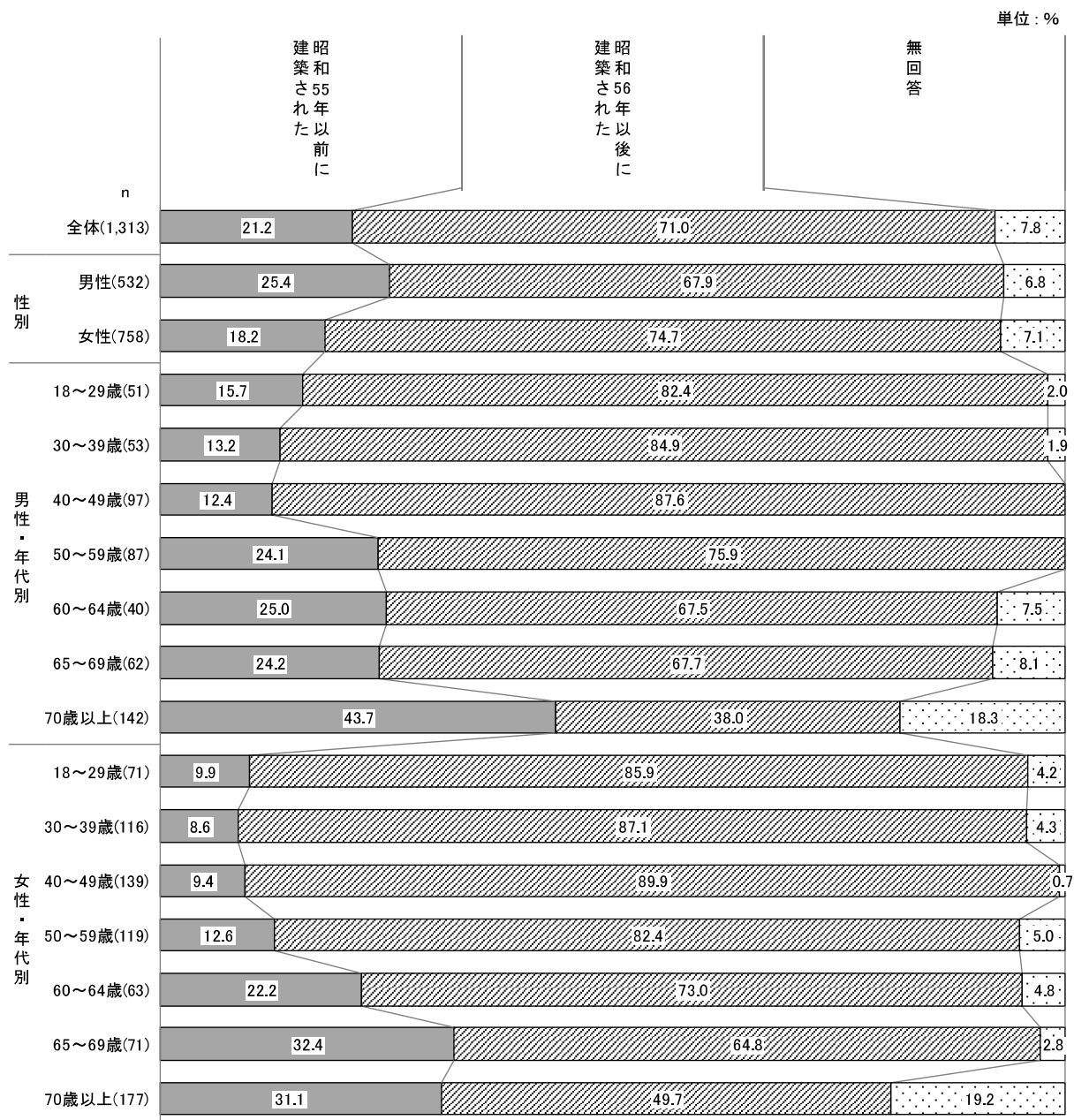


「昭和 55 年以前に建築された」(21.2%) は、平成 27 年度調査 (23.4%) より 2.2 ポイント減少している。

一方、「昭和 56 年以後に建築された」(71.0%) は、平成 27 年度調査 (68.5%) より 2.5 ポイント増加している。(図表Ⅲ-18-6)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－18－7 住居の建築年数（性別／性・年代別）

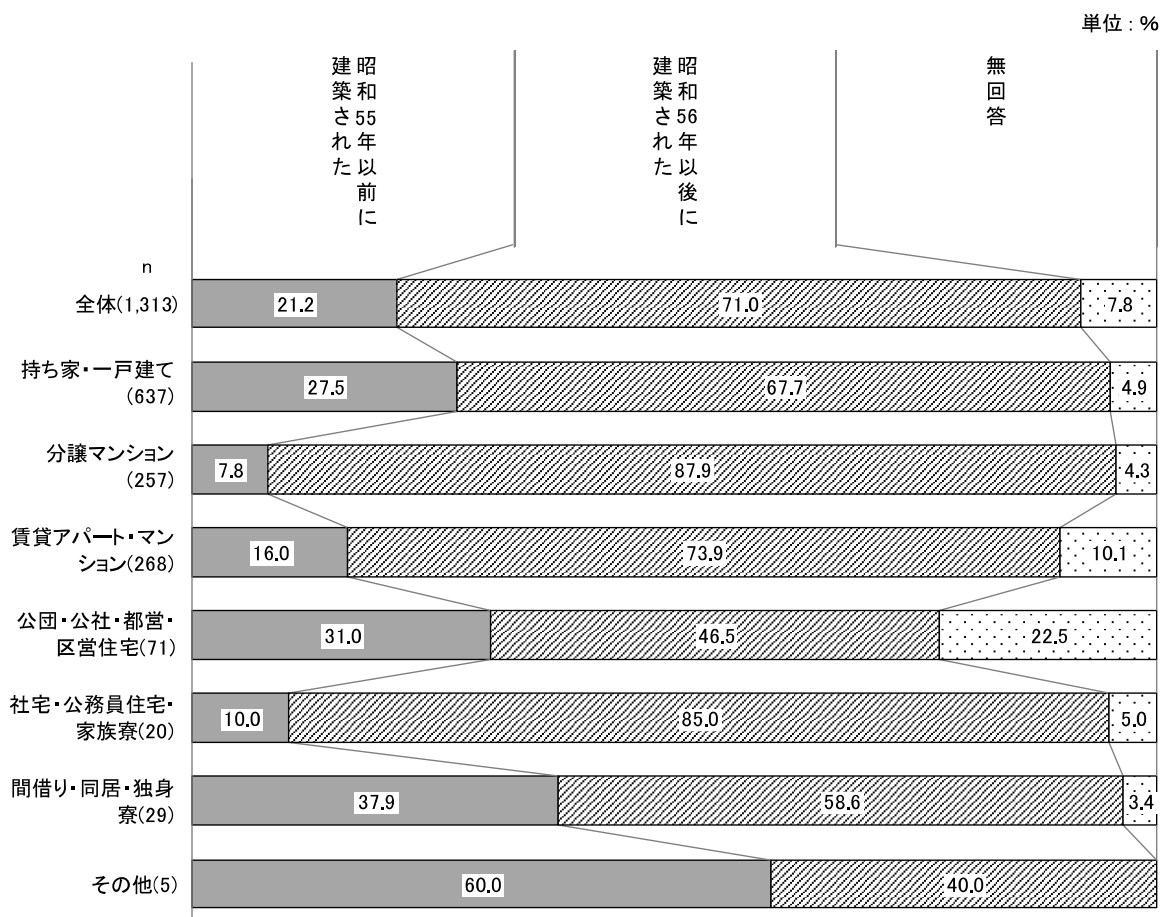


性別で見ると、「昭和55年以前に建築された」は、「男性」(25.4%)が「女性」(18.2%)より7.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「昭和55年以前に建築された」は、「男性70歳以上」(43.7%)が4割強と最も高くなっている。一方、「女性」の49歳以下は、1割未満となっている。(図表Ⅲ－18－7)

【住居形態別】

図表Ⅲ－18－8 住居の建築年数（住居形態別）

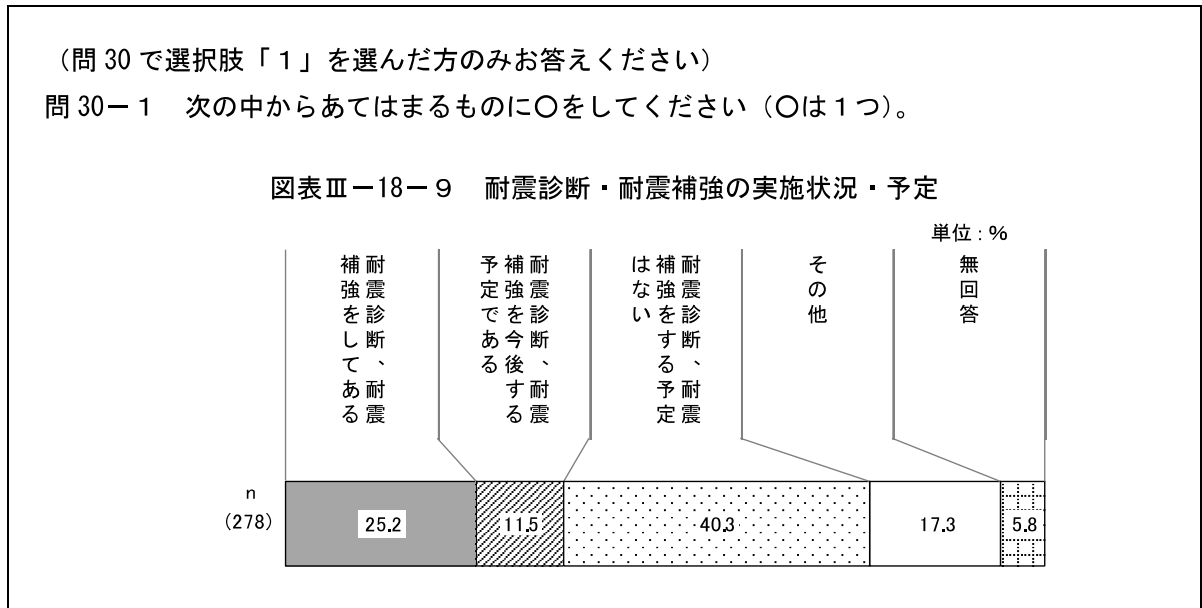


住居形態別でみると、「昭和55年以前に建築された」は、「間借り・同居・独身寮」（37.9%）が最も高く、次いで「公団・公社・都営・区営住宅」（31.0%）、「持ち家・一戸建て」（27.5%）と続いている。

また、「昭和56年以後に建築された」は、「分譲マンション」（87.9%）が9割近くと最も高くなっている。（図表Ⅲ－18－8）

(2-1) 耐震診断・耐震補強の実施状況・予定

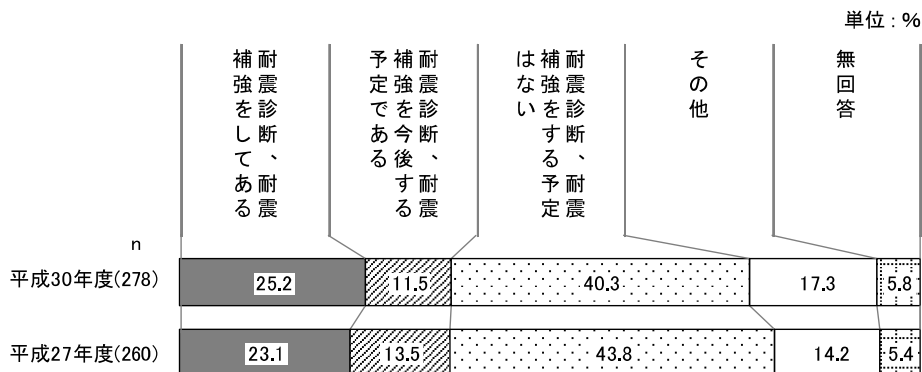
◆ 「耐震診断、耐震補強をする予定はない」が約4割



耐震診断・耐震補強の実施状況・予定は、「耐震診断、耐震補強をする予定はない」(40.3%)が約4割と最も高く、次いで「耐震診断、耐震補強をしてある」(25.2%)、「耐震診断、耐震補強を今後する予定である」(11.5%)と続いている。(図表Ⅲ-18-9)

【経年変化】

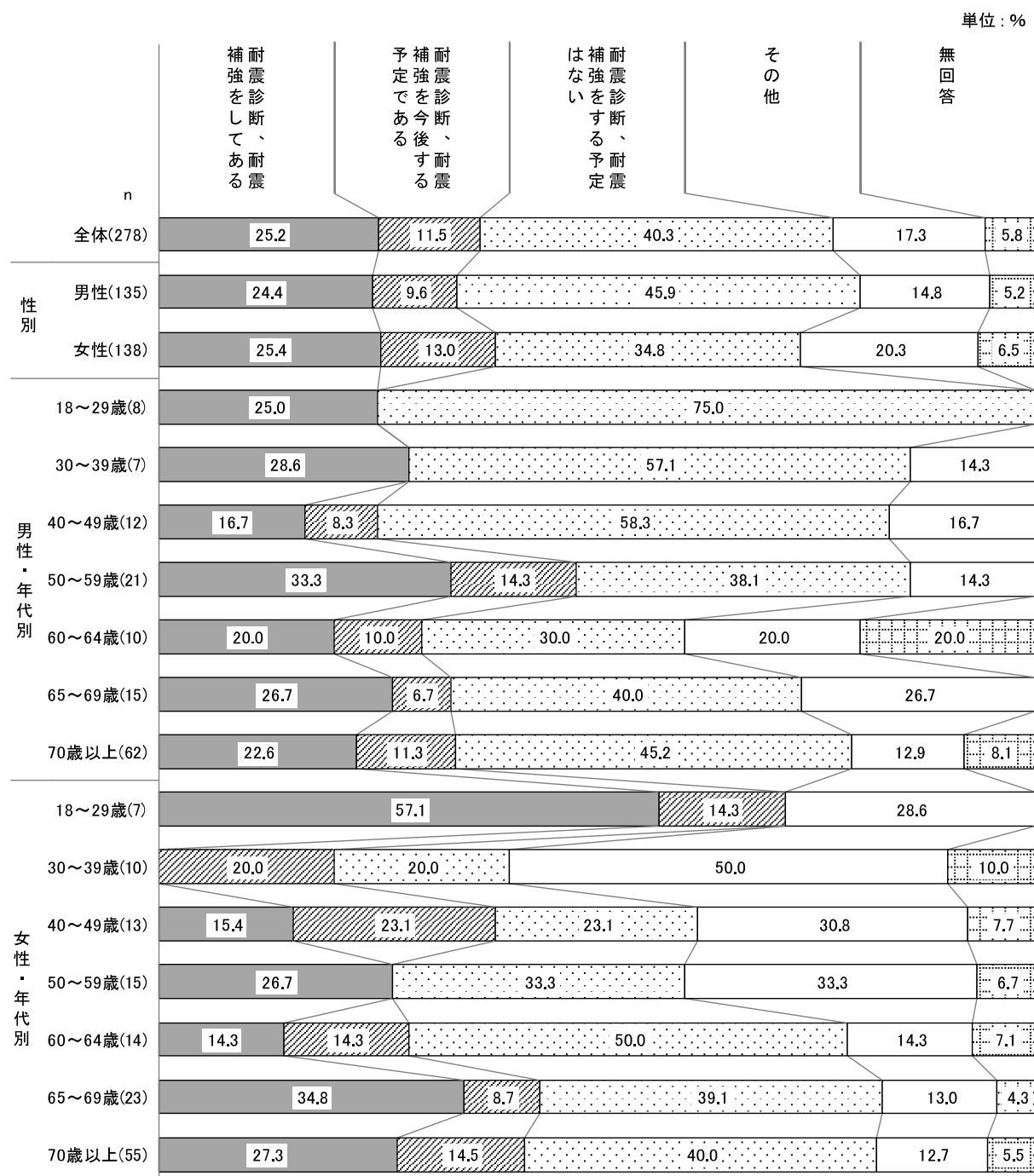
図表Ⅲ-18-10 耐震診断・耐震補強の実施状況・予定(経年変化)



「耐震診断、耐震補強をしてある」(25.2%)は、平成27年度調査(23.1%)より2.1ポイント増加している。一方、「耐震診断、耐震補強をする予定はない」(40.3%)は、平成27年度調査(43.8%)より3.5ポイント減少している。(図表Ⅲ-18-10)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－18－11 耐震診断・耐震補強の実施状況・予定（性別／性・年代別）

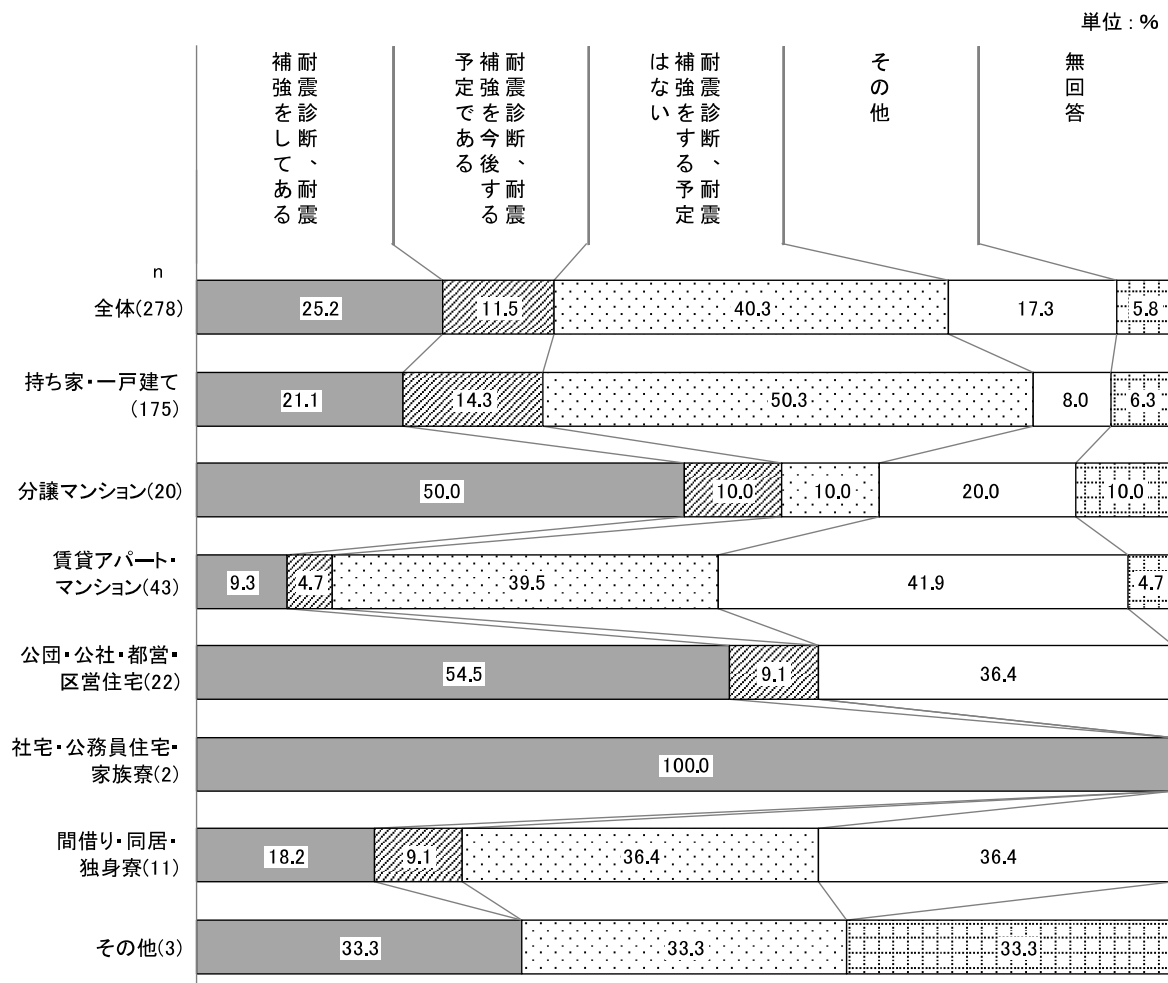


性別で見ると、「耐震診断、耐震補強をする予定はない」は、「男性」（45.9%）が「女性」（34.8%）より 11.1 ポイント高くなっている。一方、「耐震診断、耐震補強を今後する予定である」は、「女性」（13.0%）が「男性」（9.6%）より 3.4 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「耐震診断、耐震補強をしてある」は、「男性 50～59 歳」（33.3%）、「女性 18～29 歳」（57.1%）がそれぞれ最も高くなっている。（図表Ⅲ－18－11）

【住居形態別】

図表Ⅲ-18-12 耐震診断・耐震補強の実施状況・予定（住居形態別）



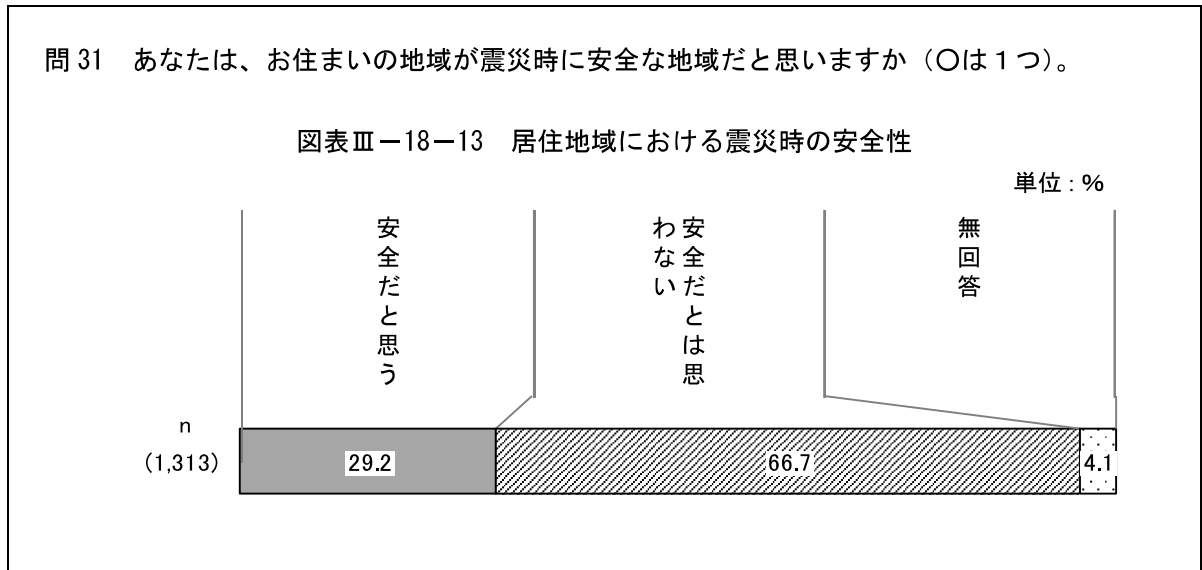
住居形態別でみると、「耐震診断、耐震補強をしてある」は「公団・公社・都営・区営住宅」（54.5%）が最も高く、次いで、「分譲マンション」（50.0%）、「持ち家・一戸建て」（21.1%）と続いている。

一方、「耐震診断、耐震補強をする予定はない」は、「持ち家・一戸建て」（50.3%）が最も高く、次いで「賃貸アパート・マンション」（39.5%）、「間借り・同居・独身寮」（36.4%）と続いている。

（図表Ⅲ-18-12）

(3) 居住地域における震災時の安全性

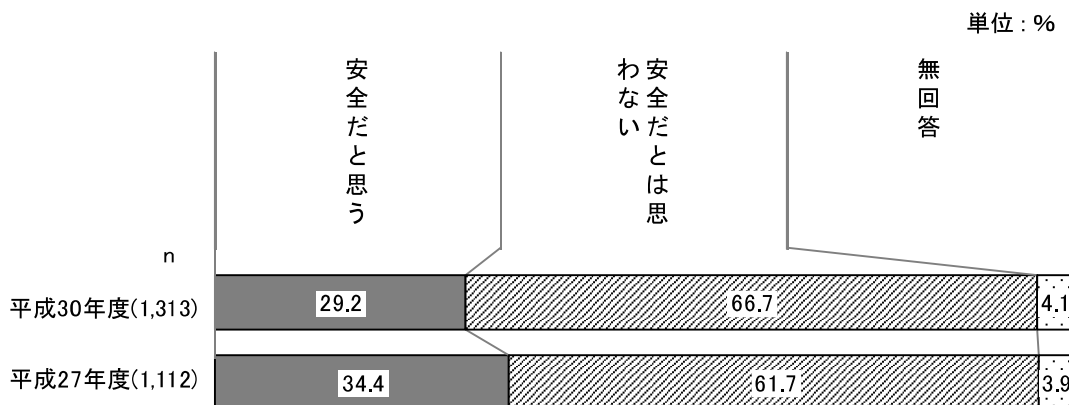
◆ 「安全だとは思わない」が7割近く



居住地域における震災時の安全性は、「安全だとは思わない」(66.7%)が7割近くとなっており、「安全だと思わない」(29.2%)が3割弱となっている。(図表Ⅲ-18-13)

【経年変化】

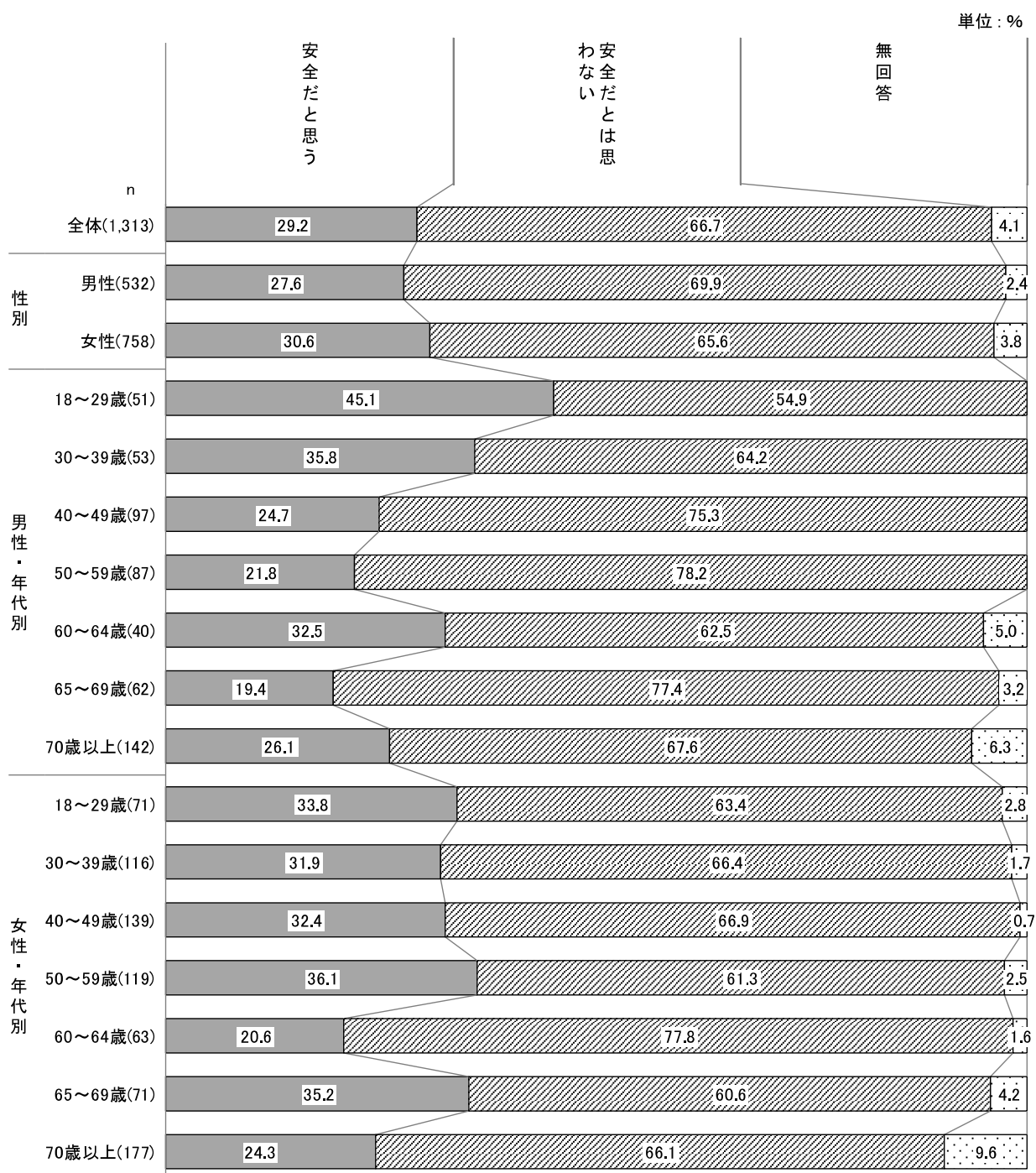
図表Ⅲ-18-14 居住地域における震災時の安全性（経年変化）



「安全だと思わない」(29.2%)は、平成27年度調査(34.4%)より5.2ポイント減少している。一方、「安全だとは思わない」(66.7%)は、平成27年度調査(61.7%)より5.0ポイント増加している。(図表Ⅲ-18-14)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－18－15 居住地域における震災時の安全性（性別／性・年代別）

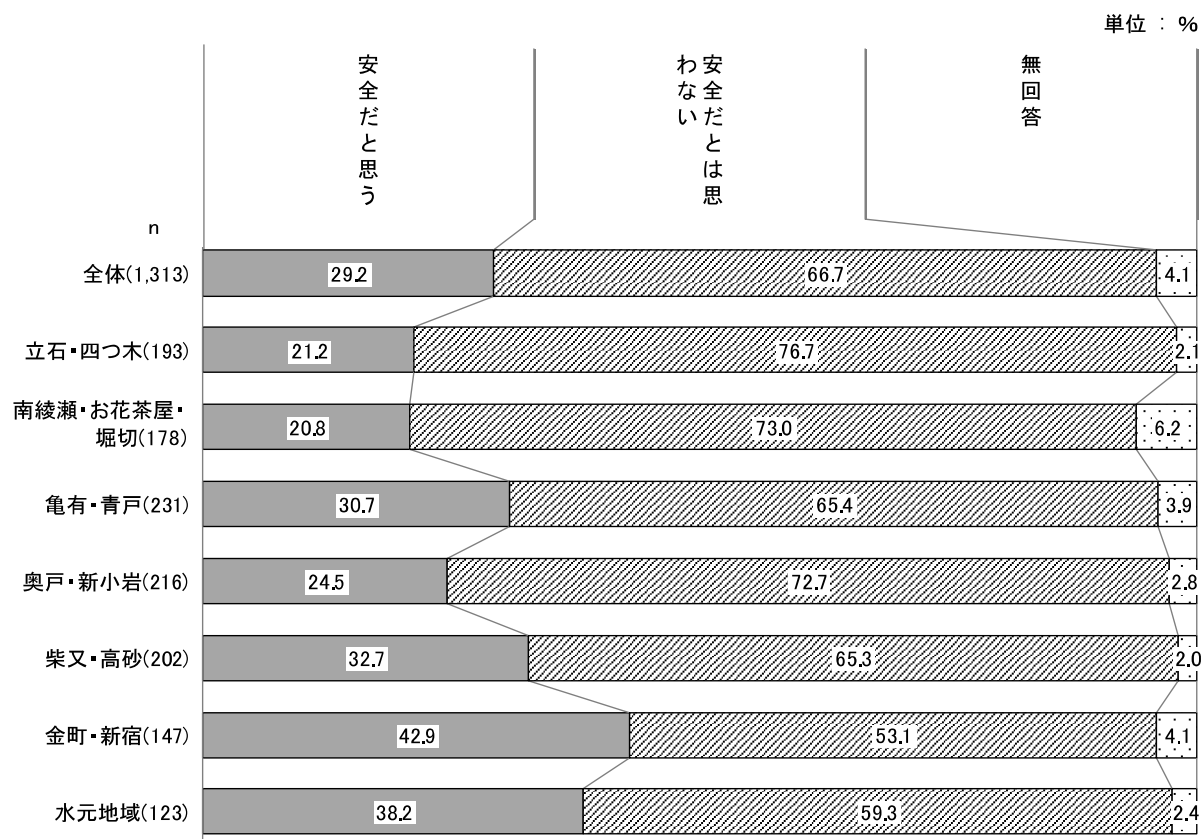


性別で見ると、「安全だとは思わない」は、「男性」（69.9%）が「女性」（65.6%）より4.3ポイント高くなっている。一方、「安全だと思う」は、「女性」（30.6%）が「男性」（27.6%）より3.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「安全だと思う」は、「男性 18～29歳」（45.1%）が最も高くなっている。一方、「安全だとは思わない」は、「男性 50～59歳」（78.2%）、「女性 60～64歳」（77.8%）がそれぞれ最も高くなっている。（図表Ⅲ－18－15）

【居住地域別】

図表Ⅲ－18－16 居住地域における震災時の安全性（居住地域別）



居住地域別でみると、「安全だと思う」は「金町・新宿」(42.9%)が最も高く、次いで「水元地域」(38.2%)、「柴又・高砂」(32.7%)と続いている。

一方、「安全だとは思わない」は、「立石・四つ木」(76.7%)が最も高く、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(73.0%)、「奥戸・新小岩」(72.7%)と続いている。(図表Ⅲ－18－16)

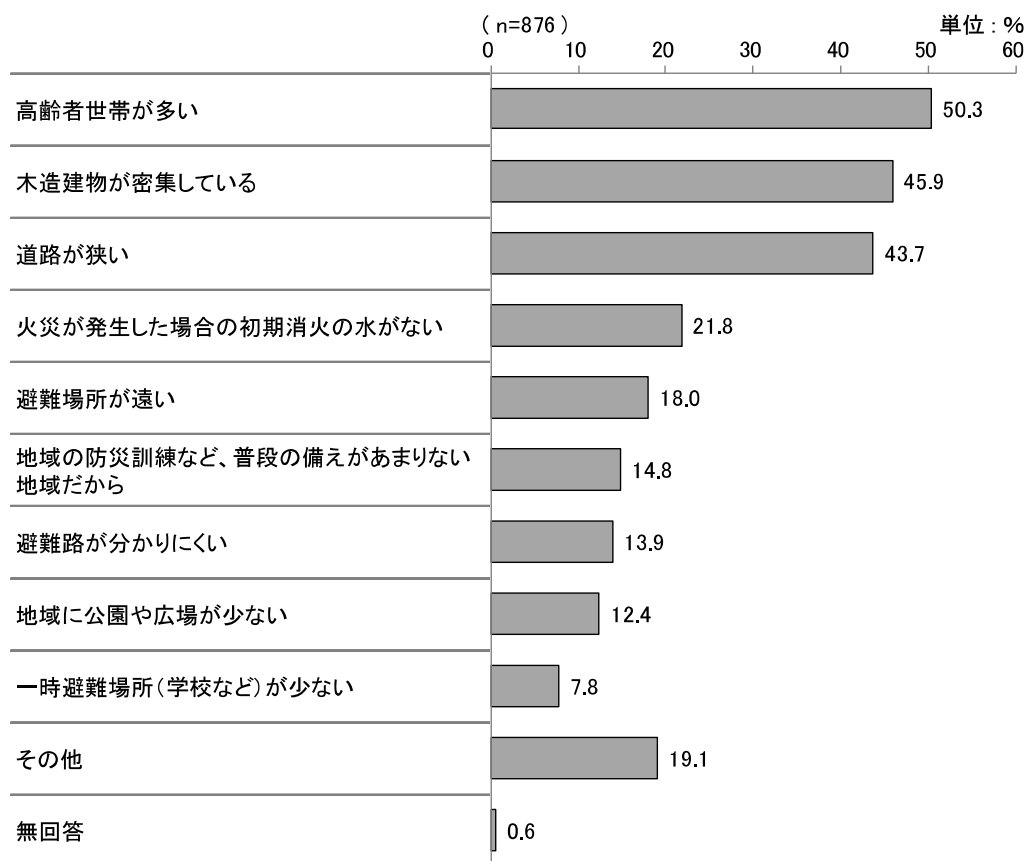
(3-1) 居住地域が震災時に安全でないと思う理由

◆ 「高齢者世帯が多い」が約5割

(問31で選択肢「2」を選んだ方のみお答えください)

問31-1 安全でないと思う理由は何ですか(〇はいくつでも)。

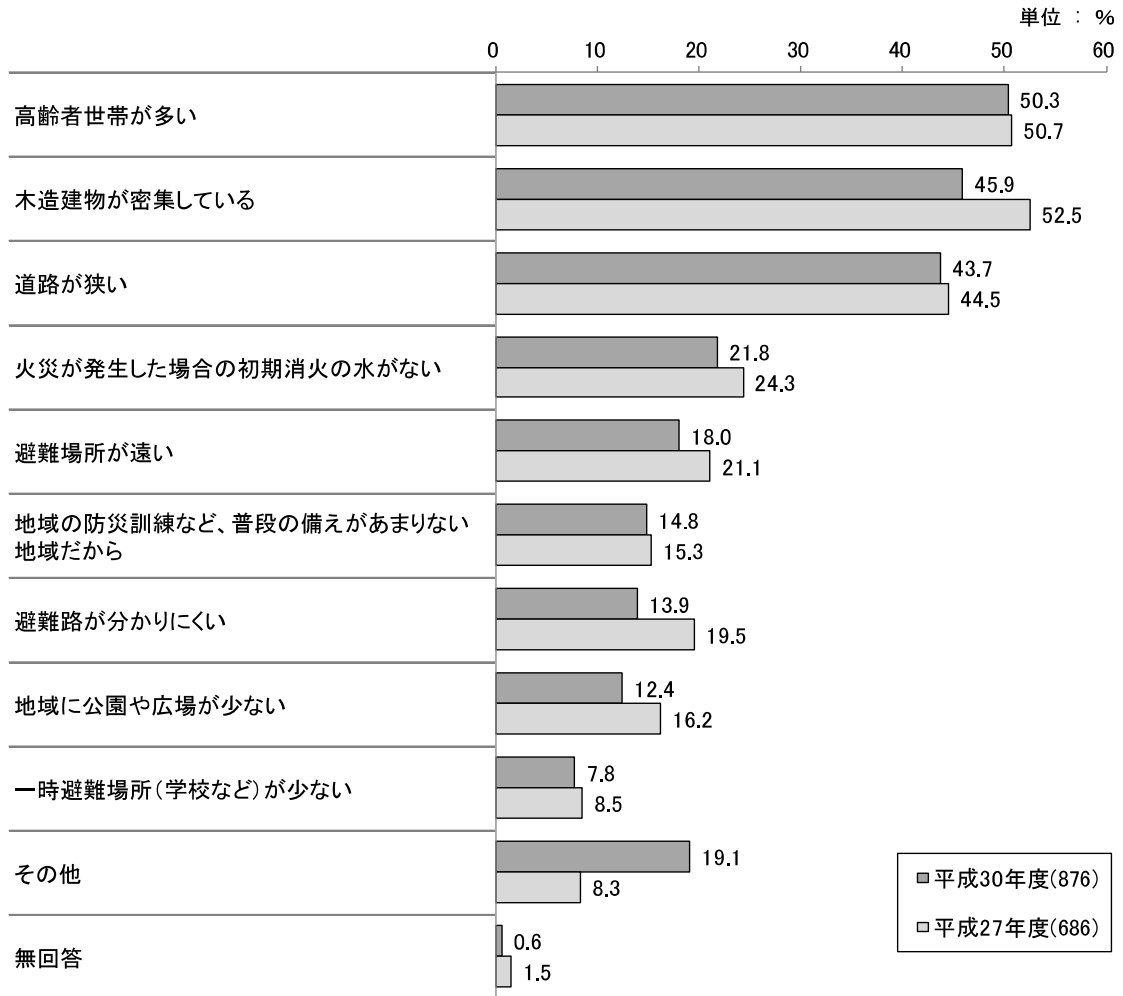
図表Ⅲ-18-17 居住地域が震災時に安全でないと思う理由



居住地域が震災時に安全でないと思う理由は、「高齢者世帯が多い」(50.3%)が約5割と最も高く、次いで「木造建物が密集している」(45.9%)、「道路が狭い」(43.7%)と続いている。(図表Ⅲ-18-17)

【経年変化】

図表Ⅲ－18－18 居住地域が震災時に安全でないと思う理由（経年変化）

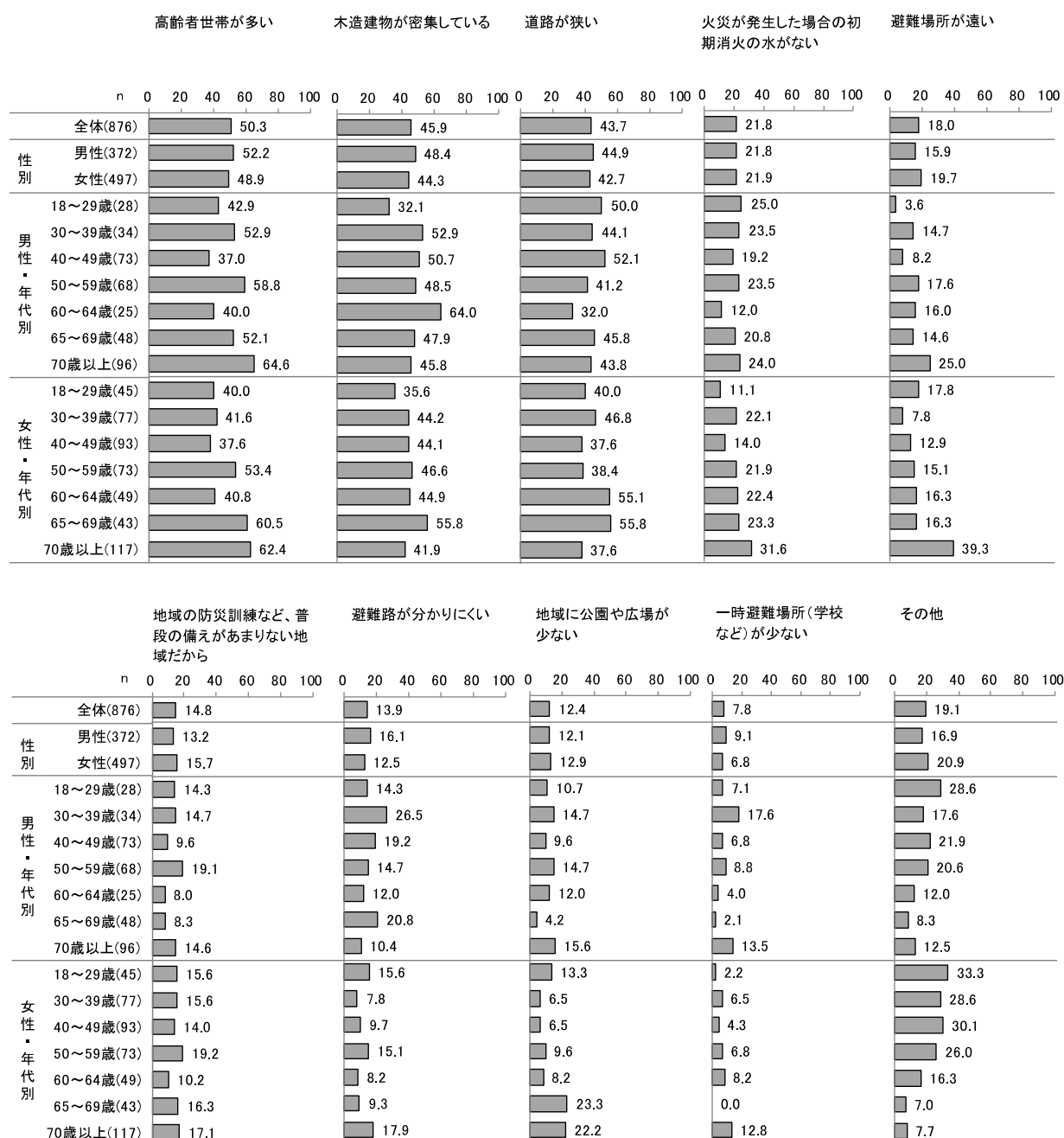


「木造建物が密集している」(45.9%)は、平成27年度調査(52.5%)より6.6ポイント、「避難路が分かりにくい」(13.9%)は、平成27年度調査(19.5%)より5.6ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－18－18)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－18－19 居住地域が震災時に安全でないと思う理由（性別／性・年代別）

単位：％

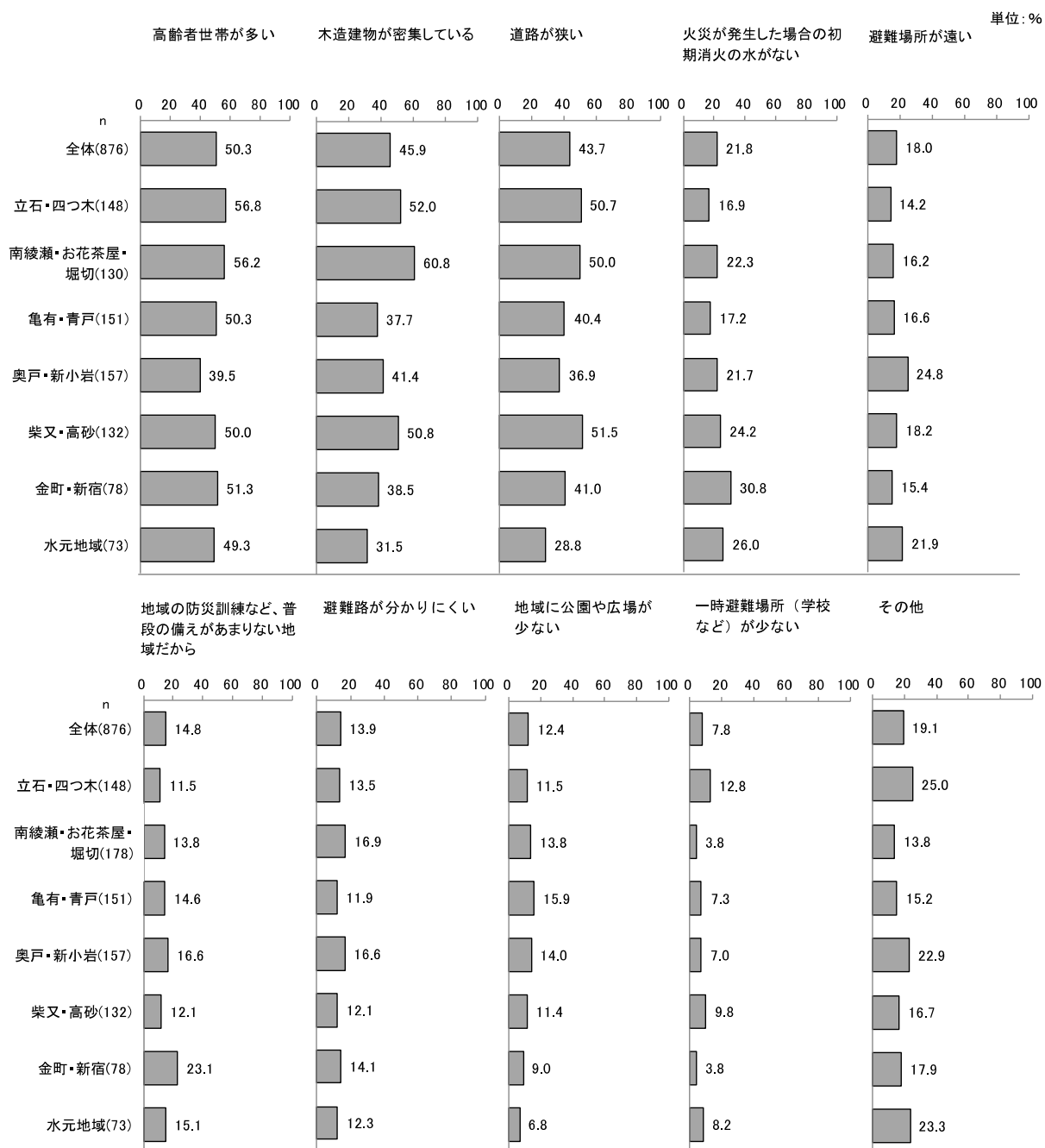


性別で見ると、「木造建物が密集している」は、「男性」(48.4%)が「女性」(44.3%)より4.1ポイント高くなっている。一方、「避難場所が遠い」は、「女性」(19.7%)が「男性」(15.9%)より3.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「高齢者世帯が多い」は、「男性70歳以上」(64.6%)、「女性65～69歳」(60.5%)、「女性70歳以上」(62.4%)が6割以上となっている。また、「避難場所が遠い」は、「女性70歳以上」(39.3%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ－18－19)

【居住地域別】

図表Ⅲ－18－20 居住地域が震災時に安全でないと思う理由（居住地域別）



居住地域別でみると、「高齢者世帯が多い」は、「立石・四つ木」(56.8%)が最も高く、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(56.2%)、「金町・新宿」(51.3%)と続いている。

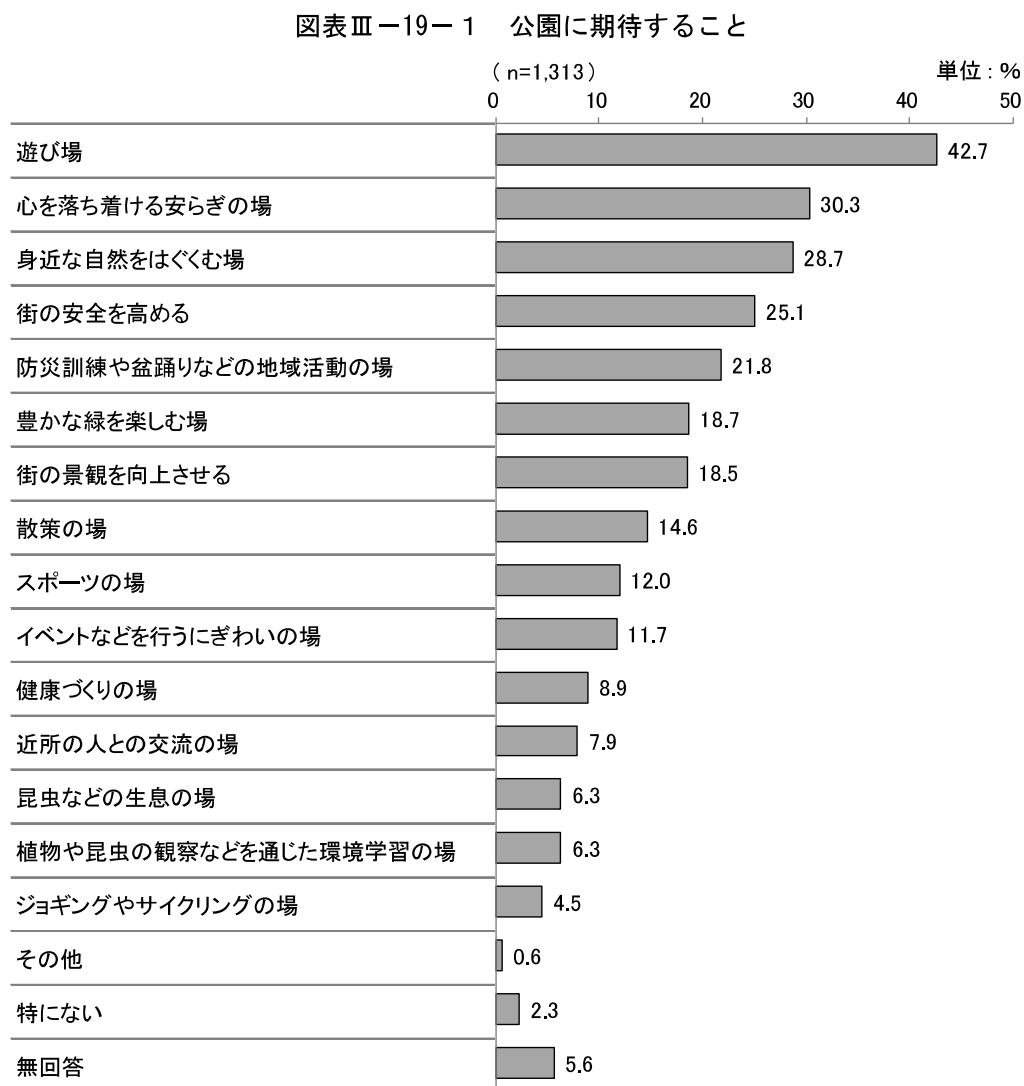
また、「木造建物が密集している」は、「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(60.8%)、「道路が狭い」は、「柴又・高砂」(51.5%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ－18－20)

19. 公園・河川敷

(1) 公園に期待すること

◆ 「遊び場」が4割強

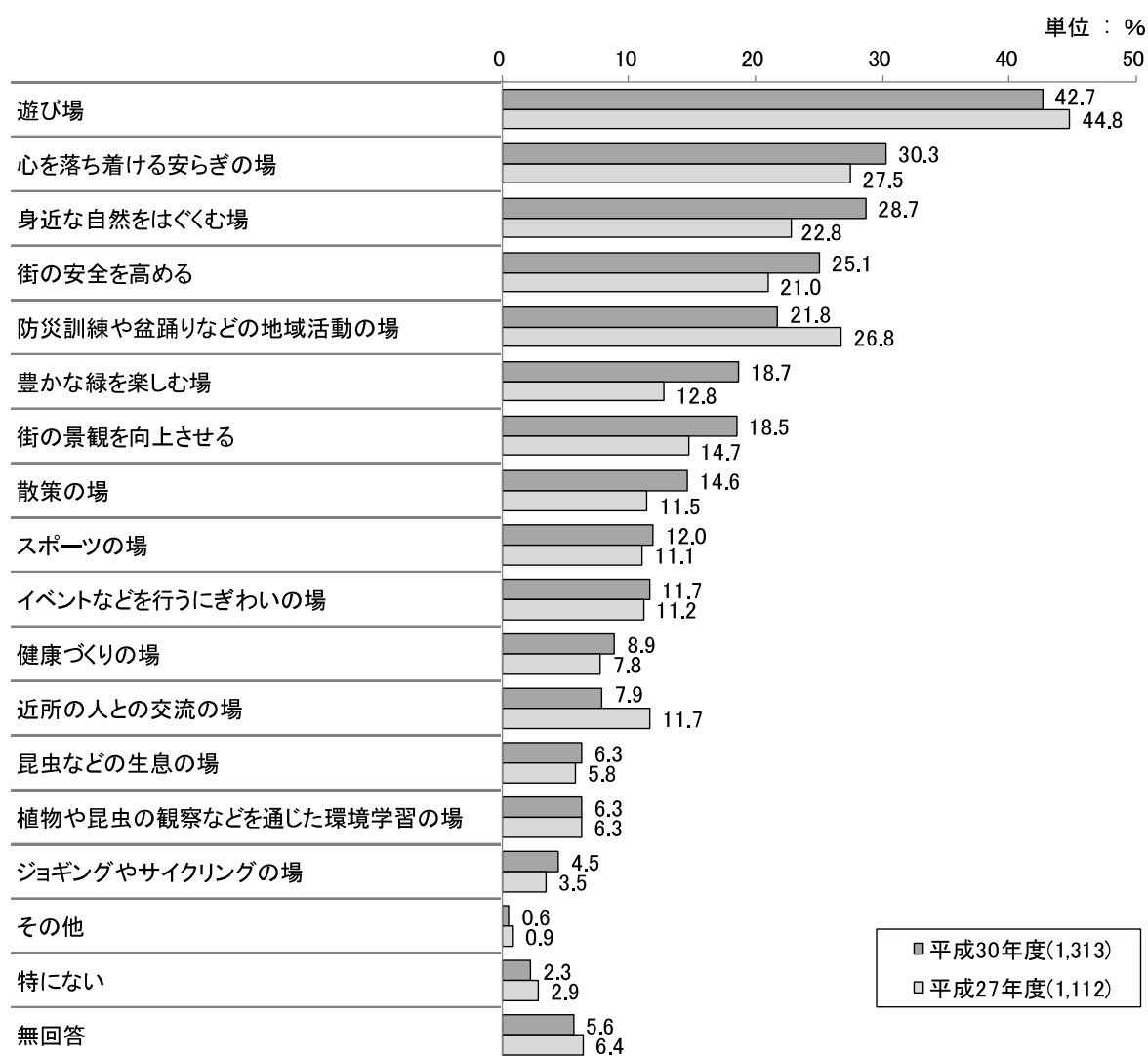
問 32 【公園】あなたは、公園や河川敷にどのようなことを期待しますか（番号は3つ）。



公園に期待することは、「遊び場」（42.7%）が4割強と最も高く、次いで「心を落ち着ける安らぎの場」（30.3%）、「身近な自然をはぐくむ場」（28.7%）と続いている。（図表Ⅲ-19-1）

【経年変化】

図表Ⅲ－19－2 公園に期待すること（経年変化）



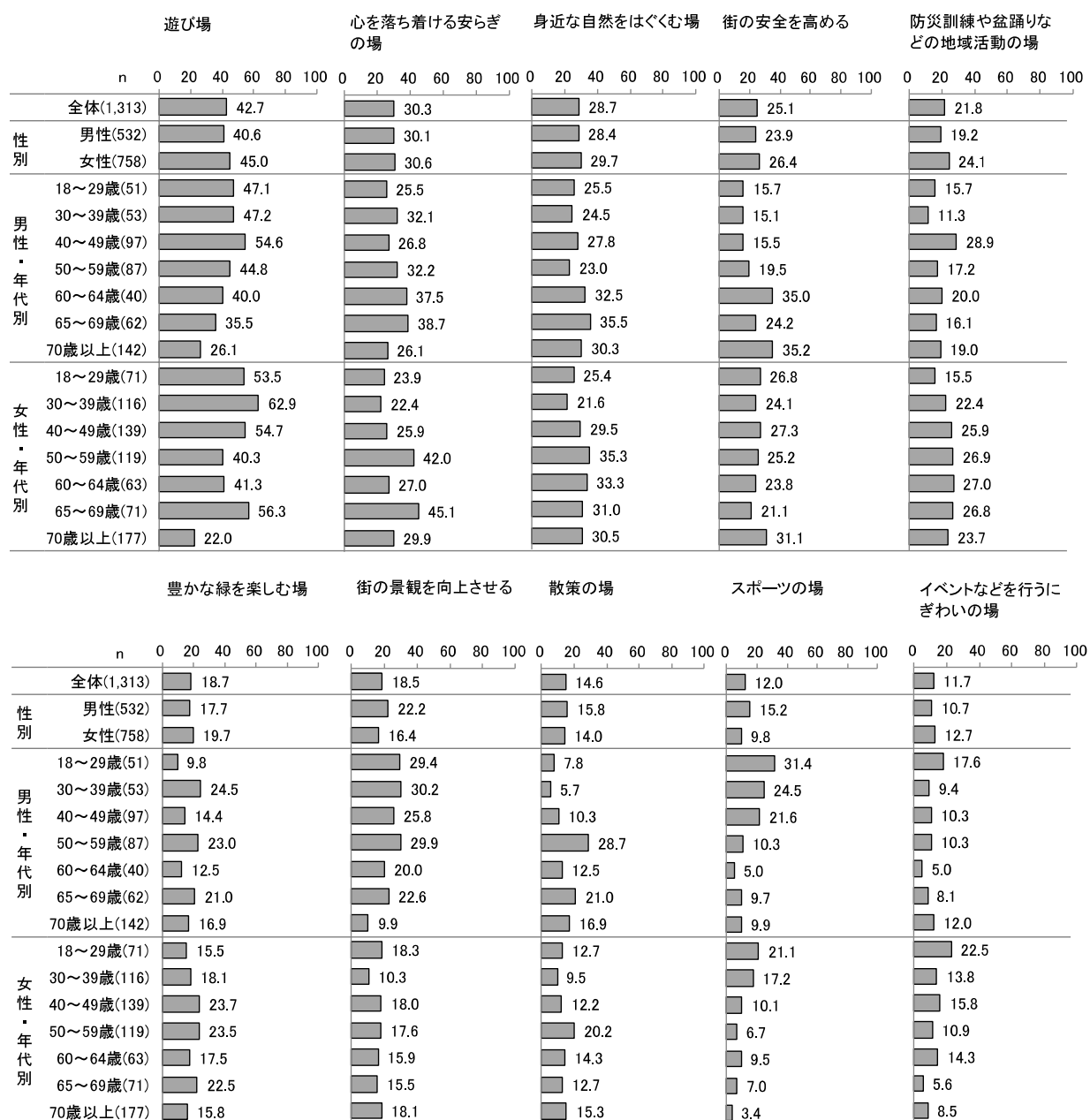
「身近な自然をはぐくむ場」（28.7%）は、平成27年度調査（22.8%）より5.9ポイント、「豊かな緑を楽しむ場」（18.7%）も、平成27年度調査（12.8%）より5.9ポイント、それぞれ増加している。

一方、「防災訓練や盆踊りなどの地域活動の場」（21.8%）は、平成27年度調査（26.8%）より5.0ポイント、「近所の人との交流の場」（7.9%）は、平成27年度調査（11.7%）より3.8ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅲ－19－2）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-19-3 公園に期待すること（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



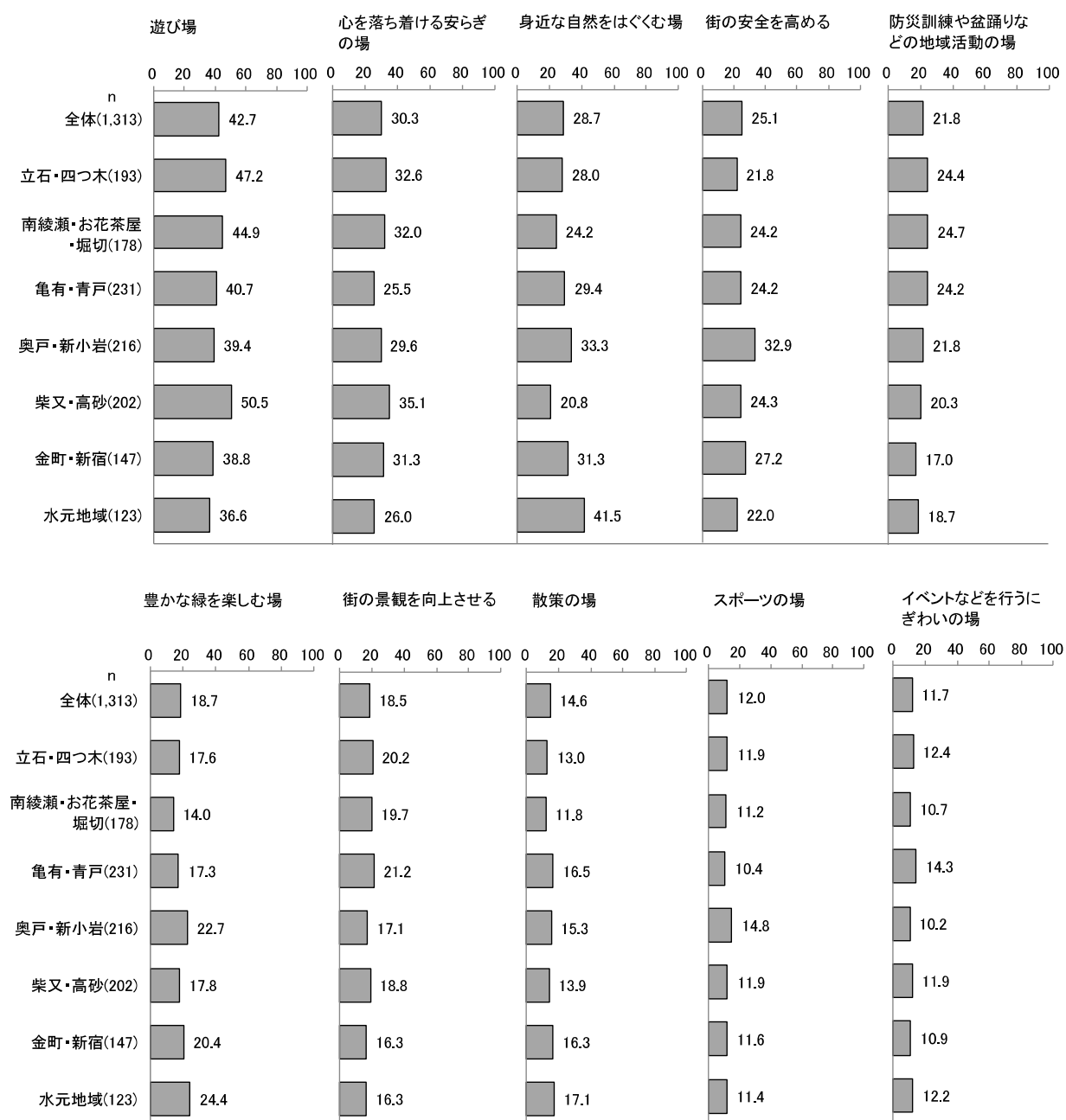
上位10項目について性別でみると、「街の景観を向上させる」は、「男性」(22.2%)が「女性」(16.4%)より5.8ポイント高くなっている。一方、「防災訓練や盆踊りなどの地域活動の場」は、「女性」(24.1%)が「男性」(19.2%)より4.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「遊び場」は、「女性 30～39歳」(62.9%)が6割強と最も高くなっている。また、「心を落ち着ける安らぎの場」は、「女性 65～69歳」(45.1%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-19-3)

【居住地域別】

図表Ⅲ-19-4 公園に期待すること（上位10項目）（居住地域別）

単位：%



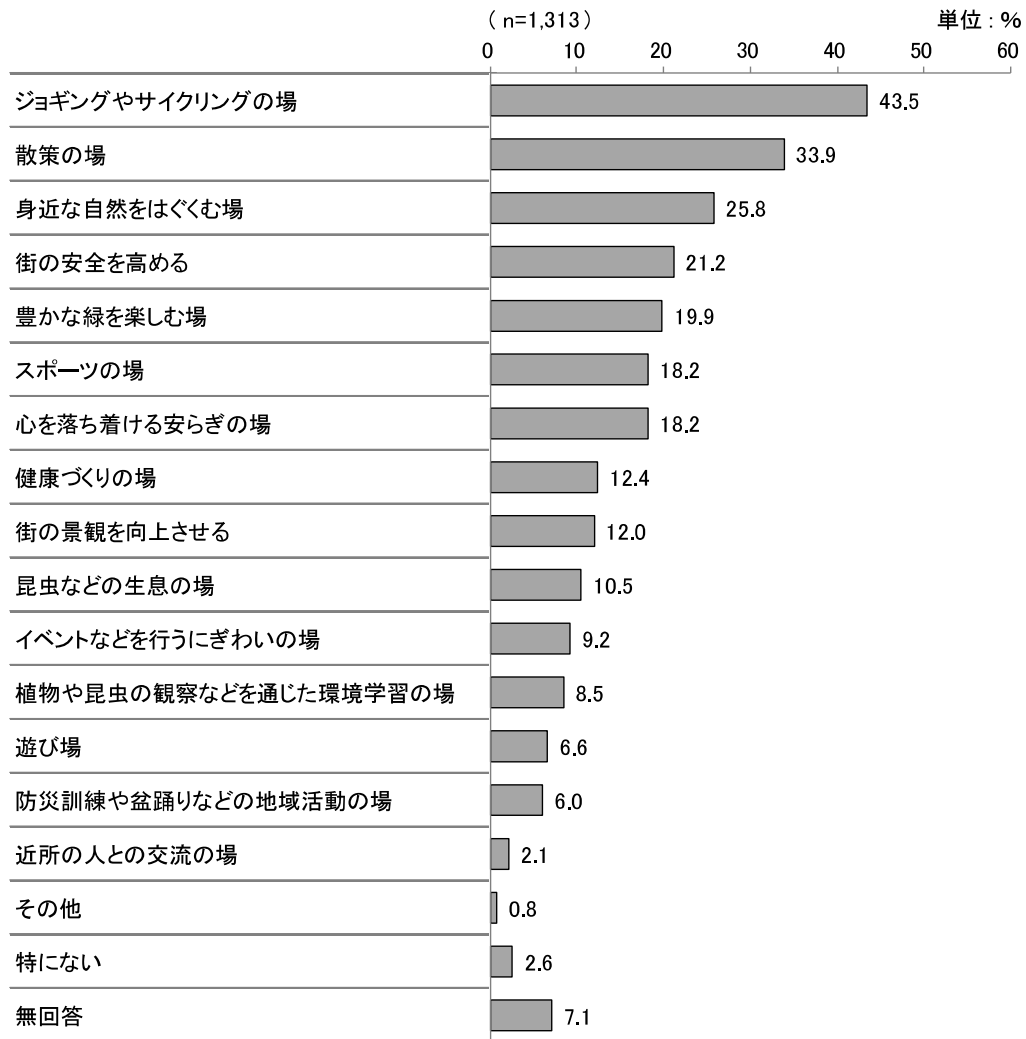
上位10項目について居住地域別でみると、「遊び場」は「柴又・高砂」(50.5%)が最も高く、次いで「立石・四つ木」(47.2%)、「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(44.9%)と続いている。また、「心を落ち着ける安らぎの場」においても、「柴又・高砂」(35.1%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-19-4)

(2) 河川敷に期待すること

◆ 「ジョギングやサイクリングの場」が4割強

問 32 【河川敷】あなたは、公園や河川敷にどのようなことを期待しますか（番号は3つ）。

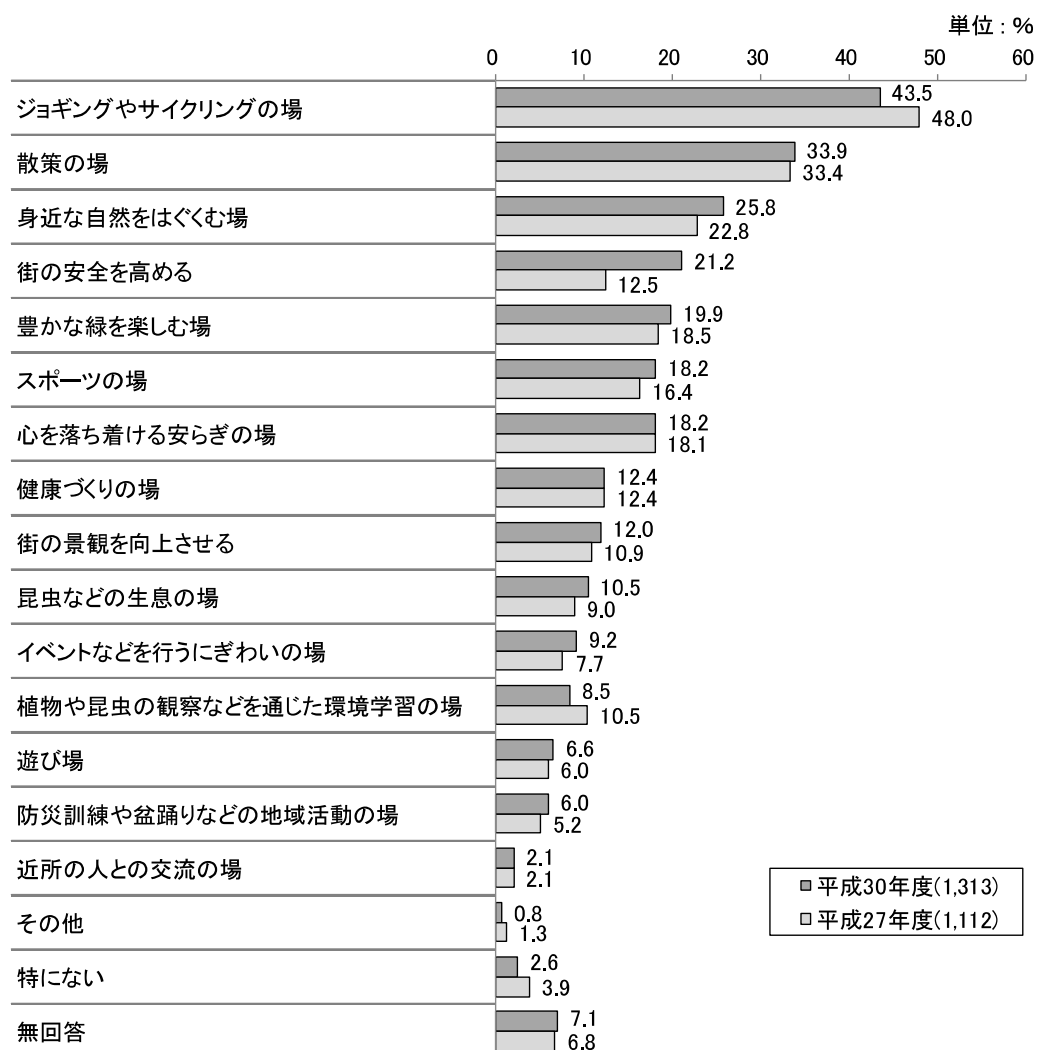
図表Ⅲ－19－5 河川敷に期待すること



河川敷に期待することは、「ジョギングやサイクリングの場」(43.5%)が4割強と最も高く、次いで「散策の場」(33.9%)、「身近な自然をはぐくむ場」(25.8%)と続いている。(図Ⅲ－19－5)

【経年変化】

図表Ⅲ－19－6 河川敷に期待すること（経年変化）



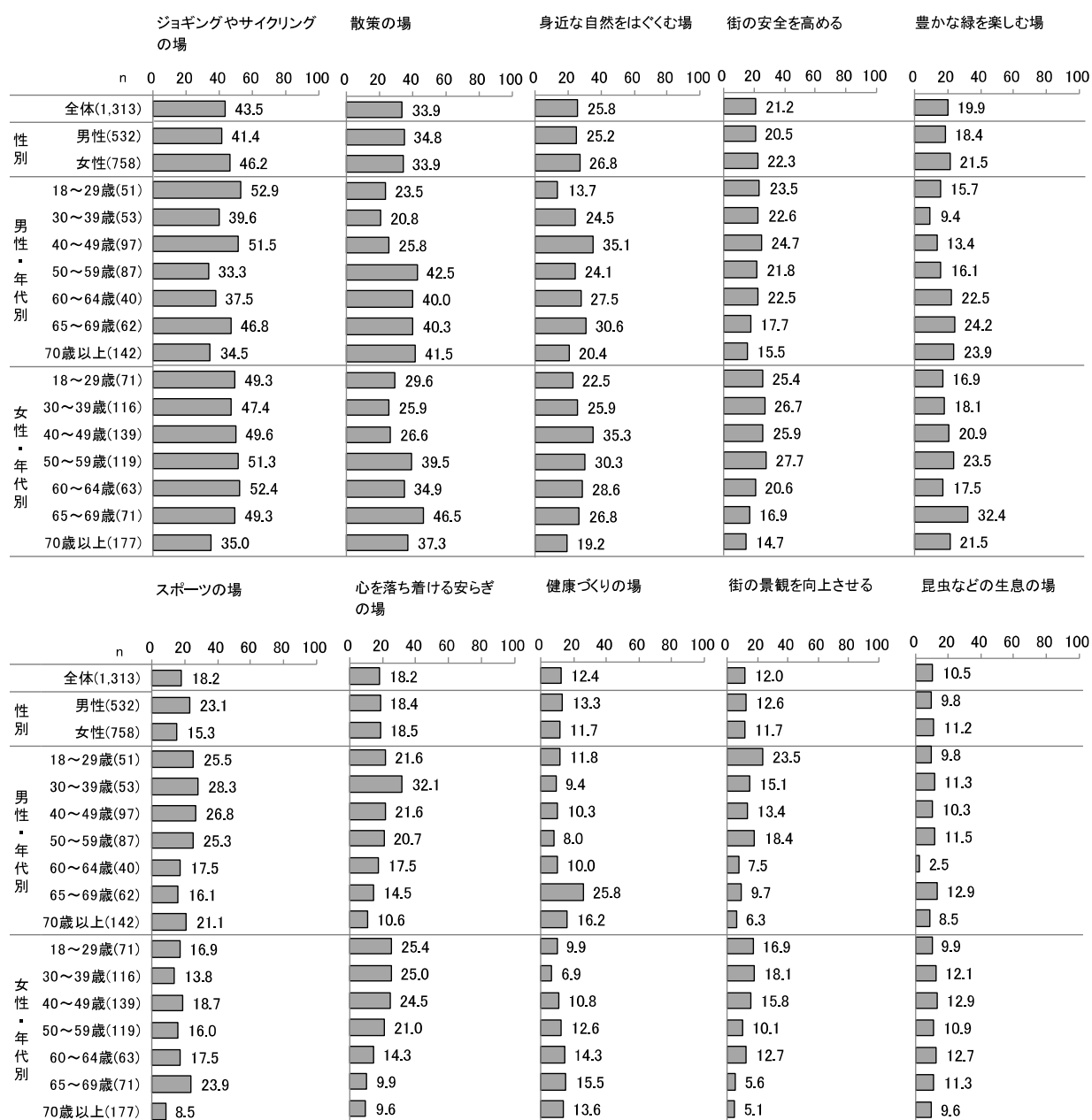
「街の安全を高める」(21.2%)は、平成27年度調査(12.5%)より8.7ポイント、「身近な自然をはぐくむ場」(25.8%)は、平成27年度調査(22.8%)より3.0ポイント、それぞれ増加している。

一方、「ジョギングやサイクリングの場」(43.5%)は、平成27年度調査(48.0%)より4.5ポイント、「植物や昆虫の観察などを通じた環境学習の場」(8.5%)は、平成27年度調査(10.5%)より2.0ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－19－6)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-19-7 河川敷に期待すること（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：%



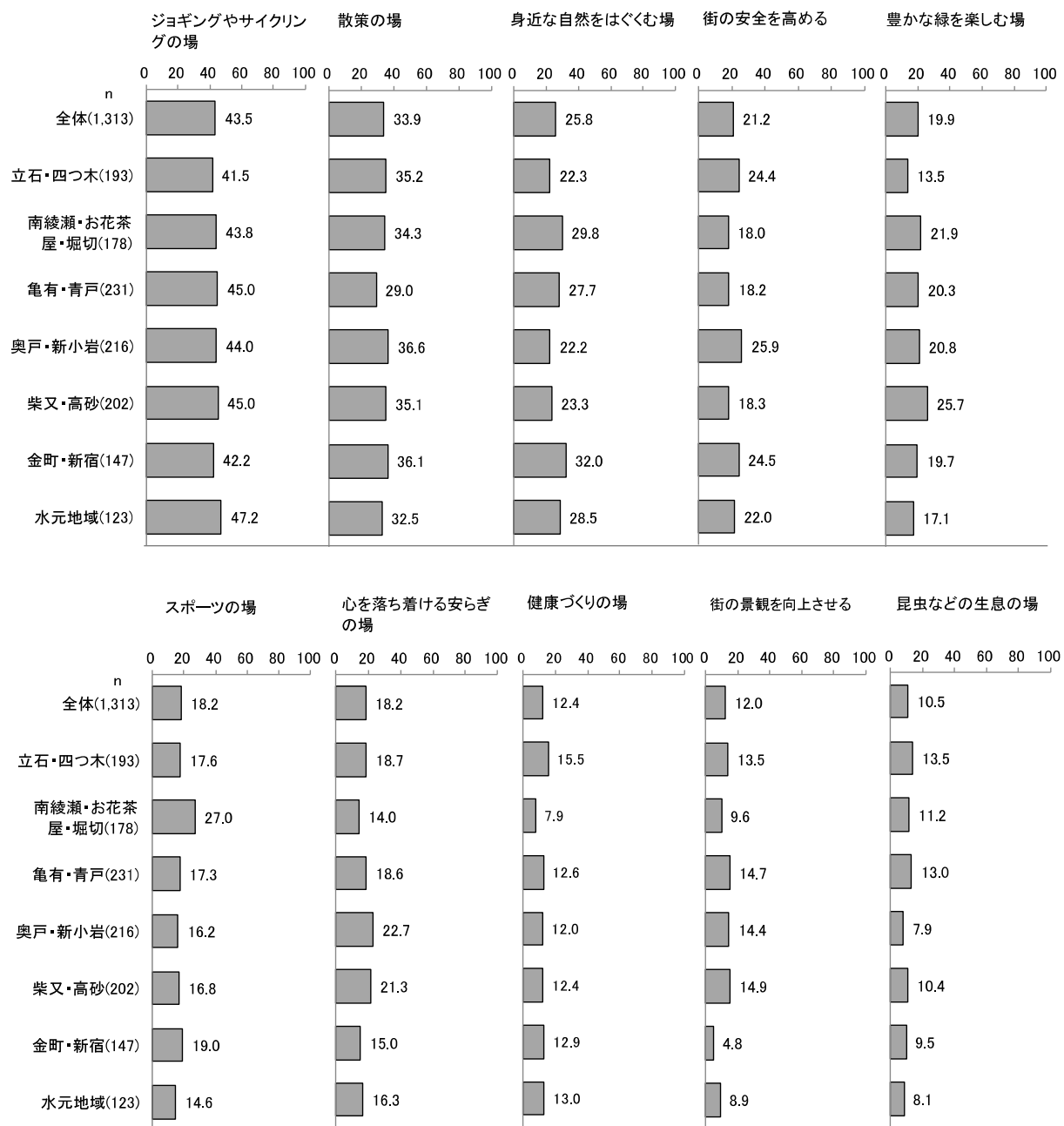
上位10項目について性別で見ると、「スポーツの場」は、「男性」(23.1%)が「女性」(15.3%)より7.8ポイント高くなっている。一方、「ジョギングやサイクリングの場」は、「女性」(46.2%)が「男性」(41.4%)より4.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「ジョギングやサイクリングの場」は、「女性70歳以上」(35.0%)以外が4割以上となっている。また、「散策の場」は、「男性」の50歳以上が4割以上と高くなっている。(図表Ⅲ-19-7)

【居住地域別】

図表Ⅲ-19-8 河川敷に期待すること（上位10項目）（居住地域別）

単位：%



上位10項目について居住地域別で見ると、「ジョギングやサイクリングの場」では、すべての居住地域で4割以上と高くなっている。

また、「散策の場」は、「奥戸・新小岩」(36.6%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-19-8)

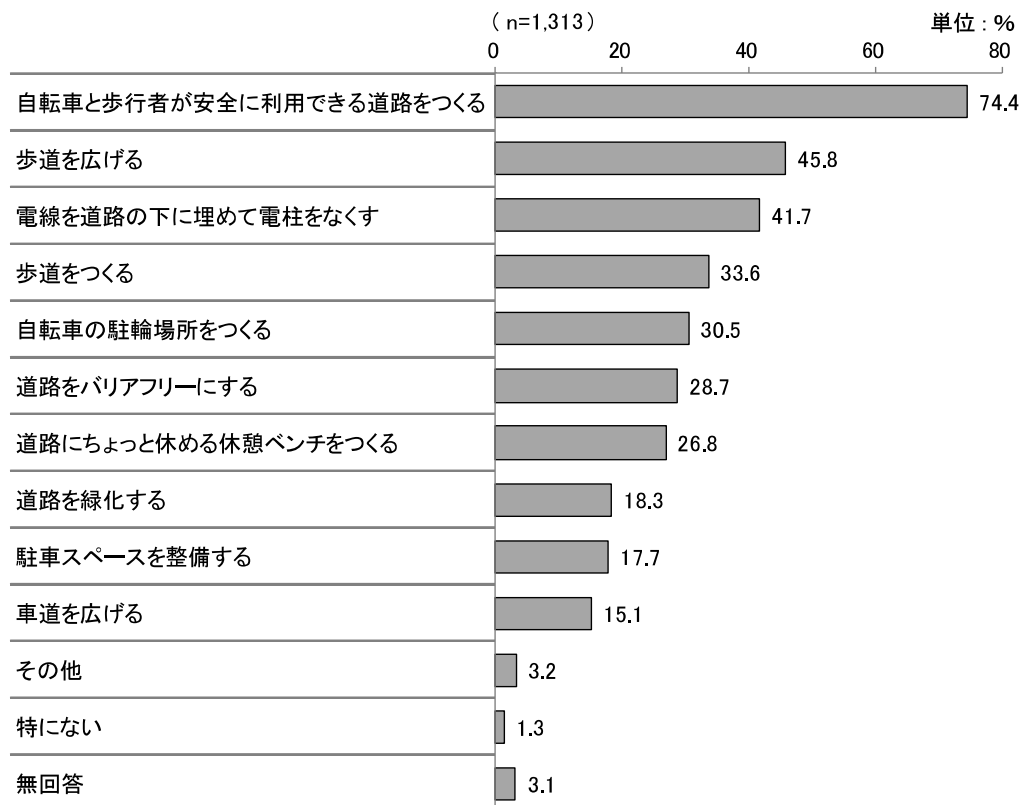
20. 道路

(1) 道路施策で力を入れてほしいこと

◆ 「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」が7割台半ば

問 33 あなたは葛飾区が道路をつくったり、作りかえる時に、どんなことに力を入れたら良いと思いますか（〇はいくつでも）。

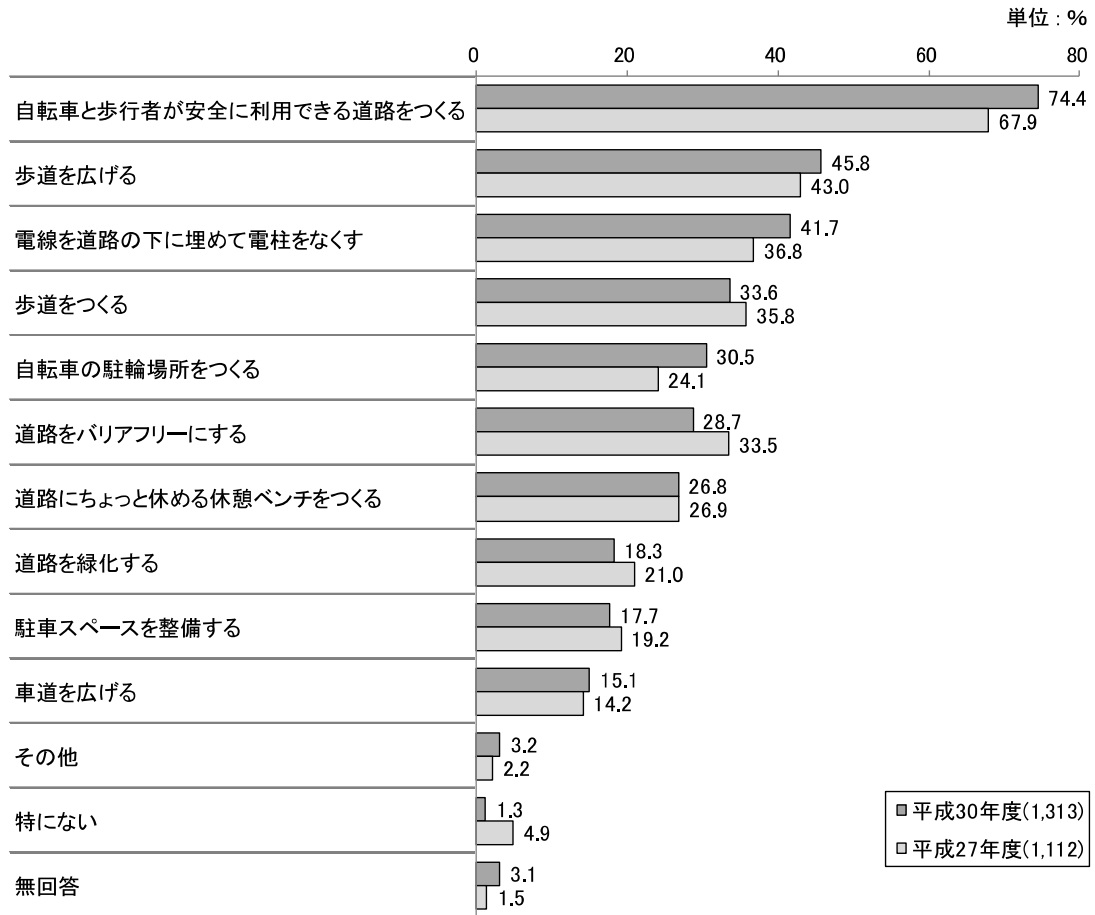
図表Ⅲ-20-1 道路施策で力を入れてほしいこと



道路施策で力を入れてほしいことは、「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」(74.4%)が7割台半ばと最も高く、次いで「歩道を広げる」(45.8%)、「電線を道路の下に埋めて電柱をなくす」(41.7%)と続いている。(図表Ⅲ-20-1)

【経年変化】

図表Ⅲ-20-2 道路施策で力を入れてほしいこと（経年変化）

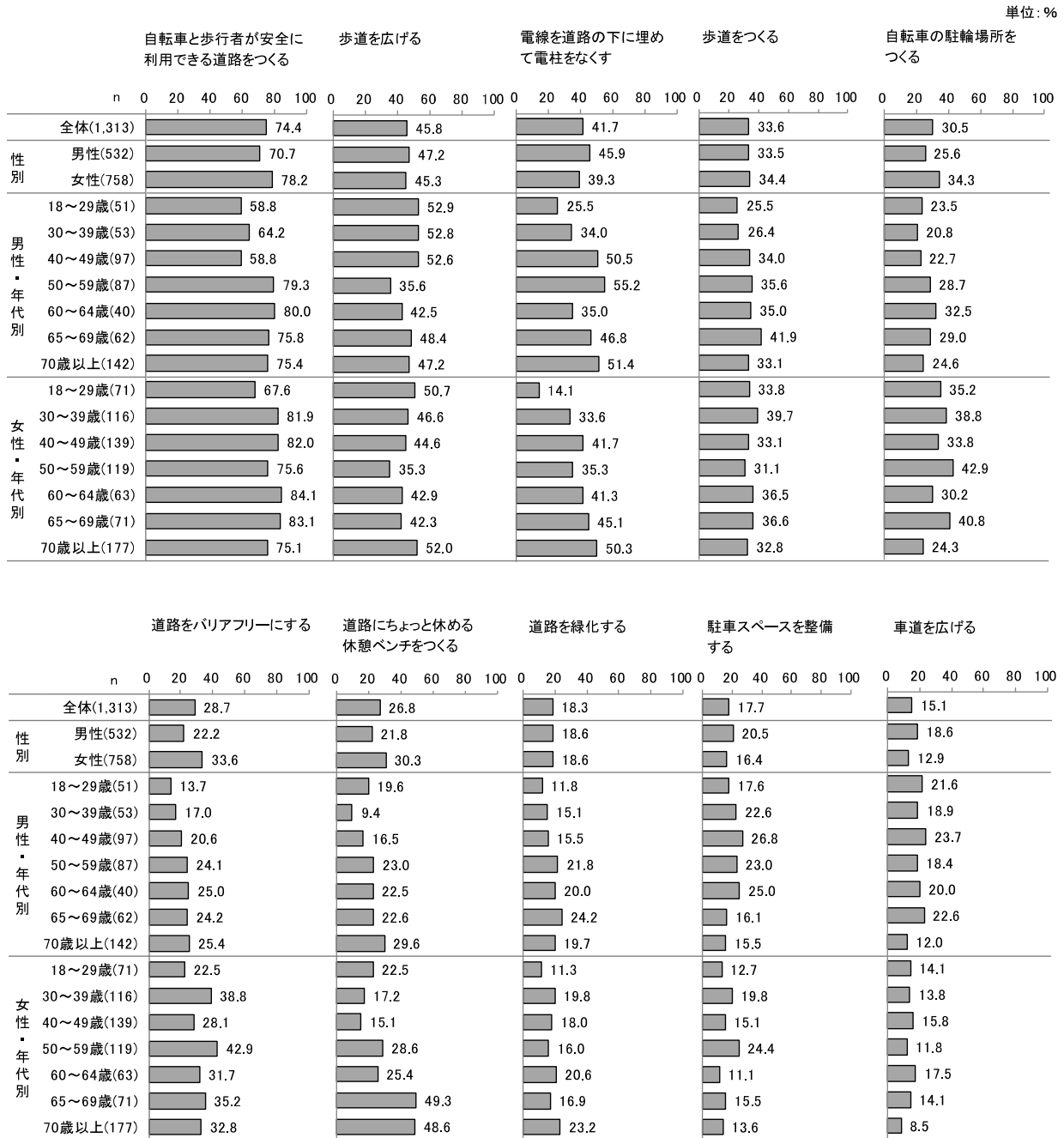


「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」（74.4％）は、平成27年度調査（67.9％）より6.5ポイント、「自転車の駐輪場所をつくる」（30.5％）は、平成27年度調査（24.1％）より6.4ポイント、それぞれ増加している。

一方、「道路をバリアフリーにする」（28.7％）は、平成27年度調査（33.5％）より4.8ポイント、「道路を緑化する」（18.3％）は、平成27年度調査（21.0％）より2.7ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅲ-20-2）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-20-3 道路施策で力を入れてほしいこと（上位10項目）（性別／性・年代別）



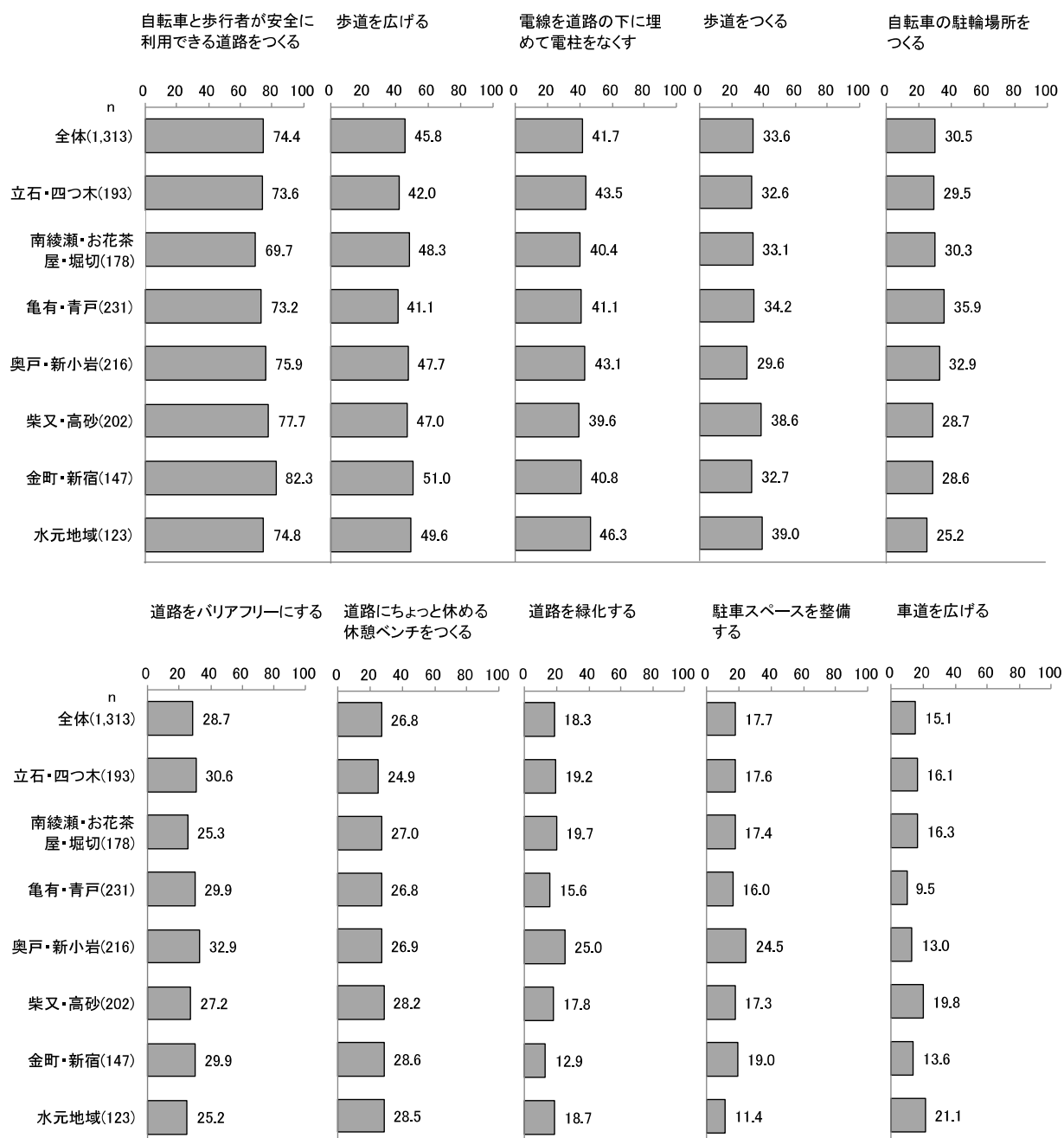
上位10項目について性別で見ると、「電線を道路の下に埋めて電柱をなくす」は、「男性」(45.9%)が「女性」(39.3%)より6.6ポイント高くなっている。一方、「道路をバリアフリーにする」は、「女性」(33.6%)が「男性」(22.2%)より11.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」は、「女性」のすべての年代で6割以上となっている。また、「道路にちょっと休める休憩ベンチをつくる」は、「女性」の65歳以上が4割以上と、他の性・年代よりも高くなっている。(図表Ⅲ-20-3)

【居住地域別】

図表Ⅲ-20-4 道路施策で力を入れてほしいこと（上位10項目）（居住地域別）

単位：%



上位10項目について居住地域別でみると、「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」は、「金町・新宿」(82.3%)が最も高く、次いで「柴又・高砂」(77.7%)、「奥戸・新小岩」(75.9%)と続いている。

また、「歩道を広げる」は、「金町・新宿」(51.0%)、「電線を道路の下に埋めて電柱をなくす」は、「水元地域」(46.3%)が、それぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ-20-4)

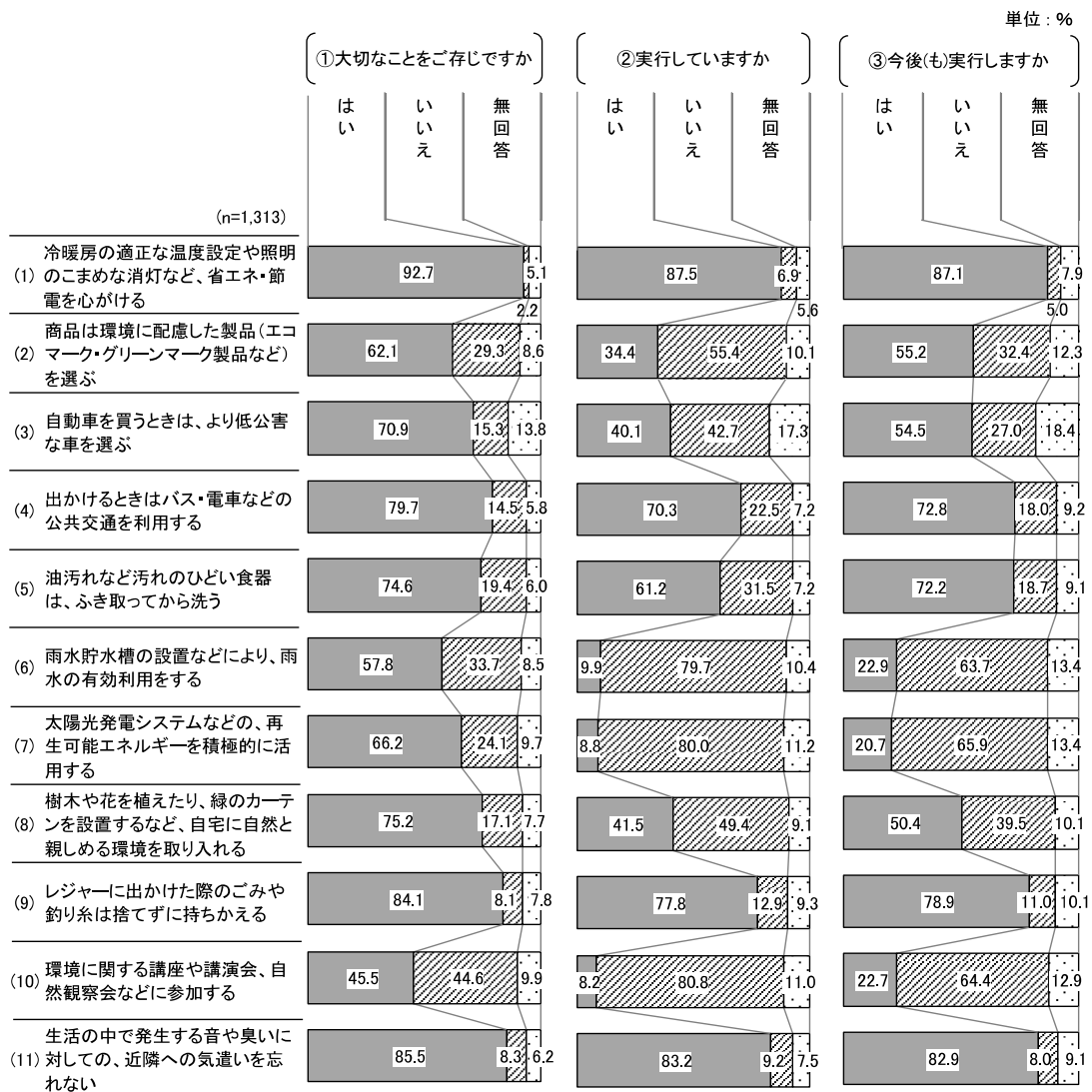
21. 環境

(1) 環境保護のための行動

- ◆ 「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」が認知度、実行状況、今後の実行意思で最も高い

問 34 日頃の暮らしを少し工夫することで、地球温暖化対策や自然環境の保護など大切な環境を守ることができます。次にあげる1～11のような行動について、①大切なことだと思えますか。また、②既に実行していますか。③今後(も)実行しようと思えますか。①、②、③とも「はい」、「いいえ」のどちらかをお選びください(○はそれぞれ1つ)。

図表Ⅲ-21-1 環境保護のための行動



環境保護のための行動で大切だと思うことは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(92.7%)が最も高く、次いで「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(85.5%)、「レジヤーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(84.1%)と続いている。

一方、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(45.5%)は、5割未満となっている。

環境保護のための行動で実行していることは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(87.5%)が最も高く、次いで「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(83.2%)、「レジヤーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(77.8%)と続いている。

一方、「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」(9.9%)、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」(8.8%)、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(8.2%)は、1割未満となっている。

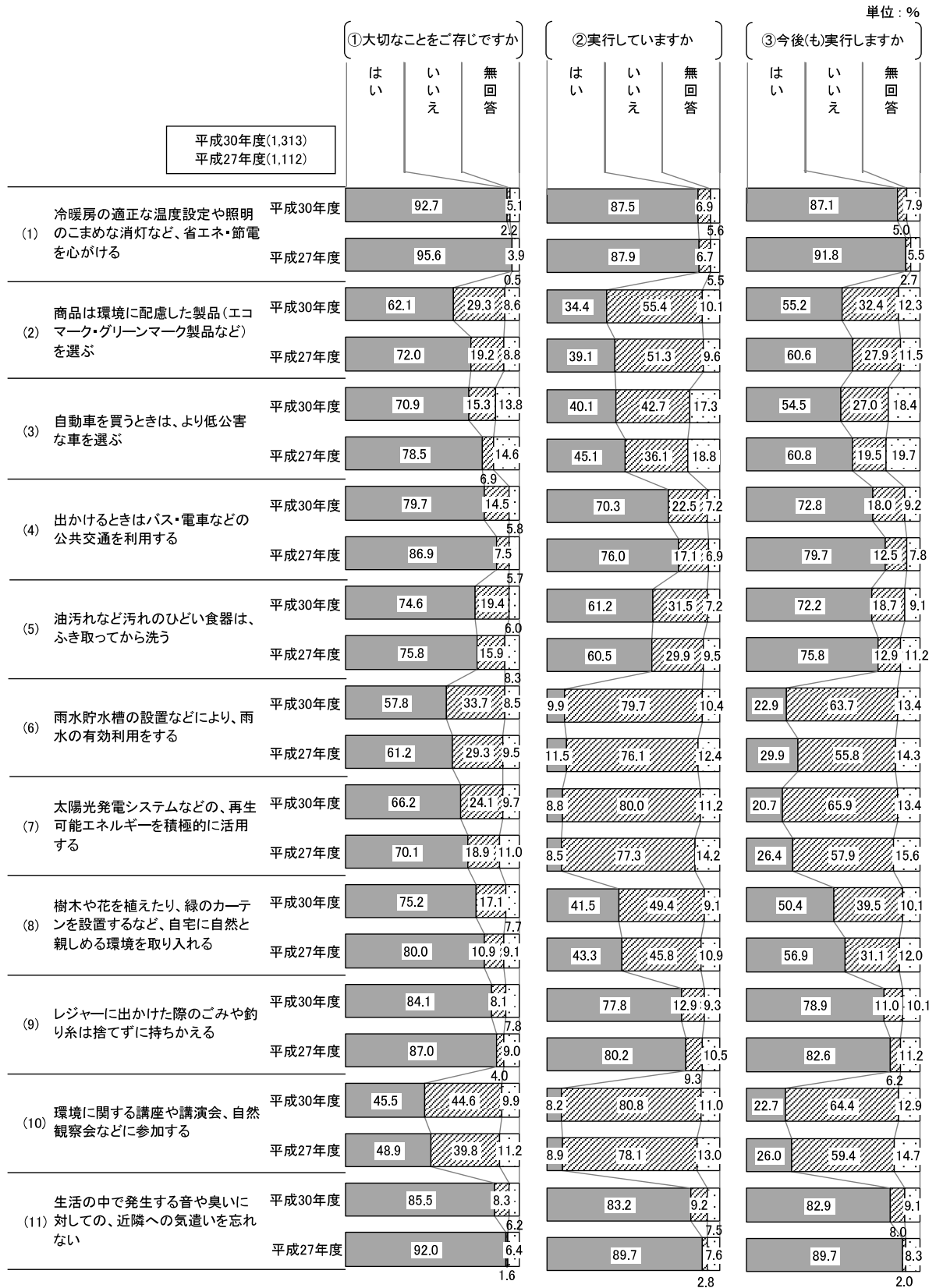
環境保護のための行動で今後(も)実行することは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(87.1%)が最も高く、次いで「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(82.9%)、「レジヤーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(78.9%)と続いている。

一方、「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」(22.9%)、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」(20.7%)、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(22.7%)は、3割未満となっている。

(図表Ⅲ-21-1)

【経年変化】

図表Ⅲ-21-2 環境保護のための行動（経年変化）



環境保護のための行動で大切だと思うことは、すべての項目において平成 27 年度調査より減少している。

「商品は環境に配慮した製品（エコマーク・グリーンマーク製品など）を選ぶ」（62.1%）は、平成 27 年度調査（72.0%）より 9.9 ポイント、「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」（70.9%）は、平成 27 年度調査（78.5%）より 7.6 ポイント、それぞれ減少している。

環境保護のための行動で実行していることは、「油汚れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う」（61.2%）が、平成 27 年度調査（60.5%）より 0.7 ポイント、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」（8.8%）は、平成 27 年度調査（8.5%）より 0.3 ポイント、それぞれ増加している。

一方、「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」（83.2%）は、平成 27 年度調査（89.7%）より 6.5 ポイント、「出かけるときはバス・電車などの公共交通を利用する」（70.3%）は、平成 27 年度調査（76.0%）より 5.7 ポイント、それぞれ減少している。

環境保護のための行動で今後（も）実行することは、すべての項目において平成 27 年度調査より減少している。

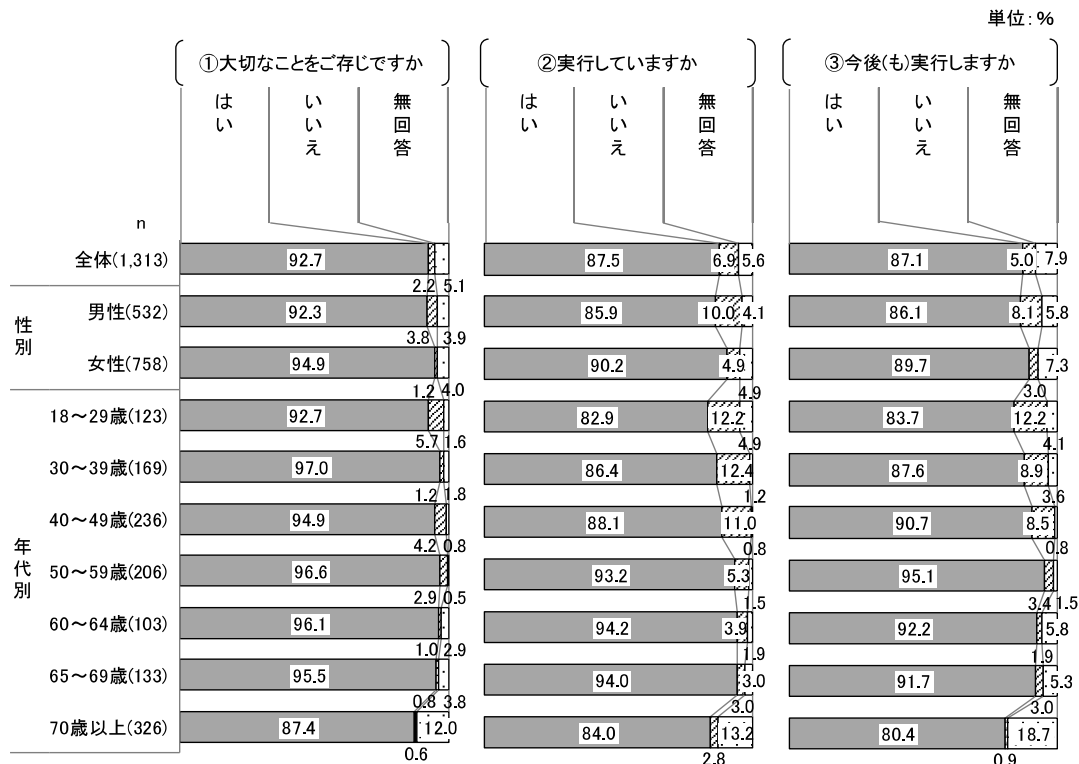
「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」（22.9%）は、平成 27 年度調査（29.9%）より 7.0 ポイント、「出かけるときはバス・電車などの公共交通を利用する」（72.8%）は、平成 27 年度調査（79.7%）より 6.9 ポイント、それぞれ減少している。

（図表Ⅲ－21－2）

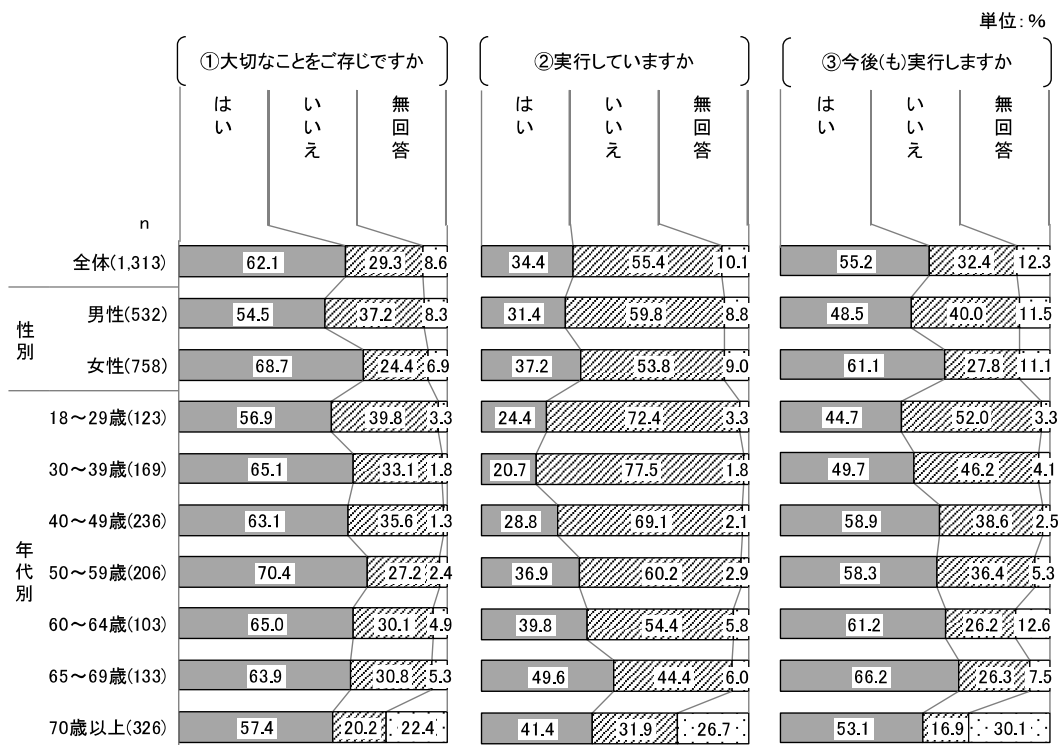
【性別／年代別】

図表Ⅲ-21-3 環境保護のための行動（性別／年代別）

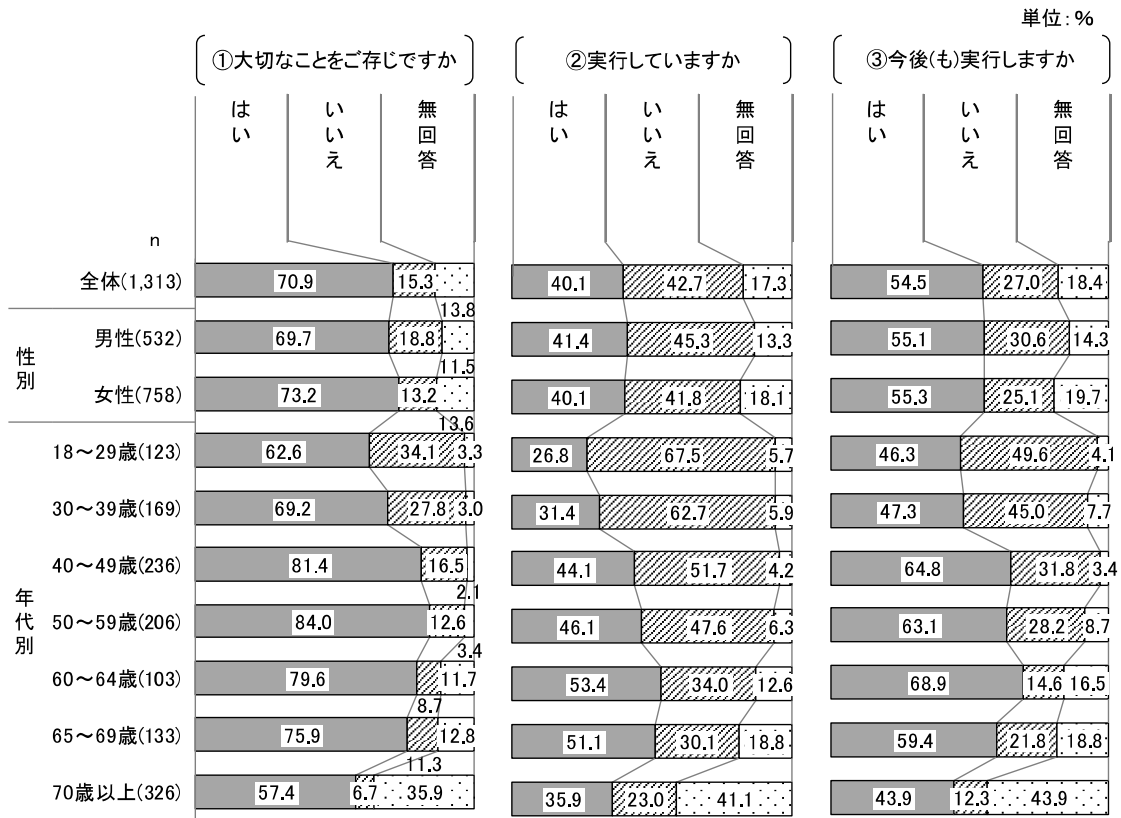
< 1. 冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける >



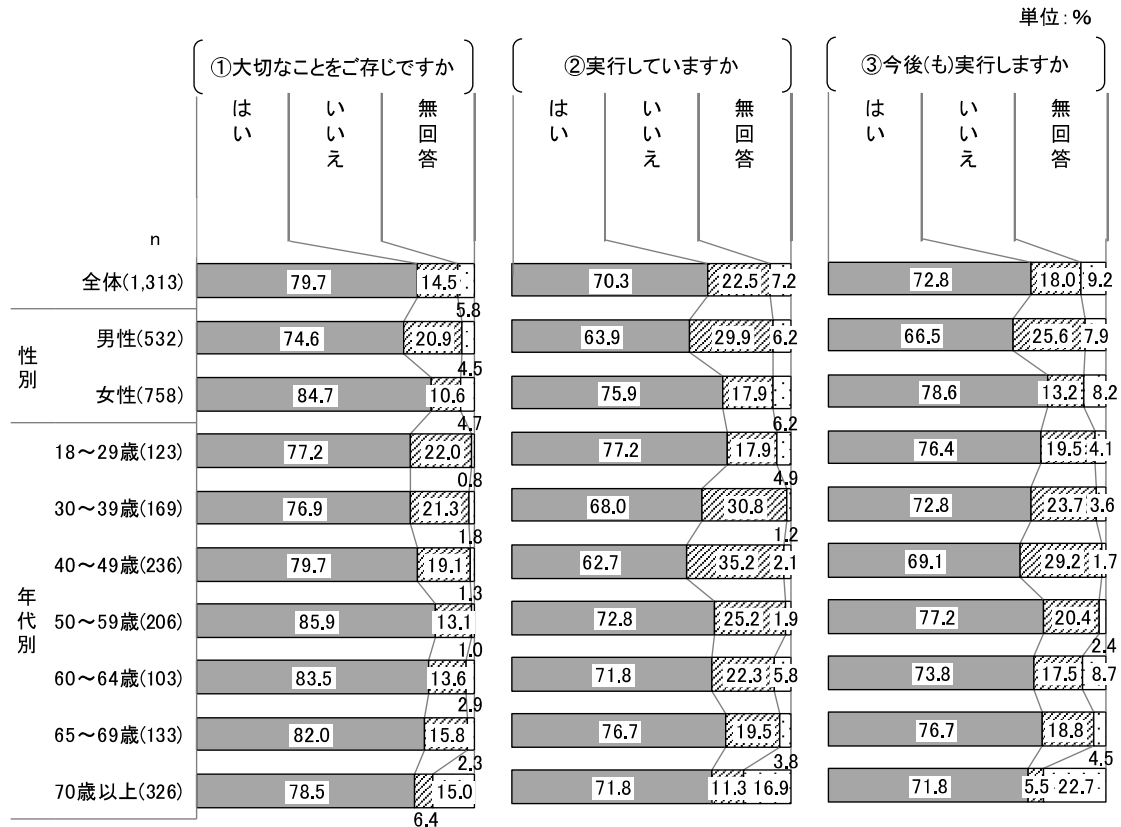
< 2. 商品は環境に配慮した製品（エコマーク・グリーンマーク製品など）を選ぶ >



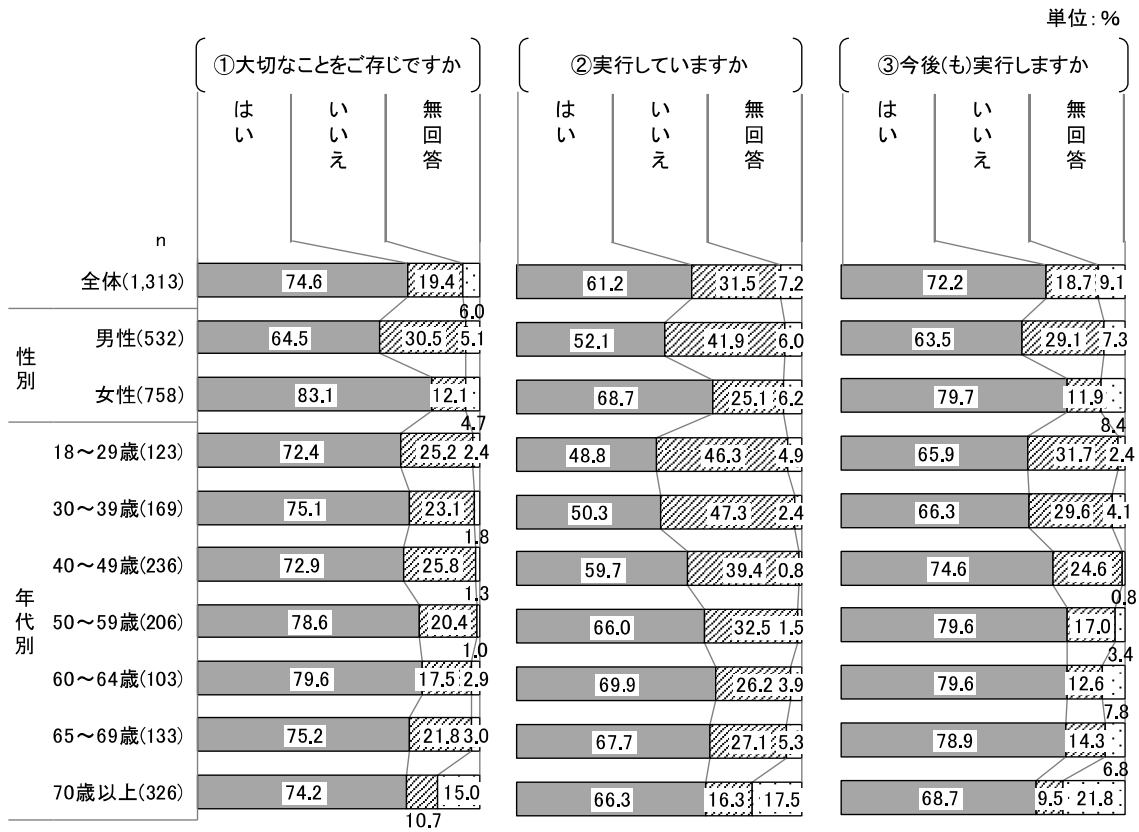
< 3. 自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ >



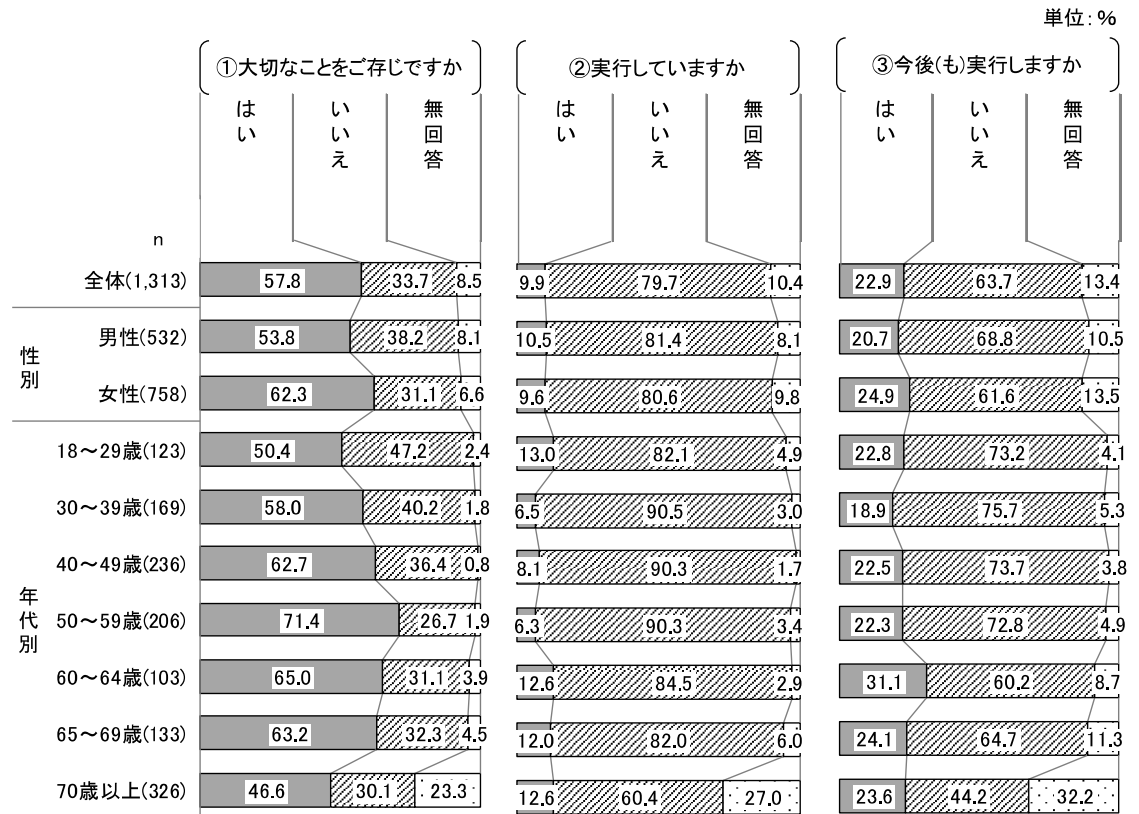
< 4. 出かけるときはバス・電車などの公共交通を利用する >



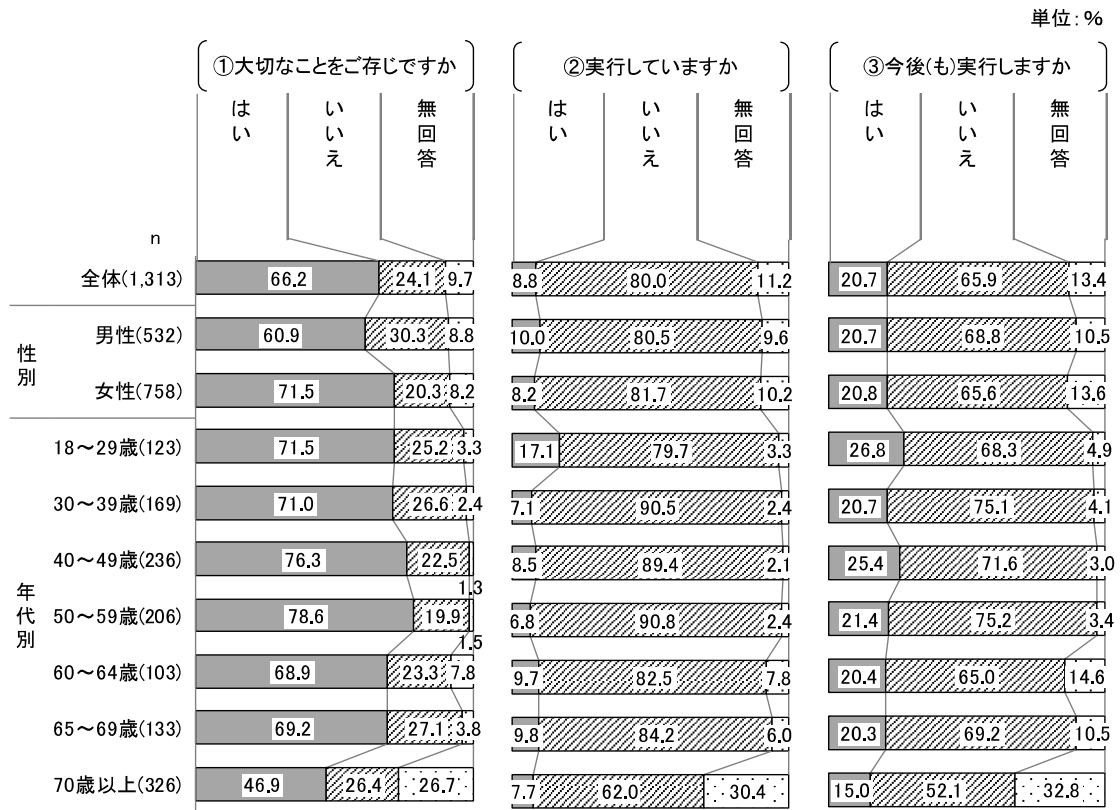
<5. 油汚れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う>



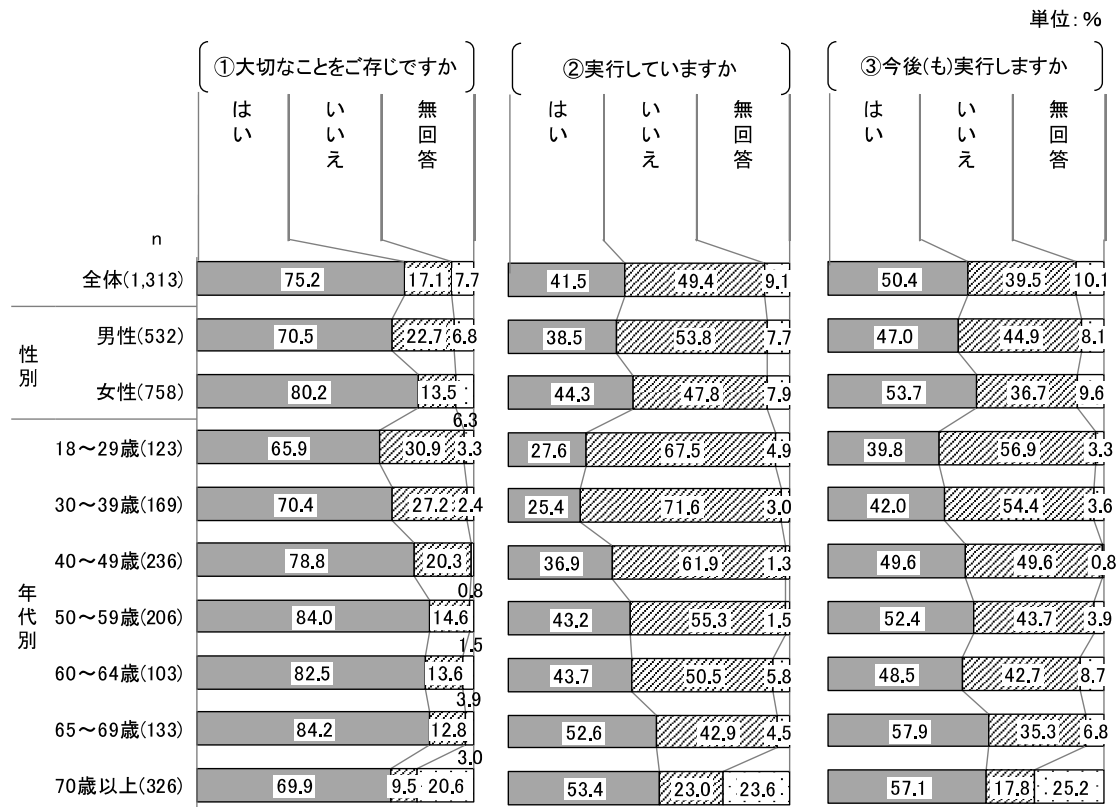
<6. 雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする>



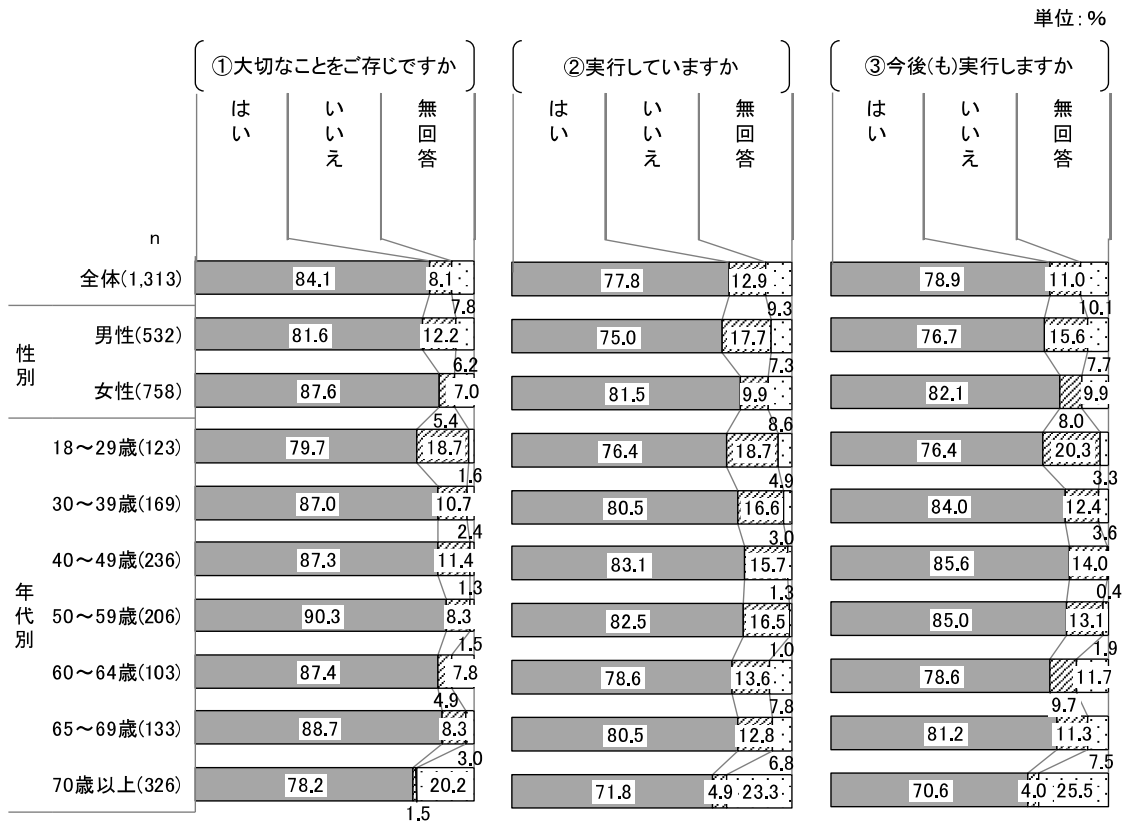
<7. 太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する>



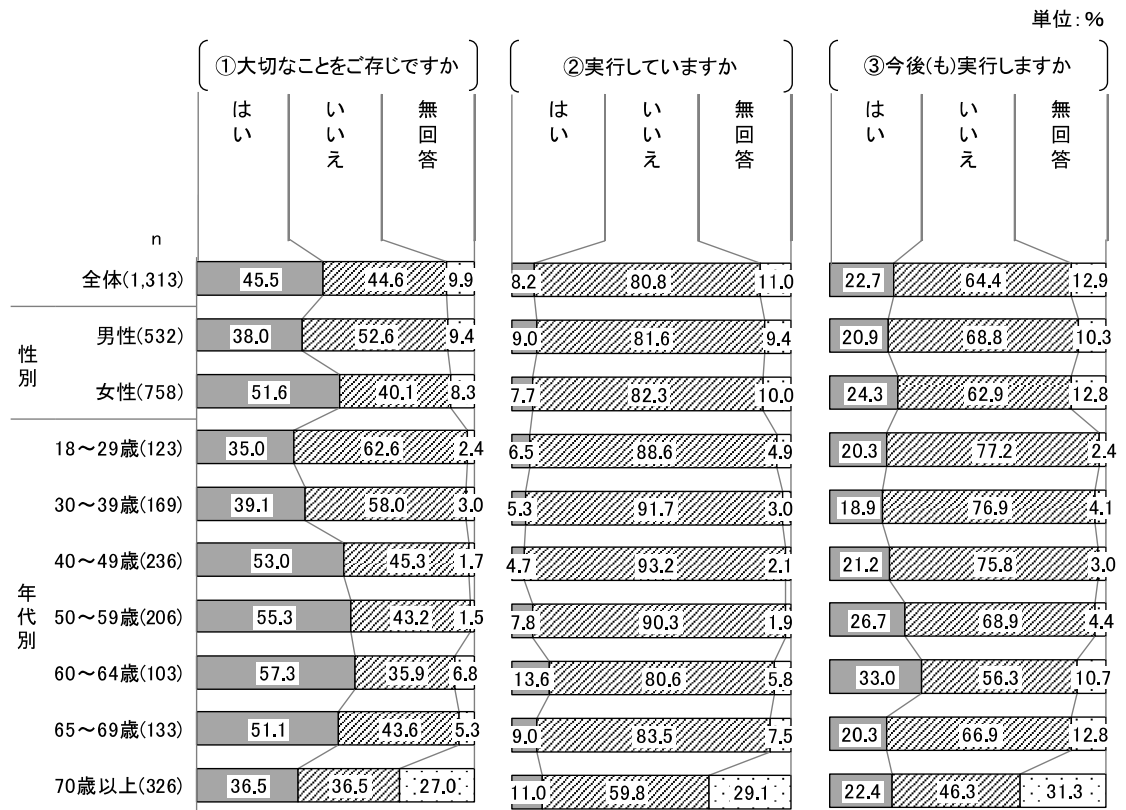
<8. 樹木や花を植えたり、緑のカーテンを設置するなど、自宅に自然と親しめる環境を取り入れる>



<9. レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる>

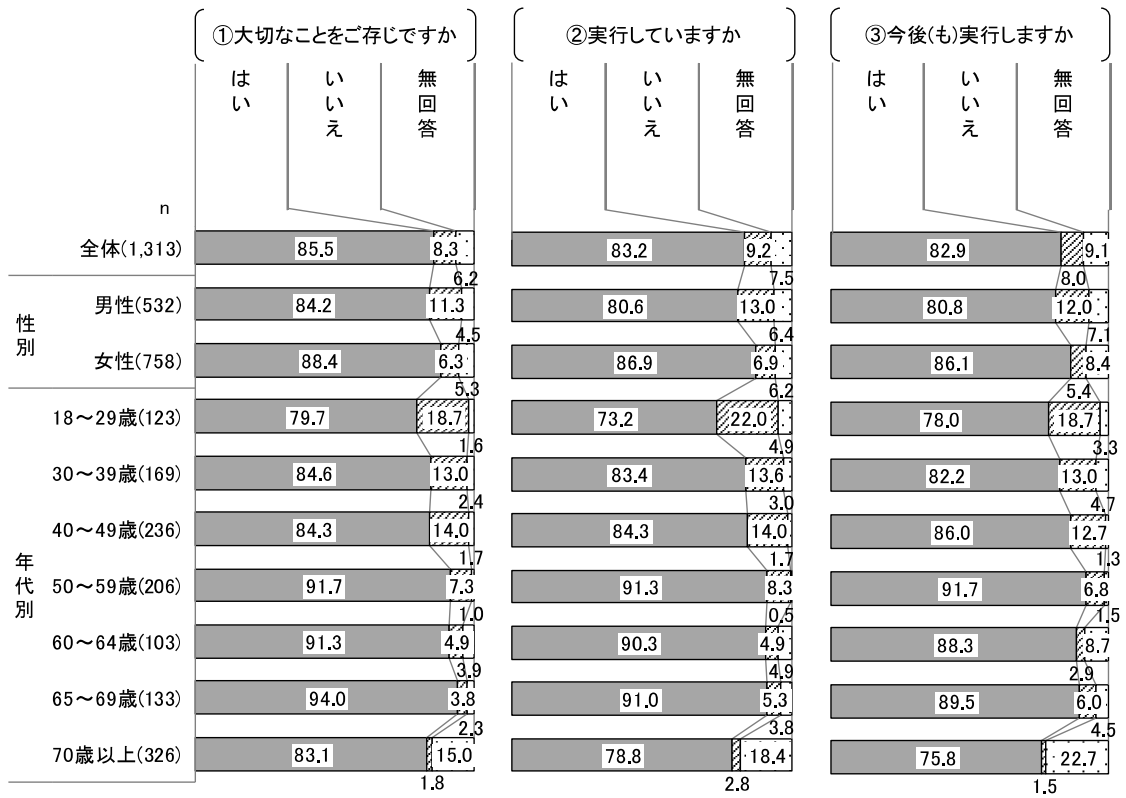


<10. 環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する>



<11. 生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない>

単位：%



【性別】

環境保護のための行動で大切だと思うことは、11項目すべてにおいて「女性」が「男性」よりも高くなっている。

「油汚れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う」は、「女性」(83.1%)が「男性」(64.5%)より18.6ポイント高くなっている。また、「商品は環境に配慮した製品(エコマーク・グリーンマーク製品など)を選ぶ」は、「女性」(68.7%)が「男性」(54.5%)より14.2ポイント、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」は、「女性」(51.6%)が「男性」(38.0%)より13.6ポイント、それぞれ高くなっている。

環境保護のための行動で実行していることは、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」では、「男性」(10.0%)が「女性」(8.2%)より1.8ポイント高くなっている。その他、「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」、「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」も、「男性」が「女性」より高くなっている。

一方、これら以外の7項目においては、「女性」が「男性」より高くなっている。「油汚れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う」は、「女性」(68.7%)が「男性」(52.1%)より16.6ポイント、「出かけるときはバス・電車などの公共交通を利用する」は、「女性」(75.9%)が「男性」(63.9%)より12.0ポイント、それぞれ高くなっている。

環境保護のための行動で今後(も)実行することは、11項目すべてにおいて「女性」が「男性」よりも高くなっている。

「油汚れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う」は、「女性」(79.7%)が「男性」(63.5%)より16.2ポイント高くなっている。また、「商品は環境に配慮した製品(エコマーク・グリーンマーク製品など)を選ぶ」は、「女性」(61.1%)が「男性」(48.5%)より12.6ポイント、「出かけるときはバス・電車などの公共交通を利用する」は、「女性」(78.6%)が「男性」(66.5%)より12.1ポイント、それぞれ高くなっている。

(図Ⅲ-21-3)

【年代別】

年代別でみると、環境保護のための行動で大切だと思うことは、「商品は環境に配慮した製品（エコマーク・グリーンマーク製品など）を選ぶ」、「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」、「出かけるときはバス・電車などの公共交通を利用する」、「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」、「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」の6項目で、「50～59歳」が他の年代と比べ最も高くなっている。

一方、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」、「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」、「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」、「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」の5項目で、「70歳以上」が他の年代と比べ最も低くなっている。

環境保護のための行動で実行していることは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」、「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」、「油污れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う」、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」の4項目で、「60～64歳」が他の年代と比べ最も高くなっている。

一方、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」、「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」、「油污れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う」、「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」の4項目で「18～29歳」が他の年代と比べ最も低くなっている。

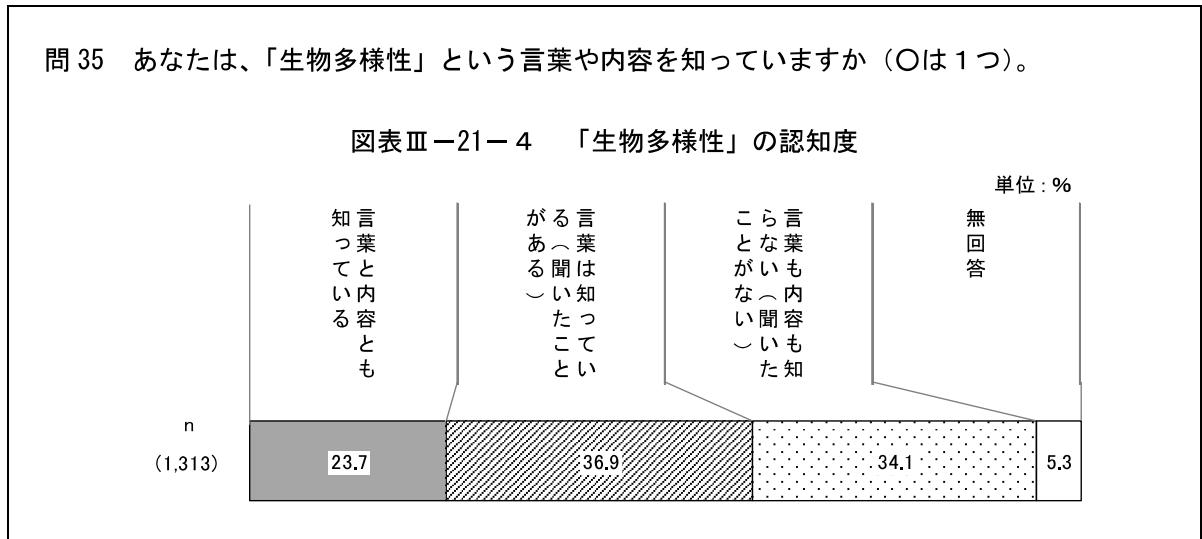
環境保護のための行動で今後（も）実行することは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」、「出かけるときはバス・電車などの公共交通を利用する」、「油污れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う」、「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」の4項目で「50～59歳」が、また、「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」、「油污れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う」、「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」の4項目で「60～64歳」が、それぞれ他の年代と比べ最も高くなっている。

一方、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」、「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」、「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」、「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」の5項目で、「70歳以上」が他の年代と比べ最も低くなっている。

(図Ⅲ-21-3)

(2) 「生物多様性」の認知度

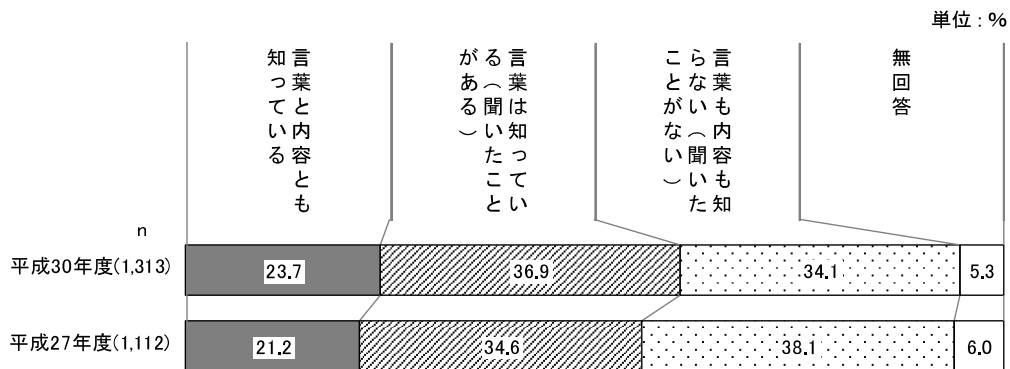
◆ 「言葉と内容とも知っている」が2割強



「生物多様性」の認知度は、「言葉は知っている（聞いたことがある）」（36.9%）が4割近くと最も高く、次いで「言葉も内容も知らない（聞いたことがない）」（34.1%）、「言葉と内容とも知っている」（23.7%）と続いている。（図表Ⅲ-21-4）

【経年変化】

図表Ⅲ-21-5 「生物多様性」の認知度（経年変化）

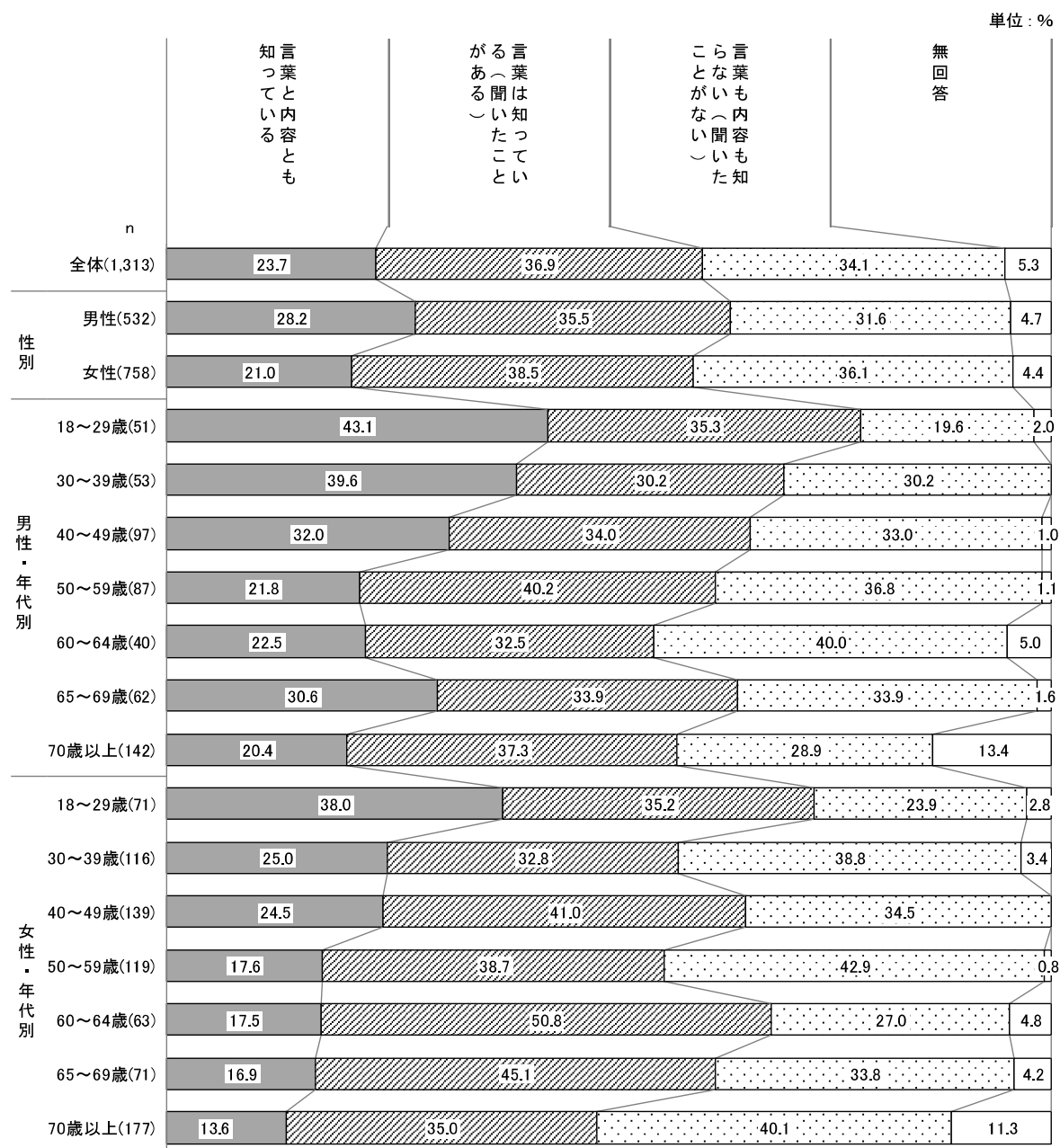


「言葉と内容とも知っている」（23.7%）は、平成27年度調査（21.2%）より2.5ポイント、「言葉は知っている（聞いたことがある）」（36.9%）は、平成27年度調査（34.6%）より2.3ポイント、それぞれ増加している。

一方、「言葉も内容も知らない（聞いたことがない）」（34.1%）は、平成27年度調査（38.1%）より4.0ポイント減少している。（図表Ⅲ-21-5）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-21-6 「生物多様性」の認知度（性別／性・年代別）



性別で見ると、「言葉と内容とも知っている」は、「男性」（28.2%）が「女性」（21.0%）より7.2ポイント高くなっている。一方、「言葉も内容も知らない（聞いたことがない）」は、「女性」（36.1%）が「男性」（31.6%）より4.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「言葉と内容とも知っている」は、「18～29歳」が「男性」（43.1%）、「女性」（38.0%）ともに、それぞれ最も高くなっている。一方、「言葉も内容も知らない（聞いたことがない）」は、「男性60～64歳」（40.0%）、「女性50～59歳」（42.9%）、「女性70歳以上」（40.1%）で4割以上となっており、他の性・年代よりも高くなっている。（図表Ⅲ-21-6）

22. ごみの減量・リサイクル

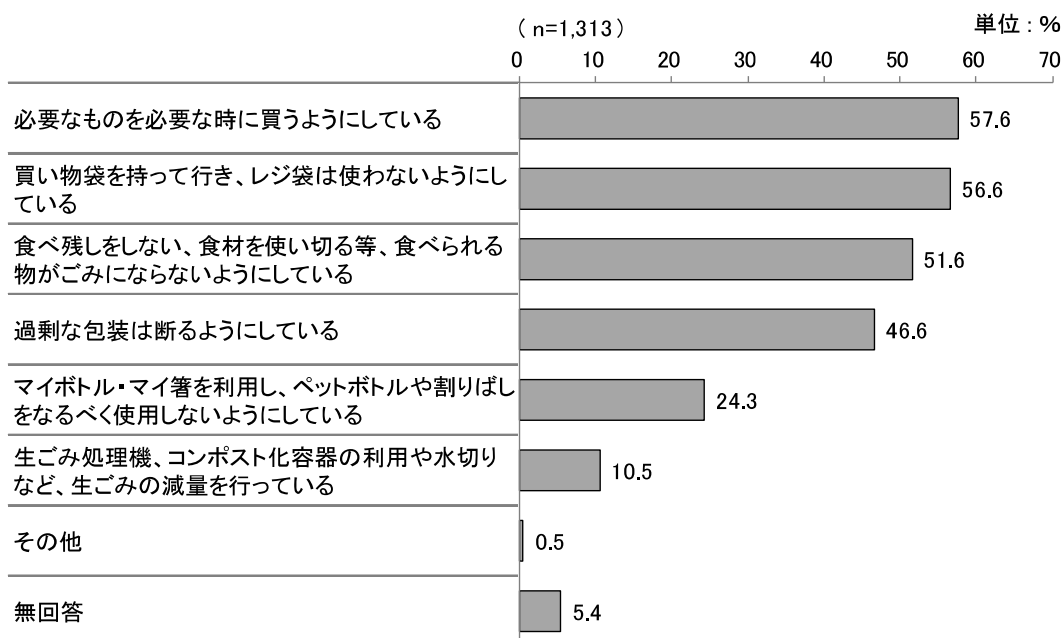
(1) 「3つのR」の実施状況

<リデュース>

◆ 「必要なものを必要な時に買うようにしている」が6割近く

問 36 【リデュース】ごみの減量化を進めるためには、まず REDUCE（リデュース）を心掛け、次に REUSE（リユース）に取り組み、最後に RECYCLE（リサイクル）が重要です。それぞれの頭文字をとった「3つのR」の行動の中で日頃、あなたがごみの減量やリサイクルのために行っていることを次の中から選んでください（〇はいくつでも）。

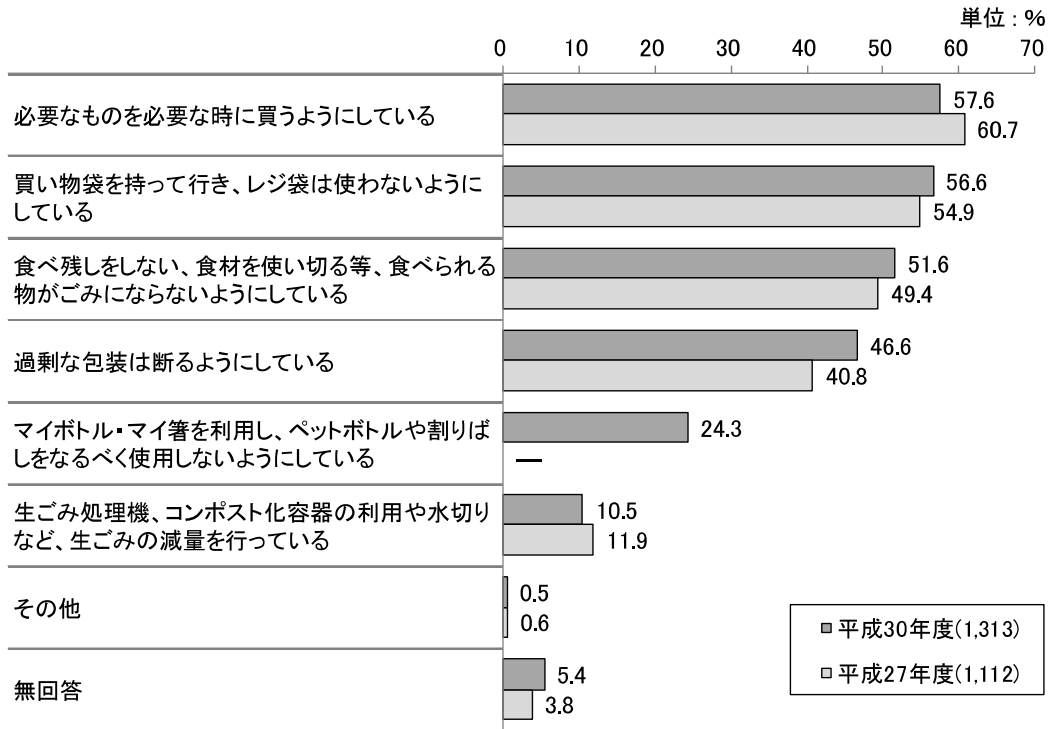
図表Ⅲ-22-1 「3つのR」の実施状況<リデュース>



「3つのR」の実施状況（リデュース）は、「必要なものを必要な時に買うようにしている」（57.6%）が6割近くと最も高く、次いで「買い物袋を持って行き、レジ袋は使わないようにしている」（56.6%）、「食べ残しをしない、食材を使い切る等、食べられる物がごみにならないようにしている」（51.6%）と続いている。（図表Ⅲ-22-1）

【経年変化】

図表Ⅲ-22-2 「3つのR」の実施状況<リデュース>（経年変化）



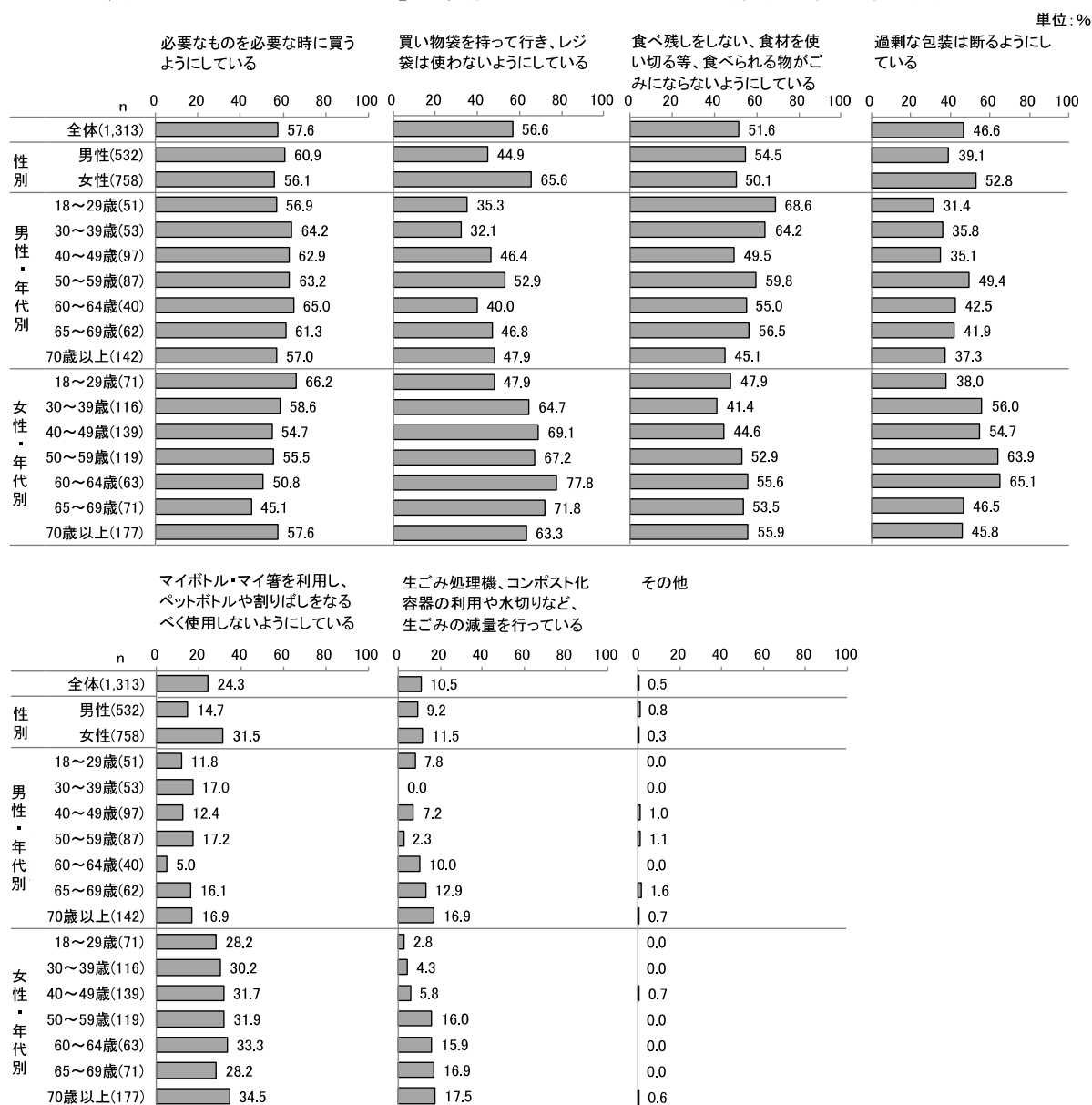
※ 平成30年度調査では、「マイボトル・マイ箸を利用し、ペットボトルや割りばしをなるべく使用しないようにしている」が新たに追加された選択肢となっている。

「過剰な包装は断るようになっている」(46.6%)は、平成27年度調査(40.8%)より5.8ポイント、「食べ残しをしない、食材を使い切る等、食べられる物がごみにならないようにしている」(51.6%)は、平成27年度調査(49.4%)より2.2ポイント、それぞれ増加している。

一方、「必要なものを必要な時に買うようにしている」(57.6%)は、平成27年度調査(60.7%)より3.1ポイント減少している。(図表Ⅲ-22-2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－22－3 「3つのR」の実施状況<リデュース>（性別／性・年代別）



性別で見ると、「必要なものを必要な時に買うようにしている」は、「男性」(60.9%)が「女性」(56.1%)より4.8ポイント高くなっている。一方、「買い物袋を持って行き、レジ袋は使わないようにしている」は、「女性」(65.6%)が「男性」(44.9%)より20.7ポイント高くなっている。

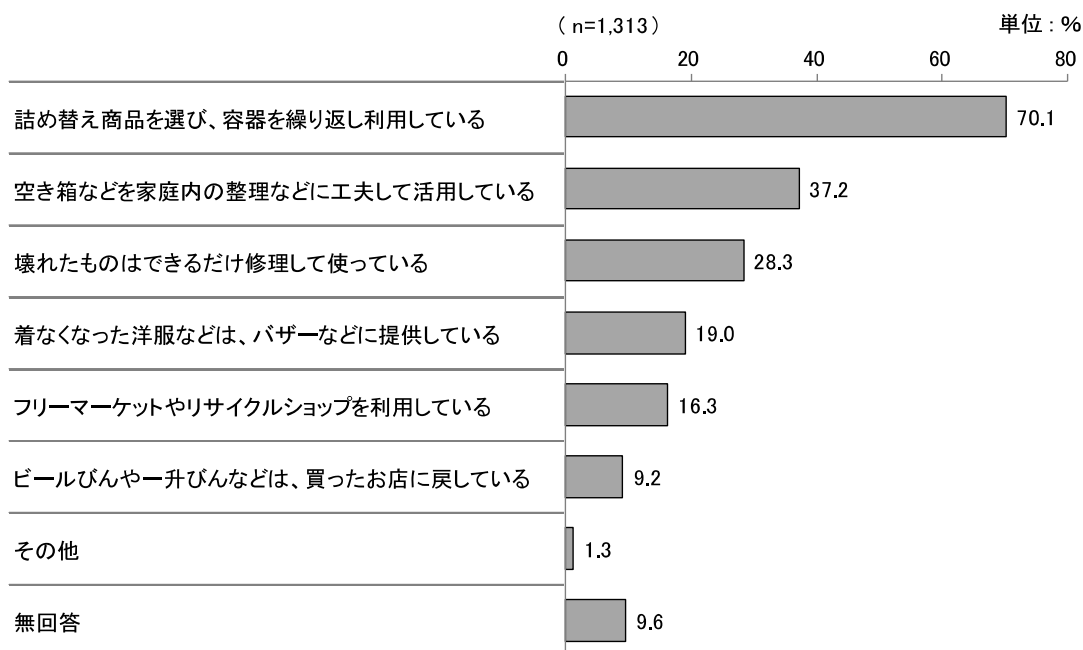
性・年代別で見ると、「食べ残しをしない、食材を使い切る等、食べられる物がごみにならないようにしている」は、39歳以下の「男性」で6割以上と高くなっている。また、「買い物袋を持って行き、レジ袋は使わないようにしている」は、30歳以上の「女性」で6割以上と高くなっている。(図表Ⅲ－22－3)

<リユース>

◆ 「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」が約7割

問 36 【リユース】ごみの減量化を進めるためには、まず REDUCE（リデュース）を心掛け、次に REUSE（リユース）に取り組み、最後に RECYCLE（リサイクル）が重要です。それぞれの頭文字をとった「3つのR」の行動の中で日頃、あなたがごみの減量やリサイクルのために行っていることを次の中から選んでください（○はいくつでも）。

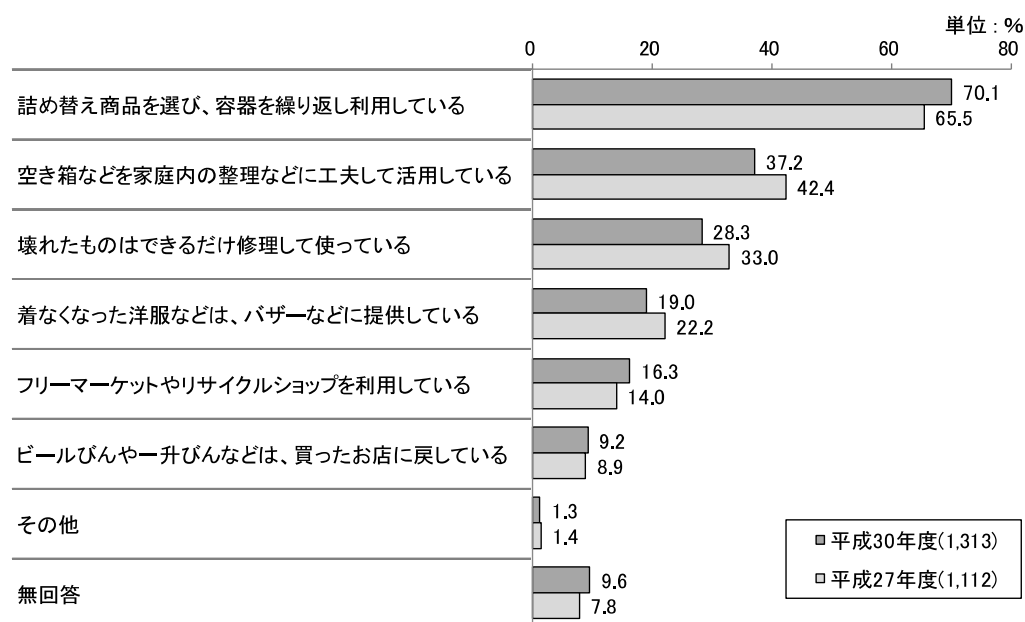
図表Ⅲ-22-4 「3つのR」の実施状況<リユース>



「3つのR」の実施状況（リユース）は、「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」（70.1%）が約7割と最も高く、次いで「空き箱などを家庭内の整理などに工夫して活用している」（37.2%）、「壊れたものはできるだけ修理して使っている」（28.3%）と続いている。（図表Ⅲ-22-4）

【経年変化】

図表Ⅲ-22-5 「3つのR」の実施状況<リユース>（経年変化）



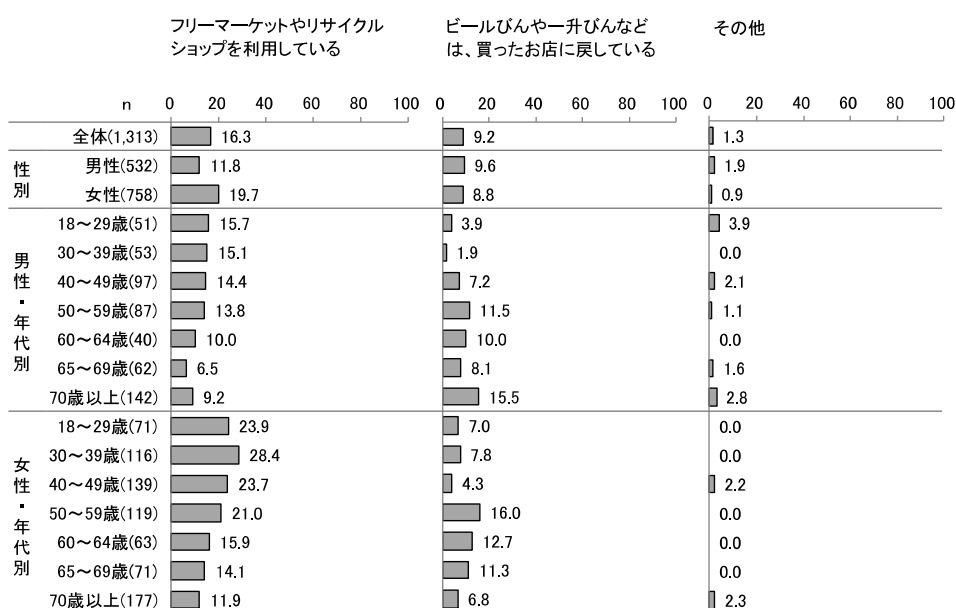
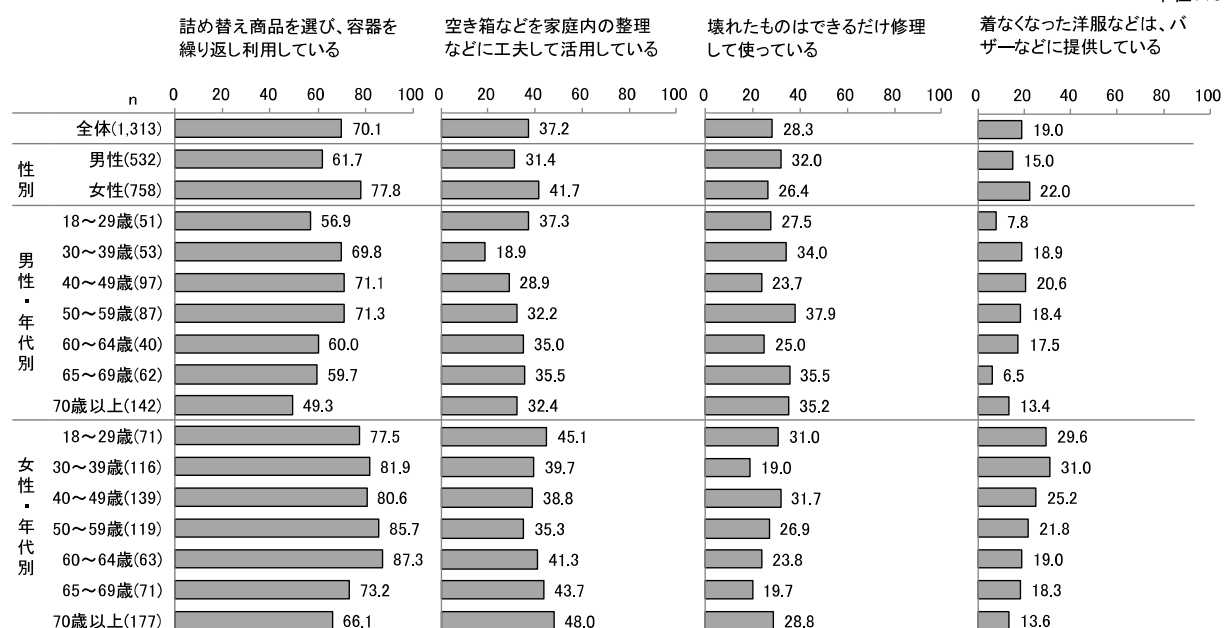
「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」（70.1%）は、平成27年度調査（65.5%）より4.6ポイント増加している。

一方、「空き箱などを家庭内の整理などに工夫して活用している」（37.2%）は、平成27年度調査（42.4%）より5.2ポイント、「壊れたものはできるだけ修理して使っている」（28.3%）は、平成27年度調査（33.0%）より4.7ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅲ-22-5）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-22-6 「3つのR」の実施状況<リユース>（性別／性・年代別）

単位：%



性別で見ると、「壊れたものはできるだけ修理して使っている」は、「男性」（32.0％）が「女性」（26.4％）より 5.6 ポイント高くなっている。一方、「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」は、「女性」（77.8％）が「男性」（61.7％）より 16.1 ポイント高くなっている。

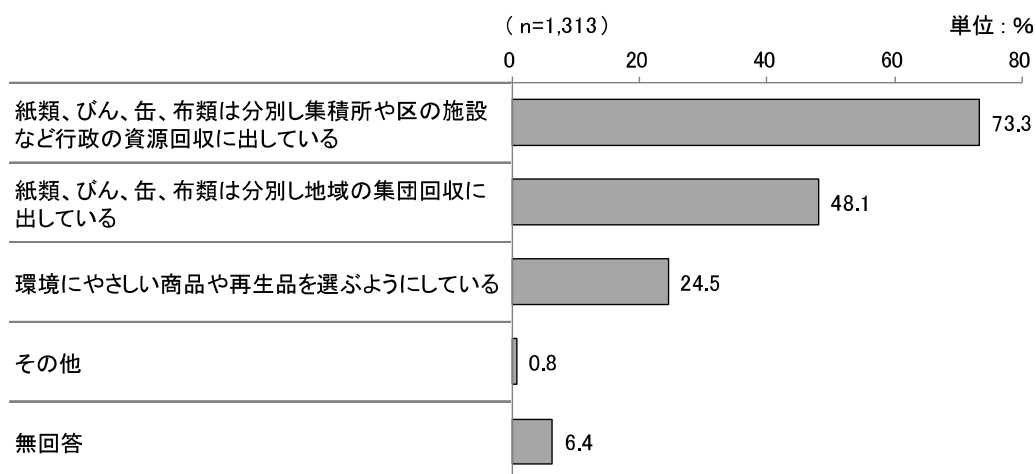
性・年代別で見ると、「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」は、「女性」のすべての年代で6割以上となっており、中でも「女性60～64歳」（87.3％）は9割近くと最も高くなっている。また、「女性30～39歳」は、「着なくなった洋服などは、バザーなどに提供している」（31.0％）、「フリーマーケットやリサイクルショップを利用している」（28.4％）がそれぞれ最も高くなっている。（図表Ⅲ-22-6）

<リサイクル>

◆ 「紙類、びん、缶、布類は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」が7割強

問 36 【リサイクル】 ごみの減量化を進めるためには、まず REDUCE（リデュース）を心掛け、次に REUSE（リユース）に取り組み、最後に RECYCLE（リサイクル）が重要です。それぞれの頭文字をとった「3つのR」の行動の中で日頃、あなたがごみの減量やリサイクルのために行っていることを次の中から選んでください（〇はいくつでも）。

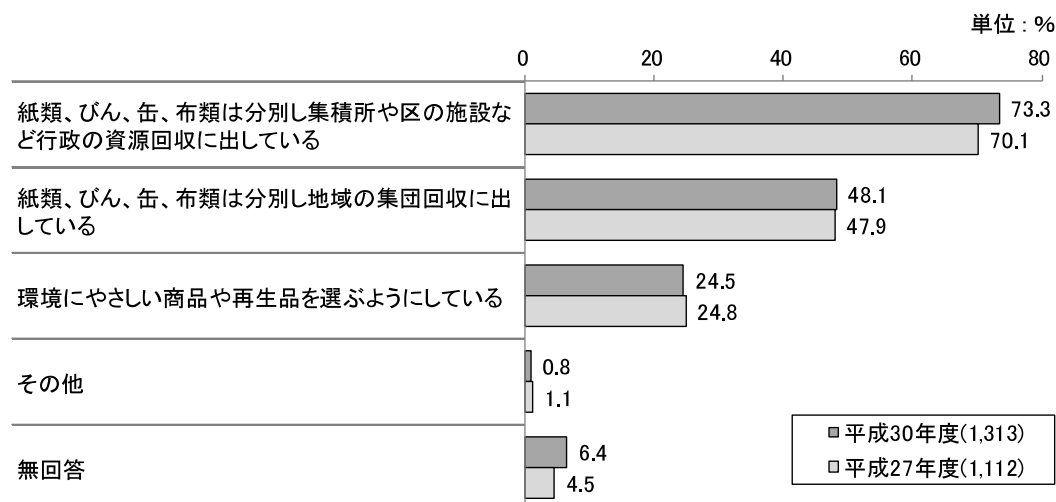
図表Ⅲ-22-7 「3つのR」の実施状況<リサイクル>



「3つのR」の実施状況（リサイクル）は、「紙類、びん、缶、布類は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」（73.3%）が7割強と最も高く、次いで「紙類、びん、缶、布類は分別し地域の集団回収に出している」（48.1%）、「環境にやさしい商品や再生品を選ぶようにしている」（24.5%）と続いている。（図表Ⅲ-22-7）

【経年変化】

図表Ⅲ-22-8 「3つのR」の実施状況<リサイクル> (経年変化)



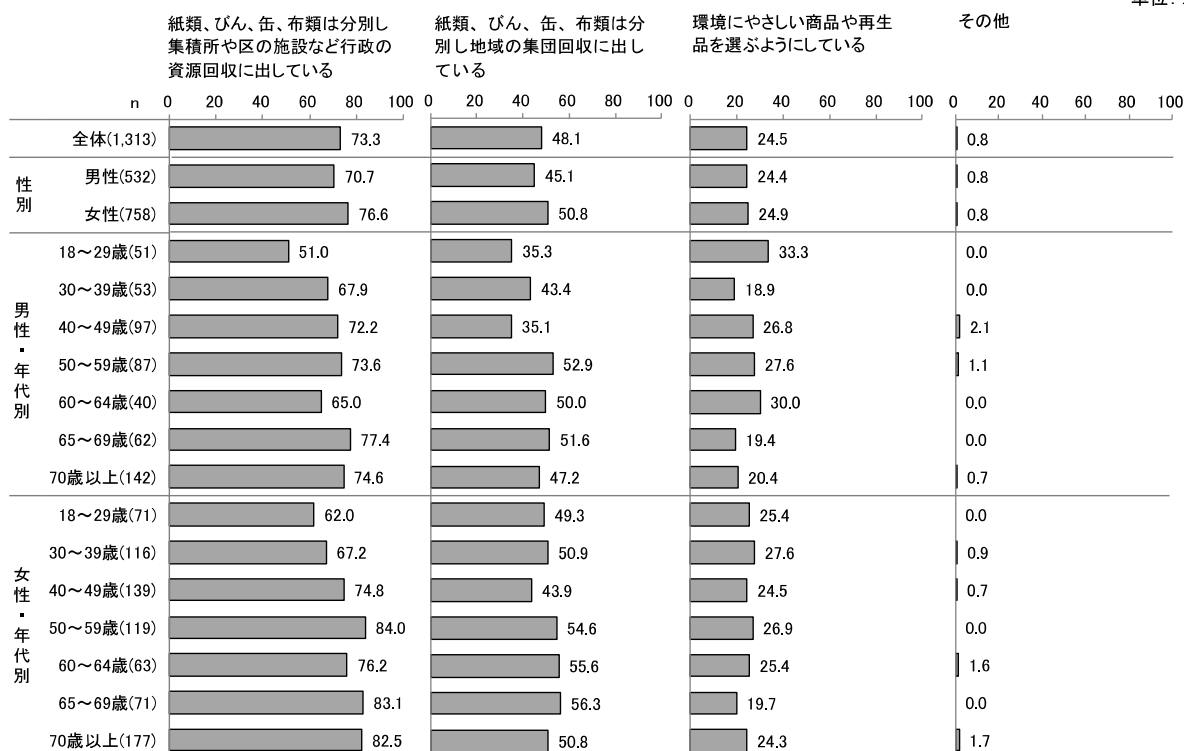
「紙類、びん、缶、布類は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」(73.3%)は、平成27年度調査(70.1%)より3.2ポイント、「紙類、びん、缶、布類は分別し地域の集団回収に出している」(48.1%)は、平成27年度調査(47.9%)より0.2ポイント、それぞれ増加している。

一方、「環境にやさしい商品や再生品を選ぶようにしている」(24.5%)は、平成27年度調査(24.8%)より0.3ポイント減少している。(図表Ⅲ-22-8)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-22-9 「3つのR」の実施状況<リサイクル>（性別／性・年代別）

単位：%



性別でみると、「紙類、びん、缶、布類は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」は、「女性」(76.6%)が「男性」(70.7%)より5.9ポイント高くなっている。

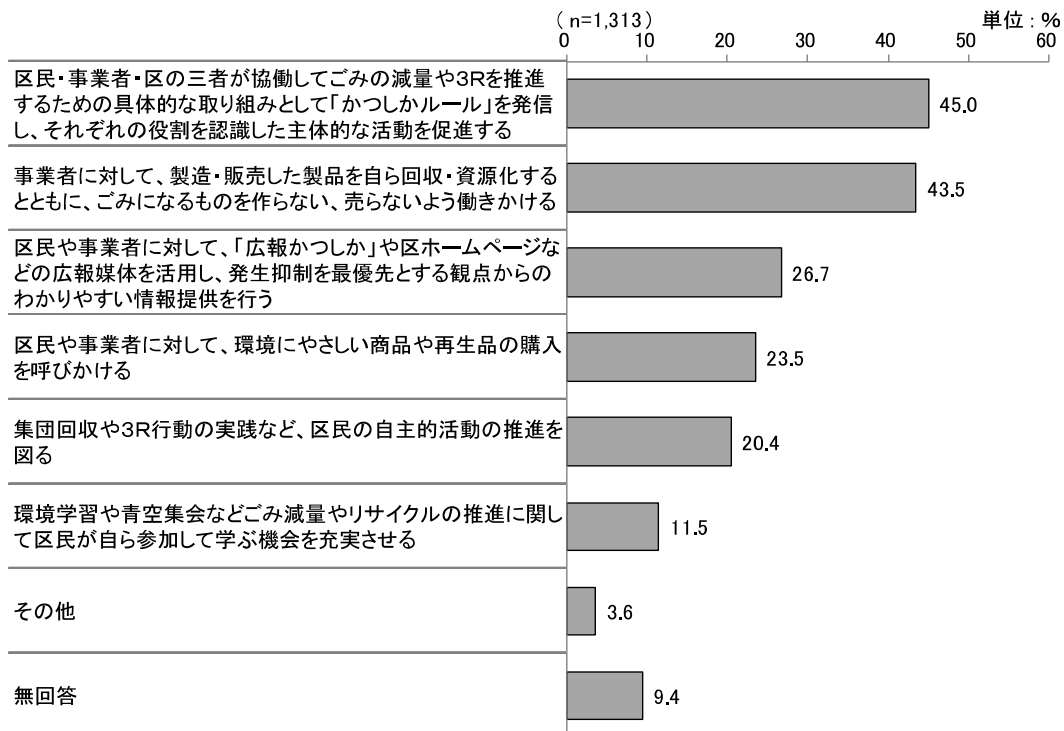
性・年代別でみると、「紙類、びん、缶、布類は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」は、「女性 50～59歳」(84.0%)が最も高く、「女性」の65歳以上においても8割以上となっている。また、「環境にやさしい商品や再生品を選ぶようにしている」は、「男性 18～29歳」(33.3%)が最も高く、次いで「男性 60～64歳」(30.0%)が3割と高くなっている。(図表Ⅲ-22-9)

(2) ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと

- ◆ 「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取り組みとして『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」が4割台半ば

問 37 今後、葛飾区がごみの減量やリサイクルを推進するに当たって、より一層重点を置くべきだと思うことは何ですか（○は3つまで）。

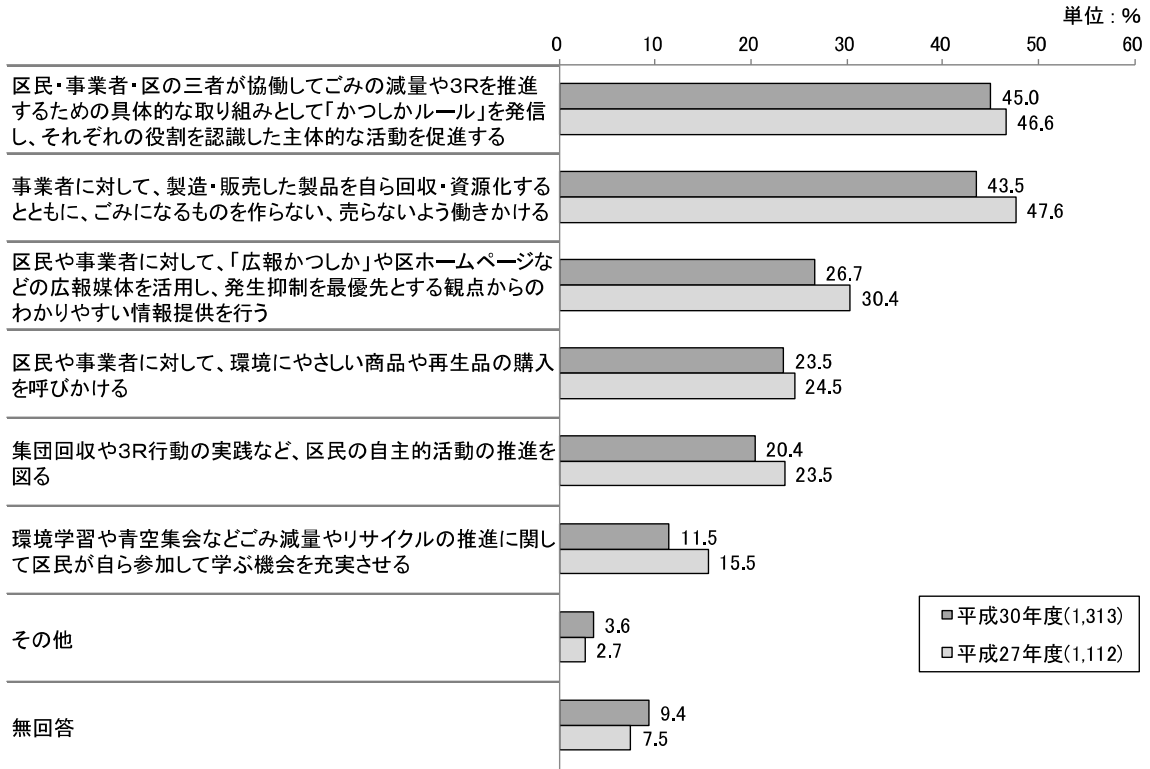
図表Ⅲ-22-10 ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと



ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきことは、「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取り組みとして『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」(45.0%)が4割台半ばと最も高く、次いで「事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける」(43.5%)、「区民や事業者に対して、『広報かつしか』や区ホームページなどの広報媒体を活用し、発生抑制を最優先とする観点からのわかりやすい情報提供を行う」(26.7%)と続いている。(図表Ⅲ-22-10)

【経年変化】

図表Ⅲ-22-11 ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと（経年変化）

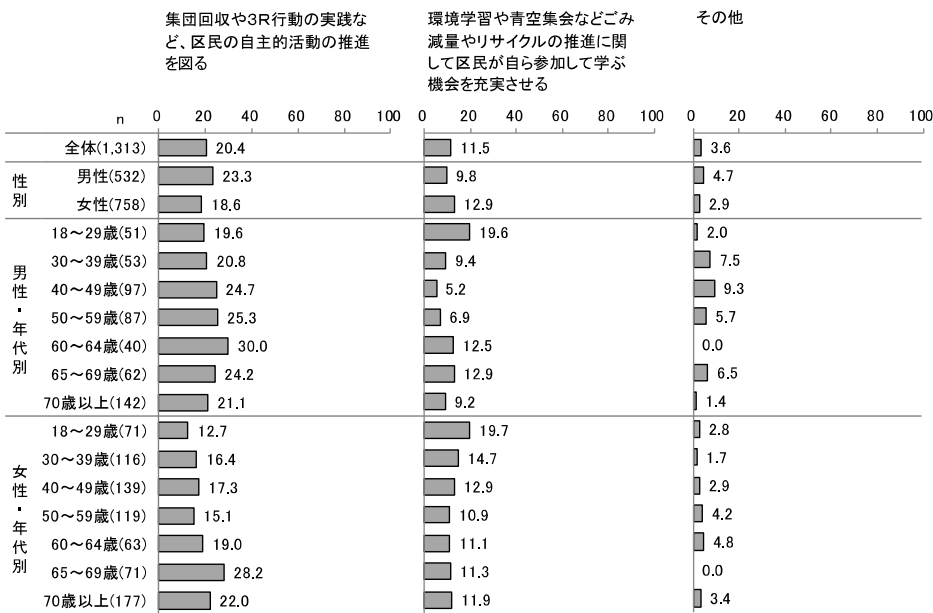
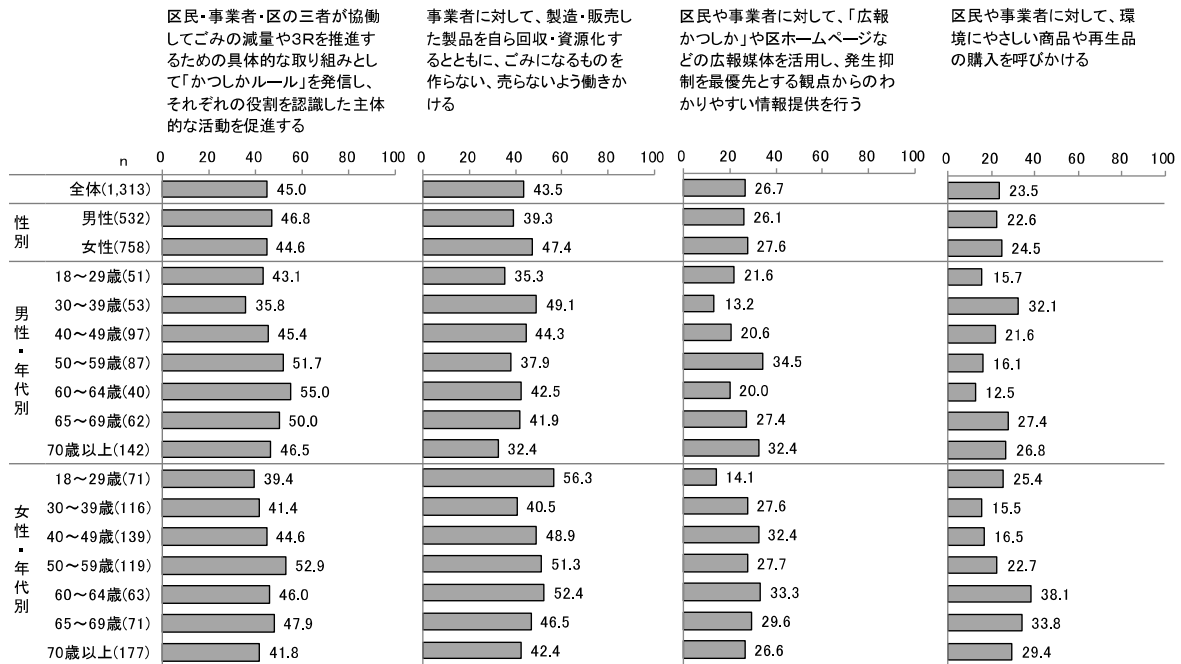


「事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける」（43.5%）は、平成27年度調査（47.6%）より4.1ポイント減少している。また、「環境学習や青空集会などごみ減量やリサイクルの推進に関して区民が自ら参加して学ぶ機会を充実させる」（11.5%）においても、平成27年度調査（15.5%）より4.0ポイント減少している。（図表Ⅲ-22-11）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-22-12 ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと（性別／性・年代別）

単位：％



性別で見ると、「集団回収や3R行動の実践など、区民の自主的活動の推進を図る」は、「男性」(23.3%)が「女性」(18.6%)より4.7ポイント高くなっている。一方、「事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける」は、「女性」(47.4%)が「男性」(39.3%)より8.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「環境学習や青空集会などごみ減量やリサイクルの推進に関して区民が自ら参加して学ぶ機会を充実させる」は、「18～29歳」が「男性」(19.6%)、「女性」(19.7%)ともに最も高くなっている。(図表Ⅲ-22-12)

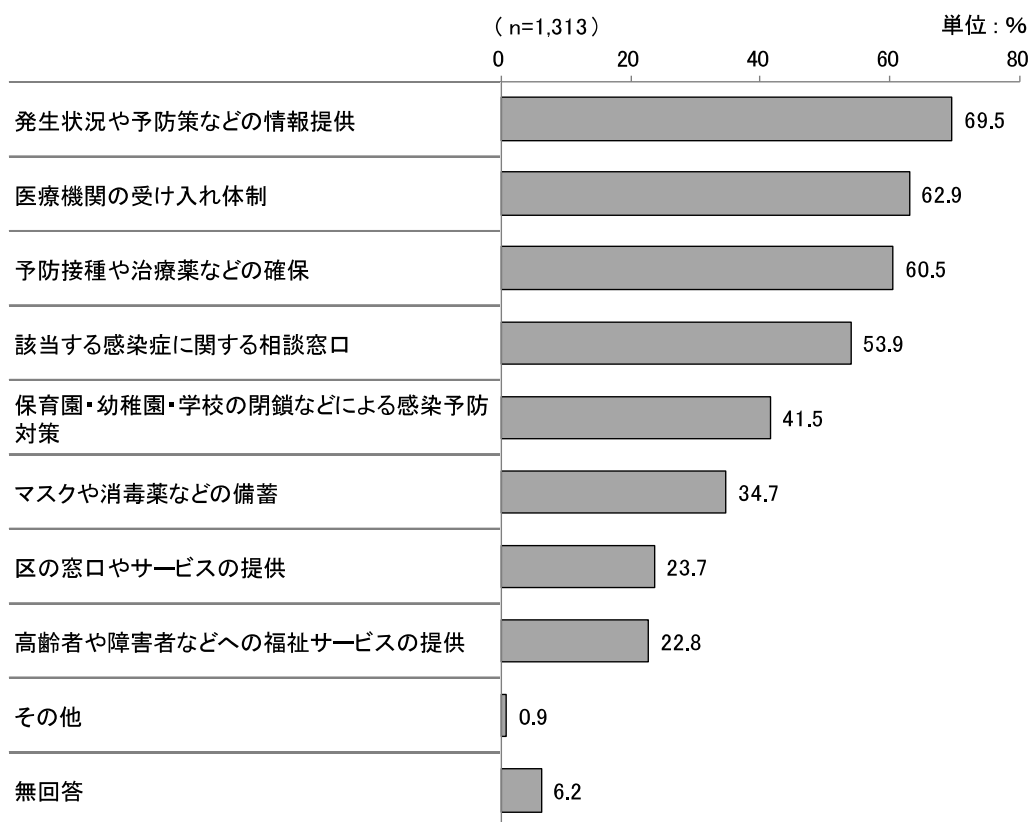
23. 感染症対策

(1) 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと

◆ 「発生状況や予防策などの情報提供」が7割弱

問 38 エボラ出血熱やMERS、鳥インフルエンザ等の新興感染症が発生した場合、充実や継続するべきだと思うことは何ですか（〇はいくつでも）。

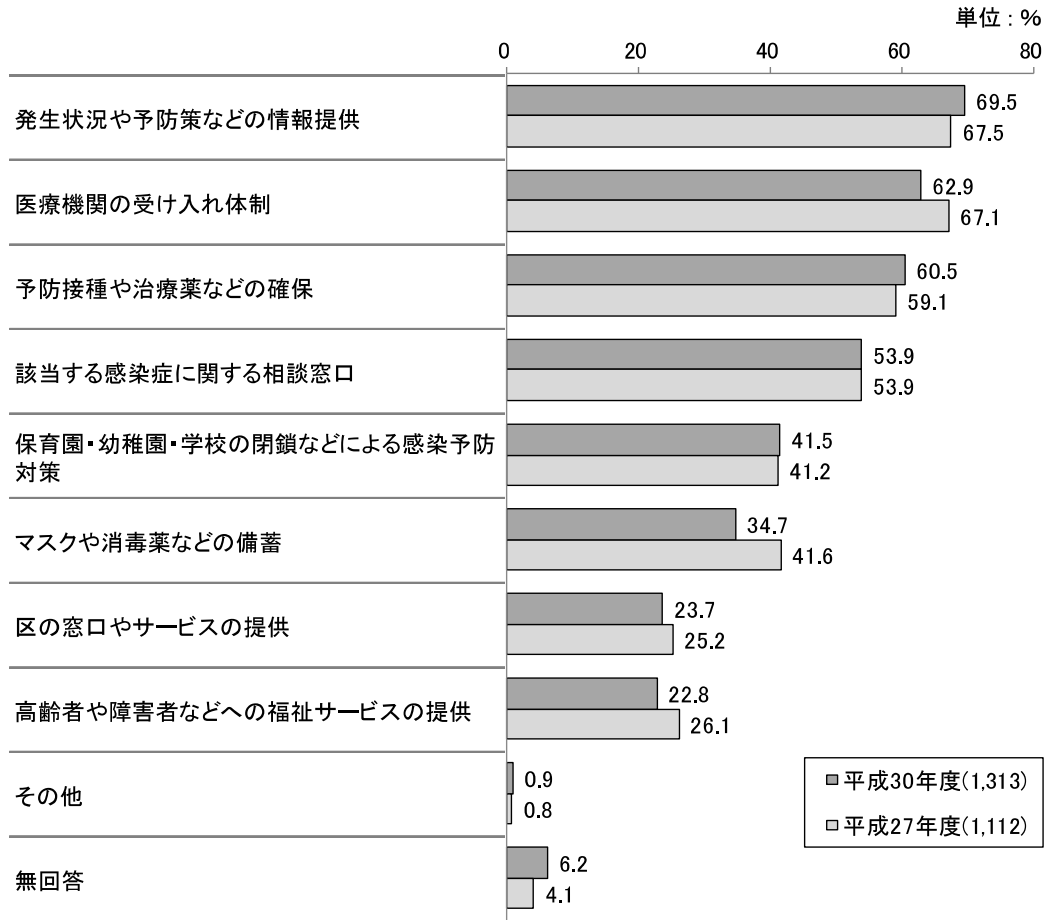
図表Ⅲ-23-1 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと



新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うことは、「発生状況や予防策などの情報提供」(69.5%)が7割弱と最も高く、次いで「医療機関の受け入れ体制」(62.9%)、「予防接種や治療薬などの確保」(60.5%)と続いている。(図表Ⅲ-23-1)

【経年変化】

図表Ⅲ－23－2 新興感染症が発生した場合、充実や継続するべきだと思うこと（経年変化）



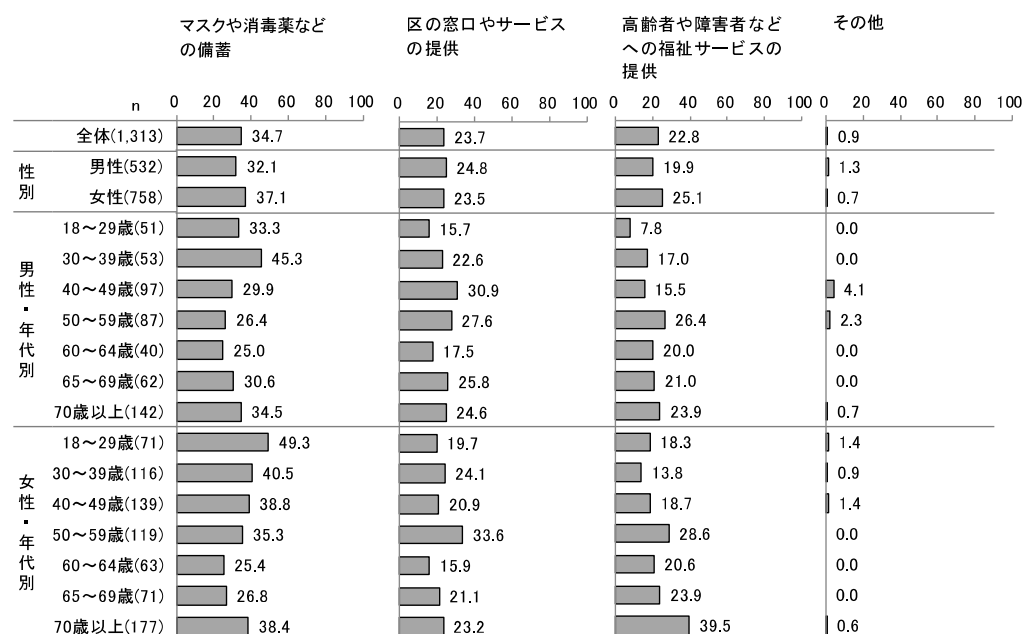
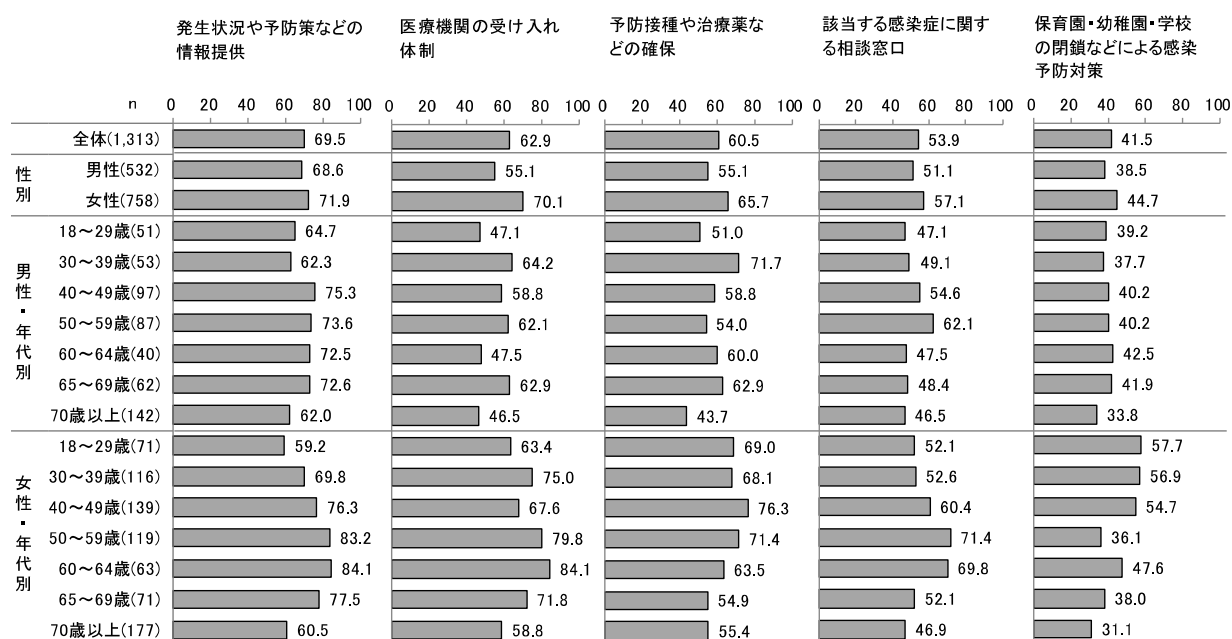
「発生状況や予防策などの情報提供」(69.5%)は、平成27年度調査(67.5%)より2.0ポイント、「予防接種や治療薬などの確保」(60.5%)は、平成27年度調査(59.1%)より1.4ポイント、それぞれ増加している。

一方、「マスクや消毒液などの備蓄」(34.7%)は、平成27年度調査(41.6%)より6.9ポイント、「医療機関の受け入れ体制」(62.9%)は、平成27年度調査(67.1%)より4.2ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－23－2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-23-3 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと（性別／性・年代別）

単位：％



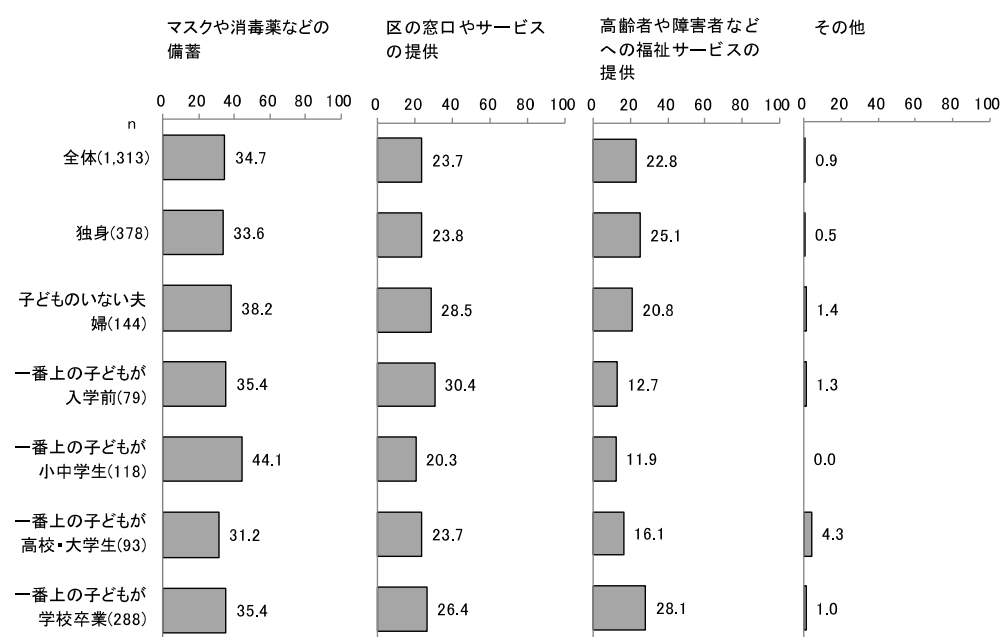
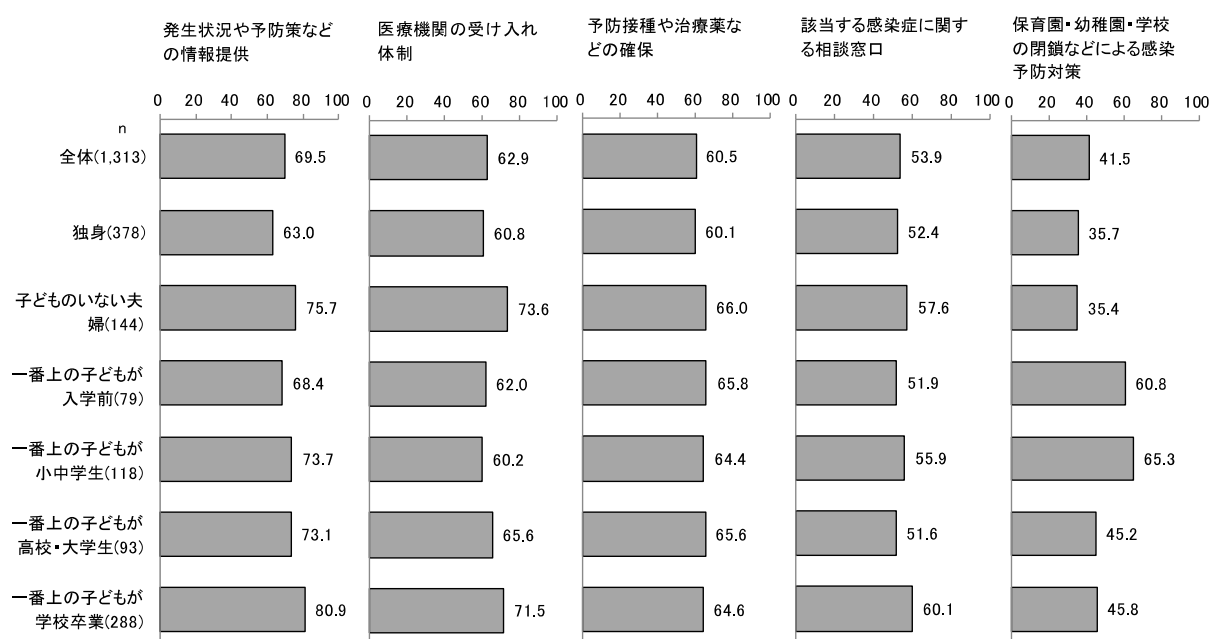
性別で見ると、「医療機関の受け入れ体制」は、「女性」(70.1%)が「男性」(55.1%)より15.0ポイント高くなっている。また、「予防接種や治療薬などの確保」においても、「女性」(65.7%)が「男性」(55.1%)より10.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「女性 60～64歳」が「発生状況や予防策などの情報提供」(84.1%)、「医療機関の受け入れ体制」(84.1%)で最も高くなっている。また、「女性 18～29歳」は、「保育園・幼稚園・学校の閉鎖などによる感染予防対策」(57.7%)、「マスクや消毒薬などの備蓄」(49.3%)で最も高くなっている。(図表Ⅲ-23-3)

【ご自身の状況別】

図表Ⅲ－23－4 新興感染症が発生した場合に充実や継続すべきだと思うこと（ご自身の状況別）

単位：％



ご自身の状況別でみると、「発生状況や予防策などの情報提供」は、「一番上の子どもが学校卒業」(80.9%)が最も高く、次いで「子どものいない夫婦」(75.7%)、「一番上の子どもが小中学生」(73.7%)と続いている。

また、「保育園・幼稚園・学校の閉鎖などによる感染予防対策」は、「一番上の子どもが小中学生」(65.3%)が最も高く、「一番上の子どもが入学前」(60.8%)も6割以上となっている。(図表Ⅲ－23－4)